

上原Ⅰ遺跡  
上原Ⅲ遺跡  
林宮原遺跡

ハツ場ダム建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第46集

2015

国 土 交 通 省

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 上原Ⅰ遺跡 上原Ⅲ遺跡 林宮原遺跡

ハツ場ダム建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第46集

2015

国 土 交 通 省

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団





## 序

上原Ⅰ遺跡・上原Ⅲ遺跡・林宮原遺跡は、山間を深く刻んで流れる吾妻川を、南下に望む上位段丘上に営まれた遺跡です。

これら3遺跡は、県道および町道の建設工事に伴う発掘調査として、平成24・25年度に調査が実施されました。

上原Ⅰ遺跡では、縄文時代前期初頭(花積下層Ⅰ式期)の集落と遺物包含層が検出されました。西側隣接地は、長野原町教育委員会により平成24年に発掘調査が行われ、縄文時代前期初頭の竪穴住居9軒、土坑2基、中期後半の竪穴住居4軒、土坑5基、ピット(石器埋納)1基が発見されています。特に、本遺跡における縄文時代前期初頭の集落は、両調査を合わせると計15軒の竪穴住居を数えることができ、出土例の少ない、同時期の集落としては注目される遺跡です。

上原Ⅲ遺跡は、今回調査の遺跡の内で最も標高の高い場所に位置しています。調査区の両側部分を、平成23年度に長野原町教育委員会が土地改良事業に伴う調査を実施し、平安時代の住居、土坑等が調査されており、平安時代の鍛冶遺構も発見されました。今回の調査では、一連の平安集落の住居1軒と掘立柱建物、土坑を発見しました。

林宮原遺跡では、中世の掘立柱建物群および土坑等が発見され、十数棟の掘立柱建物は、建て替えが行われていることも確認されました。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、国土交通省八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、および長野原町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者の皆様には、多大なるご支援、ご協力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

本書が長野原町、吾妻郡内、ひいては群馬県における歴史研究の新たな資料として活用されることを願い序といたします。

平成27年9月

公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理 事 長 中 野 三 智 男



# 例 言

1. 本書はハッ場ダム建設工事に伴い発掘調査された、上原Ⅰ遺跡・上原Ⅲ遺跡・林宮原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 上原Ⅰ遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字林字上原1,032-2、1,033、1,034-2、1,034-3、1,034-4、1,036-2、1,036-3、1,036-4、1,039-2、1,041-3、1,041-4、1,041-5  
上原Ⅲ遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字林字上原1,277-1  
林宮原遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字林字宮原567-2  
に所在する。
3. 発掘調査はハッ場ダム建設工事に伴うもので、国土交通省の委託を受け、群馬県教育委員会が公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施された。
4. 各遺跡の発掘調査期間と調査体制は以下のとおりである。

## 上原Ⅰ遺跡

発掘調査期間 平成24年10月9日～11月30日

発掘調査面積 1,392㎡

発掘調査担当 山口逸弘(上席専門員)・黒澤照弘(主任調査研究員)

遺跡掘削工事請負 株式会社 歴史の杜

委託 地上測量：株式会社 測研

## 上原Ⅲ遺跡

発掘調査期間 平成25年6月17日～7月22日

発掘調査面積 317㎡

発掘調査担当 小野和之(専門員)・麻生敏隆(上席専門員)・関 俊明(主任調査研究員)

遺跡掘削工事請負 株式会社 測研

委託 地上測量：株式会社 測研

## 林宮原遺跡

発掘調査期間 平成24年4月1日～5月17日、5月31日～6月12日

発掘調査面積 850㎡

発掘調査担当 山口逸弘(上席専門員)・黒澤照弘(主任調査研究員)

遺跡掘削工事請負 株式会社 歴史の杜

委託 地上測量：株式会社 測研

5. 整理事業の期間と体制は以下のとおりである。

整理期間 上原Ⅰ遺跡 平成25年度 平成26年2月1日～3月31日

平成26年度 平成26年11月1日～12月31日

上原Ⅲ遺跡 平成26年度 平成27年1月1日～2月28日

林宮原遺跡 平成26年度 平成27年3月1日～3月31日

平成27年度 平成27年4月1日～4月30日

整理担当 山口逸弘(平成25年度) 谷藤保彦(平成26年度) 小野和之(平成27年度)

6. 本書作成の担当は以下のとおりである。

編集担当 谷藤保彦、小野和之

本文執筆 谷藤保彦 本文(上原Ⅰ遺跡)遺物観察表

小野和之 本文(上原Ⅲ遺跡)

山口逸弘 本文(林宮原遺跡)

デジタル編集 齊田智彦

保存処理 関 邦一

7. 石材鑑定は松村和男(当事業団)が行った。

8. 出土遺物および図面・写真等の記録は群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

9. 発掘調査および本書の作成にあたっては下記の機関、諸氏よりご教示、ご指導をいただいた。記して感謝の意を表す。(敬称略)

国土交通省関東地方整備局ハツ場ダム工事事務所、長野原町教育委員会、白石光男、富田孝彦

## 凡 例

1. 上原Ⅰ遺跡・上原Ⅲ遺跡・林宮原遺跡における遺構測量は、国家座標「世界測地系(日本測地系2000平面直角座標第Ⅹ系)」を用いている。

真北方向角は+0° 18' 38.58" (東偏)である。

遺構図中で使用した北方位は、すべて座標北を示す。

2. 等高線・遺構断面図等に記した数値は海拔標高を示す。

3. 遺構図の縮尺は、原則として以下の通りである。

遺構全体図 1/500 1/300 1/200 住居合成図 1/80 住居 1/60 掘立柱建物 1/60  
カマド 1/30 土坑 1/40 溝 1/60

4. 遺物実測図の縮尺は、原則として以下の通りである。

・土器 1/3

・石器 石皿、台石、丸石等の大形品 1/5、1/4 打製石斧、磨製石斧、磨石、凹石、敲石等 1/3  
石鏃、石鏃等 1/1 石匙、スクレイパー、剥片石器 1/2 垂飾品等の小形品 1/2  
石製品 1/4、1/3 その他は図中に示す。

・鉄製品 1/2 古銭 1/1

5. 遺構に使用したスクリーントーンは以下のことを示す。

焼土 

6. 遺物写真の縮率は原則として遺物図とほぼ同じである。

7. 遺構の計測値単位は原則m、遺物についてはcmを使用。また石器の重量単位はgを用いた。

8. 本文中の火山灰略称は以下の通りである。

As-BP (浅間板鼻褐色軽石 BP19,000-24,000) As-YP (浅間板鼻黄色軽石 BP13,000-14,000)

As-YPK (浅間草津軽石 BP13,000-14,000) As-C (浅間C軽石 AD300前後) As-B (浅間B軽石 AD1108)

As-Kk (浅間粕川軽石 AD1128) As-A (浅間A軽石 AD1783)である。

# 目 次

序

例言

凡例

目次

挿図目次・表目次・写真目次

## 第1章 調査に至る経過と遺跡の環境

### 第1節 ハツ場ダム発掘調査の経緯

### 第2節 調査の方法—調査区の設定—

### 第3節 林地区の歴史的環境

## 第2章 上原I遺跡

### 第1節 調査に至る経緯と経過

#### 第1項 調査に至る経緯

#### 第2項 調査の経過

#### 1. 発掘調査の経過 2. 整理事業の経過

### 第2節 調査の方法

#### 第1項 調査区とグリッドの設定

#### 第2項 発掘調査の方法

### 第3節 遺跡の立地と基本土層

#### 第1項 遺跡の立地

#### 第2項 基本土層

### 第4節 検出された遺構と遺物

#### 第1項 縄文時代

#### 1. 概要 2. 竪穴住居 3. 土坑

#### 4. 焼土 5. 遺構外出土遺物

#### 第2項 平安時代以降

#### 1. 概要 2. 竪穴住居 3. 土坑

#### 4. ビット

### 第5節 調査の成果(総括)

#### 第1項 上原I遺跡の全体像

#### 1. 縄文時代 2. 平安時代

#### 第2項 分割調査された住居

#### 第3項 総括

## 第3章 上原III遺跡

### 第1節 調査に至る経緯と経過

#### 第1項 調査に至る経緯

#### 第2項 調査の経過

### 第2節 調査の方法

#### 第1項 調査区とグリッドの設定

#### 第2項 発掘調査の方法

### 第3節 遺跡の立地と基本土層

#### 第1項 遺跡の立地

#### 第2項 基本土層

### 第4節 検出された遺構と遺物

#### 第1項 概要

#### 第2項 遺構と遺物

#### 1. 竪穴住居 2. 掘立柱建物

#### 3. 土坑 4. 溝 5. 遺構外出土遺物

### 第5節 調査の成果(総括)

## 第4章 林宮原遺跡

### 第1節 調査に至る経緯と経過

#### 第1項 調査に至る経緯

#### 第2項 調査の経過

### 第2節 調査の方法

#### 第1項 発掘調査の方法

### 第3節 遺跡の立地と基本土層

#### 第1項 遺跡の立地

#### 第2項 基本土層

### 第4節 検出された遺構と遺物

#### 第1項 概要

#### 第2項 遺構と遺物

#### 1. 掘立柱建物 2. 土坑 3. ビット

#### 4. 遺構外出土遺物

### 第5節 調査の成果(総括)

写真図版

報告書抄録

# 挿図目次

第1図	道路位置図	1
第2図	調査区の設定	2
第3図	上原1道跡・上原里道跡・林宮原道跡及び周辺道跡位置図	5
上原1道跡		
第4図	上原1道跡 基本土層	9
第5図	上原1道跡 調査範囲・周辺地形図	10
第6図	上原1道跡 調査地点縄文時代遺構全体図	12
第7図	81区1号住居 平面図、出土遺物(1)	13
第8図	81区1号住居 出土遺物(2)	14
第9図	81区2号住居 平・断面図、出土遺物(1)	15
第10図	81区2号住居 出土遺物(2)	16
第11図	81区3号住居 平・断面図、出土遺物	18
第12図	81区4号住居 平面図、出土遺物	19
第13図	91区5号住居 平・断面図、出土遺物(1)	20
第14図	91区5号住居 出土遺物(2)	21
第15図	91区5号住居 出土遺物(3)	22
第16図	91区6号住居 平・断面図、出土遺物(1)	23
第17図	91区6号住居 出土遺物(2)	24
第18図	91区7号住居 平・断面図、出土遺物	25
第19図	91区8号住居 平・断面図、出土遺物(1)	26
第20図	91区8号住居 出土遺物(2)	27
第21図	91区13～15号土坑 平・断面図、出土遺物	29
第22図	81区1号焼土 平面分布図	30
第23図	91区1～12号焼土 平面分布図、出土遺物	31
第24図	遺構外出土遺物(1)	37
第25図	遺構外出土遺物(2)	38
第26図	遺構外出土遺物(3)	39
第27図	遺構外出土遺物(4)	40
第28図	遺構外出土遺物(5)	41
第29図	遺構外出土遺物(6)	42
第30図	遺構外出土遺物(7)	43
第31図	遺構外出土遺物(8)	44
第32図	遺構外出土遺物(9)	45
第33図	上原1道跡 調査地点平安時代以降遺構全体図	46
第34図	91区1号住居 平・断面図、出土遺物	48
第35図	91区2号住居 床面平・断面図、カマド1平・断面図	49
第36図	91区2号住居 扉方平面図、カマド2平・断面図	50
第37図	91区2号住居 出土遺物	51
第38図	91区3号住居 平・断面図、カマド平・断面図、出土遺物	52
第39図	91区4号住居 平・断面図、出土遺物	53
第40図	81区1・2号土坑 平・断面図	54
第41図	81区3・4号土坑 平・断面図	55

第42図	81区5号土坑、91区1・2号土坑 平・断面図	57
第43図	91区3～5号土坑 平・断面図	58
第44図	91区6～8号土坑 平・断面図、出土遺物	60
第45図	91区9～12号土坑 平・断面図	61
第46図	上原1道跡 縄文時代 遺構分布全体図(合成図)	63
第47図	上原1道跡 古墳・平安時代以降 遺構分布全体図(合成図)	64
第48図	81区1号住居・S1-22 平面合成図、出土遺物	65
第49図	81区4号住居・S1-27 平面合成図、出土遺物	66
第50図	91区1号住居・S1-04 平面合成図、出土遺物	67
上原里道跡		
第51図	上原里道跡 調査範囲・周辺地形図	87
第52図	上原里道跡 基本土層	88
第53図	上原里道跡 調査地点遺構全体図	89
第54図	1号住居 平・断面図、出土遺物	90
第55図	1号掘立柱建物 平・断面図	91
第56図	1・2・4号土坑 平・断面図、出土遺物	93
第57図	7～10号土坑 平・断面図、出土遺物	94
第58図	1・2号溝 平・断面図	96
第59図	遺構外出土遺物	97
第60図	上原里道跡 遺構分布全体図(合成図)	100

## 林宮原道跡

第61図	林宮原道跡 基本土層	102
第62図	林宮原道跡 調査範囲・周辺地形図	103
第63図	林宮原道跡 調査地点遺構全体図	104
第64図	1号掘立柱建物 平・断面図、出土遺物 (折込)	108
第65図	2号掘立柱建物 平・断面図、出土遺物	108
第66図	3号掘立柱建物 平・断面図	109
第67図	4号掘立柱建物 平・断面図	110
第68図	5号掘立柱建物 平・断面図、出土遺物	111
第69図	6号掘立柱建物 平・断面図	113
第70図	7号掘立柱建物 平・断面図	114
第71図	8・9号掘立柱建物 平・断面図	115
第72図	11号掘立柱建物 平・断面図	116
第73図	13・14号掘立柱建物 平・断面図	117
第74図	15号掘立柱建物 平・断面図	118
第75図	1・2・4号土坑 平・断面図	121
第76図	5・7～9号土坑 平・断面図、出土遺物	122
第77図	10～14号土坑 平・断面図	123
第78図	15・16号土坑 平・断面図、出土遺物	124
第79図	遺構外出土遺物	125
第80図	林宮原道跡 掘立柱建物計測図	127

# 表目次

表1	ハッ場ダム建設に伴う調査道跡一覧	3
----	------------------	---

## 上原1道跡

表2	遺構一覧表	68
表3	遺物観察表	70

## 上原里道跡

表4	発掘調査工程表	86
表5	1号住居 遺物観察表	91
表6	6・9号土坑 遺物観察表	95
表7	遺構外 遺物観察表	97
表8	遺構一覧表	98

## 林宮原道跡

表9	遺構一覧表	128
表10	遺物観察表	131

# 写真目次

## 上原1道跡

- P.L. 1 1 遠景(北から)  
2 91区西 第1面 全景(北から)
- P.L. 2 1 91区東・81区 第1面 全景(北から)  
2 91区東・81区 第2面 全景(北から)
- P.L. 3 1 第1面 91区1号住居 全景(西から)  
2 第1面 91区1号住居 掘り方(南から)  
3 第1面 91区2号住居 遺物出土状況(西から)  
4 第1面 91区2号住居 全景(西から)  
5 第1面 91区2号住居 掘り方(西から)  
6 第1面 91区2号住居 1号カマド(北西から)  
7 第1面 91区2号住居 1号カマド(北西から)  
8 第1面 91区2号住居 2号カマド(南から)
- P.L. 4 1 第1面 91区3号住居 全景(西から)  
2 第1面 91区3号住居 掘り方(西から)  
3 第1面 91区3号住居 カマド(西から)  
4 第1面 91区2・4号住居 重複状況(南から)  
5 第1面 91区4号住居 全景(南から)  
6 第1面 91区4号住居 カマド(南から)  
7 第2面 91区5号住居 全景(南から)  
8 第2面 91区5号住居 全景(南西から)
- P.L. 5 1 第2面 91区6号住居 全景(南から)  
2 第2面 91区6号住居 遺物出土状況(南西から)  
3 第2面 91区7号住居 全景(西から)  
4 第2面 91区8号住居 遺物出土状況(南から)  
5 第2面 81区1号住居 床面(南から)  
6 第2面 81区1号住居 遺物出土状況(西から)  
7 第2面 81区2号住居 遺物出土状況(南から)  
8 第2面 81区2号住居 床面全景(西から)
- P.L. 6 1 第2面 81区2・3号住居 床面全景(南西から)  
2 第2面 81区4号住居 床面全景(東から)  
3 第1面 91区1号土坑 全景(東から)  
4 第1面 91区2号土坑 全景(南から)  
5 第1面 91区3号土坑 全景(東から)  
6 第1面 91区5号土坑 全景(南から)  
7 第1面 91区6号土坑 全景(南から)  
8 第1面 91区7号土坑 全景(南から)
- P.L. 7 1 第1面 91区8号土坑 全景(南から)  
2 第1面 91区9号土坑 全景(南から)  
3 第1面 91区10号土坑 上面(南から)  
4 第1面 91区10号土坑 全景(南から)  
5 第1面 91区11号土坑 全景(南東から)  
6 第1面 91区12号土坑 全景(東から)  
7 第2面 91区13号土坑 全景(東から)  
8 第2面 91区15号土坑 全景(南から)
- P.L. 8 1 第1面 81区1号土坑 全景(南から)  
2 第1面 81区2号土坑 全景(南から)  
3 第1面 81区3号土坑 全景(南から)  
4 第1面 81区4号土坑 全景(南から)  
5 第1面 81区5号土坑 土層断面(西から)  
6 第1面 81区5号土坑 全景(南から)  
7 第2面 81区H-23グリッド遺物出土状況(西から)  
8 第2面 81区H-24グリッド遺物出土状況(南から)
- P.L. 9 81区1号住居出土遺物  
81区2号住居出土遺物(1)  
81区2号住居出土遺物(2)
- P.L. 11 81区3号住居出土遺物  
81区4号住居出土遺物  
91区5号住居出土遺物(1)
- P.L. 12 91区5号住居出土遺物(2)
- P.L. 13 91区6号住居出土遺物

- P.L. 14 91区7号住居出土遺物  
91区8号住居出土遺物
- P.L. 15 91区14・15号土坑出土遺物  
91区1・3号焼土出土遺物  
遺構外出土遺物(1)
- P.L. 16 遺構外出土遺物(2)
- P.L. 17 遺構外出土遺物(3)
- P.L. 18 遺構外出土遺物(4)
- P.L. 19 遺構外出土遺物(5)
- P.L. 20 遺構外出土遺物(6)
- P.L. 21 遺構外出土遺物(7)
- P.L. 22 遺構外出土遺物(8)  
91区1号住居出土遺物  
91区2号住居出土遺物
- P.L. 23 91区3号住居出土遺物  
91区4号住居出土遺物  
91区7号土坑出土遺物

## 上原田道跡

- P.L. 24 1 調査区 近景(西から)  
2 東区 全景(西から)
- P.L. 25 1 中区 全景(東から)  
2 西区 全景(東から)
- P.L. 26 1 1号住居 全景(西から)  
2 1号住居 掘り方(西から)  
3 1号土坑 全景(南から)  
4 2号土坑 全景(南から)  
5 4号土坑 全景(南から)
- P.L. 27 1 5号土坑 全景(北から)  
2 6号土坑 全景(南から)  
3 7号土坑 全景(南から)  
4 8号土坑 全景(北から)  
5 9号土坑 全景(東から)  
6 10号土坑 全景(北から)  
7 1号溝 全景(北西から)  
8 2号溝 全景(南東から)
- P.L. 28 1号住居出土遺物  
6・9号土坑出土遺物  
遺構外出土遺物

## 林宮原道跡

- P.L. 29 1 遠景(北東から)  
2 近景(北東から)
- P.L. 30 1 西側 全景(西から)  
2 東側 全景(東から)
- P.L. 31 1 1号掘立柱建物 全景(東から)  
2 2号掘立柱建物 全景(東から)  
3 3号掘立柱建物 全景(南から)  
4 4号掘立柱建物 全景(南から)  
5 6号掘立柱建物 全景(東から)  
6 7号掘立柱建物 全景(東から)  
7 8号掘立柱建物 全景(東から)  
8 11号掘立柱建物 全景(東から)
- P.L. 32 1 13号掘立柱建物 全景(東から)  
2 1号土坑 全景(南から)  
3 2号土坑 土層断面(南から)  
4 4号土坑 上面石組状況(南から)  
5 4号土坑 人骨出土状況(南から)  
6 4号土坑 底面(南から)  
7 5号土坑 全景(南から)  
8 7号土坑 全景(南から)

- P.L. 33
- 1 8号土坑 全景(南から)
  - 2 9号土坑 全景(南から)
  - 3 11号土坑 全景(南から)
  - 4 12号土坑 全景(南から)
  - 5 13号土坑 全景(南から)
  - 6 14号土坑 全景(南から)
  - 7 15号土坑 全景(南から)
  - 8 16号土坑 全景(北から)
- P.L. 34
- 1号掘立柱建物出土遺物
  - 2号掘立柱建物出土遺物
  - 5号掘立柱建物出土遺物
  - 8・9・16号土坑出土遺物
  - 道端外出土遺物



## 第1章 調査に至る経過と遺跡の環境

本報告書は、群馬県吾妻郡長野原町に所在する上原Ⅰ遺跡、上原Ⅲ遺跡、林宮原遺跡の発掘調査報告書である。3遺跡ともハッ場ダム建設に関連する発掘調査によるもので、同時に、長野原町林地区にある遺跡である。ここでは、3遺跡に共通する調査に至る経緯と周辺遺跡、調査区の設定方法を述べる。各遺跡の調査経過や調査方法は、各章遺跡毎に述べていきたい。

### 第1節 ハッ場ダム発掘調査の経緯

ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、建設省関東地方建設局(現国土交通省関東地方整備局)と群馬県教育委員会、長野原町教育委員会、吾妻町教育委員会(現東吾妻町教育委員会)が協議し、平成6年3月18日「ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定書」を建設省関東地方建設局と群馬県教育委員会の両者で締結し、発掘調査事業の実施計画が決定された。同年4月1日、関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長との間で発掘調査受託契約を締結し、同日同教育長と群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長の両者で発掘調査委託契約が締結され、調査が開始された。

調査当初は、工事中進入路建設に先立つ小規模調査が

先行したが、平成10年度以降、工事中進入路が徐々に整い、住民の生活再建の施設としての学校建設や住宅地造成、国道・県道建設工事に伴う発掘調査が増加し、広大な面積が対象となった。発掘調査される遺跡も長野原久々戸遺跡や尾坂遺跡のように、江戸時代の天明泥流下の畑が一面に広がり、また、長野原一本松遺跡や横壁中村遺跡にみる縄文時代中・後期の大型集落が発掘調査されてきた。

本書に掲載される3遺跡は、上記の造成地や国道を結ぶ小規模な町道などを対象としており、調査面積も少なく、調査期間も短いものとなった。上原Ⅰ遺跡と林宮原遺跡が平成24年度、上原Ⅲ遺跡が平成25年度の発掘調査である。

なお、平成26年度以降、水没地区の発掘調査が対象となり、再度、広域な面積を対象とした発掘調査が進められている。



第1図 遺跡位置図 (国土地理院5万分の1地形図「草津」使用)

# 第1章 調査に至る経過と遺跡の環境

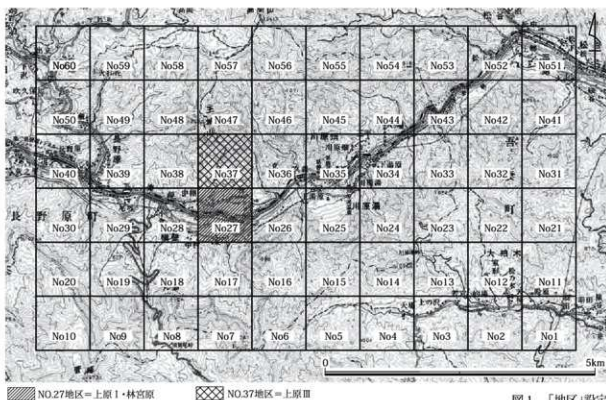


図1 「地区」設定

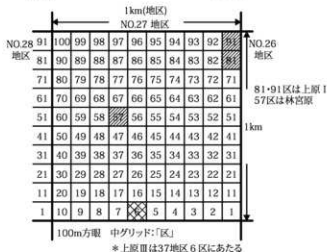


図3 上原Ⅰ遺跡の「区」グリッド設定

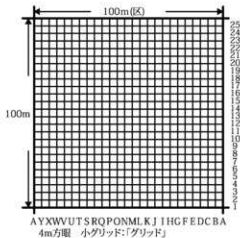


図2 「区」「グリッド」設定模式図

図1にあるように、大グリッドとして、上原Ⅰ・林宮原遺跡は27地区に、上原Ⅲ遺跡は37地区に含まれる。図2上にあるように100m単位の中グリッドとしては、上原Ⅰ遺跡は81区と91区に跨がり、林宮原遺跡は57区に位置する。上原Ⅲ遺跡は37地区6区にあたる。小グリッドは、4m方眼で図2下のように設定した。上原Ⅰ遺跡調査区を全体図として表した例が、図3である。

## 第2図 調査区の設定

## 第2節 調査の方法—調査区の設定—

平成6年から始まったハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査においては、遺跡名称の略号やグリッドの設定などについて「ハッ場ダム関連埋蔵文化財発掘調査方法」に基づき進められている。

## 1. 遺跡名称の略号(遺跡番号)

ハッ場ダムの略称はYD、次に長野原町の大字5地区に、1：川原畑地区、2：川原湯地区、3：横壁地区、4：林地地区、5：長野原地区と区分し、さらに各地区に所在する遺跡の調査順に番号を付すこととなっている。したがって、上原Ⅰ遺跡、上原Ⅲ遺跡、林宮原遺跡は林地地区での調査であり、上原ⅠはYD4-3、上原ⅢはYD4-24、林宮原はYD4-23となる。

## 2. グリッドの設定

グリッドの設定は、国家座標第IX系を使用し、東吾妻町大字大柏木付近を基点(座標値：X=58000.0、Y=-97000.0)として、北西方向に60区画の1km方眼が設定され大グリッド(地区)としている。上原Ⅰ遺跡、林宮原遺跡は27地区、上原Ⅲ遺跡は37地区とした大グリッドに位置する。

大グリッド(地区)内を100m方眼の中グリッド(区)に100分割し、分割された中グリッドは、大グリッドの南東隅を基点とする。上原Ⅰ遺跡の調査区は、81・91区に跨ることとなる。さらに、この中グリッド(区)内を4m方眼に625分割し、中グリッドの南東隅を基点にY軸となる東から西へA～Y、X軸となる南から北へ1～25を付し、最小のグリッドとして呼称した。また、大グリッドの境界が本調査区を通らないため、大グリッドの番号を省略し、中グリッドと小グリッドを「91区V-11」のように標記した(第2図)。

遺構名称については、中グリッド毎の遺構名称となっている。上原Ⅰ遺跡を例に取れば、27地区81区1号住居(81区1号住居)と27地区91区1号住居(91区1号住居)となっている。1遺跡内に1号住居が複数存在することになり留意が必要である。

なお、調査区の設定方法については、「第2章 第2節ハッ場ダム関連埋蔵文化財発掘調査方法」『長野原一本松遺跡(1)』(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002)に詳しい。

所在大字	YD番号	遺跡名	調査年度(平成)
川原畑	YD1 01	—	
	YD1 02	東宮	9・19・20・21
	YD1 03	石畑	10
	YD1 04	三平Ⅰ	16・17・24・25
	YD1 05	三平Ⅱ	10
	YD1 06	三平Ⅲ	16
	YD1 07	上ノ平Ⅰ	18・19
	YD1 08	西宮	20・26
	YD1 09	西宮岩殿	26
川原湯	YD2 01	川原湯勝沼	9・15・16
	YD2 02	西ノ上	14
	YD2 03	石川原	20
横壁	YD3 01	横壁勝沼	
	YD3 02	西久保Ⅰ	10・12
	YD3 03	横壁中村	8～18
	YD3 04	山根屋	13・18
	YD3 05	西久保Ⅳ	21・23
林	YD4 01	下田	7・25・26
	YD4 02	—	
	YD4 03	上原Ⅰ	24
	YD4 04	—	
	YD4 05	花畑	10・11・12
	YD4 06	楡木Ⅱ	10
	YD4 07	甲羅Ⅱ	11・12・13・16・17
	YD4 08	下原	12・13・15・16
	YD4 09	楡木Ⅱ	11・12・13・16・17
	YD4 10	二反沢	12
	YD4 11	立馬Ⅰ	13・14・17
	YD4 12	立馬Ⅱ	14
	YD4 13	上原Ⅳ	15・21
	YD4 14	林中原Ⅰ	16・19・20・21
	YD4 15	林中原Ⅱ	16・20・21
	YD4 16	上原Ⅱ	16
	YD4 17	林の御塚	16
	YD4 18	立馬Ⅲ	19
	YD4 19	東原Ⅰ	20
	YD4 20	東原Ⅱ	20
	YD4 21	東原Ⅲ	20・21
	YD4 22	楡木Ⅰ	21
	YD4 23	林宮原	24
	YD4 24	上原Ⅲ	25
長野原	YD5 01	長野原一本松	6～10・12～17・19・20
	YD5 02	尾坂	11・18～22・25・26
	YD5 03	久々戸	7・9・10・15
	YD5 04	幸神	8・9・14・17
	YD5 06	町遺跡	23・24・25
三島	YD6 01	上郷B	13・14
	YD6 02	上郷原	13・14・15・17・18
	YD6 03	上郷A	15・19・20
	YD6 04	上郷西	19
YD6	三島大沢		
大柏木	YD7 01	巖石A	13
	YD7	大柏木上ノ沢	
松谷	YD8	松田前田	
岩下	YD9	—	

表1 ハッ場ダム建設に伴う調査遺跡一覧

### 第3節 林地区の歴史的環境

ここでは、3遺跡が所在する長野原町林地区の調査遺跡を中心に述べていきたい。長野原町を中心とする吾妻川中流域に占地する諸遺跡の詳細は既刊のハッ場ダム関連の報告書を参考にしていきたい。

長野原町林地区は、吾妻川左岸にあり、山地地形から最上位段丘～低位段丘毎に多くの遺跡が包蔵され、この10数年はハッ場ダム関連の発掘調査で、濃密な遺跡分布が知られるようになった。

特に、平成23～25年にかけて行われた長野原町教育委員会(以下町教委)による林地区遺跡群の発掘調査は、林地区の各所を面的に広く調査した例で、新たな調査成果が数多く得られている。

#### 縄文時代

草創期の遺物を出土した遺跡としては、第3図の範囲に入らなかったため除外しているが、楡木Ⅱ遺跡で表裏縄文Ⅰ点が出土している。

早期の遺跡としては、燃糸文系土器を出土した遺跡として、前述の楡木Ⅱ遺跡、立馬Ⅰ遺跡が上げられよう。立馬Ⅰ遺跡では住居を検出し、包含層出土では、沈線文系土器がまとまる。この傾向は立馬Ⅱ遺跡や立馬Ⅲ遺跡でも顕著で、特に立馬Ⅲで住居出土資料を提示する。中棚Ⅰ遺跡では、絡条体圧痕を施す深鉢が土坑から出土している。中棚遺跡以外は山地斜面あるいは最上位段丘面の緩やかな傾斜地を選ぶ傾向が見られる。

前期では、初頭段階の資料が充実する上原Ⅰ遺跡(本書)が上げられよう。町教委調査の分も併せると、関東地方屈指の該期資料となり得よう。同時期の資料としては、林中原Ⅰ遺跡52区1号住が該当する。前期前葉段階では、林中原Ⅰ遺跡で2軒の住居が報告されている。中葉から後葉段階の資料は包含層出土が主だが、林中原Ⅰ遺跡や立馬Ⅰ～Ⅲ遺跡で見える事ができる。楡木Ⅱ遺跡でも前期末葉の良好な資料が出土している。

林地区は、中期初頭～前葉段階の資料が充実する。上原Ⅱ遺跡では、竪穴状遺構出土とされているが、住居出土と判断して良いだろう。良好な土器群の出土を見る。その他では立馬Ⅱ遺跡や楡木Ⅰ・Ⅱ遺跡、花畑遺跡でまとまる。特に五領ヶ台Ⅱ式が充実しており、他地区に比して質・量ともに抜き出た存在を示す。中葉段階として

は、立馬Ⅱ遺跡で集落が報告されている。遺物出土量も豊富であり、良好な在り方を示す。後葉段階になると、拠点集落である林中原Ⅱ遺跡が知られる。後期にまで続く集落である。上原Ⅰ遺跡でも町教委調査分で小規模な集落を検出している。

後期になると集落域が広がるようだが、中期から継続傾向になる林中原Ⅱ遺跡では初頭～前葉の住居が調査されている。前葉段階の集落では上原Ⅳ遺跡において、事業団調査、町教委調査で敷石住居が調査されている。事業団調査で得られた注口土器(福田類型)は隣接する林中原Ⅰ遺跡(町教委調査)でも出土しており、当地域の後期前葉土器様相の一つとなっている。

晩期前葉～後葉段階の資料が極端に少ない。これは林地区に限らず、ハッ場ダム調査域全体の傾向で、僅かに横壁中村遺跡で包含層出土物を見るのみである。終末期になると、立馬Ⅰ遺跡などで破片資料を見る。

#### 弥生時代

前期から中期の資料が目立つ。後期に至ると激減する様相を示す。立馬Ⅰ遺跡では中期に比定される菅箱壺を調査している。また、上原Ⅰ遺跡では土坑より小型甕を出土している。変形工字文を配し、底面にまで渦巻文が達する異色の土器である。前期であろう。その他、包含層ながら下原遺跡などでも前期破片が出土しており、林地区全体で散在する傾向を見せている。

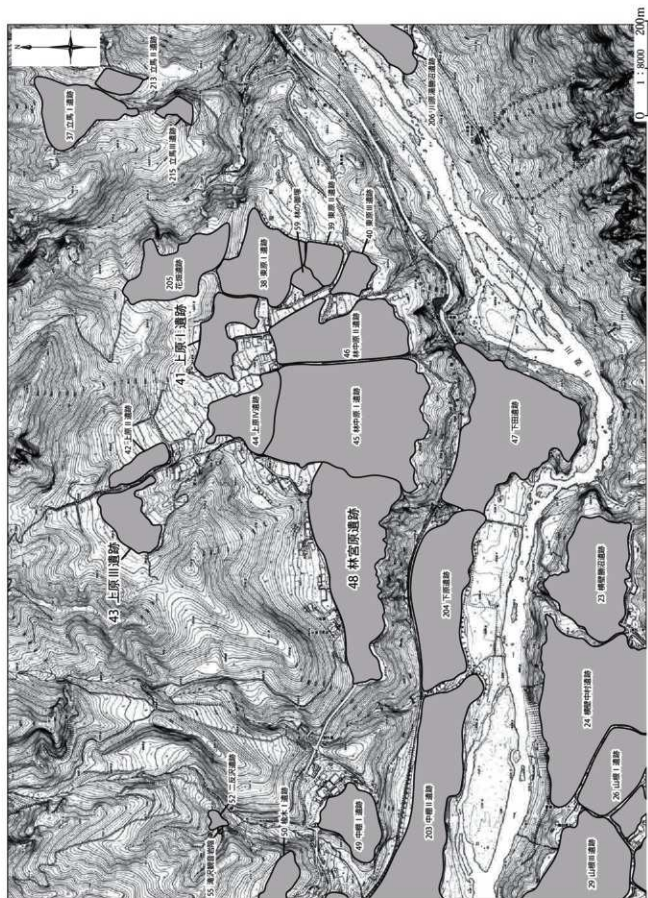
#### 古墳時代

前期集落跡として上原Ⅰ遺跡が上げられよう。住居Ⅰ軒、土坑Ⅰ基と小規模集落と思われるが、S字状口縁台付甕の出土が見られる。この時期の資料は長野原町で初出であり意義深い。

下原遺跡では5世紀末～6世紀前半段階の土器を出土した住居が報告されている。また、林宮原遺跡、上原Ⅳ遺跡でも住居を調査している。山地斜面に占地する二反沢遺跡では、小破片ながら古墳時代に比定される土師器破片の出土を見る。吾妻地域では古墳時代の遺構・遺物が希少な地域ながら、林地区では古墳時代の遺構が検出されており、当地域の卓越性が窺われる現象である。

#### 平安時代

小規模な集落が点在する様相である。おそらく、畑作や鍛冶あるいは布生産を生業としていたと思われるが、用益地としての畑と居住地としての住居が、同一台地に



第3圖 上原川遺跡・上原川遺跡・林宮原遺跡及び周辺遺跡位置図

営まれる景観様相と推定できる。

その中で、楡木Ⅱ遺跡の38軒の集落は傑出する。林地区の西端にありながら、当地区の拠点的な在り方を示す。近接する中棚Ⅰ遺跡は9世紀後半代の住居が4軒ながら辺長6～7mを測る大型住居を主体とする。灰釉陶器の出土量も多く、墨書土器も「三家」・「人」・「赤」などが見られ、「三家」は楡木Ⅱ遺跡でも出土することから、楡木Ⅱ遺跡と同等の拠点的な性格を有する集落と捉えられる。同様に上原Ⅲ遺跡は山地斜面際に選地する集落ながら、15軒の住居を数える。鍛冶工房(SI12)も確認され、鍛冶滓や鉄滓の分析作業を基に、脱炭作業から鍛錬鍛冶までの工程が導き出されている。竪穴住居からは墨書土器の出土も目立ち、「長」・「経」・「赤」・「麿」などの文字が確認されている。灰釉陶器の出土も当地域の中で傑出している。その他の集落としては、下原遺跡や楡木Ⅰ遺跡、花畑遺跡、上原Ⅰ遺跡、林宮原遺跡などで9世紀後半から10世紀前半の集落が報告されている。

陥穴状土坑は、平安時代から中世に比定されている。ただ、縄文時代の陥穴状土坑の存在も予想され、全てを当該期に帰属はできない。また、吾妻川流域では、陥穴状土坑は左岸に偏る傾向が見られ、林地区も多数の例が調査されている。花畑遺跡、東原Ⅰ～Ⅲ遺跡、立馬Ⅰ～Ⅲ遺跡、上原Ⅰ～Ⅲ遺跡、楡木Ⅰ・Ⅱ遺跡、林中原Ⅰ・Ⅱ遺跡など殆どの遺跡で確認されている。

#### 中近世

従来、ハツ場ダム調査関連では中近世遺構としては天明泥流下の畑や建物知られていたが、泥流の及ばない地域、例えば上位段丘面における林地区においても、中近世遺構も確認されている。特筆すべきは、平成21年に林城が林中原Ⅰ遺跡の一部として調査されており、林城として、堀・石垣・池・土坑・掘立柱建物か位置付けられている。その他に中近世に位置付けられる掘立柱建物や墓塚が多数調査されている。また、柱穴を伴う竪穴状遺構からは漆紙や完形の内耳土器が出土しており、性格などに注目が集まる。林城に隣接した地点を町教委が調査しているが、林城の延長である平坦面や掘立柱建物を確認している。林城に関しては、新知見の域であり、今後さらに検証を重ねるべきであろう。

その他の中近世遺構を調査した遺跡としては、東原Ⅰ遺跡で2棟、東原Ⅱ遺跡で1棟、東原Ⅲ遺跡で4棟の掘

立柱建物を見る。いずれも削平面を伴う例である。また近世から近代に比定されるイロリを伴う礎石建物が東原Ⅲ遺跡で検出されている。その他に、楡木Ⅱ遺跡や林宮原遺跡(本書)、林中原Ⅱ遺跡(町教委)でも中近世に比定される掘立柱建物が報告されている。

林中原Ⅰ遺跡では墓塚も多く調査されている。同様に上原Ⅱ遺跡や下原遺跡、林宮原遺跡でも見る事ができる。

天明泥流下の畑は主に下位段丘と中位段丘で調査されている。林地区では下原遺跡や下田遺跡、中棚Ⅱ遺跡に畑が広がる。

なお、山地斜面にあたる二反沢遺跡では、中世に比定される石垣を伴う中世造成面や近世天明以降の畑が調査されている。

#### 林地区埋蔵文化財主要参考文献

- 長野県町教委委員会＝長野県町教委  
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団＝群馬文と略す。
1. 長野県町教委2004「町内遺跡Ⅳ」長野県埋蔵文化財調査報告第13集(以下町報告第〇集)
  2. 長野県町教委2002「林宮原遺跡Ⅱ」町報告第14集
  3. 長野県町教委2005「町内遺跡Ⅴ」町報告第15集
  4. 長野県町教委2006「町内遺跡Ⅵ」町報告第16集
  5. 長野県町教委2007「町内遺跡Ⅶ」町報告第17集
  6. 長野県町教委2009「町内遺跡Ⅷ」町報告第18集
  7. 長野県町教委2010「町内遺跡Ⅷ」町報告第19集
  8. 長野県町教委2010「林中原Ⅰ遺跡Ⅳ」町報告第20集
  9. 長野県町教委2010「町内遺跡Ⅹ」町報告第21集
  10. 長野県町教委2012「町内遺跡Ⅹ」町報告第22集
  11. 長野県町教委2012「林宮原遺跡Ⅷ」町報告第23集
  12. 長野県町教委2013「町内遺跡Ⅹ」町報告第25集
  13. 長野県町教委2013「町内遺跡Ⅹ」町報告第27集
  14. 長野県町教委2014「町内遺跡Ⅹ」町報告第28集
  15. 長野県町教委2015「林地区遺跡群」町報告第30集
  16. 群馬文2002「ハツ場ダム発掘調査集成(1)」ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書第1集(以ハツ場〇集)
  17. 群馬文2003「久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横塚中棚遺跡」ハツ場3集
  18. 群馬文2004「久々戸遺跡(2)・中棚Ⅱ遺跡(2)・西ノ上遺跡・上郷A遺跡」ハツ場4集
  19. 群馬文2006「立馬Ⅱ遺跡」ハツ場8集
  20. 群馬文2006「上郷B遺跡・廣石A遺跡・二反沢遺跡」ハツ場9集
  21. 群馬文2006「立馬Ⅰ遺跡」ハツ場11集
  22. 群馬文2007「下原遺跡Ⅱ」ハツ場12集
  23. 群馬文2008「李冲遺跡・上原Ⅳ遺跡・山根田遺跡(2)」ハツ場17集
  24. 群馬文2008「楡木Ⅱ遺跡(1)」ハツ場18集
  25. 群馬文2008「上ノ平Ⅰ遺跡(1)」ハツ場23集
  26. 群馬文2009「立馬Ⅲ遺跡」ハツ場26集
  27. 群馬文2009「楡木Ⅱ遺跡(2)」ハツ場27集
  28. 群馬文2010「東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡」ハツ場33集
  29. 群馬文2012「楡木Ⅰ遺跡・上原Ⅳ遺跡・西久保Ⅳ遺跡」ハツ場39集
  30. 群馬文2014「林中原Ⅰ遺跡・長野原城」ハツ場43集

## 第2章 上原I遺跡

### 第1節 調査に至る経緯と経過

上原I遺跡は、ハッ場ダム建設工事に伴い、町道建設工事に伴う発掘調査が実施された。

#### 第1項 調査に至る経緯

平成25年4月1日、国土交通省関東地方整備局長と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で、平成25年度ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査・整理事業の受託契約が締結された。同5月11日に、群馬県教育委員会文化財保護課による試掘調査が実施され、縄文時代および平安時代の遺構が確認されたことから本調査が必要とされた。同8月29日に群馬県教育委員会文化財保護課、国土交通省、当事業団の三者によるハッ場ダム関連埋蔵文化財調査会議が行われ、長野原町が圃場整備に伴い実施している上原I遺跡の発掘調査終了後、当事業団が道路整備に伴う上原I遺跡の発掘調査を開始することが決まった。

#### 第2項 調査の経過

##### 1. 発掘調査の経過

発掘調査は、平成24年10月から翌11月までの2ヶ月間を要した。

平成24年10月9日より調査を開始し、先ずは人力によるトレンチ掘削から始め、遺構面の確認を行った。翌10日からは、重機による表土掘削を開始し、併せて安全対策工事およびプレハブ等の設置を行った。同11日からは、第1面調査として平安時代以降を対象とした調査を目的とし、遺構確認作業と共に検出した住居等の掘削を順次開始した。同12日には、遺構が検出された81区南側調査地点の全景写真および測量を行い、重機による埋め戻しを行った。同17日、91区南東隅で縄文土器が集中する箇所を検出したため、第1面調査と併行して人力による掘削を開始した。同30日からは、縄文時代を対象とした第2面の重機による掘削を開始した。翌31日には、第1面調査が全て終了し、第2面調査へと移行した。11月1日、91区西側調査地点での縄文時代の遺構が検出されず、写真および測量を行い同調査地点の調査を終了した。また、

91区東側では、遺構確認作業と併行して縄文時代の住居の調査を開始した。同5日からは、91区と併行して81区の遺構確認を開始し、順次各遺構の調査を進めた。同22日には、第2面目の全景写真を撮影し、同27日から埋め戻しと撤収作業を開始した。そして、同30日に発掘調査を全て終了し、現地の引き渡しを行った。

#### 2. 整理事業の経過

整理事業は、平成26年2月から翌3月(平成25年度)までと、同年11月から翌12月(平成26年度)までの、2ヶ年度に跨る計4ヶ月を予定して行った。

##### 平成25年度

作業は、遺物整理を主として行った。土器については、分類作業、接合作業を経て、掲載土器の選定までを行った。石器については、分類作業と掲載石器の選定までを行った。

##### 平成26年度

作業は、遺構平面図類および遺構写真の確認から開始し、出土遺物の図化作業を行った。

遺構については、各遺構ごとの修正作業の後にデジタル編集作業を行い、併せて遺構写真の選定、本文執筆を行った。なお、遺跡位置図のデジタル編集作業については、その一部を業者委託して作成した。

遺物については、土器と石器の種別ごとに、復元作業、写真撮影、実測作業、そしてこれら遺物図のトレース作業と進め、各遺物観察の執筆を行った。なお、打製石器については、実測・トレース作業を業者委託して作成した。

一連の作業後、報告書版下のレイアウト作成、デジタル編集作業およびデジタル組版を行い、発掘調査報告書の刊行準備を済ませ、整理事業を終了した。



## 第2節 調査の方法

### 第1項 調査区とグリッドの設定

上原1遺跡における遺跡略称や調査区とグリッド設定についての基本的な方法は、第1章、第2節に述べた通りである。

本遺跡は、27地区とした大グリッドに位置しており、大グリッドの設定は、日本測地系2000第IX系を使用し、吾妻郡吾妻町大字大柏木付近を基点(座標値：X = 58000.0、Y = -97000.0)として、北西方向に60区画の1km方眼が設定される。27地区とされる大グリッドの南東交点を基点に縦横100分割した100m方眼(中グリッド)を設定する。

本調査区は中グリッド、81・91区に跨ることとなる。大グリッドの境界が本調査区を通らないため、小グリッド呼称は、大グリッドの番号を省略し、「91区V-11」あるいは、「81区V-11」のように標記した。遺構番号はそれぞれの区毎に付番した。

### 第2項 発掘調査の方法

発掘調査は、表土除去に重機を使用し、表土除去後の各作業は発掘作業員により実施した。遺構確認作業はジョレンを用いて行い、面的な遺構の把握に努めた。

遺構確認は、まず第1面調査として基本土層第IV層(黒褐色土)上面から中位を確認面とし、古代以降を対象とした調査を行った。その結果、平安時代の竪穴住居、古代から中世の土坑(陥し穴を含む)・ピットを確認した。しかし、81区南側の調査地点では、遺構の検出はできなかった。また、81区北側においても、その大半がローム面まで削平されていたことから、遺構の検出数は少ない。続く、第2面調査では、基本土層第V層(黒色土)上面および第VI層(黒褐色土)上面を遺構確認面とし、縄文時代を対象とした調査を行った。その結果、81区と91区に跨る調査地点において、縄文時代前期初頭期の竪穴住居および土坑、焼土を確認した。併せて、縄文時代前期初頭期の遺物包含層調査も行った。

遺構等の測量は、測量業者に委託して調査期間の短縮を図った。縮尺は、1/10、1/20、1/40を基本として、それぞれの遺構の性格に合わせて適宜使用した。また、全体図は、1/150、1/300を作成した。

写真撮影は、中判カメラでの白黒フィルム、デジタル撮影データの2種類を基本とし、調査区的全景写真等は、調査の進展にあわせて行った。なお、撮影した写真のデジタルデータは、HDやDVD-ROM等のメディアに保存し、データのファイル名は、調査区・遺構略号・番号・撮影方向・内容を数値化したものに置き換えるリネーム作業を行った。

遺物の洗浄・注記は、業者に委託して行った。

## 第3節 遺跡の立地と基本土層

### 第1項 遺跡の立地

上原1遺跡は、吾妻郡長野原町大字林字上原に所在し、吾妻川左岸の最上位段丘面のほぼ中央に位置している。遺跡地は、北東から南西方向に向かう緩斜面で、標高637.5m～646.5mを測る。この最上位段丘面上には、本遺跡以外にも多くの遺跡が近接し合う。

本遺跡の西側に隣接して上原IV遺跡、北側に隣接して上原IIおよび上原III遺跡、東側には花畑遺跡、そして段丘面が最も広くなる南側には東から林中原II遺跡、林中原I遺跡、林宮原遺跡が、段丘面の南端部に東原I・II・III遺跡がある。

### 第2項 基本土層

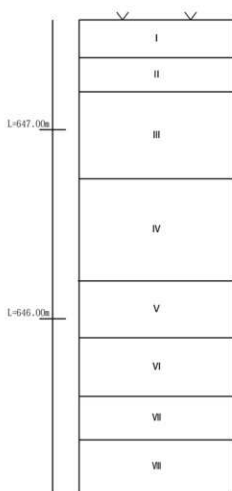
本調査に先行して発掘調査が行われた町教委調査では、A・Bの2地点で基本土層が確認されている。A地点は本調査での91区西側調査地点の西先端部付近であり、B地点は本調査で検出された81区1号住居と81区4号住居の間の調査範囲境にあたる。この町教委調査での基本土層を踏襲し、本調査での基本土層を確認した。第4図に示した基本土層図は、91区東側調査地点の北壁中央付近(91区6号住居の東側)での層序である。

本遺跡は吾妻川左岸の最上位段丘面に立地することから、中位段丘面にみられる天明3年(1783年)の浅間山噴火に伴う泥流はない。表土(黒褐色土)下には、1.5mほどの黒褐色土ないし黒色土が堆積し、その下に暗褐色のローム漸移層、そして黄褐色ロームが層序をなす。

以下、基本土層図を元に、堆積する各層について記述する。



- I層：黒褐色土 表土。粘性乏しく、しまり弱い。  
(町教委調査での、基本土層I層に対応)
- II層：黒褐色土 しまりやや弱く、As-YPkを少量含む。(町教委調査での、基本土層IIa層に対応)
- III層：黒褐色土 粘性・しまりやや強い。As-YPk少量含む。(町教委調査での、基本土層IIb層に対応)
- IV層：黒褐色土 やや暗い。大粒のAs-YPkを多く含む。上面～中面が平安時代以降の遺構調査面。また、層下位には、縄文時代の遺物を包含する。(町教委調査での、基本土層III層に対応)
- V層：黒色土 粘性・しまりともに強い。大粒のAs-YPkを多く、炭化粒・焼土粒を含む。縄文時代の遺物を包含し、遺構調査面。(町教委調査での、基本土層IV層に対応)
- VI層：黒褐色土 明るく粘性強い。大粒のAs-YPkを多く含む。縄文時代の遺構調査面。(町教委調査での、基本土層IV層に対応)
- VII層：暗褐色土 ローム漸移層。粘性・しまり強い。ローム塊・As-YPkを含む。
- VIII層：黄褐色土 ローム層。



第4図 上原1遺跡 基本土層



第5図 上原1道跡 調査範囲・周辺地形図

## 第4節 検出された遺構と遺物

### 第1項 縄文時代

#### 1. 概要

本調査で検出された縄文時代の遺構は、81区北側と91区東側に跨る調査区において、基本土層V・VI層中位を確認面とした第2面調査で、第6図に示した縄文時代前期初頭(花積下層1式期)の集落と遺物包含層が検出された。集落を構成する遺構には、竪穴住居8軒、土坑3基、焼土13ヶ所、ピット1基がある。

本調査区の西側隣接地は、町教委により平成24年に発掘調査が行われ、縄文時代前期初頭の竪穴住居9軒、土坑2基、中期後半の竪穴住居4軒、土坑5基、ピット(石器埋納)1基が検出されている。特に、町教委による調査での住居の内、2軒は当事業団調査区に跨って検出されている。なお、当事業団調査区内には、中期後半の竪穴住居は検出されていない。

本遺跡における縄文時代前期初頭の集落は、両調査を合わせると計15軒の竪穴住居を数えることができ、同時期の県内外での集落としては最も竪穴住居数の多い遺跡である。近接する林中原Ⅰ遺跡で竪穴住居1軒、林中原Ⅱ遺跡で竪穴住居2軒が検出されている。

#### 2. 竪穴住居

本調査で検出された縄文時代の竪穴住居は、81区北側に4軒、91区西側に4軒の、計8軒を検出した。この内、81区での2軒は、町教委による調査で検出された住居の続きであり、本調査ではその残る部分を調査した。

以下、各住居ごとに記載する。(表2遺構一覧表を参照)

#### 81区1号住居 (第7・8図、PL. 5・9)

本調査区と、町教委による調査区とに跨り、住居の東端を検出した。住居の主体は町教委調査区にあり、S122として調査されている。

**位置:** 81区の北西端に位置し、本住居の南東側に重複する81区2・3号住居、南側に81区4号住居が近接する。また、北東側4mほどに91区7号住居がある。

**グリッド:** 81区I-25

**重複:** 本住居の東端南側に81区5号土坑と重複するが、遺構確認面の違いから(土坑は、1面調査時に検出)、新

旧は本住居の方が古い。

**形状:** 本調査では住居東端の極一部を検出したが、町教委調査からすると、全体形状は概ね楕円形を呈し、長軸方向は北西を向く。

**規模:** 住居東端の極一部のため、計測不能。

**床面・壁:** 床面の状況は、本調査では不明。極一部を検出した住居東端壁は、緩やかに立ち上がる。

**炉:** 本調査では検出されていないが、町教委調査で検出されている。

**柱穴:** 町教委調査でも数基を検出しているようであり、本調査でも壁際に3基検出した。柱穴は概ね径20cm、深さ8～23cmを測る。

**遺物:** 調査した住居の範囲が狭いことから、遺物の出土量は多くないが、住居の東端壁に図示した第7図1を含む土器が集中して出土した(PL. 5-6)。図示した出土遺物(第7・8図)は、土器は前期初頭の花積下層1式土器が主体となっている。1は底部を欠く半円形の尖底深鉢形土器で、平口縁の肥厚した口縁部文様帯に擦糸側面圧痕で渦巻き文と横位に2条巡らせ、以下の胴部に0段多条のL R縄とR L縄で横位回転による羽状縄文を施す。2は平口縁の口唇部に、単位的な鋸歯状となる刻み状沈線と施し、口縁以下の胴部に横位回転による羽状縄文が施される。5の胴部には異方向回転による縦長な菱状構成となる縄文が施される等、花積下層1式の特徴的な文様を施する土器群である。また、4は平口縁の口縁下に細い隆帯を巡らせ、以下の胴部に横位回転による羽状縄文が施された塚田式土器である。

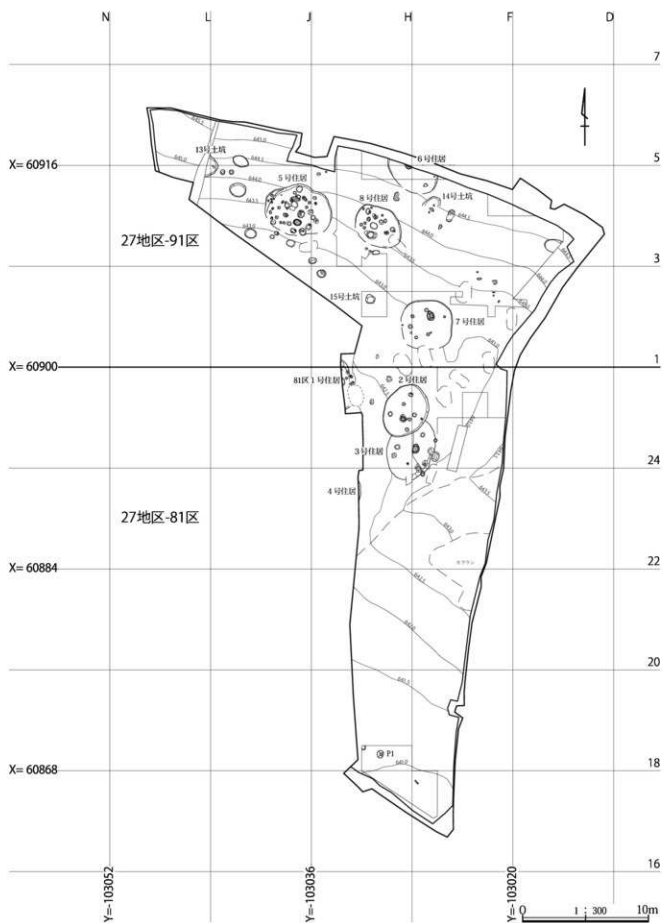
石器には、剥片石器の小型スクレイパー1点と、礫石器の表面に凹部を連ね、敲打による剥離をもつ15の磨石1点を図示した。

未掲載遺物には、同時期の土器片、さらに剥片類6点がある。

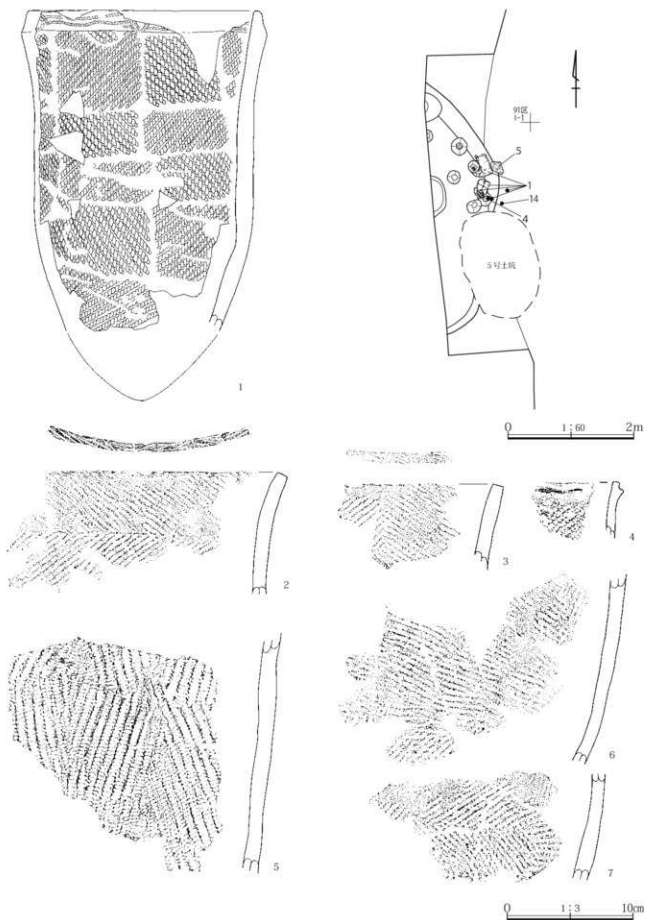
**時期:** 出土遺物から、縄文時代前期初頭の花積下層1式期の住居であり、花積下層1式土器と塚田式土器が供伴している。

#### 81区2号住居 (第9・10図、PL. 5・9・10)

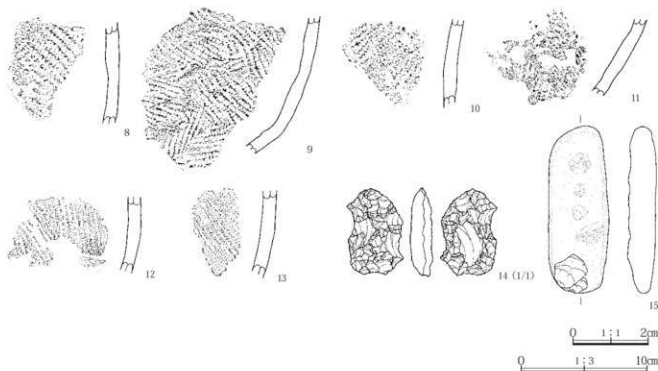
**位置:** 81区の北端付近に位置する。81区3号住居と重複し、本住居の北西側に81区1号住居、南西側に81区4号住居が近接する。また、北側には91区7号住居が近



第6図 上原I遺跡 調査地点縄文時代遺構全体図



第7図 81区1号住居 平面図、出土遺物(1)



第8図 81区1号住居 出土遺物(2)

接する。

グリッド：81区G・H-24・25

**重複**：本住居の南側を81区3号住居と重複するが、埋没土の土層断面による堆積状況確認、および床面位置が81区3号住居より本住居の方が低い位置にあることから、その新旧は本住居の方が新しい。

**形状**：楕円形を呈する。

**規模**：長軸4.45m、短軸3.46m、壁高0.14m

**長軸方向**：N-25°-E **床面積**：10.36㎡

**埋没土**：As-Ypkを混入する黒褐色土を主体とするが、混入物の差異から5層に分層できた。

**床面・壁**：床面は基本土層Ⅵ層(黒褐色土)中にあり、ほぼ平坦で、中央付近がやや硬化済み。壁は全体に緩やかに立ち上がる。

**炉**：長軸上の中央南寄り位置し、浅い掘り込みをもつ地床炉である。掘り込み規模は、長さ50cm、幅45cm、深さ9cmを測る。焼土化した範囲は、掘り込みよりもやや住居中央に寄る。

**柱穴**：柱穴は計7基を検出したが、P1・2・4～6の5基が主柱穴となる可能性が高い。主柱穴は概ね円形で、径28～35cm、深さ15～30cmを測る。

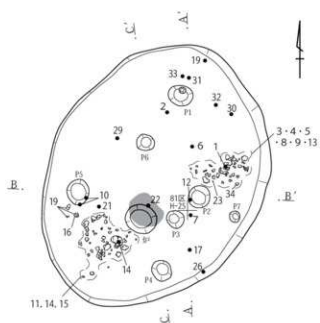
**遺物**：出土遺物の多くは、埋没土中からのものが主体を

占め、住居の壁寄りにやや集中ぎみに出土した(PL. 5-7)。図示した出土遺物(第9・10図)は、土器は前期初頭の花積下層1式土器が主体となっている。1は平口縁の肥厚ぎみな口縁部文様帯に撫糸側面圧痕で文様を描き、円形刺突を配する。2は波状口縁の口縁下が肥厚し、波頂下の屈曲部に瘤状の貼付をもつ。3～10には縦長な変状構成となる縄文が施される等、花積下層1式の特徴的な文様を施文する土器群である。また、18～20は二ツ木式土器で、口縁部文様に撫糸側面圧痕と刻み隆帯で棘手状の主文様を描き、刺切文を充填し、口縁部文様帯下端に刻み隆帯を巡らせて文様帯区画し、瘤状貼付文を配する。胴部には幅狭なループ縄文を羽状に施している。

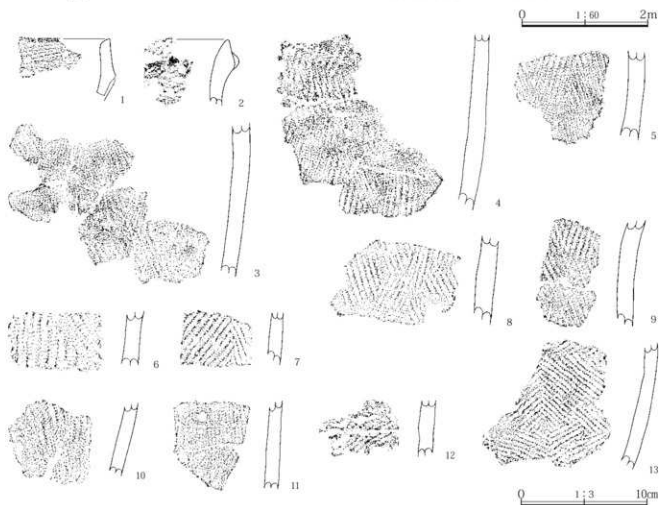
石器には、剥片石器の石鏃として21～26の凹基無茎鏃・有茎鏃の6点、27の石錐1点、28～30のスクレイパー3点、31の石筥1点、32の打製石斧1点、礫石器として33・34の磨石2点を図示した。また、写真掲載のみの石器として、35・36の石鏃(未製品を含む)がある。

未掲載遺物には、同時期の土器片、さらに剥片類63点がある。

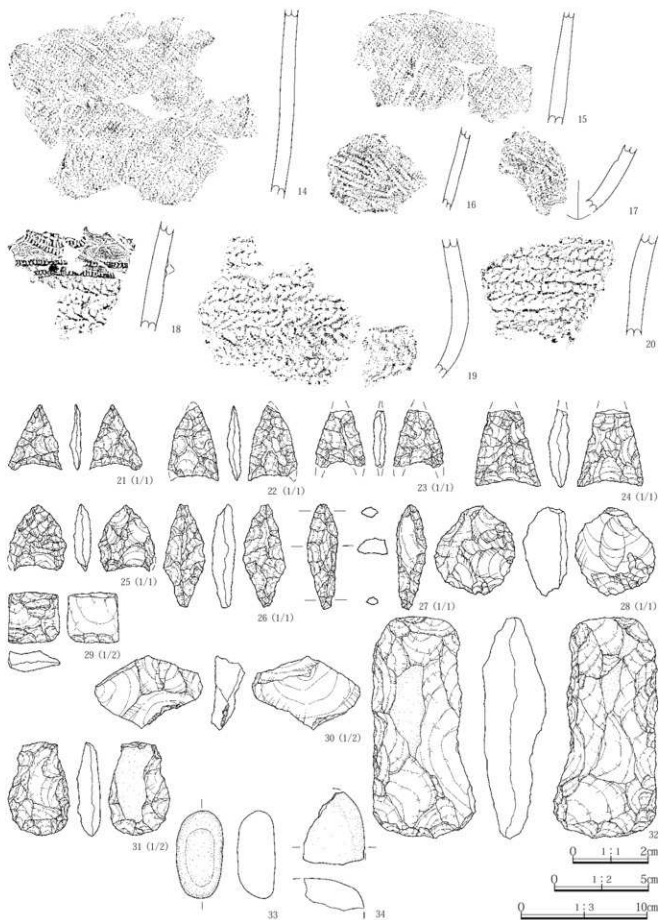
**時期**：出土遺物から、縄文時代前期初頭の花積下層1式の住居であり、二ツ木式土器は混在と考えられる。



- 1 黒褐色土 締まりやや強い。微小なAs-YPKを多く含む。
- 2 黒褐色土 締まり強い。微小なAs-YPKを少量含む。
- 3 黒褐色土 締まり強い。大粒のAs-YPKを少量含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒・As-YPKを含む。
- 5 黒褐色土 粘質。As-YPKを微量含む。



第9図 81区2号住居 平・断面図、出土遺物(1)



第10图 81区2号住居 出土遺物(2)



## 81区3号住居 (第11図, PL. 6・11)

当初の遺構確認では、住居プランを検出できなかったが、その後焼土を検出し、再度の確認でプランの一部を検出したことから住居と認定した。検出できたのは、住居東半の床面と南東壁である。

**位置**：81区の北端付近に位置する。81区2号住居と重複し、本住居の北西側に81区1号住居、南西側に81区4号住居が近接する。

**グリッド**：81区G・H-23・24

**重複**：本住居の北側を81区2号住居と重複するが、81区2号住居の土層断面、および床面位置が81区2号住居より本住居の方が高い位置にあることから、その新旧は本住居の方が早い。

**形状**：楕円形を呈する。

**規模**：長軸4.95m、短軸3.59m、壁高0.13m

**長軸方向**：N-19°-E **床面積**：11.68㎡

**床面・壁**：東半で確認できたが、明確な硬化面は確認できなかった。床面は基本土層VI層(黒褐色土)中にあり、平坦ざみであるが、僅かに西傾斜する。南東側で確認できた壁は、傾斜をもって立ち上がる。

**炉**：住居中央付近に位置し、浅い掘り込みをもつ地床炉である。掘り込み規模は、長さ72cm、幅53cm、深さ9cmを測る。焼土化範囲は、ほぼ掘り込み上に重なる。

**柱穴**：柱穴は住居内に計7基を検出したが、P1～5の5基が主柱穴となる可能性が高い。主柱穴は概ね円形で、径40cm前後、深さ15～30cmを測る。

**遺物**：住居の遺存状況が悪いことから、出土遺物は少ない。図示した出土遺物(第11図)は、土器は前期初頭の花積下層1式土器が殆どである。1～4は胴部に条が縦方向となる縄文や、胴部上半に横位回転の縄文と下半に条が縦方向となる縄文が施される土器で、花積下層1式の土器群である。

石器には、礫石器の中央に凹部をもつ磨石1点を図示した。

未掲載遺物には、同時期の土器片、さらに剥片類2点がある。

**時期**：出土遺物から、縄文時代前期初頭の花積下層1式期の住居である。

## 81区4号住居 (第12図, PL. 6・11)

本調査区と、町教委による調査区とに跨り、住居の東端を検出した。住居の主体は町教委調査区にあり、S127として調査されている。

**位置**：81区北側の西端に位置し、本住居の北東側に重複する81区2・3号住居が近接する。

**グリッド**：81区1-23

**形状**：本調査では住居東端の極一部のみを検出したが、町教委調査からすると、全体形状は不整楕円形を呈し、長軸方向は北北西を向く。

**規模**：(本調査分)南北方向1.45m、東西方向0.3m

**床面**：確認できなかった。

**遺物**：調査した住居の範囲が極めて狭いことから、遺物の出土量は少ない。図示した出土遺物(第12図)は、土器は前期初頭の花積下層1式土器である。1は平口縁の口縁下に、細い縄の回転絡条体を斜位・横位・縦位に施し、2～4も同様である。

未掲載遺物には、同時期の土器片、さらに剥片類1点がある。

**時期**：出土遺物から、縄文時代前期初頭の花積下層1式期の住居である。

## 91区5号住居 (第13～15図, PL. 4・11・12)

**位置**：91区の中央西寄りに位置し、本住居の東側2mに91区8号住居、東北東側6mに6号住居、南東側9mに91区7号住居がある。

**グリッド**：91区I・J-3・4

**形状**：南半の壁は確認できなかったが、住居に伴うと考えられる柱穴から、やや不整な楕円形の住居と推測される。

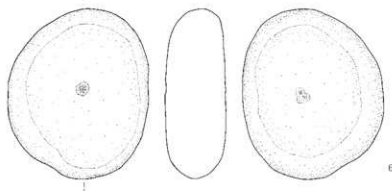
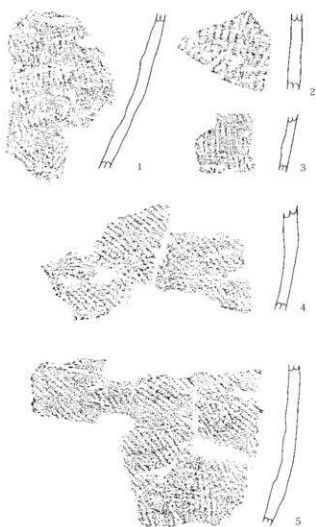
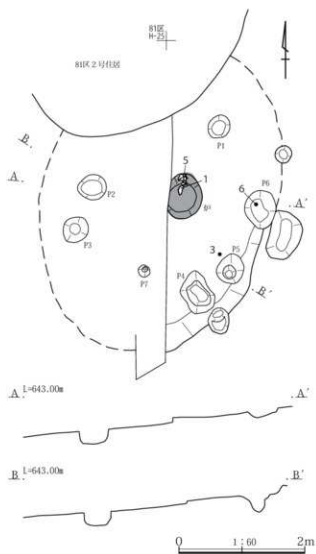
**規模**：長軸5.43m、短軸(4.14)m、壁高0.62m

**長軸方向**：N-69°-W **床面積**：(15.22)㎡

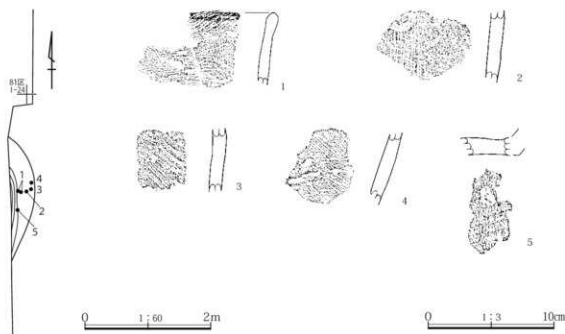
**埋没土**：As-YPkを混入する黒褐色土を主体とし、混入物の差異から3層に分層できた。

**床面・壁**：床面はローム土中にあり(南側は、基本土層VI層の黒褐色土中)、ほぼ平坦で、住居中央から炉周辺にかけて硬化している。南側の壁は確認できなかったが、斜面1側となる北側壁は、土層断面からすると37cm以上のかなり高い壁であることが推測できる。

**炉**：住居の長軸上中央南東寄りに位置し、浅い掘り込



第11图 81区3号住居 平・断面図、出土遺物



第12図 81区4号住居 平面図、出土遺物

みをもつ地床炉である。掘り込み規模は、長さ60cm、幅49cm、深さ8cmを測る。焼土化した範囲は、ほぼ掘り込み上に重なる。また、長軸上の中央東寄りには、P21とした同規模の掘り込みが有り、焼土の検出はないが、住居内の位置から地床炉であった可能性をもつ。

**柱穴：**柱穴は数多く検出した。その内、P1～8の8基が主柱穴となる可能性が高く、亀甲形状の配置を想定でき、概ね円形で径23～36cm、深さ10～40cmを測る。また、P21を地床炉であったと想定すると、他の柱穴の多さから、住居の建て替えの可能性もある。

**遺物：**本調査の中で最も遺物の出土量が多い住居である。しかし、出土遺物の大半は埋没土中からのもので、床面直上遺物には、住居長軸上の中央西寄りに平坦な大型礫が、長軸上の中央東寄りに第15図47の石皿が出土している。図示した出土遺物(第13～15図)は、土器は前期初頭の花積下層1式土器が殆どである。1は平口縁の口縁部文様に燃糸側面圧痕で文様を描き、4～11は胴部に縦長な菱状構成となる縄文が、13～21は羽状縄文が施される等、花積下層1式の特徴的な文様を施文する土器群である。

石器には、剥片石器の石礫として23～34の凹基無茎鎌・平基無茎鎌の12点(未製品を含む)、35・36の石錐2点、37・38の石匙2点、39のスクレイパー1点、40の使用痕

剥片、41・42の打製石斧2点、礫石器として43～45の磨石3点、46の凹石1点、47の表裏面に多孔をもつ石皿1点を図示した。また、写真掲載のみの石器として、48～53の石礫6点(未製品を含む)がある。

未掲載遺物には、同時期の土器片、さらに二次加工剥片6点、剥片類619点(内、黒曜石が529点と多数を占める)と、本調査の中では最も多量に出土している。

**時期：**出土遺物から、縄文時代前期初頭の花積下層1式期の住居である。

#### 91区6号住居 (第16・17図、PL. 5・13)

**位置：**91区北端中央の調査範囲内に位置し、本住居の南西側2mに91区8号住居、西南西側6mに91区5号住居、南側8.5mに91区7号住居がある。

**グリッド：**91区G-4、H-4・5

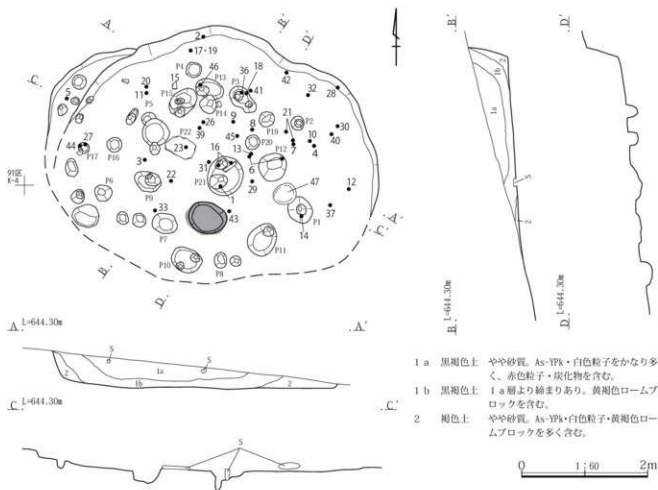
**形状：**住居の北半は調査区外にあり、南側の壁は確認できなかったが、検出された壁のあり方から、楕円形の住居と推測される。

**規模：**長軸(4.19)m、短軸(1.9)m、壁高0.37m

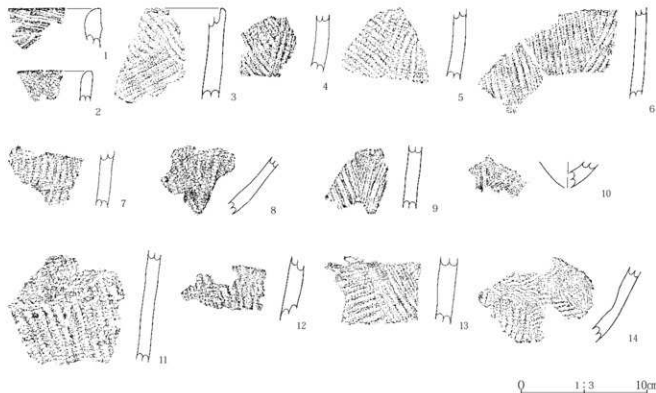
**長軸方向：**N-39°-W **床面積：**(6.19)㎡

**埋没土：**As-YPkを混入する黒色土と黒褐色土を主体とするが、混入物の差異から7層に分層できた。

**床面・壁：**床面は基本土層VI層(黒褐色土)中にあり、ほ



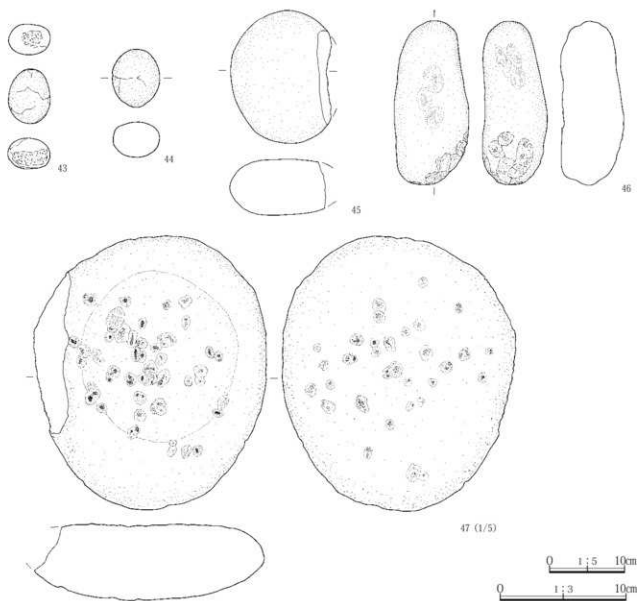
- 1 a 黒褐色土 やや砂質。As-YPx・白色粒子をかなり多く、赤色粒子・炭化物を含む。
- 1 b 黒褐色土 1 a層より締まりあり。黄褐色ロームブロックを含む。
- 2 褐色土 やや砂質。As-YPx・白色粒子・黄褐色ロームブロックを多く含む。



第13図 91区5号住居 平・断面図、出土遺物(1)



第14図 91区5号住居 出土遺物(2)



第15図 91区5号住居 出土遺物(3)

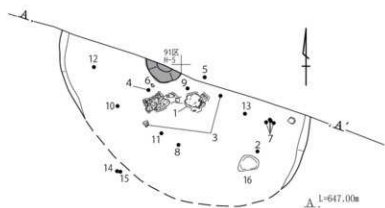
ぼ平坦で、住居中央から炉周辺にかけて硬化している。南側の壁は確認できなかったが、斜面山側となる北側壁は、土層断面からすると37cm以上のかかなり高い壁であることが推測できる。

**炉：**住居の長軸上中央よりやや西寄りにあり、浅い播り鉢状を呈する地床炉である。炉の規模は、径60cm前後の円形と推測され、深さ6cmを測る。炉内は被熱し、焼土化している。

**遺物：**出土遺物はあまり多くない。住居全体に散漫な出土を見せるが、炉の南側の床面近くから第16図1の半完形土器が出土している(PL. 5-2)。また、住居の長軸上南東側には、床面直上に第17図16の石皿が出土してい

る(PL. 5-1)。図示した出土遺物(第16・17図)は、土器は前期初頭の花積下層1式土器が殆どである。1は底部を欠く半完形の尖底深鉢形土器で、平口縁の口縁下が肥厚し、口縁以下に横位回転による羽状縄文が施される。2は小波状口縁の口縁下が肥厚し、波頂下に瘤状の貼付をもち、胴部に羽状縄文を施す。3は平口縁の肥厚した口縁部文様に回転絡糸体を斜位に施し、胴部に横位回転による羽状縄文を施す。さらに、4～6は胴部に縦長な変状構成となる縄文が施される等、花積下層1式の特徴的な文様を施する土器群である。

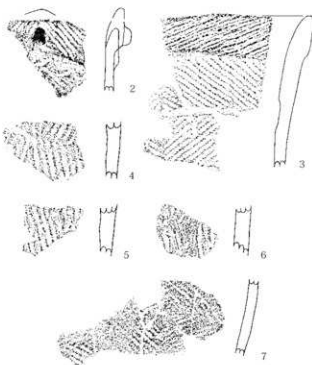
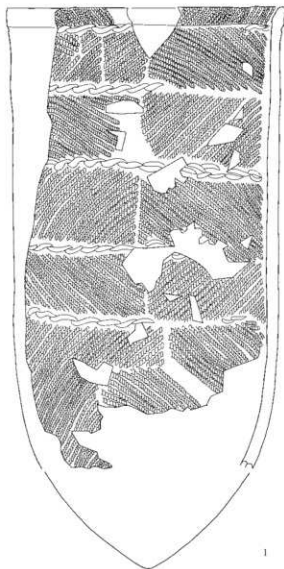
石器には、剥片石器の石鏃として8～11の凹基無茎鏃4点、12～14のスクレイパー3点、礫石器として15



- 1 黒色土 大粒のAs-YPk・炭化物を含む。
- 2 黒褐色土 やや明るく、ローム粒を少量、大粒のAs-YPk・炭化物を含む。
- 3 黒褐色土 粘質。大粒のAs-YPkを少量含む。
- 4 暗褐色土 粘質。ロームブロックを含む。
- 5 黒色土 粘質。大粒のAs-YPkを少量含む。
- 6 黒色土 粘質。大粒のAs-YPkを微量含む。
- 7 赤褐色土 焼土ブロックが主体。

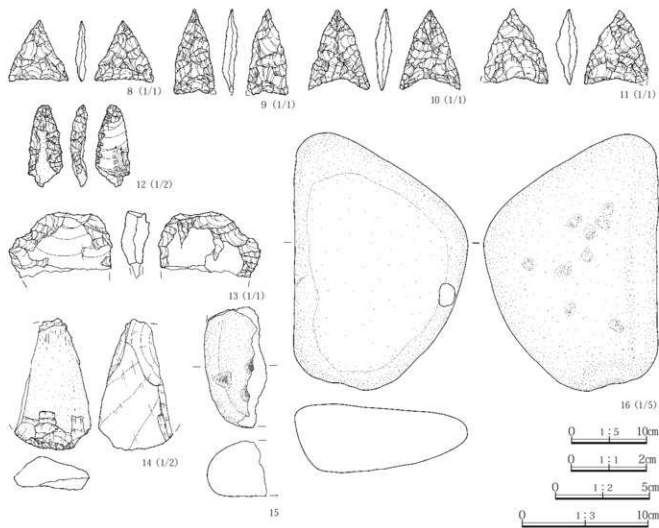


0 1:60 2m



0 1:3 10cm

第16図 91区6号住居 平・断面図、出土遺物(1)



第17図 91区6号住居 出土遺物(2)

の凹部をもつ磨石1点、16の裏面に多孔をもつ石皿1点を図示した。

未掲載遺物には、同時期の土器片、さらに剥片類69点(内、黒曜石が62点と多数を占める)がある。

**時期**：出土遺物から、縄文時代前期初頭の花積下層Ⅰ式期の住居である。

**91区7号住居** (第18図、PL. 5・14)

**位置**：91区南側に位置し、本住居の北西側5mに91区8号住居、北西側8.5mに91区5号住居、南側3mに81区2号住居がある。

**グリッド**：91区G・H-1・2

**重複**：本住居の南側に91区6号土坑と重複するが、遺構確認面の違いから(土坑は、1面調査時に検出)、新旧は本住居の方が古い。

**形状**：南西半の壁は確認できなかったが、住居に伴うと考えられる柱穴と確認できた壁の状況から、かなり角の丸い隅丸方形の住居と推測される。

**規模**：長軸(4.10)m、短軸(3.88)m、壁高0.10m

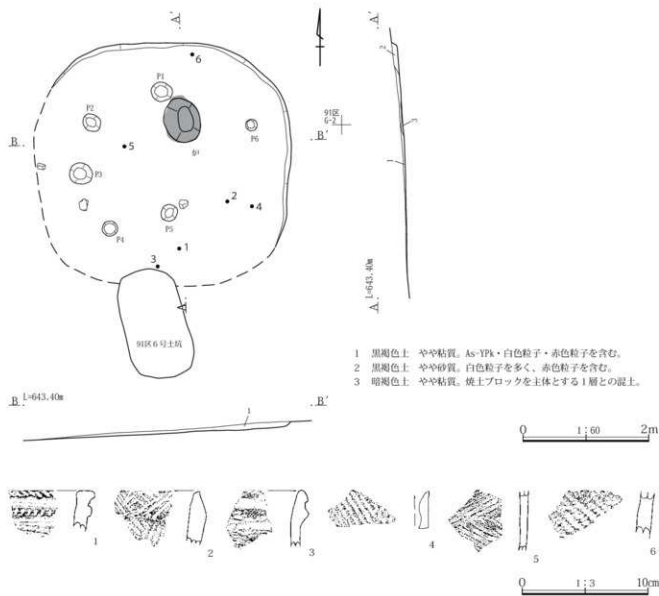
**長軸方向**：N-88°-E **床面積**：13.19㎡

**埋没土**：As-YPrを含む黒褐色土を主体とするが、混入物の差異から3層に分層できた。

**床面・壁**：床面は基本土層Ⅵ層(黒褐色土)中にあり、ほぼ平坦で、外の周辺がやや硬化している。南西側の壁は確認できなかったが、斜面山側となる北東側壁は、傾斜をもって立ち上がる。

**炉**：住居の中央よりやや北東寄りにあり、浅い掘り鉢状の掘り込みをもつ地床である。掘り込み規模は、長さ64cm、幅53cm、深さ10cmを測る。焼土化した範囲は、ほぼ掘り込み上に重なる。





第18図 91区7号住居 平・断面図、出土遺物

**柱穴：**柱穴は計6基を検出した。このP1～6は主柱穴となる可能性が高い。概ね円形で径20～35cm、深さ7cm前後と浅い。

**遺物：**出土遺物は少なく、住居全体に散漫な出土。図示した出土遺物(第18図)は、土器は前期初頭の花積下層1式土器である。1は平口縁の口縁部文様に刻み状沈線をもつ降帯巡らせ、糸側面圧痕と刺突列を組ませて文様を描く。2は平口縁の肥厚ぎみな口縁部文様に沈線で複合鋸歯状の文様を描き、胴部に縦長な菱状構成となる縄文を施す。3は平口縁の口縁部に降帯を巡らせ、降帯下に摺糸側面圧痕で口縁部文様が施される等、花積下層1式の特徴的な文様を施文する土器群である。

石器は図示していない。写真掲載のみの石器として、7～9の石鏃3点(未製品を含む)がある。

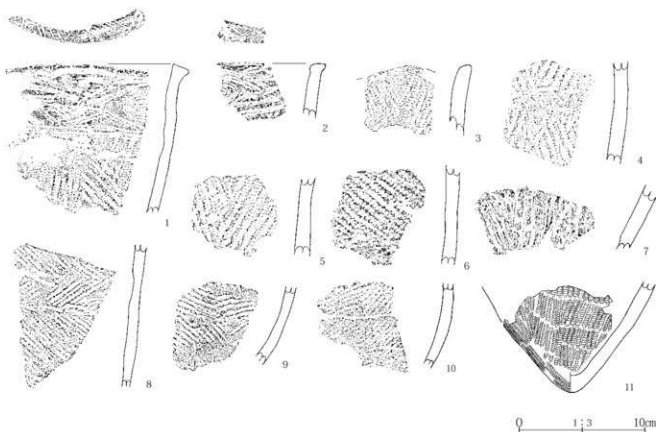
未掲載遺物には、同時期の土器片、さらに二次加工剥片3点、剥片類28点(内、黒曜石は19点)がある。

**時期：**出土遺物から、縄文時代前期初頭の花積下層1式の住居である。

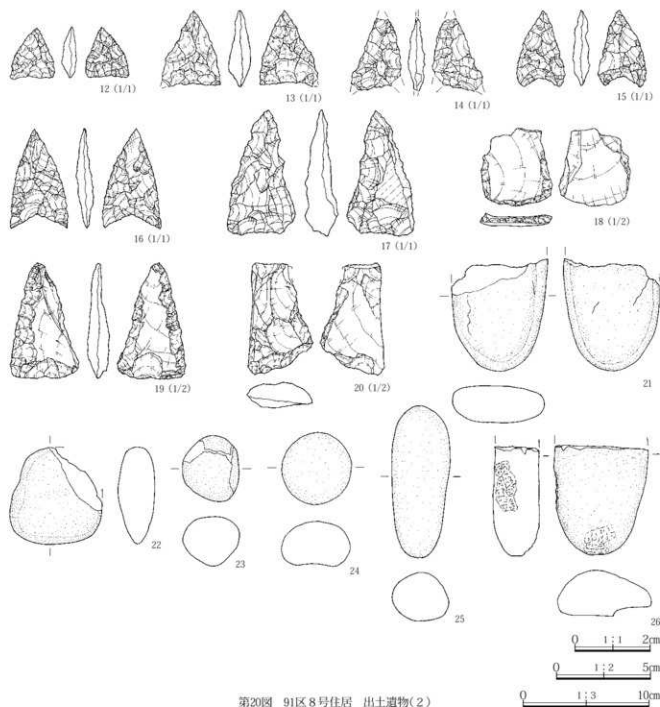
#### 91区8号住居 (第19・20図、PL. 5・14)

**位置：**91区のほぼ中央に位置し、本住居の西側2mに91区5号住居、北東側2mに91区6号住居、南南東側5mに91区7号住居がある。

**グリッド：**91区H・1-3・4



第19図 91区8号住居 平・断面図、出土遺物(1)



第20図 91区8号住居 出土遺物(2)

**重複**：本住居の南側に91区11号土坑と重複するが、遺構確認面の違いから(土坑は、1面調査時に検出)、新旧は本住居の方が古い。

**形状**：南西側の壁は確認できなかったが、住居に伴うと考えられる柱穴と確認できた壁の状況から、楕円形の住居と推測される。

**規模**：長軸(4.09)m、短軸(3.17)m、壁高0.50m

**長軸方向**：N-51°-W **床面積**：9.23㎡

**埋没土**：As-Ypkを含む黒褐色土を主体とするが、混入物

の差異から5層に分層できた。

**床面・壁**：床面は基本土層VI層(黒褐色土)中にあり、ほぼ平坦で、住居中央から炉周辺が硬化している。南西側の壁は確認できず、北東側の壁もあまり残りは良くなかったが、土層断面からすると斜面山側となる北側壁は壁高50cmを測り、傾斜をもって立ち上がる。

**炉**：住居の長軸上中央よりやや西寄りであり、浅い掘り込みをもつ地床炉である。掘り込み規模は、長さ61cm、幅49cm、深さ9cmを測る。焼土化した範囲は、ほぼ掘り

込み上に重なる。

**柱穴：**柱穴は計10基を検出した。この内、P1・2は主柱穴の一部となる可能性が高いが、他の柱穴は不明。概ね円形で径25～40cm、深さ9～19cmを測る。

**住居内土坑：**炉の南西側に土坑が検出されている。楕円形状を呈し、規模は長軸1.05m、短軸0.6m、深さ51cmを測る。第1面調査時には確認できず、第2面調査の本住居調査時に確認できたことから、住居内土坑として扱ったが、本住居に伴うかは不明。

**遺物：**出土遺物はあまり多くなく、住居全体に散漫な出土。図示した出土遺物(第19・20図)は、土器は前期初頭の花積下層Ⅰ式土器が殆どである。1・2は平口縁の口唇部に鋸歯ないし複合鋸歯状の文様を描き、口縁部文様に燃系側面圧痕で菱状構成させ、菱中央に燃系側面圧痕で渦巻き文を配する。また、口縁部文様下端には燃系側面圧痕を巡らせて口縁部文様帯を区画し、胸部に縦長な菱状構成となる縄文を施す土器で、典型的な花積下層Ⅰ式である。3～11も同様な土器群で、11は尖底となる底部である。

石器には、剥片石器の石鏃として12～17の凹基無茎鏃6点(未製品を含む)、18～20のスクレイパー3点(19は、挟入部が弱い石匙?)、礫石器として21～25の磨石5点、26の敲石1点を図示した。また、写真掲載のみの石器として、27～30の石鏃4点(未製品を含む)がある。

未掲載遺物には、同時期の土器片、さらに二次加工剥片3点、剥片類130点(内、黒曜石が64点、頁岩類57点と多数を占める)がある。

**時期：**出土遺物から、縄文時代前期初頭の花積下層Ⅰ式の住居である。

### 3. 土坑

検出された縄文時代の土坑は、91区に点在する3基を数えるのみである。

以下、各土坑ごとに記載する。(表2遺構一覧表を参照)

#### 91区13号土坑 (第21図、PL. 7)

**位置：**91区の西端付近に位置し、南東側4mに91区5号住居がある。

**グリッド：**91区K・J-4・5

**形状：**西半は検出できなかったが、円形を呈すると思わ

れる。

**規模：**径1.76m、深さ0.60m

埋没土は、上位に3層のAs-Ypkを含む黒褐色土を主体とし、下位に4層の暗褐色土が堆積する。底面は概ね円形で、緩く南傾斜するが平坦。埋土中に礫が含まれるものの、遺物は出土していない。第2面調査時の検出であることから、縄文時代の土坑と考えられる。

#### 91区14号土坑 (第21図、PL. 15)

**位置：**91区の北側中央付近に位置し、北西側に91区6号住居、南西側に91区8号住居が近接する。また、周囲に1～6号焼土がある。

**グリッド：**91区G-4

**形状：**南半は検出できなかったが、楕円形を呈すると思われる。

**規模：**長軸1.32m、短軸(0.52)m、深さ0.32m

埋没土は、暗褐色土を主体とするが、混入物の差異から3層に分層できた。底面はほぼ平坦。出土遺物には、1の平口縁の口縁下が肥厚して段をもち、横位に縄文が施される花積下層Ⅰ式土器がある。この出土土器から、縄文時代前期初頭期の土坑と考えられる。

#### 91区15号土坑 (第21図、PL. 7・15)

**位置：**91区の南寄りに位置し、南東側に近接して91区7号住居、北側4mに91区8号住居、南側5mに81区1号住居がある。

**グリッド：**91区H-2

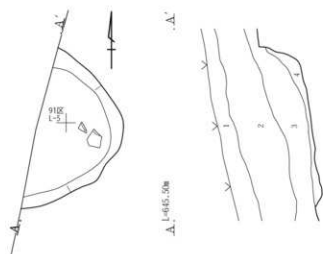
**形状：**不整形円形を呈する。

**規模：**長軸0.78m、短軸0.76m、深さ0.40m

**長軸方向：**N-31°-W

埋没土は、As-Ypkを多く含む黒褐色土である。底面はやや凹凸きみ。出土遺物には、2の凹基無茎石鏃1点がある。出土土器はないが、縄文時代の土坑と考えられる。

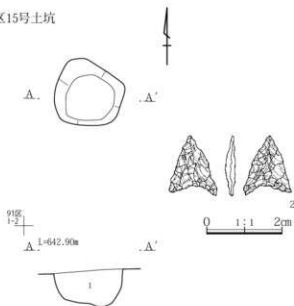
91区13号土坑



91区13号土坑

- 1 表土
- 2 黒褐色土 やや砂質。As-YPk・白色粒子を多く含む。
- 3 黒褐色土 やや砂質。As-YPk・白色粒子をかなり多く、赤色粒子を含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロックが層下半に多く、As-YPk・赤色粒子・白色粒子を含む。

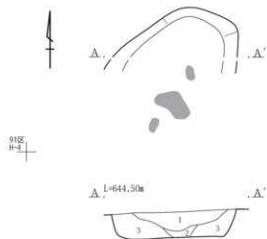
91区15号土坑



91区15号土坑

- 1 黒褐色土 やや砂質。As-YPkを多く、白色粒子を含む。

91区14号土坑



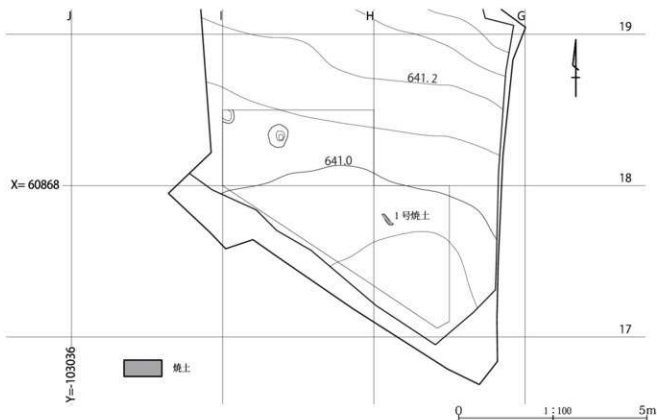
91区14号土坑

- 1 暗褐色土 やや砂質。白色粒子・赤色粒子を含み、As-YPkが散在。
- 2 暗褐色土 やや砂質。1層に焼土ブロックを多く含む。
- 3 暗褐色土 やや砂質。As-YPkを多く、白色粒子・赤色粒子を含む。



0 1:3 10m

0 1:40 1m



第22図 81区1号焼土 平面分布図

#### 4. 焼土

検出された縄文時代の焼土は、81・91区に散在し、81区に1ヶ所、91区に12ヶ所の計13ヶ所を検出した。特に、91区での焼土は、1～6号焼土、7～12号焼土がそれぞれ近接する。なお、これらの焼土は、周囲の丁寧な遺構確認からも遺構に伴うものではなく、単独で存在するようである。

以下、各焼土ごとに記載する。(表2 遺構一覧表を参照)

#### 81区1号焼土 (第22図)

**位置:** 81区の南端に位置し、周囲には第2面調査で検出されたピットが僅かにあるのみで、北側24mにある81区3号住居までの間は削平により遺構は検出されていない。

**グリッド:** 81区G-17

**形状:** 長楕円形を呈する。

**規模:** 長軸39cm、短軸11cm

**長軸方向:** N-43°-W

焼土下に、掘り込みは確認されていない。

#### 91区1号焼土 (第23図、PL.15)

**位置:** 91区の北側中央付近に位置し、西側に近接して91区14号土坑、北西側3mに91区6号住居がある。また、周囲に2・4～6号焼土がある。

**グリッド:** 91区G-3・4

**形状:** 長楕円形を呈する。

**規模:** 長軸101cm、短軸55cm

**長軸方向:** N-23°-E

焼土下に、掘り込みは確認されていない。周囲からは、1・2の花積下層1式土器と、3の打製石斧1点が出土している。

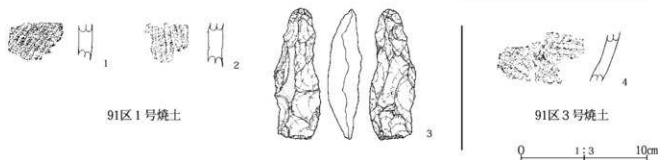
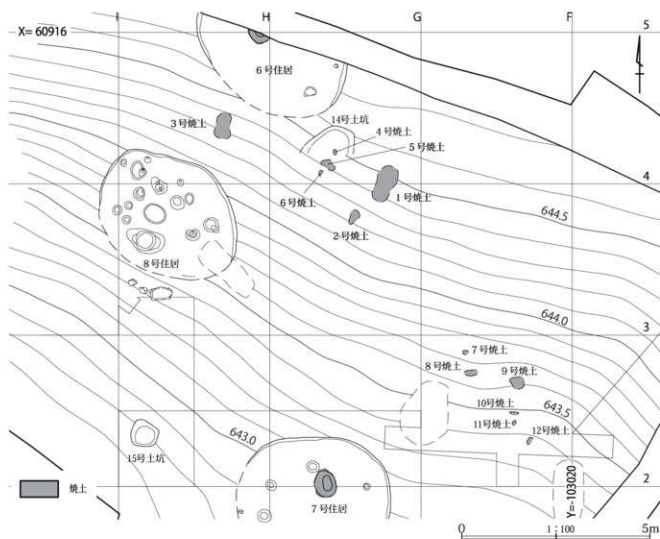
#### 91区2号焼土 (第23図)

**位置:** 91区の北側中央付近に位置し、北北西側に近接して91区14号土坑、同側3mに91区6号住居、西側3mに91区8号住居がある。また、周囲に1・4～6号焼土がある。

**グリッド:** 91区G-3

**形状:** 楕円形を呈する。

**規模:** 長軸41cm、短軸26cm



第23図 91区1～12号焼土 平面分布図、出土遺物

長軸方向：N-28°-E

焼土の周囲に、掘り込みは確認されていない。

91区3号焼土 (第23図、PL.15)

位置：91区の北側中央付近に位置し、北側に91区6号住居、南側に91区8号住居が近接する。また、東側に91区14号土坑、91区1・2・4～6号焼土がある。

グリッド：91区H-4

形状：楕円形を呈する。

規模：長軸70cm、短軸44cm

長軸方向：N-7°-E

焼土の周囲に、掘り込みは確認されていない。

91区4号焼土 (第23図)

位置：91区の北側中央付近に位置し、91区5・6号焼土と共に91区14号土坑内にあり、周囲に91区1～3号焼土

がある。

グリッド：91区G-4

形状：小さな楕円形を呈する。

規模：長軸16cm、短軸9cm

長軸方向：N-18°-W

91区14号土坑内にあることから、土坑に伴う可能性もある。

#### 91区5号焼土（第23図）

位置：91区の北側中央付近に位置し、91区4・6号焼土と共に91区14号土坑範囲内にあり、周囲に91区1～3号焼土がある。

グリッド：91区G-4

形状：不整楕円形を呈する。

規模：長軸40cm、短軸22cm

長軸方向：N-63°-W

91区14号土坑範囲内にあることから、土坑に伴う可能性もある。

#### 91区6号焼土（第23図）

位置：91区の北側中央付近に位置し、91区4・5号焼土と共に91区14号土坑範囲内にあり、周囲に91区1～3号焼土がある。

グリッド：91区G-4

形状：小さな楕円形を呈する。

規模：長軸16cm、短軸9cm

長軸方向：N-15°-E

91区14号土坑範囲内にあることから、土坑に伴う可能性もある。

#### 91区7号焼土（第23図）

位置：91区の東側に位置し、南西側4mに91区7号住居があり、南東側に91区8～12号焼土が集中する。

グリッド：91区F-2

形状：小さな円形を呈する。

規模：径15cm

焼土の周囲に、掘り込みは確認されていない。

#### 91区8号焼土（第23図）

位置：91区の東側に位置し、南西側4mに91区7号住居

があり、周囲に91区7・9～12号焼土が集中する。

グリッド：91区F-2

形状：楕円形を呈する。

規模：長軸36cm、短軸16cm

長軸方向：N-84°-E

焼土の周囲に、掘り込みは確認されていない。

#### 91区9号焼土（第23図）

位置：91区の東側に位置し、南西側4mに91区7号住居があり、周囲に91区7・8・10～12号焼土が集中する。

グリッド：91区F-2

形状：不整形を呈する。

規模：長軸41cm、短軸37cm

長軸方向：N-65°-W

焼土の周囲に、掘り込みは確認されていない。

#### 91区10号焼土（第23図）

位置：91区の東側に位置し、南西側4mに91区7号住居があり、周囲に91区7～9・11・12号焼土が集中する。

グリッド：91区F-2

形状：小さな楕円形を呈する。

規模：長軸24cm、短軸10cm

長軸方向：N-83°-W

焼土の周囲に、掘り込みは確認されていない。

#### 91区11号焼土（第23図）

位置：91区の東側に位置し、南西側4mに91区7号住居があり、周囲に91区7～10・12号焼土が集中する。

グリッド：91区F-2

形状：小さな楕円形を呈する。

規模：長軸13cm、短軸9cm

長軸方向：N-58°-E

焼土の周囲に、掘り込みは確認されていない。

#### 91区12号焼土（第23図）

位置：91区の東側に位置し、南西側4mに91区7号住居があり、北東側に91区7～11号焼土が集中する。

グリッド：91区F-2

形状：小さな楕円形を呈する。

規模：長軸21cm、短軸11cm



長軸方向：N-57°-E

焼土の周囲に、掘り込みは確認されていない。

#### 5. 遺構外出土遺物

調査区内から出土した、遺構に伴わない縄文時代の遺物を扱う。遺構外出土遺物は、第1面下から第2面調査時に出土し、各遺構の時期である前期初頭の花積下層式土器が主体を占め、僅かに中期の土器がある。また、石器には石鎌や石錐、石匙、スクレイパー、石篋、打製・磨製石斧、凹石、磨石等といった定形石器をはじめ、不定型な二次加工剥片や多くの剥片類が出土している。

以下、種別ごとに記載する。

#### (1) 土器

1～64は、前期初頭花積下層I式の特徴的な文様を施文する土器群である。

1～22・25・26は、口縁下に肥厚した口縁部文様帯をもつ類である。1～11は波状口縁となる。1・2は同一個体で、内反ぎみの波状口縁の口縁下が肥厚し、口縁部文様帯となる。この肥厚帯には細い2本組縄(L・L縄)による燃糸側面圧痕を鋸歯状に施文し、波頂下の三角部には燃糸側面圧痕を三角状に施文する。以下の胴部には、L R縄で縦長な菱状構成となる縄文が施される。3～7も同様に、燃糸側面圧痕で口縁部文様を描き、7の胴部には縦長な菱状構成となる縄文が施される。8・9は小波状口縁の口縁下が肥厚し、口縁下にR L縄とL R縄の横位回転による羽状縄文が施される。10は波状口縁の口縁下が肥厚し、波頂下に低い瘤状貼付、肥厚帯と胴部に細い2本組縄による回転絡条体で羽状縄文が施される。以下の胴部に同様の回転絡条体が施される。11は波状口縁の口縁下は肥厚して段をもち、肥厚帯に細い2種類の2本組縄による回転絡条体で、横位の羽状縄文が施される。以下の胴部にも、同様の回転絡条体を横位に施す。12～18・22・25・26は平口縁で、12・13・26は口縁下が肥厚ぎみで段をもち、口縁以下にR L縄とL R縄で横位回転による羽状縄文が施される。14は口縁以下に0段多条のR L縄とL R縄で横位回転による羽状縄文が施される。15は口縁下が肥厚して段をもち、口縁以下にL R縄で横位・縦位回転により羽状縄文が施される。16は外反ぎみの平口縁で、口縁下は肥厚して段をもち、肥厚帯

に細い2本組縄(L・L縄)による回転絡条体を斜位に施し、以下の胴部にL R縄とR L縄の横位回転による羽状縄文が施される。17・18の口縁下は肥厚して段をもち、肥厚帯となる口縁部文様に細い2種類の2本組縄(L・L縄とR・R縄)による回転絡条体で、横位の羽状縄文が施され、以下の胴部に同様の回転絡条体を横位に施す。22は口縁下に肥厚ぎみの緩い段をもち、口縁以下に0段多条のR L縄と0段多条のL R縄で、縦長な菱状構成となる縄文が施される。また、25は平口縁の口唇部に斜位の刻みをもち、口縁下に細い2種類の2本組縄(L・L縄とR・R縄)による回転絡条体で、複合鋸歯状に口唇部文様を施す。なお、19～21は口唇部を欠くが、小波状口縁の口縁下が肥厚して段をもち、肥厚帯となる口縁部文様に細い2本組縄(L・L縄)による回転絡条体を横位に施す。以下の胴部に細い2種類の2本組縄(L・L縄とR・R縄)による回転絡条体で、縦長な菱状構成に施される。

23・24・27・28は、口縁部文様帯をもたない類である。23・24は波状口縁であり、23の口縁以下に0段多条のR L縄で、異方向回転による縦長な菱状構成となる縄文が施される。24には波頂下に短い降帯を垂下させ、口縁以下にR L縄の縄文が縦位近い方向に施される。27・28は平口縁で、27は口縁以下に0段多条のR L縄とL R縄で横位回転による羽状縄文が施される。28は口縁以下に0段多条のR L縄を横位、0段多条のL R縄を縦位・斜位に施文する。

29～42は、胴部に縦長な菱状構成となる縄文が施される類である。29・30・31は胴部にR L縄とL R縄による縦長な菱状構成となる縄文が施される。33・34・36・37は胴部に0段多条のR L縄で、異方向回転による縦長な菱状構成となる縄文が施される。35・38・39・41は胴部にR L縄で、異方向回転による縦長な菱状構成となる縄文が施される。40・42は19～21と同一個体となる胴部であり、胴部に細い2種類の2本組縄(L・L縄とR・R縄)による回転絡条体で、縦長な菱状構成に施される。

43～56は、胴部に羽状縄文が施される類である。43は0段多条のR L縄と0段多条のL R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。44～52はR L縄とL R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。この内、47の内面には横位の整形痕が残り、49・50の内面には指頭状の

浅い凹凸がみられ、50には横位の整形痕が顕著である。また、51・52の原体端部は、結節処理されている。53・54と55・56はそれぞれ同一個体で、細い2種類の2本組縄(L・L縄とR・R縄)による回転絡条体で、横位の羽状縄文が施され、原体の端部処理が明瞭である。さらに、57はR・L縄とL・R縄で、縦位回転による縦位羽状縄文が施される。

58～61は、胴部に横位回転の縄文が施される類である。58は0段多条のR・L縄による横位回転の縄文が施される。59・61はR・L縄による横位回転の縄文が施される。60はL・R縄の縄文が施される。

62～64は尖底部付近で、62・63の胴部下端にR・L縄で斜位回転による縦走縄文が施される。64はR・L縄で縦位ぎみな斜縄文が施され、内面に指頭状の浅い凹凸が残る。

65～71は、前期初頭花積下層1式に併行する塚田式とされる土器群である。65は小波状口縁の口縁下に細い降帯を2条巡らせ、口縁部文様に斜位の沈線を施す。66は波頂部を欠くが、小波状口縁の波頂下に短い降帯を垂下させ、口縁下に低い降帯を巡らせ、口縁以下にL・R縄が施される。67・68・71は同一個体で、小波状口縁の波頂下に短い降帯を垂下させ、口縁下に降帯を巡らせ、口縁下に0段多条のR・L縄を横位施し、以下の胴部に0段多条のR・L縄と0段多条のL・R縄による横位回転の羽状縄文が施される。69は小波状口縁の波頂下に短い降帯を垂下させ、口縁下に肥厚ぎみな緩い段をもち、口縁以下にL・R縄の縄文が横位に施される。70は小波状口縁の波頂下に短い降帯を垂下させ、口縁下にL・R縄が横位に施され、内面には指頭状の浅い凹凸が残る。

72は平口縁の口縁下に幅広くやや肥厚した緩い段をもち、口縁以下にL・R縄の縄文が横位に施され、中道式と考えられる。

73～85は、前前期葉二ツ木式の特徴的な文様を施文する土器群である。73・74は平口縁ないし波状口縁の口縁直下に刻みをもつ細い降帯を巡らせ、口縁部文様体内に刻切文を横位八字状に充填する。75は口縁部文様に2本組の刻み降帯で戴手状の主文様を描き、主文様間に刻切文を横位八字状に充填する。76は平口縁の口唇部に円形竹管刺突を施し、口唇から降帯を垂下させ、

降帯上に円形竹管刺突を施す。口縁下にはL・R縄の結節縄文を横位回転で施す。77～80は同一個体で、平口縁の口縁下にR・L縄とL・R縄による横位結束羽状縄文が施され、内面に横位の整形痕が残る。81・82は同一個体で、口縁部文様に燃糸側面圧痕で戴手状等の主文様を描き、口縁部文様帯下端に2条の刻み降帯を巡らせて文様帯区画し、刻み降帯間に燃糸側面圧痕を沿わせる。以下の胴部には、0段多条のR・L縄と0段多条のL・R縄による横位羽状縄文が施される。

83～85は胴部にR・L縄とL・R縄によるやや幅狭な結束羽状縄文が施され、83・85の内面には横位の整形痕が残る。

86・87は、前前期葉二ツ木式に併行する布目式と考えられる土器である。86は波状口縁の口唇部に半截竹管による爪形刺突をもち、口縁下は肥厚ぎみで、頸部が段状に屈曲し、屈曲部に半截竹管による爪形刺突が回り、口縁以下にL・R縄の縄文が横位に施される。胴部の器厚は、4mmとかなり薄い。87は頸部下が段状に屈曲し、屈曲部に爪形刺突をもつ。頸部から胴部には、原体幅の短いR・L縄の縄文が施される。

88～97は、前前期葉関山I式の特徴的な文様を施文する土器群である。

88～92は同一個体で、波頂部を欠くが波状口縁の口縁直下に刻みを施し、口縁部文様に刻みをもつ半截竹管による平行沈線で重弧状(半円状)の文様を描き、文様間に円形刺突を充填させる。さらに、口縁部文様の下端を刻みをもつ半截竹管による平行沈線を2条巡らせて文様帯区画し、以下の胴部にL・R縄の結節縄文を横位に施す。93は胴部に0段多条のR・L閉端環付縄と0段多条のL・R閉端環付縄で、幅広い横位羽状縄文が施される。94～96は胴部に0段多条のR・L閉端環付縄と0段多条のL・R閉端環付縄で、やや幅広い横位羽状縄文が施される。97は胴部に0段多条のL・R縄で、横位の幅広い縄文が施される。

98・99は、前前期葉と考えられるが詳細は不明。98は胴部下半に軟軸絡条体?を横位に回転施し、内面に斜位の整形痕が顕著である。99は平底となる底部で、胴部下端にR・L縄を横位に施し、底面に網代痕状の痕跡を残す。

100～106は、前前後半から末葉にかけての土器群で

ある。100は波状の口縁が朝顔状に開く深鉢で、地文にL Rの縄文を施し、波頂下に細い半截竹管による平行沈線を垂下させて軸線とし、菱状の文様を描き、菱中央には米字状の文様を加える(諸磯a式)。101は頸部に結節浮線で渦巻き状の文様を施す(諸磯c式)。102は胴部に半截竹管による断面D字状の沈線を同心円状に描き、その隙間に弧状の印刻を施す(諸磯c式)。103は胴部文様に結節浮線を横位に施文し、地文にL Rの縄文を施す(十三菩提式)。104は朝顔状となる頸部に、半截竹管による渦巻きをもつ沈線で文様を描き、その下端を沈線を巡らせて文様帯区画する。105は大きく屈曲する胴部にR L縄と0段多糸のL R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。106は胴部にL R縄とR L縄で、横位回転によるやや幅狭な羽状縄文が施される。

107～116は、中期の土器群であるが、出土量は少ない。107は胴部に細い降帯で渦巻き状の文様を施す(中期中葉か)。108は爪状の連続刺突を横位に施す(中期中葉か)。109は胴部に沈線が巡る(阿玉台式か)。110は胴部に連結部をもつ2本の降帯を垂下させ、縦位の綾杉状沈線を施す(桁倉式)。111は胴部に降帯を垂下させ、縦位の綾杉状沈線を施す(桁倉式)。112は平口縁の口縁下に沈線と降帯で楕円等の文様を区画し、区画内に条線を縦位に施す(加曾利E 3式)。113は胴部に沈線で懸垂文を垂下させ、その間にR L縄を縦位に充填する(加曾利E 3式)。114は胴部に蛇行降帯を垂下させ、その間に細い斜行沈線を施す(加曾利E 3式)。115は胴部に2条の降帯で曲線的な文様を描き、文様内に縄文を施す(加曾利E 3式)。116は湾曲する胴部に沈線で渦巻き状の文様を描き、文様間にL R縄の縄文を充填する(加曾利E 4式)。

117は、後期初頭の称名寺式で、朝顔状に開く平口縁の口唇部に沈線が巡り、口縁下が無紋となる。

118～123は、弥生時代中期の土器群である。118は平口縁の頸部下に3条の沈線が廻る。119は頸部から胴部の屈曲部にかけて、沈線で変形工字文等の文様を描き、表面には赤色塗彩が施される。120は胴部に斜位ないし縦位の条線を施す。121は胴部に浅い条痕が斜位に施される。122は胴部下半に斜位の条線を浅く施す。123は平底の底面に網代痕をもつ。

## (2) 石器

出土した石器は、剥片類も含めた総数1231点である。これらの器種には、剥片石器として石鏃68点(未製品を含む)(81区25点、91区43点)、石錐12点(81区7点、91区5点)、石匙3点(81区)、スクレイパー30点(81区13点、91区17点)、二次加工剥片45点(81区19点、91区26点)、石篋3点(81区2点、91区1点)、打製石斧3点(91区)、および磨製石斧1点(81区)があり、礫石器として磨石24点(81区11点、91区13点)、凹石3点(81区2点、91区1点)、敲石2点(91区)がある。また、剥片類は1038点を数え、この内黒曜石が539点と多数を占め、次いで頁岩類300点、チャート137点の順となる。なお、剥片類については、図示していない。

### 石鏃(第28図、PL.18)

図示したのは124～145の22点で、他は写真掲載した。石鏃の形態には、凹基無茎鏃(凹基の挟りは深いものと、浅いものとが存在)が主体を占め、平基無茎鏃、基部が円弧状となる小型の無茎鏃が少量ある。また、242～252は未製品である。これら66点の使用される石材は、黒曜石が最も多く37点、次いで玉髓10点、珪質変質岩(流紋岩質凝灰岩)6点、チャート4点、黒色頁岩3点、珪質頁岩2点、頁岩2点、流紋岩2点である。

### 石錐(第29図、PL.18・19)

図示したのは、146～156の11点である。その形態には、146～150のような棒状を呈する類と、逆二等辺三角形様等の握み部と刃部が明瞭な類がある。また、154のような、剥片素材で刃部となる先端部のみに調整加工が施される類もある。使用される石材は、玉髓が4点、チャート3点、黒曜石1点、珪質変質岩(流紋岩質凝灰岩)1点、黒色頁岩2点である。

### 石匙(第29図、PL.19)

図示した157～159の3点は、いずれも横長な石匙である。使用石材は、それぞれ玉髓、チャート、黒色頁岩である。

### スクレイパー(第29・30図、PL.19)

図示したのは、160～173の14点である。小型なもの

と大型の両者があり、小型スクレイパーには167・168・172・173の方形を呈する類もある。また、刃部角は鋭角となる削器様なものが多いが、169のように鈍角な搔器的なものもある。使用される石材は、珪質頁岩が4点、黒色頁岩3点、頁岩3点、流紋岩2点、玉髓1点、チャート1点である。

#### 二次加工剥片(第30図、PL.19)

174・175の2点を代表させて図示した。小型剥片を素材とし、剥片の縁辺に集中して細かな剥離調整が施されるものである。使用石材は、チャート、黒曜石である。

#### 石篋(第30図、PL.19)

図示した176～178の3点は、いずれも小型で、剥離は表面を主に裏面にまで及び、刃部となる下端は鋭角気味である。使用される石材は、黒色頁岩が2点、玉髓1点である。

#### 打製石斧(第30図、PL.20)

形態には、棒状礫を素材とした179、撥形の180、分銅形の181がある。使用される石材は、頁岩が2点、安山岩1点である。

#### 磨製石斧(第30図、PL.20)

182は磨製石斧の破片で、石材に緑色片岩が使用されている。

#### 磨石(第31・32図、PL.20)

183～204の22点を図示した。この内、183・184や186は石製品的な特異な形状を呈し、187・188は球状を呈する類、185・189～198は扁平な楕円状等を呈する類、さらに199～204は磨石であると共に凹石としての機能を併せ持つ類である。183・184は小型礫を素材に、全体に研磨が施され、両側縁の上下端付近に最終的な研磨面をもち、六角形状を呈する。186は小型の円礫を素材に、全体に研磨が施され、表面が凸状、側縁が平坦となり、裏面は全体に凹状となる。なお、中には被熱しているものも含まれる。使用される石材は、全て細粒輝石安山岩である。

#### 凹石(第32図、PL.20)

205・206の2点を図示した。扁平な楕円礫を素材とし、平坦面に凹部をもつ。使用される石材は、205は花崗閃緑岩、206は細粒輝石安山岩である。

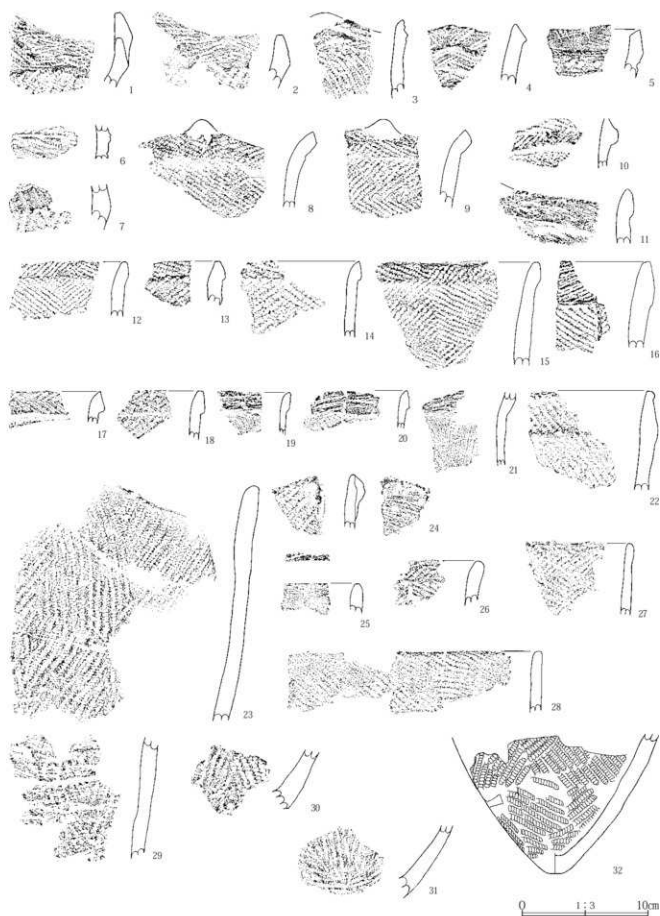
#### 敲石(第32図、PL.20)

207の1点を図示した。縦長な礫を素材とし、小口端部付近に敲打痕をもち、石材は細粒輝石安山岩である。

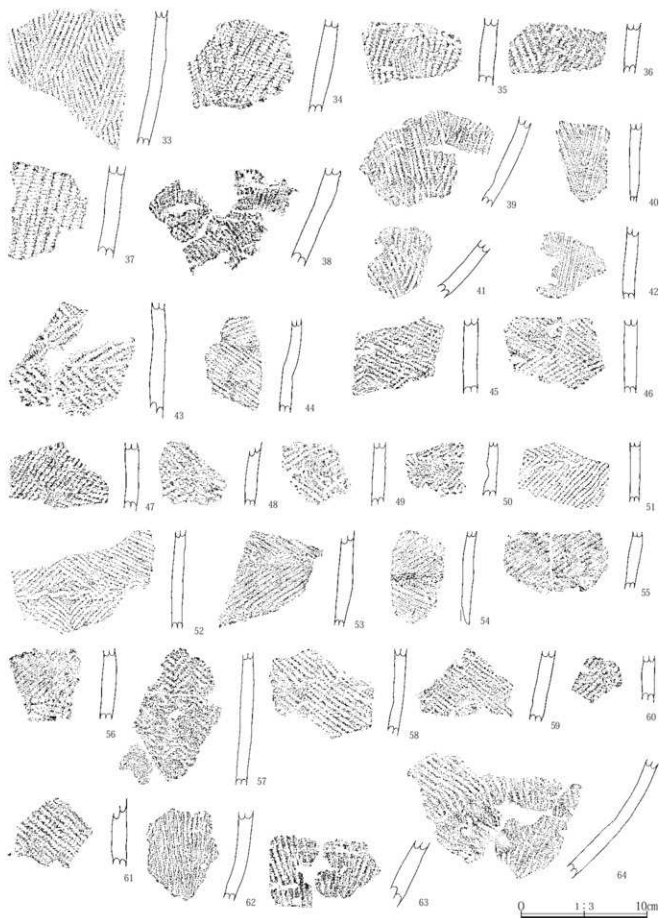
#### (3)石製品

#### 玉類(第32図、PL.20)

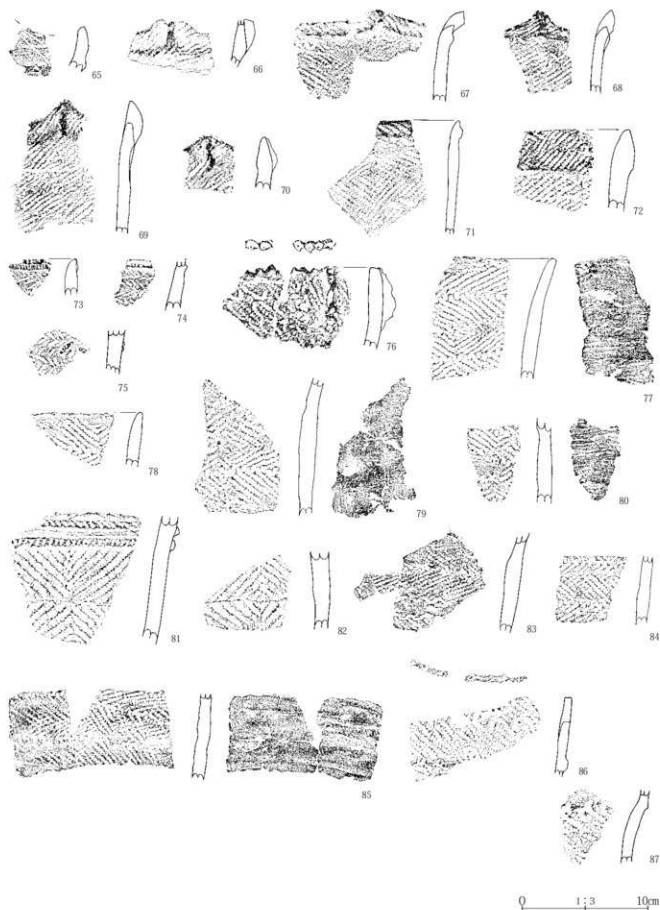
図に示した、208の珪質頁岩製の玉飾りが1点出土している。研磨により外形は円形を呈し、その中央に両面穿孔による孔をもつ。孔径0.3cm。時期不明。



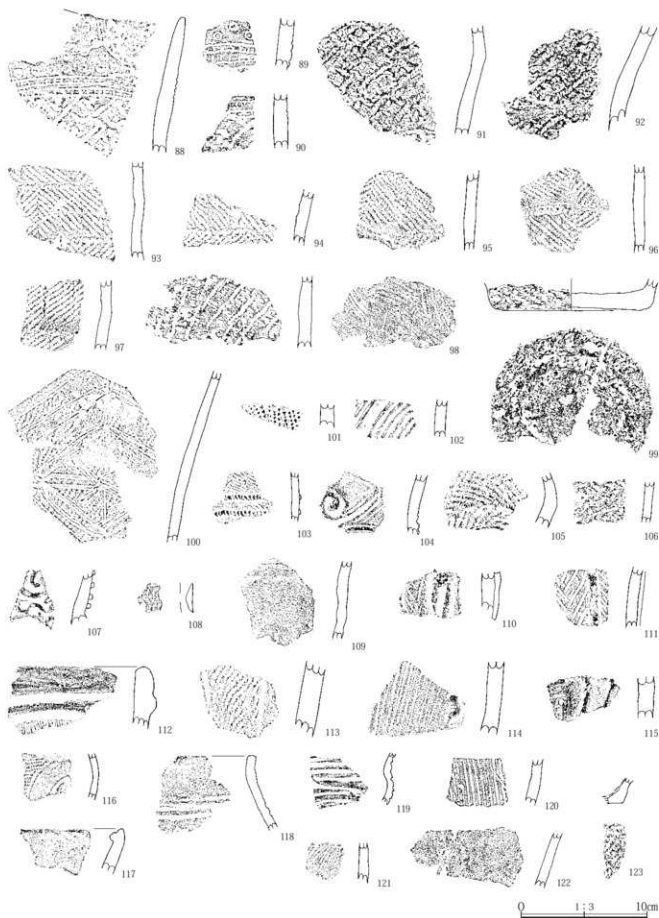
第24図 遺構外出土遺物(1)



第25図 遺構外出土遺物(2)

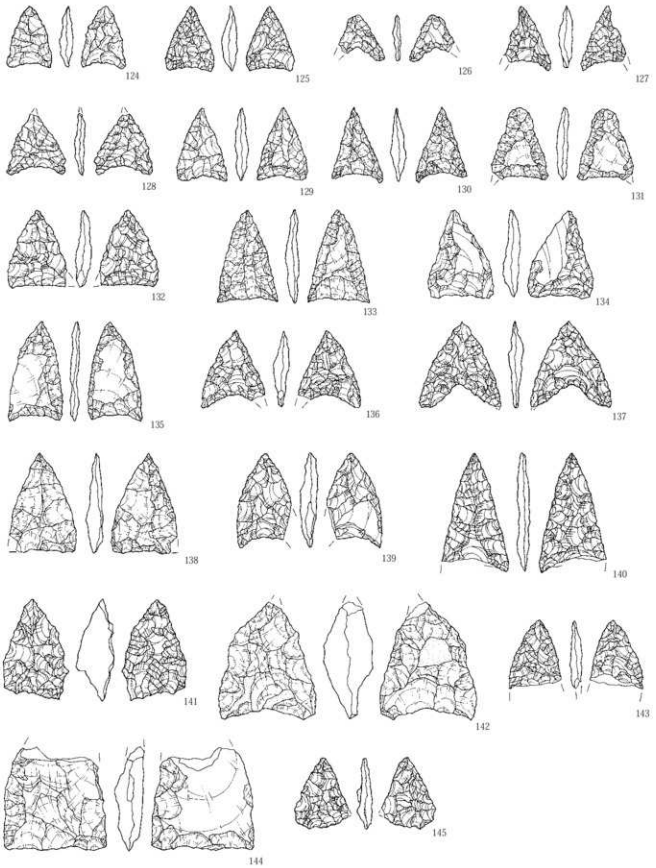


第26図 遺構外出土遺物(3)



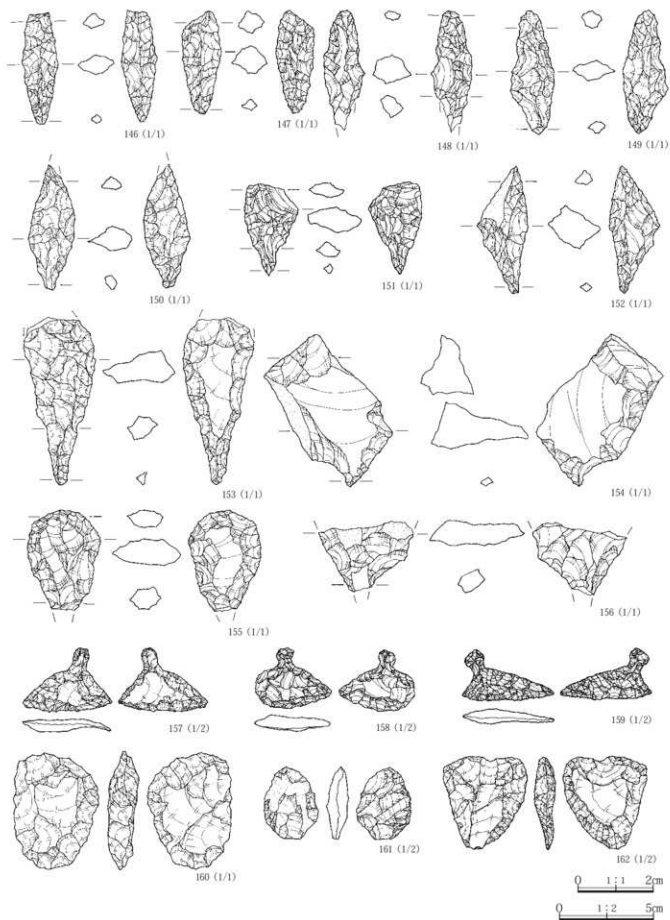
第27図 遺構外出土遺物(4)



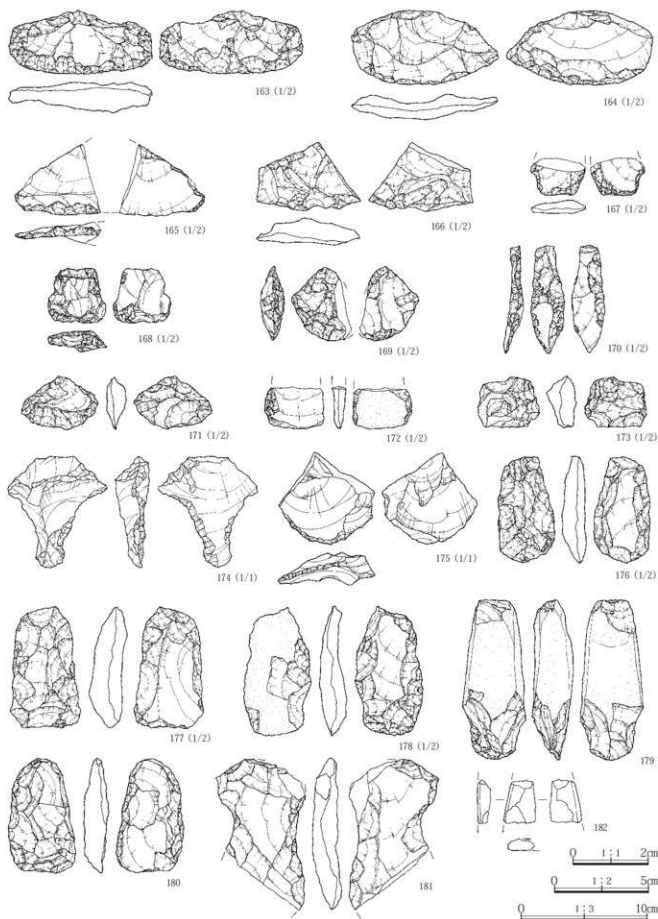


0 1:1 2cm

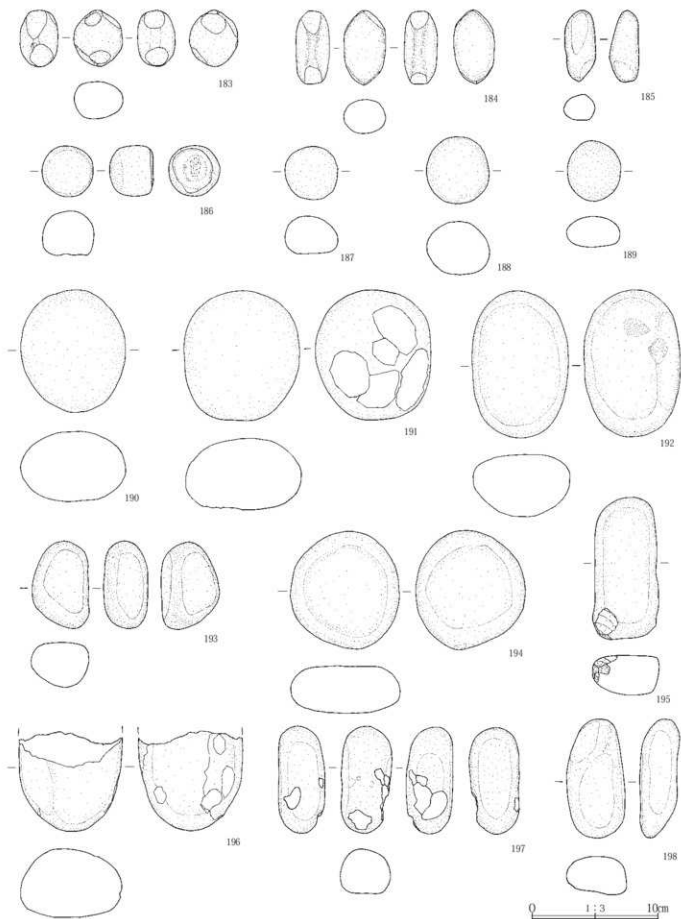
第28図 道構外出土遺物(5)



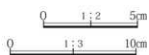
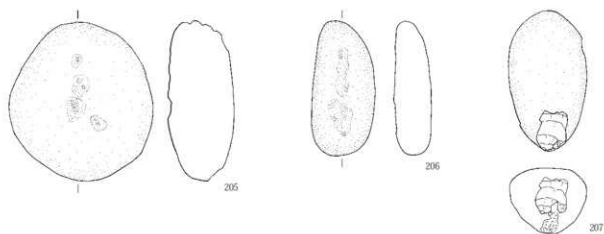
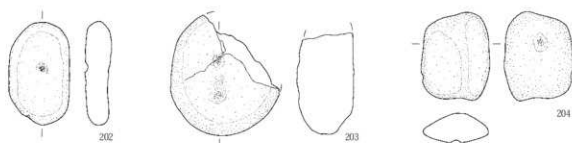
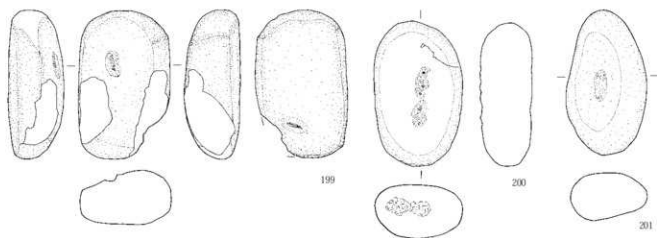
第29図 遺構外出土遺物(6)



第30図 遺構外出土物(7)

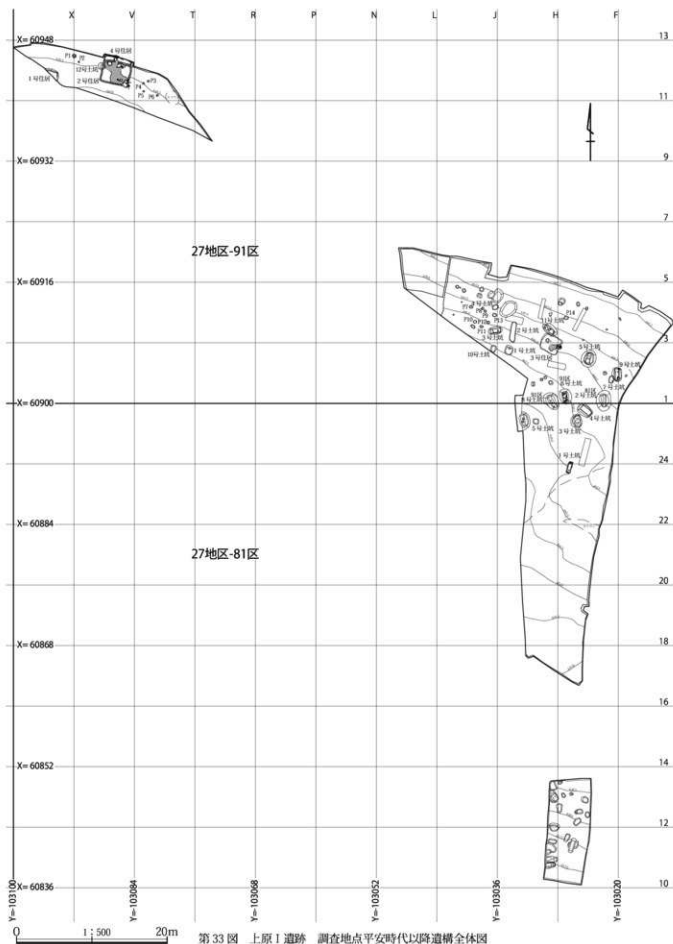


第31図 遺構外出土遺物(8)



第32図 遺構外出土遺物(9)

第2章 上原I遺跡



第33图 上原I遺跡 調査地点平安時代以降遺構全体圖

## 第2項 平安時代以降

## 1. 概要

本調査で検出された平安時代以降の遺構は、91区西側に位置する調査区と、81区北側と91区東側に跨る調査区の2地点において、基本土層第IV層上面を確認面とした第1面調査で、第33図に示した平安時代の集落と、古代から中世にかけての土坑(陥し穴を含む)等が検出された。平安時代の集落を構成する竪穴住居は、91区に4軒を検出した。陥し穴を含む土坑は、81区に5基、91区に12基の計17基、さらにピットは91区に計14基がある。

本調査区の西側に隣接する町教委による発掘調査では、古墳時代の竪穴住居1軒、土坑1基、平安時代の竪穴住居11軒、土坑60基(陥し穴を含む)、焼土遺構4基、近世・近代の土坑4基、焼土遺構5基が検出されている。特に、町教委による調査での平安時代住居の内、1軒は当事業団調査区に跨って検出されている。なお、当事業団調査区内には、古墳時代の遺構は検出されていない。

本遺跡における平安時代の集落は、両調査を合わせると計15軒の竪穴住居を数えることができる。一方、近接する平安時代の住居は、上原Ⅲ遺跡で竪穴住居13軒・鍛冶工房1軒、上原Ⅳ遺跡で竪穴住居1軒、林中原Ⅱ遺跡で陥し穴などが検出されている。

## 2. 竪穴住居

9世紀後半に位置づけられる、平安時代の竪穴住居を91区に4軒検出した。竪穴住居は点在し、内2軒は重複する。なお、1軒は、町教委による調査で検出された住居の続きであり、本調査ではその残る部分を調査した。

以下、各遺構ごとに記載する。(表2遺構一覧表を参照)

## 91区1号住居 (第34図、PL. 3・22)

本調査区と、町教委による調査区とに跨り、住居の北東隅を検出した。住居の主体は町教委調査区にあり、SI04として調査されている。

**位置**：91区西側調査区の西端に位置し、本住居の北東側4mに重複する91区2・4号住居がある。

**グリッド**：91区X-11・12

**形状**：本調査では住居の北東隅のみを検出したが、町教委調査からすると、全体形状は方形を呈し、東壁中

央南寄りにカマドをもつ。また、南東隅には貯蔵穴を有し、壁周溝が回る。

**規模**：(本調査分)南北辺(1.43)m、東西辺(2.21)m、壁高0.47m

**埋没土**：焼土、炭化物、礫含む暗灰褐色土を主とし、黒褐色土の層を分層することができた。

**床面・壁**：床面はほぼ平坦で、壁はやや傾斜をもって立ち上がる。

**壁溝**：北壁から東壁にかけて壁際に検出した。幅12cm前後、深さ8cmを測る。

**その他**：深さ5cm前後の掘り方をもち、底面は概ね平坦。掘り方埋土は、灰褐色土を主とする。なお、カマド等は町教委調査で検出している。

**遺物**：出土遺物は極めて少なく、土師器の裏片1点を図示(第34図)した。

**時期**：出土した裏片から、9世紀後半の住居と考えられる。

## 91区2号住居 (第35～37図、PL. 3・22)

**位置**：91区西側調査区の中央北寄りに位置し、本住居の西南西側4mに91区1号住居がある。

**グリッド**：91区V-W-11・12

**重複**：本住居の北側に、91区4号住居が重複する。また、西壁には91区12号土坑が重複する。土層断面の観察から、いずれの遺構よりも本住居の方が新しい。

**形状**：東南東方向にやや長い長方形を呈し、隅がやや丸みをもつ。

**規模**：長辺4.0m、短辺3.15m、壁高0.50m

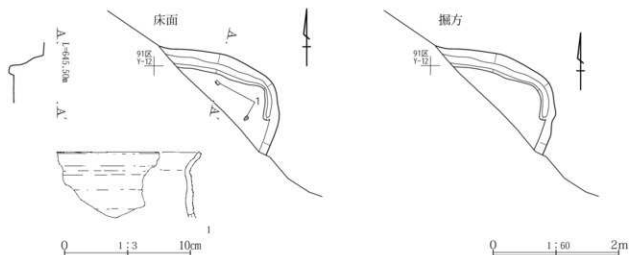
**長軸方向**：N-78°-W **床面積**：10.86㎡

**埋没土**：2a・b～4層が埋没土で、床面を覆うのは2b層の黒褐色土を主に、3・4層の黒褐色土および暗褐色土である。

**床面・壁**：床面は概ね平坦で、壁は全体に垂直に近く立ち上がる。

**壁溝**：カマドが位置する南東隅を除く壁際に検出した。幅13cm前後、深さ6cmを測る。埋土は、5層の黒色土。

**カマド**：新旧2基のカマドを検出した。カマド1は、本住居の最終使用時のカマドで、南東隅に位置し(方位N-134°-E)、壁の外側に大きく突出する。規模は全長1.01m、幅(0.67)mを測る。燃焼部は壁外側が主体とな



第34図 91区1号住居 平・断面図、出土遺物

り、火床は住居床面より僅かに低くなる。焚口脇から壁の内側に、礫が散在することから、石組みのカマドであった可能性を残す。遺存状態は極めて悪い。カマド2は、カマド1より古い段階の本住居に伴うカマドで、北壁の中央西寄りに位置し(方位 $N-14^{\circ}-E$ )、壁の外側に大きく突出する。規模は全長0.97m、幅0.60mを測る。燃焼部は壁外側が主体となり、火床は住居床面より僅かに低くなる。袖部は存在しない。

**貯蔵穴**：北西隅付近に位置し、ほぼ円形で、径62cm、深さ13cmを測る。底面は平坦。

**その他**：東壁寄りに不整形な楕円状の掘り方をもち、底面はやや凹凸。埋土は、床面を構成する6・7層で、鈍い黄褐色土および暗褐色土である。

**遺物**：出土した遺物は少ないが、灰釉陶器の皿1点、須恵器の椀1点、壺1点(3・4は同一個体)、羽釜2点、小型甕1点、土師器の甕1点、鉄製品1点(槍鉾の先端部)を図示(第37図)した。多くは、埋土中からの出土である。

**時期**：出土した杯・椀・甕類から、9世紀後半の住居と考えられる。

#### 91区3号住居 (第38図、PL. 4・23)

**位置**：91区東側調査区のほぼ中央に位置し、本住居の北側に91区11号土坑と重複する。

**グリッド**：91区G・H-2・3

**重複**：本住居の北西隅付近に、91区11号土坑が重複する。土層断面の観察から、本住居の方が古い。

**形状**：南東方向にやや長い長方形を呈し、隅は丸みをもつ。

**規模**：長辺2.58m、短辺2.33m、壁高0.29m

**長軸方向**： $N-61^{\circ}-W$  床面積：4.87㎡

**埋没土**：1～5層が埋没土で、上層の1層とした黒褐色土を主に、床面を覆うのは2・4・5層の暗褐色土および黒褐色土である。また、6層としたのは91区11号土坑の埋没土である。

**床面・壁**：床面は僅かに凹凸をもつが概ね平坦で、壁はやや傾斜をもって立ち上がる。

**カマド**：東壁のほぼ中央に位置し(方位 $N-115^{\circ}-E$ )、壁の外側に大きく突出する。規模は全長0.66m、幅0.61mを測る。燃焼部は壁外側が主体となり、火床は住居床面より僅かに低くなる。カマド内に礫が散在するが、石組みみかは判然としなない。

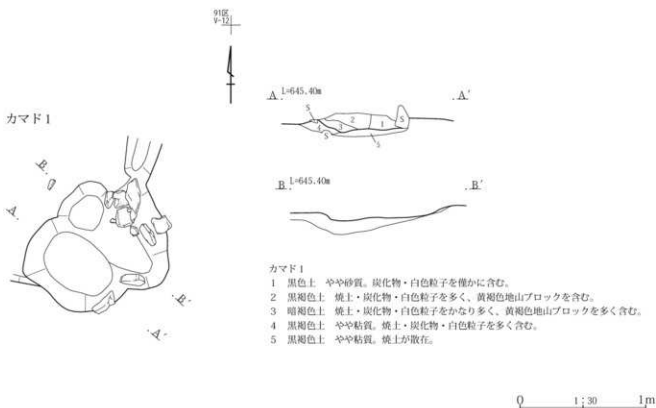
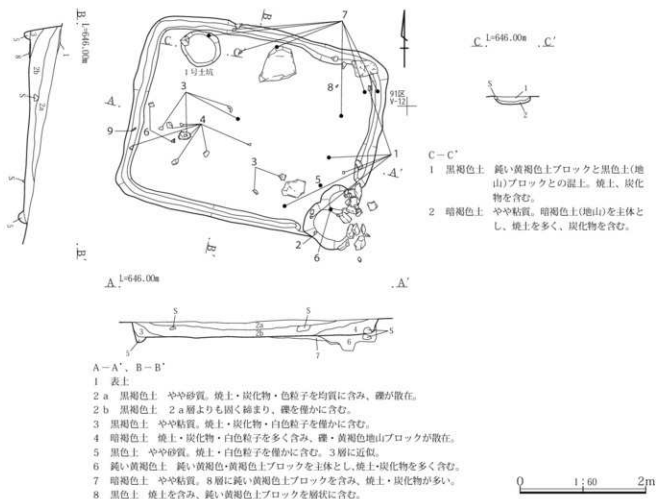
**貯蔵穴**：住居の中央西寄りに、貯蔵穴と考えられる円形の土坑(1号土坑)が検出された。径50cm、深さ20cmを測る。底面は平坦。

**その他**：掘り方等は、検出されていない。

**遺物**：出土した遺物は少なく、カマド内およびカマド前付近に散在する。須恵器の羽釜1点、土師器の小型甕1点、表面に点状に鉄滓が付着する凹石1点を図示(第38図)した。

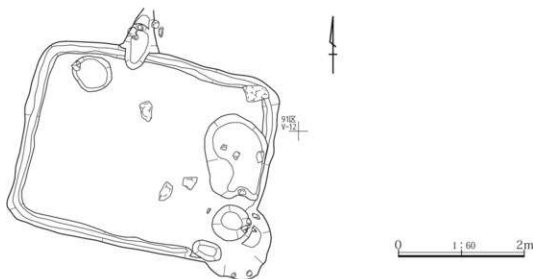
**時期**：出土した羽釜・小型甕から、9世紀後半の住居と考えられる。



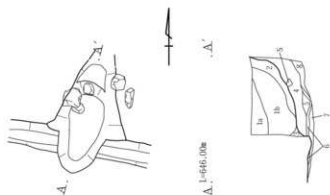


第35図 91区2号住居 床面平・断面図、カマド1平・断面図

掘方



カマド2



- 1 a 黒褐色土 やや砂質。焼土、白色粒子を僅かに含む。
- 1 b 黒褐色土 やや粘質。焼土、白色粒子を含む。
- 2 黒褐色土 やや粘質。焼土・炭化物をやや多く含む。
- 3 鈍い黄褐色土 焼土が主体。
- 4 黒褐色土 やや粘質。焼土・炭化物を含む。
- 5 黒褐色土 やや粘質。焼土ブロック・炭化物を含む。4層に近似。
- 6 黄褐色土 焼土。
- 7 黒褐色土 やや砂質。焼土・白色粒子を含む。
- 8 黒褐色土 やや砂質。焼土・白色粒子が散在。

0 1:30 1m

第36図 91区2号住居 掘方平面図、カマド2平・断面図

91区4号住居 (第39図、Pl. 4・23)

**位置**：91区西側調査区の中央北壁際に位置し、本住居の西南西側4.5mに91区1号住居がある。

**グリッド**：91区V・W-12

**重複**：本住居の南側の大半を、91区2号住居と重複する。土層断面の観察から、本住居の方が古い。

**形状**：91区2号住居と同様な長方形を呈すると考えられるが、大半を91区2号住居と重複するため、詳細は不明。

**規模**：長辺3.74m、短辺(0.65)m、壁高0.40m

**床面積**：(1.69) m<sup>2</sup>

**埋没土**：1～3層が埋没土で、1 a・b層の黒褐色土を主に、床面を覆うのは1 b・2層である。

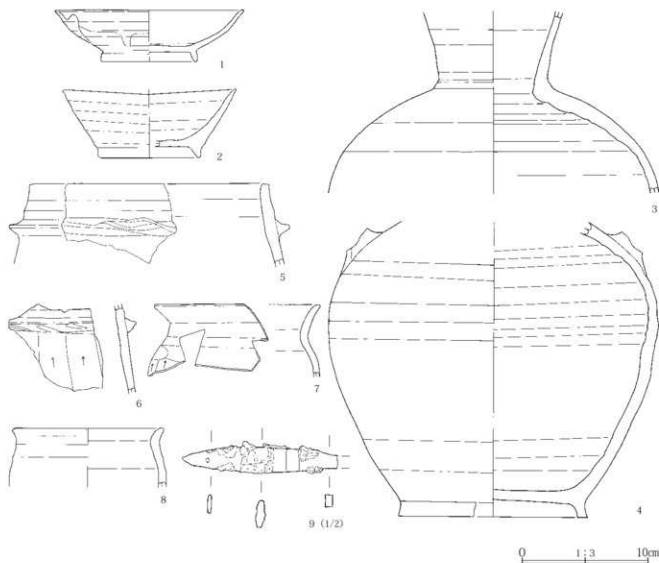
**床面・壁**：床面は比較的平坦で、壁は垂直ぎみに立ち上がる。

**壁溝**：北壁中央のカマドを除いた壁際に検出した。幅8 cm、深さ5 cm前後を測る。

**カマド**：北壁の中央やや東寄りに位置するが、カマドの燃焼部は調査区外へと延びるため、詳細は不明。

**その他**：掘り方等は、検出されていない。

**遺物**：出土した遺物は少なく、カマド前付近からである。



第37図 91区2号住居 出土遺物

土師器の甕1点、敲石1点を図示(第39図)した。

**時期:**出土した甕から、9世紀後半の住居と考えられる。

### 3. 土坑

検出された土坑(陥し穴を含む)は、91区西側の調査区に1基、81区北側と91区東側に跨る調査区に16基(81区5基、91区に11基)の計17基が検出された。この内、陥し穴と考えられる土坑は、81区と91区が接するあたりに集中するが、町教委による調査で検出された等高線上に沿って帯状に延びる59基の延長上にある。

以下、各土坑ごとに記載する。(表2遺構一覧表を参照)

#### 81区1号土坑 (第40図、PL. 8)

**位置:**81区の中央北寄りに位置し、北側4.5mに81区3

号土坑、北西側7mに81区5号土坑がある。

**グリッド:**81区G-23・24

**形状:**北北東方向に長軸をもつ、隅丸長方形を呈する。

**規模:**長軸1.60m、短軸0.65m、深さ0.70m

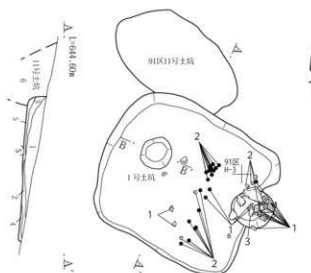
**長軸方向:**N-17°-E

埋土は、As-YPkを少量含む黒色土を主とし、4層に分層できる。底面は、やや凹凸をもつ。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、周囲の状況および形状等から、古代以降の土坑(陥し穴)と考えられる。

#### 81区2号土坑 (第40図、PL. 8)

**位置:**91区に跨る81区の北端に位置し、南西側80cmに81区4号土坑、北側90cmに91区7号土坑がある。

**グリッド:**81区F-25、91区F-1



A-A'

- 1 黒褐色土 やや粘質。層下半に焼土を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 粘質。明黄褐色粘土ブロックを多く含む。
- 3 暗褐色土 やや粘質。焼土を多く含む。地山ブロックとの混土。
- 4 黒褐色土 やや粘質。焼土を僅かに含む。
- 5 暗褐色土 やや粘質で硬く、地山ブロックを主体とする。
- 6 黒褐色土 やや粘質。赤色粒子・白色粒子を含む。(91区11号土坑)

B, 1:64.60m, B'

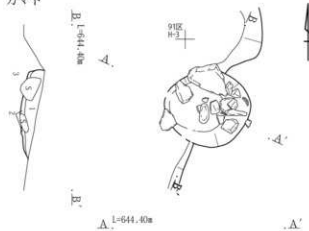


B-B'

- 1 黒褐色土 やや粘質。焼土を多く、炭化物、白色粒子を含む。

0 1:60 2m

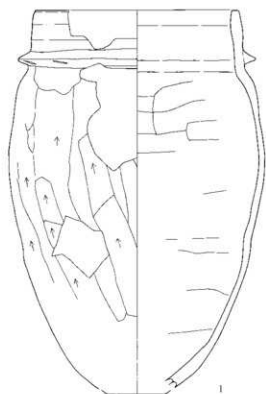
カマド



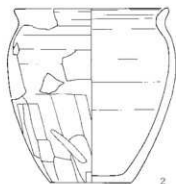
カマド

- 1 暗褐色土 やや粘質。層下半に焼土をやや多く含む。
- 2 鈍い黄褐色土 やや粘質。焼土が主体。
- 3 黒褐色土 やや粘質。焼土を含む。

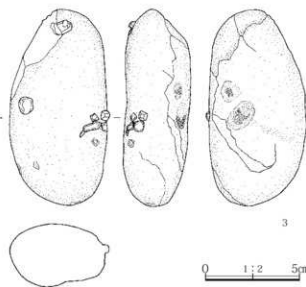
0 1:30 1m



1



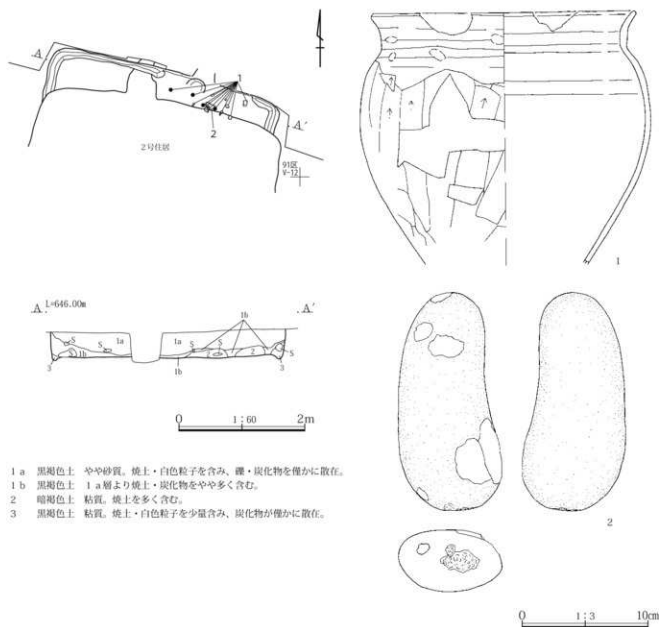
2



3

0 1:2 5cm  
0 1:3 10cm

第38図 91区3号住居 平・断面図、カマド平・断面図、出土遺物



第39図 91区4号住居 平・断面図、出土遺物

**形状**：南北方向に長軸をもつ、楕円形を呈する。

**規模**：長軸2.80m、短軸1.94m、深さ1.98m

**長軸方向**：N-5°-E

埋土は、As-YPkやローム粒を含む黒色土および暗褐色土を主とし、12層に分層できる。底面は細長く、ほぼ平坦。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、周囲の状況および形状等から、古代以降の土坑(陥し穴)と考えられる。

#### 81区3号土坑 (第41図、PL. 8)

**位置**：81区の北端に位置し、北東側に隣接して81区4号

土坑、南側4.5mに81区1号土坑がある。

**グリッド**：81区G-25

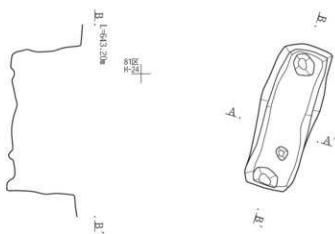
**形状**：南北方向に長軸をもつ、楕円形を呈する。

**規模**：長軸1.90m、短軸1.50m、深さ1.64m

**長軸方向**：N-5°-W

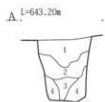
埋土は、As-YPkを含む黒褐色土および黒色土を主とし、8層に分層できる。底面は長方形で、凹凸をもつ。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、周囲の状況および形状等から、古代以降の土坑(陥し穴)と考えられる。

81区1号土坑

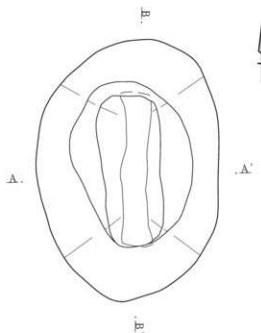
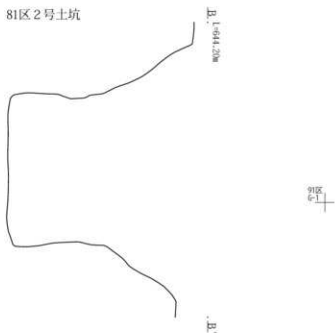


81区1号土坑

- 1 黒色土 軟質。As-YPKを少量含む。
- 2 黒色土 軟質。ロームブロック・As-YPKを少量含む。
- 3 黒色土 混入物少なく、均質。
- 4 黒褐色土 ローム大ブロック含む。

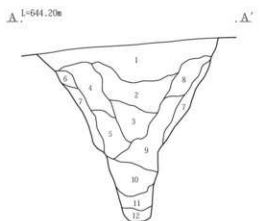


81区2号土坑



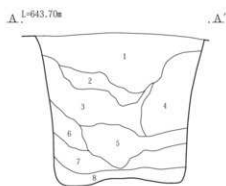
81区2号土坑

- 1 黒色土 軟質。灰色味をおび、小礫・As-YPKを少量含む。
- 2 暗褐色土 締まり強い。ローム粒を少量含む。
- 3 暗褐色土 締まり強い。ローム粒・As-YPKを微量含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒をブロック状に多く含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒をブロック状に少量含む。
- 6 黒色土 ローム粒を多く含む。
- 7 黒色土 ローム粒を少量含む。
- 8 黒色土 均質で、As-YPKを微量含む。
- 9 黒色土 締まりやや強い。均質で、混入物を微量含む。
- 10 黒色土 やや明るく均質で、ローム粒を少量含む。
- 11 黒色土 締まり強い。均質で、混入物を微量含む。
- 12 黒褐色土 ローム小ブロックを多く含む。



第40図 81区1・2号土坑 平・断面図

## 81区3号土坑

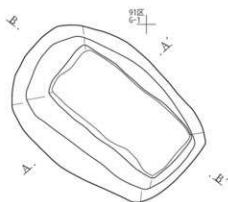
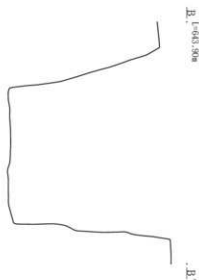


## 81区3号土坑

- 1 黒褐色土 As-YPkを少量含む。
- 2 黒褐色土 褐色土小ブロック・As-YPkを少量含む。
- 3 黒褐色土 締まりやや強い。暗く、As-YPkを微量含む。
- 4 黒色土 締まり強い。均質で、褐色土ブロックを少量含む。
- 5 黒色土 均質で、As-YPkを微量含む。
- 6 黒色土 ローム粒を少量含む。
- 7 黒褐色土 ローム小ブロックを少量含む。
- 8 黒褐色土 ローム小ブロックを多く含む。

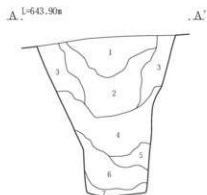
81区  
6-23

## 81区4号土坑



## 81区4号土坑

- 1 黒褐色土 締まり強い。As-YPkを少量含む。
- 2 暗褐色土 締まり強い。ローム粒をブロック状に含む。
- 3 黒色土 均質で、As-YPkを微量含む。
- 4 黒色土 均質で、ローム粒を微量含む。
- 5 黒色土 締まり強く、均質。
- 6 黒褐色土 ローム粒・As-YPkを少量含む。
- 7 黒褐色土 ローム小ブロックを少量含む。



0 1:40 1m

第41図 81区3・4号土坑 平・断面図

81区4号土坑 (第41図, PL. 8)

位置: 81区北端中央付近に位置し、南西側に隣接して81区3号土坑、北東側80cmに81区2号土坑がある。

グリッド: 81区F・G-25

形状: 北西方向に長軸をもつ、隅丸長方形を呈する。

規模: 長軸2.08m、短軸1.48m、深さ1.71m

長軸方向: N-52°-W

埋土は、As-Ypkを含む黒褐色土および黒色土を主とし、7層に分層できる。底面はやや幅狭な長方形で、ほぼ平坦。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、周囲の状況および形状等から、古代以降の土坑(陥し穴)と考えられる。

81区5号土坑 (第42図, PL. 8)

位置: 81区北側の西壁際に位置し、81区1号住居と重複し、東側3.4mに81区3号土坑がある。

グリッド: 81区H・I-25

重複: 81区1号住居と僅かに重複するが、その新旧は遺構確認面および埋土の違いから、本土坑の方が新しい。

形状: 南北方向に長軸をもつ、楕円形を呈すると思われる。

規模: 長軸2.50m、短軸(1.38)m、深さ1.94m

長軸方向: N-5°-W

埋土は、As-Ypkを含む黒褐色土および黒色土を主とし、13層に分層できる。底面は凹凸をもつ。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、周囲の状況および形状等から、古代以降の土坑(陥し穴)と考えられる。

91区1号土坑 (第42図, PL. 6)

位置: 91区東側調査区の中央西寄りに位置し、北側に近接して91区2号土坑、西側1.0mに91区10号土坑がある。

グリッド: 91区I-2

形状: 北北東方向に長軸をもつ、隅丸長方形を呈する。

規模: 長軸1.24m、短軸1.06m、深さ0.48m

長軸方向: N-15°-E

埋土は、黒色土および黒褐色土を主とし、3層に分層できる。底面は概ね平坦。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、古代以降の土坑と考えられる。

91区2号土坑 (第42図, PL. 6)

位置: 91区東側調査区の中央やや西寄りに位置し、南側に近接して91区1号土坑、西側3.0mに91区3号土坑、東側3.2mに91区3号住居がある。

グリッド: 91区I-3

形状: 北北東方向に長軸をもつ、長楕円形を呈する。

規模: 長軸2.67m、短軸0.75m、深さ0.12m

長軸方向: N-10°-E

埋土は、As-Ypkを含む暗褐色土である。底面は概ね平坦。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、古代以降の土坑と考えられる。

91区3号土坑 (第43図, PL. 6)

位置: 91区東側調査区の中央西寄りに位置し、東側1.0mに91区2号土坑、南側1.3mに91区10号土坑がある。

グリッド: 91区I・J-3

形状: 東北東方向に長軸をもつ、長楕円形を呈する。

規模: 長軸1.86m、短軸1.00m、深さ1.40m

長軸方向: N-79°-E

埋土は、As-Ypkを含む黒褐色土および黒色土を主とし、7層に分層できる。底面は長方形で、凹凸をもつ。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、周囲の状況および形状等から、古代以降の土坑(陥し穴)と考えられる。

91区4号土坑 (第43図)

位置: 91区東側調査区の中央西寄りに位置し、南側2.0mに91区3号土坑がある。

グリッド: 91区I・J-4

形状: 北東方向に長軸をもつ、楕円形を呈する。

規模: 長軸0.86m、短軸0.62m、深さ0.26m

長軸方向: N-53°-E

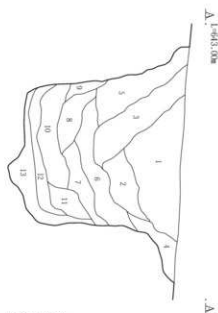
埋土は、As-Ypkを含む黒色土と黒褐色土で、2層に分層できる。底面はやや凹凸をもつ。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、古代以降の土坑と考えられる。

91区5号土坑 (第43図, PL. 6)

位置: 91区東側調査区の中央東寄りに位置し、西北西側3.0mに91区3号住居、南東側2.5mに91区9号土坑がある。

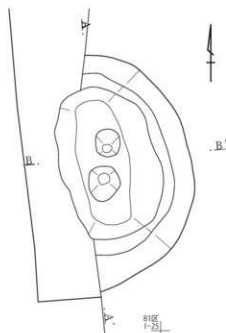


## 81区5号土坑

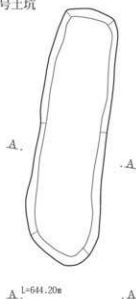


## 81区5号土坑

- 1 黒褐色土 締まり強い、ロームブロック・細粒As-YPkを少量含む。
- 2 黒褐色土 締まり強い、ローム粒・細粒As-YPkを含む。
- 3 黒褐色土 締まり強い、2層より暗く、細粒As-YPkを多く含む。
- 4 黒褐色土 やや暗く、細粒As-YPkを少量含む。
- 5 黒色土 細粒As-YPkを少量含む。
- 6 黒色土 ローム粒を少量含む。
- 7 黒色土 明るく、ローム粒をブロック状に含む。
- 8 黒色土 均質で、ローム粒・As-YPkを微量含む。
- 9 黒色土 均質で、混入物なし。
- 10 黒褐色土 ローム小ブロックを多く含む。
- 11 黒色土 締まりやや強い、ローム粒を少量含む。
- 12 黒色土 ローム小ブロックを少量含む。
- 13 黒色土 ローム粒を少量含む。



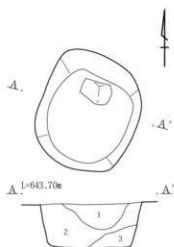
## 91区2号土坑



## 91区2号土坑

- 1 暗褐色土 軟質、As-YPkを微量含む。

## 91区1号土坑

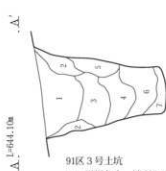
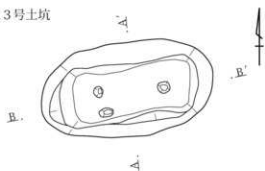
91区  
均

## 91区1号土坑

- 1 黒色土 軟質で、均質。
- 2 黒褐色土 締まりやや強い、ローム粒を少量含む。
- 3 黒色土 軟質、1層より暗く、ローム粒を微量含む。

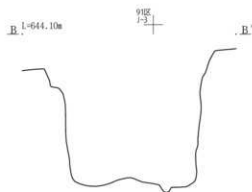
第42図 81区5号土坑、91区1・2号土坑 平・断面図

91区3号土坑

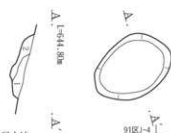


91区3号土坑

- 1 黒褐色土 締まりやや強い、明るく、As-YPkを少量含む。
- 2 黒色土 軟質、As-YPkを微量含む。
- 3 黒色土 締まりやや強い、黒褐色土ブロックを含む。
- 4 黒色土 やや明るく、ローム粒を少量含む。
- 5 黒色土 締まりやや強い、暗く、As-YPkを少量含む。
- 6 黒色土 暗く、As-YPkを少量含む。
- 7 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。



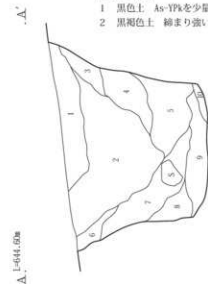
91区4号土坑



91区4号土坑

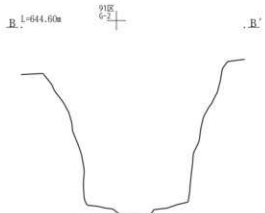
- 1 黒色土 As-YPkを少量含む。
- 2 黒褐色土 締まり強い、As-YPkを少量含む。

91区5号土坑



91区5号土坑

- 1 黒色土 灰色味をおび、大粒のAs-YPkを含む。
- 2 暗褐色土 締まり強い、大粒のAs-YPkを多く含む。
- 3 黒色土 細粒As-YPkを少量含む。
- 4 黒色土 締まりやや強い、As-YPkを微量含む。
- 5 黒色土 締まり強い、ローム粒・As-YPkを少量含む。
- 6 黒色土 均質で、As-YPkを微量含む。
- 7 黒色土 締まり強い、均質で、As-YPkを微量含む。
- 8 黒褐色土 As-YPkを少量含む。
- 9 暗褐色土 ローム粒・As-YPkを少量含む。
- 10 暗褐色土 締まり強い、ローム粒を多く含む。



第43図 91区3～5号土坑 平・断面図

グリッド：91区F・C-2

形状：北北東方向に長軸をもつ、楕円形を呈する。

規模：長軸2.28m、短軸1.94m、深さ1.70m

長軸方向：N-21°-E

埋土は、As-YPkを含む黒色土と暗褐色土で、10層に分層できる。底面は凹凸をもつ。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、周囲の状況および形状等から、古代以降の土坑(陥し穴)と考えられる。

#### 91区6号土坑 (第44図、PL. 6)

位置：91区東側調査区の中央南端に位置し、81区と接する。西側には隣接して91区8号土坑、南東側には隣接して81区4号土坑がある。

グリッド：91区G-1、81区G-25

形状：北西方向に長軸をもつ、楕円形を呈する。

規模：長軸2.02m、短軸1.60m、深さ1.62m

長軸方向：N-11°-W

埋土は、As-YPkを含む黒褐色土および黒色土を主とし、8層に分層できる。底面は概ね長方形で、細かな凹凸をもつ。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、周囲の状況および形状等から、古代以降の土坑(陥し穴)と考えられる。

#### 91区7号土坑 (第44図、PL. 6・23)

位置：91区東側調査区の南東寄りに位置し、91区9号土坑と重複する。南側には81区2号土坑が近接する。

グリッド：91区F-1

重複：本土坑の北東側を91区9号土坑と僅かに重複するが、その新旧は不明。

形状：北北東方向に長軸をもつ、楕円形を呈する。

規模：長軸1.02m、短軸0.64m、深さ0.16m

長軸方向：N-6°-E

埋土は黒褐色土で、底面は平坦。出土遺物には、図示した須恵器の椀の底部があり、9世紀後半の土坑の可能性が高い。

#### 91区8号土坑 (第44図、PL. 7)

位置：91区東側調査区の中央南端に位置し、81区に跨る。東側には隣接して91区6号土坑、南西側1.6mには81区5号土坑がある。

グリッド：91区G・H-1、81区G・H-25

形状：北北西方向に長軸をもつ、不整楕円形を呈する。

規模：長軸2.40m、短軸1.82m、深さ1.60m

長軸方向：N-28°-W

埋土は、ローム大ブロックを多く含む黄褐色土や、As-YPkを含む黒褐色土および黒色土を主とし、8層に分層できる。底面はやや細長い長方形で、僅かに細かな凹凸をもつ。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、周囲の状況および形状等から、古代以降の土坑(陥し穴)と考えられる。

#### 91区9号土坑 (第45図、PL. 7)

位置：91区東側調査区の南東寄りに位置し、91区7号土坑と重複する。南側には81区2号土坑が近接する。

グリッド：91区E・F-1・2

重複：本土坑の南西側を91区7号土坑と僅かに重複するが、その新旧は不明。

形状：南北方向に長軸をもつ、楕円形を呈する。

規模：長軸1.87m、短軸1.28m、深さ1.64m

長軸方向：N-0°

埋土は、暗褐色土、As-YPkを含む黒色土および黒褐色土を主とし、9層に分層できる。底面は概ね長方形で、細かな凹凸をもつ。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、周囲の状況および形状等から、古代以降の土坑(陥し穴)と考えられる。

#### 91区10号土坑 (第45図、PL. 7)

位置：91区東側調査区の南西で、調査区境に位置する。東側1.0mに91区1号土坑、北側1.3mに91区3号土坑がある。

グリッド：91区J-2

形状：南北方向に長軸をもつ、楕円形を呈する。

規模：長軸0.98m、短軸0.76m、深さ0.16m

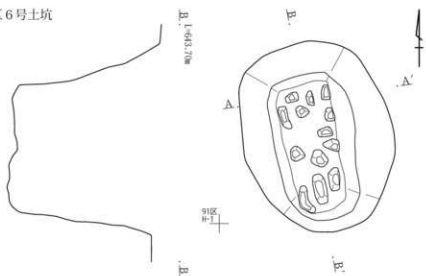
長軸方向：N-5°-E

埋土は、As-YPkを含む黒色土で、上位に礫が集石する。底面はやや揺鉢状。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、古代以降の土坑と考えられる。

#### 91区11号土坑 (第45図、PL. 7)

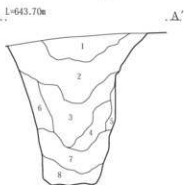
位置：91区東側調査区のほぼ中央に位置し、91区3号

91区6号土坑

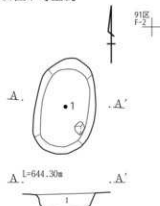


91区6号土坑

- 1 黒褐色土 灰色味をおび、炭化物・As-YPkを少量含む。
- 2 黒褐色土 暗く、炭化物を多く、As-YPkを少量含む。
- 3 黒褐色土 締まりやや強い、褐色土ブロック・As-YPkを少量含む。
- 4 黒褐色土 締まり強く、明るい、褐色土ブロックを多く含む。
- 5 黒色土 粘質。大粒のAs-YPkを多く含む。
- 6 黒色土 均質で、As-YPkを少量含む。
- 7 黒褐色土 褐色土ブロック・As-YPkを少量含む。
- 8 黒褐色土 締まりやや強い、ローム小ブロックを多く含む。

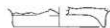


91区7号土坑

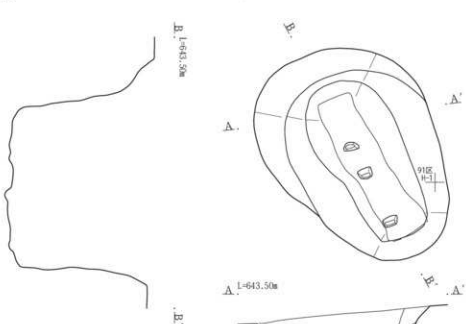


91区7号土坑

- 1 黒褐色土 締まり強い、均質で、As-YPkを微量含む。



91区8号土坑



91区8号土坑

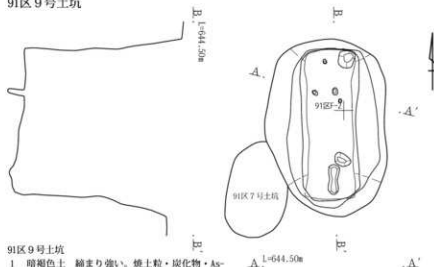
- 1 黄褐色土 ローム大ブロックを多く含む。
- 2 黒色土 ローム粒・As-YPkを少量含む。
- 3 黒褐色土 褐色土ブロック・As-YPkを少量含む。
- 4 黒褐色土 均質で、As-YPkを微量含む。
- 5 黒色土 均質で、As-YPkを微量含む。
- 6 黒色土 ローム粒を少量含む。
- 7 黒色土 ローム小ブロックを少量含む。
- 8 黒褐色土 締まり弱い、ローム小ブロックを多く含む。



第44図 91区6～8号土坑 平・断面図、出土遺物

第4節 検出された遺構と遺物

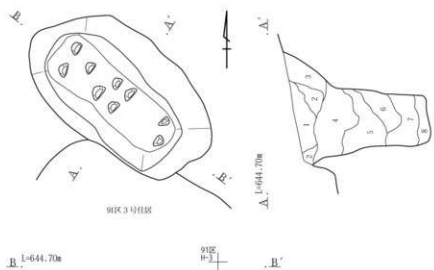
91区9号土坑



91区9号土坑

- 1 暗褐色土 締まり強い。焼土粒・炭化物・As-YPkを少量含む。
- 2 黒色土 均質で、礫・As-YPkを少量含む。
- 3 暗褐色土 締まり強い。ローム粒を多く含む。
- 4 黒色土 均質で、As-YPkを微量含む。
- 5 黒色土 明るく、大粒のAs-YPkを少量含む。
- 6 黒色土 やや暗く、大粒のAs-YPkを微量含む。
- 7 黒色土 均質。
- 8 黒褐色土 締まりやや強い。褐色土ブロックを含む。
- 9 黒褐色土 ローム小ブロックを含む。

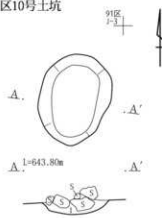
91区11号土坑



91区11号土坑

- 1 鈍い褐色土 やや砂質。As-YPkを少量含む。
- 2 黒色土 褐色土ブロック・As-YPkを少量含む。
- 3 黒色土 As-YPkを少量含む。
- 4 黒色土 締まりやや強い。As-YPkを少量含む。
- 5 黒色土 As-YPkを多く含む。
- 6 黒色土 As-YPkを微量含む。
- 7 黒褐色土 均質で、混入物は微少。
- 8 黒褐色土 ローム小ブロックを少量含む。

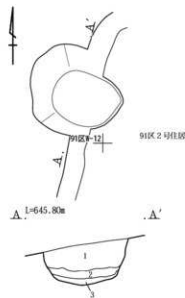
91区10号土坑



91区10号土坑

- 1 黒色土 As-YPkを微量含む。

91区12号土坑



91区12号土坑

- 1 黒褐色土 やや粘質。焼土・白色粒子を多く、炭化物を含む。
- 2 暗赤褐色土 粘土。焼土・炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 焼土・白色粒子を少量含む。

第45図 91区9～12号土坑 平・断面図

0 1:40 1m

住居と重複する。

グリッド：91区H-3

**重複**：本土坑の南東側に、91区3号住居が重複する。土層断面の観察から、本土坑の方が新しい。

**形状**：北西方向に長軸をもつ、長楕円形を呈する。

**規模**：長軸2.20m、短軸1.24m、深さ1.56m

**長軸方向**：N-57°-W

埋土は、鈍い褐色土、As-YPkを含む黒色土および黒褐色土を主とし、8層に分層できる。底面は概ね長方形で、細かな凹凸をもつ。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、周囲の状況および形状等から、古代以降の土坑(陥し穴)と考えられる。

#### 91区12号土坑 (第45図、PL. 7)

**位置**：91区西側調査区の中央付近で、91区2号住居と重複する。

グリッド：91区W-12

**重複**：本土坑の東半が、91区2号住居と重複する。土層断面の観察から、本土坑の方が古い。

**形状**：円形ないし楕円形を呈すると考えられる。

**規模**：長軸0.94m、短軸(0.58)m、深さ0.50m

埋土は黒褐色土を主とし、3層に分層できる。底面はやや揺鉢状。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、古代以降の土坑と考えられる。

#### 4. ビット

検出されたビットは、81区に1基、91区に14基の計15基が散漫に検出された(表2遺構一覧表を参照)。町教委による調査では、第1面調査で計51基が検出されている。

## 第5節 調査の成果(総括)

### 第1項 上原1遺跡の全体像

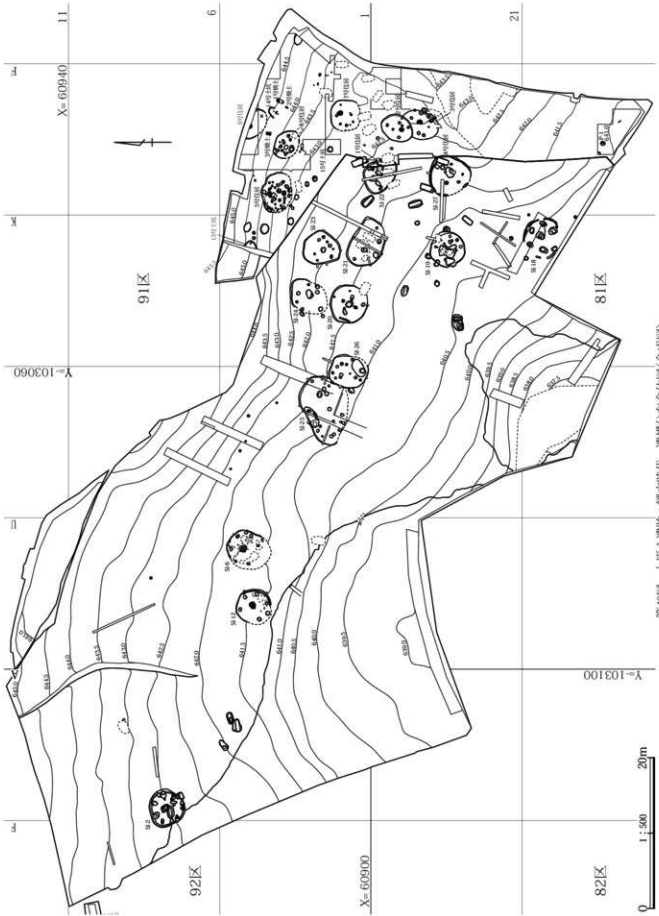
先述したように、本遺跡の調査は数次に渡り、また当事業団と町教委が分割した状態で行った経緯がある。ここでは、町教委と当事業団の調査データを集約し、縄文時代と平安時代を中心に本遺跡の全体像を明らかにする。

#### 1. 縄文時代

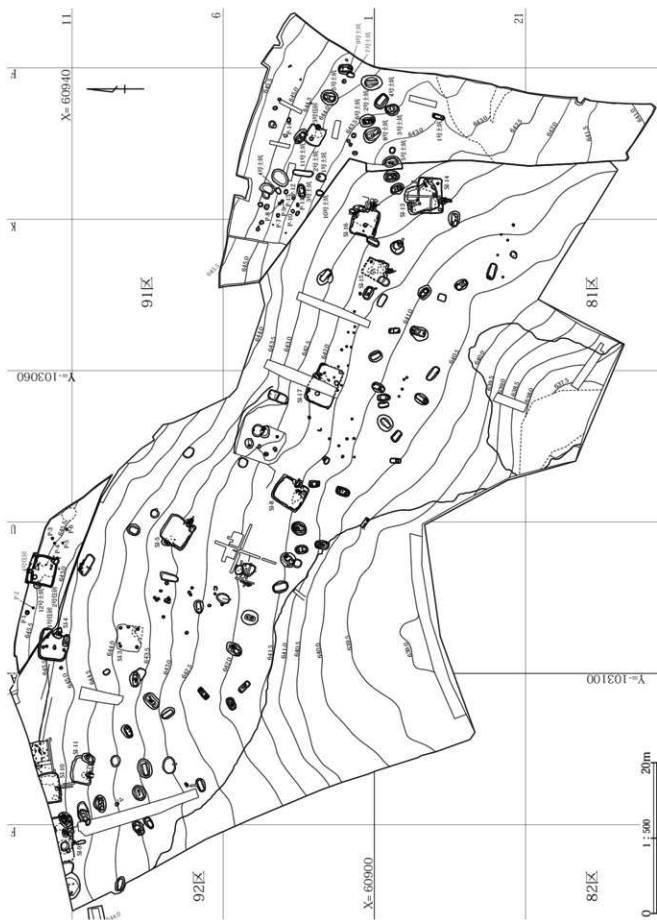
本遺跡における縄文時代の遺構分布について、合成した図を第46図に示した。それぞれの調査で検出された縄文時代の住居は、事業団調査分では前期が8軒(81区1～4号住居、91区5～8号住居)、町教委調査分では前期が9軒(SI-19～27)および中期が4軒(SI-02・06・12・18)の計13軒である。この内、前期の2軒は両調査に跨る住居であり、両調査における住居数は前期15軒、中期4軒となる。因みに、前期の15軒全てが、前期初頭に位置づけられる花積下層1式期の住居である。また、中期の4軒は、中葉から後葉にかけての住居である。

この花積下層1式期の住居15軒は、両調査範囲全体の東側に集中していることが見て取れる。また、その配置の状況は、環状や列状を呈しているとは言えず、段丘奥の平坦面への変換部に狭い範囲で集中している状況である(本遺跡の東側に隣接する東原1遺跡へ、範囲が拡大する可能性もある。第3図参照)。同段丘上での周辺遺跡にも、同時期の住居を散見することができるが、その検出数は何れも少なく、本遺跡が前期初頭花積下層1式期における拠点的な集落であったものと推測できる。しかも、群馬県内での同時期の集落で著名な坪井遺跡や久保田遺跡等の遺跡と比較しても、その数は本遺跡が圧倒している。

さらに、各住居の配置状況を詳細に見ると、極めて近接する住居と重複する住居がある。極めて近接する住居は、SI-20とSI-24、SI-21とSI-23であり、重複する住居は81区2号住居と81区3号住居、SI-25とSI-26である。こうした状況は、同じ花積下層1式期の住居に時間幅が存在することが言え、同様に花積下層1式土器に時間幅の存在を持たせることができる。依って、本遺跡で調査された15軒は、花積下層1式期の時間幅の

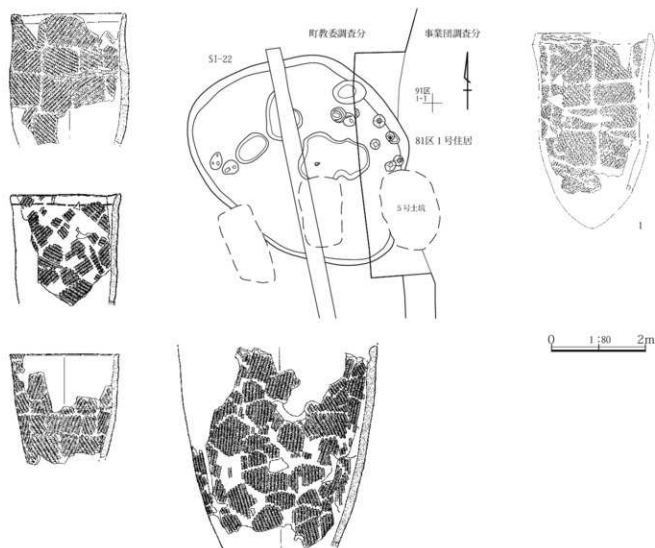


第46回 上原1遺跡 縄文時代 遺構分布全体図(合成図)



第47図 上原1遺跡 古墳・平安時代以降 遺構分布全体図(合成図)





第48図 81区1号住居・SI-22 平面合成図、出土遺物

中で継続した集落であると考えられよう。

なお、各住居から出土した土器には、花積下層1式土器と塚田式土器が共存している例が多く、編年の位置づけも裏付けられる。同様に、両土器型式の分布範囲が交錯している地域であることも窺える。

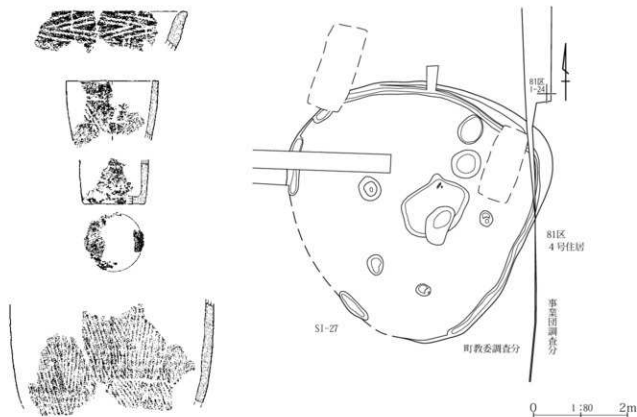
## 2. 平安時代

本遺跡における古代以降の遺構分布について、合成した図を第47図に示した。それぞれの調査で検出された平安時代の住居は、事業団調査分では91区1～4号住居の4軒全てが9世紀後半、町教委調査分ではSI-04・05・08・09B・13の5軒が9世紀後半、SI-09A・11・16の3軒が9世紀後半～10世紀前半、SI-14・15・17の3軒が10世紀前半であり、計15軒となる。この内、9

世紀後半の2軒は両調査に跨る住居であり、両調査における住居数は9世紀後半8軒、9世紀後半～10世紀前半3軒、10世紀前半3軒の合計では14軒ということになる。

9世紀後半と9世紀後半～10世紀前半、10世紀前半の3期に継続される集落であるが、その分布は段丘奥の平坦面への変換部に散漫に展開していると言え、東西方向にもう少し集落が広がる可能性を十分にもつ。また、各住居のカマド方向については、東方向を向くカマドは7基、北方向を向くのは4基、南方向を向くのは3基である。

なお、隠し穴と考えられる土坑については、数は多くないが平安時代の住居と重複する例が存在し、それらの新旧は、住居の方が古いことが確認されている。



第49図 81区4号住居・SI-27 平面合成図、出土遺物

## 第2項 分割調査された住居

当事業団と町教委による調査で分割された住居について、両調査のデータを合成させ、分割住居を再確認することを目的とした。

### 81区1号住居(事業団)・SI-22(町教委)

第48図に示したのが、分割調査された81区1号住居・SI-22の合成図と、主な出土土器である。

住居形状は、やや不整な楕円形を呈する。その規模は長軸5.12m、短軸3.60mを測り、長軸は北西方向を向く。

床面はほぼ平坦である。炉は地床炉で、住居のほぼ中央に位置し、不整な浅い掘り込みをもつ。主柱穴は明確ではないが、数基のピットを検出している。

第48図中に1とした土器は事業団調査での出土土器で、他は町教委調査による出土土器である。同じ住居内出土であり、前期初頭花積下層1式に比定される土器群である。また、本書では図示していないが、塚田式土器が数片併存している。

住居の時期は、出土土器から縄文時代前期初頭の花積下層1式期の住居である。

### 81区4号住居(事業団)・SI-27(町教委)

第49図に示したのが、分割調査された81区4号住居・SI-27の合成図と、主な出土土器である。

住居形状は、やや不整な楕円形(東壁が大きく膨らむ)を呈する。その規模は長軸5.68m、短軸(5.48)mを測り、長軸は北北西方向を向く。

床面はほぼ平坦である。炉は地床炉で、住居のほぼ中央に位置し、不整な浅い掘り込みをもつ。主柱穴は明確ではないが、数基のピットを検出している。

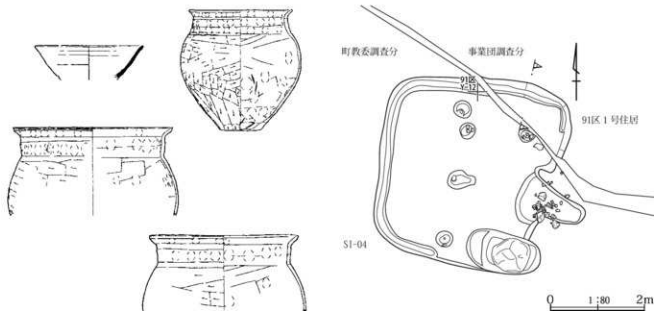
事業団調査の出土土器は数片と少なく、第49図に示した土器は町教委調査での出土土器である。やはり、前期初頭花積下層1式に比定される土器群で、事業団調査の数片と同様である。

住居の時期は、出土土器から縄文時代前期初頭の花積下層1式期の住居である。

### 91区1号住居(事業団)・SI-04(町教委)

第50図に示したのが、分割調査された91区1号住居・SI-04の合成図と、主な出土土器である。

住居形状は、やや不整な隅丸方形を呈する。その規模は北壁辺3.80m、西壁辺3.70mを測り、北壁辺は東



第50図 91区1号住居・SI-04 平面合成図、出土遺物

西方方向を向く。

床面はほぼ平坦で、北壁から西壁・南壁側へ、幅12cm前後の壁溝が廻る。また、床面上には、南東隅に貯蔵穴が検出され、さらにピットが5基検出されている。

カマドは東壁のほぼ中央付近に位置し、壁の外側に大きく突出する。規模は全長1.5m、幅0.88mを測り、左袖部が残存する。燃焼部は壁外側が主体となり、火床は住居床面より僅かに低くなる。

第50図に示した土器は、町教委調査での出土土器である。カマド内および貯蔵穴付近、南壁付近からで、コの字状口縁甕が多く出土している。

住居の時期は、出土土器から9世紀後半期の住居である。

### 第3項 総括

今回の調査では、縄文時代と平安時代の集落をはじめとした、多くの遺構・遺物が検出された。ここでは、各時代の様相をまとめて総括としたい。

#### 縄文時代

検出された前期初頭花積下層1式期の竪穴住居は8軒であったが、町教委調査分を合わせた本遺跡での住居数は15軒を数え、同時期の県内遺跡の中では最も数の多い遺跡であることが判った。同時に、同地域における拠点集落であることも理解できた。

さらに、各住居の配置状況から、花積下層1式期における時間幅の存在、本集落が花積下層1式期の時間幅の中で継続した集落であることも理解できた。

一方、町教委調査で検出された中期の住居の広がりはなく、本遺跡内での中期の存在は小規模であったことが伺える。

#### 弥生・古墳時代

今回の調査では、遺構の検出はなかった。しかし、町教委調査では、弥生時代前期の土坑1基、古墳時代前期の住居1軒および古墳時代中期の土坑2基が検出されており、調査区外に遺構の展開が予測される。

#### 平安時代

検出された住居は、9世紀後半期の住居4軒であった。しかし、町教委調査分を合わせた、本遺跡の住居数は計14軒を数え、9世紀後半・9世紀後半～10世紀前半・10世紀前半の3期に継続される集落であることが判った。

また、平安時代(古代)以降の陥穴は11基検出されてが、町教委調査分を合わせると計70基の数に上る。平安期の集落以降の遺構であると考えられよう。

## 第2章 上原1遺跡

表2 遺構一覧表

## 住居

遺構名	位置 (グリッド)	平面形状	規模(m)				長軸方位	幅(m)			カマド 位置/方位/規模(m)	重複関係	時期/備考			
			長軸	短軸	深さ	床面積		長	幅	深						
81区 1号住居	I-23	不整形門形	-	-	-	-	-	長 深	-	幅 深	-	-	1面 5号土坑 1住→5土	縄文時代前期初頭 長野原町教委S1-22		
81区 2号住居	G・H-24・25	楕円形	4.45	3.46	0.14	10.36	N-25°-E	長 深	0.50 0.09	幅 深	0.45	-	81区3号住居 3住→2住	縄文時代前期初頭		
81区 3号住居	G・H-23・24	楕円形	4.95	3.59	0.13	11.68	N-19°-E	長 深	0.72 0.09	幅 深	0.53	-	81区2号住居 3住→2住	縄文時代前期初頭		
81区 4号住居	I-23	不整形門形	-	-	-	-	-	長 深	-	幅 深	-	-	-	縄文時代前期初頭 長野原町教委S1-27		
91区 1号住居	X-11・12	隅丸長方形	(2.21)	(1.43)	0.47	(1.05)	N-16°-E	-	-	-	-	位置 長	-	-	平安時代 雙葉講:幅0.04~0.12、 深0.08 長野原町教委S1-04	
91区 2号住居	V・W-11・12	隅丸長方形	4.00	3.15	0.50	10.86	N-78°-W	-	-	-	-	位置 長	南東側 1.01	幅 (0.67)	91区4号住居 91区12号土坑 4住→2住 12土→2住	平安時代 雙葉講:幅0.05~0.13、 深0.06 新堀穴:幅0.62、深0.13m
91区 3号住居	G・H-2・3	隅丸長方形	2.58	2.33	0.29	4.87	N-61°-W	-	-	-	-	位置 長	東側 0.66	幅 0.61	91区11号土坑 11土→3住	平安時代 新堀穴:幅0.5、深0.2m
91区 4号住居	V・W-12	-	3.74	(0.65)	0.40	(1.69)	-	-	-	-	-	位置 長	北壁 (0.13)	幅 (0.31)	91区2号住居 4住→2住	平安時代 雙葉講:幅0.03~0.08、 深0.05m
91区 5号住居	I・J-3・4	不整形門形	5.43	(4.14)	0.62	(15.22)	N-69°-W	長 深	0.60 0.08	幅 深	0.49	-	-	-	縄文時代前期初頭	
91区 6号住居	C-4 H-4・5	楕円形	(4.19)	(1.90)	0.37	(6.19)	N-39°-W	長 深	0.59 0.06	幅 深	0.27	-	-	-	縄文時代前期初頭	
91区 7号住居	G・H-1・2	隅丸長方形	(4.10)	(3.88)	0.10	(3.19)	N-88°-E	長 深	0.64 0.10	幅 深	0.53	-	-	-	1面 6号土坑 7住→6土	縄文時代前期初頭
91区 8号住居	H-1・3・4	楕円形	(4.00)	(3.17)	0.50	9.23	N-51°-W	長 深	0.61 0.09	幅 深	0.49	-	-	-	1面 11号土坑 8住→11土	縄文時代前期初頭 住居内土坑:長1.05、幅 0.6、深0.51m

## 土坑

遺構名	位置 (グリッド)	平面形状	規模(m)			長軸方位	重複関係	検出面/時期/備考	
			長軸(倍)	短軸	深さ				
81区1号土坑	G-23・24	隅丸長方形	1.60	0.65	0.70	N-17°-E	1面	平安時代~中世 陥し穴	
81区2号土坑	F-25, 91区F-1	楕円形	2.80	1.94	1.98	N-5°-E	1面	平安時代~中世 陥し穴	
81区3号土坑	G-25	楕円形	1.90	1.50	1.64	N-5°-E	1面	平安時代~中世 陥し穴	
81区4号土坑	F・G-25	隅丸長方形	2.08	1.48	1.71	N-52°-W	1面	平安時代~中世 陥し穴	
81区5号土坑	H・I-25	楕円形	2.50	(1.38)	1.94	N-5°-W	1面	平安時代~中世 陥し穴	
91区1号土坑	I-2	隅丸長方形	1.24	1.06	0.48	N-15°-E	1面	平安時代以降	
91区2号土坑	I-3	長楕円形	2.67	0.75	0.12	N-10°-E	1面	平安時代以降	
91区3号土坑	I・J-3	長楕円形	1.86	1.00	1.40	N-79°-E	1面	平安時代~中世 陥し穴	
91区4号土坑	I・J-4	楕円形	0.86	0.62	0.26	N-53°-E	1面	平安時代以降	
91区5号土坑	F・G-2	楕円形	2.28	1.94	1.70	N-21°-E	1面	平安時代~中世 陥し穴	
91区6号土坑	G-1, 81区G-25	楕円形	2.02	1.60	1.62	N-11°-W	1面	平安時代~中世 陥し穴	
91区7号土坑	F-1	楕円形	1.02	0.64	0.16	N-6°-E	1面	平安時代	
91区8号土坑	G・H-1, 81区G・H-25	不整形	2.40	1.82	1.60	N-28°-W	1面	平安時代~中世 陥し穴	
91区9号土坑	E・F-1・2	楕円形	1.87	1.28	1.64	N-0°	1面	平安時代~中世 陥し穴	
91区10号土坑	J-2	楕円形	0.98	0.76	0.16	N-5°-E	1面	平安時代以降	
91区11号土坑	H-3	長楕円形	2.20	1.24	1.56	N-57°-W	1面	平安時代 陥し穴	
91区12号土坑	W-12	-	-	0.94	(0.58)	0.50	-	2号住居	1面 平安時代
91区13号土坑	K・L-4・5	-	-	1.76	(0.92)	0.60	-	-	2面 縄文時代前期初頭
91区14号土坑	G-4	-	-	1.32	(0.52)	0.32	-	-	2面 縄文時代前期初頭
91区15号土坑	H-2	不整形	0.78	0.76	0.40	N-31°-W	2面	縄文時代前期初頭	

焼土

遺構名	位置 (グリッド)	平面形状	規模(m)			長軸方位	検出面/時期/備考
			長軸(倍)	短軸	深さ		
81区1号焼土	G-17	不整形	0.39	0.11		N-43°-W	2面 縄文時代前期初頭?
91区1号焼土	G-3・4	不整楕円形	1.01	0.55		N-23°-E	2面 縄文時代前期初頭
91区2号焼土	G-3	不整形	0.41	0.26		N-28°-E	2面 縄文時代前期初頭
91区3号焼土	H-4	不整形	0.70	0.44		N-7°-E	2面 縄文時代前期初頭
91区4号焼土	G-4	楕円形	0.16	0.09		N-18°-W	2面 縄文時代前期初頭
91区5号焼土	G-4	不整形	0.40	0.22		N-63°-W	2面 縄文時代前期初頭
91区6号焼土	G-4	楕円形	0.16	0.09		N-15°-E	2面 縄文時代前期初頭
91区7号焼土	F-2	楕円形	0.15	0.12		N-90°-W	2面 縄文時代前期初頭
91区8号焼土	F-2	長楕円形	0.36	0.16		N-84°-E	2面 縄文時代前期初頭
91区9号焼土	F-2	不整形	0.41	0.37		N-65°-W	2面 縄文時代前期初頭
91区10号焼土	F-2	不整形	0.24	0.10		N-83°-W	2面 縄文時代前期初頭
91区11号焼土	F-2	楕円形	0.13	0.09		N-58°-E	2面 縄文時代前期初頭
91区12号焼土	F-2	楕円形	0.21	0.11		N-57°-E	2面 縄文時代前期初頭

ピット

遺構名	位置 (グリッド)	平面形状	規模(m)			長軸方位	重複関係	検出面/時期/備考
			長軸(倍)	短軸	深さ			
81区1号ピット	H-18	楕円形	0.60	0.48	0.94	N-18°-E	-	2面 縄文時代?
91区1号ピット	W-X-12	円形	0.50	-	0.22	-	-	1面 平安時代以降
91区2号ピット	W-12	円形	0.24	-	0.20	-	-	1面 平安時代以降
91区3号ピット	U-11	円形	0.30	-	0.13	-	-	1面 平安時代以降
91区4号ピット	U-11	円形	0.28	-	0.28	-	-	1面 平安時代以降
91区5号ピット	U-11	楕円形	0.26	0.18	0.18	N-75°-E	-	1面 平安時代以降
91区6号ピット	U-11	不整形	0.32	0.26	0.27	N-90°-W	-	1面 平安時代以降
91区7号ピット	J-4	楕円形	0.48	0.38	0.12	N-80°-W	-	1面 平安時代以降
91区8号ピット	J-4	楕円形	0.38	0.30	0.19	N-45°-W	-	1面 平安時代以降
91区9号ピット	J-4	円形	0.34	-	0.18	-	-	1面 平安時代以降
91区10号ピット	J-3	円形	0.40	-	0.09	-	-	1面 平安時代以降
91区11号ピット	J-3	不整形	0.50	0.32	0.13	N-90°-W	-	1面 平安時代以降
91区12号ピット	J-3	円形	0.38	-	0.10	-	-	1面 平安時代以降
91区13号ピット	J-3	楕円形	0.54	0.48	0.23	N-47°-W	-	1面 平安時代以降
91区14号ピット	G-3	楕円形	0.60	0.48	0.28	N-10°-E	-	1面 平安時代以降

表3 遺物観察表

## 81区1号住居

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第7号 PL. 9	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部下平	口 高	(18.3) (25.3)		僅かに外反する平口縁で、胴部下平を欠くが、底部が尖底となる砲筒型器形。口縁下が肥厚きみに屈曲して口縁部文様帯を作出し、口縁部文様に器糸断面圧痕を横位に2条添わせ、器糸断面圧痕で両巻き文を有する。口縁部文様下の胴部には、0段多条のL R縄とR L縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式	
第7号 PL. 9	2	縄文土器 深鉢	口縁部片				3と同一個体。平口縁の口唇部に、単位的な露出面となる刻み状の沈線を施す。口縁下の胴部には、0段多条のL R縄と0段多条のR L縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式	
第7号 PL. 9	3	縄文土器 深鉢	口縁部片				2と同一個体。平口縁の口唇部に、単位的な露出面となる刻み状の沈線を施す。口縁以下の胴部には、0段多条のL R縄と0段多条のR L縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式	
第7号 PL. 9	4	縄文土器 深鉢	口縁部片				平口縁の口縁下に細い帯帯を添わせ、以下の胴部にL R縄とR L縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	塚田式	
第7号 PL. 9	5	縄文土器 深鉢	胴部片				胴部に0段多条のR L縄で、異方向回転による縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式	
第7号 PL. 9	6	縄文土器 深鉢	胴部片				7と同一個体。胴部下平に0段多条のL R縄で、縦・横位回転による幅広い羽状縄文が施される。	花積下層1式	
第7号 PL. 9	7	縄文土器 深鉢	胴部片				6と同一個体。胴部下平に0段多条のL R縄で、縦・横位回転による幅広い羽状縄文が施される。	花積下層1式	
第8号 PL. 9	8	縄文土器 深鉢	胴部片				胴部に0段多条のL R縄と0段多条のR L縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式	
第8号 PL. 9	9	縄文土器 深鉢	胴部片				胴部下平を成部へ大きく屈曲する。R L縄で横位回転による縄文を主に施すが、一部にL R縄との横位回転による羽状縄文となる部分もある。	花積下層1式	
第8号 PL. 9	10	縄文土器 深鉢	胴部片				胴部にR L縄で縦位回転の縄文を施す。	花積下層1式	
第8号 PL. 9	11	縄文土器 深鉢	胴部片				胴部下平の底部付近で、表面の剥落が著しい。浅く縄文が施されている。	花積下層1式	
第8号 PL. 9	12	縄文土器 深鉢	胴部片				13と同一個体の可能性あり。胴部下平にR L縄で、縦位のみな羽状縄文が施される。	花積下層1式	
第8号 PL. 9	13	縄文土器 深鉢	胴部片				12と同一個体の可能性あり。胴部下平にR L縄で、縦位のみな羽状縄文が施される。	花積下層1式	
第8号 PL. 9	14	割片石類 刃先付	完形	長 幅	2.3 1.5	厚 重	0.6 2.2	チャート	
第8号 PL. 9	15	礫石類 磨石類	完形	長 幅	13.3 4.8	厚 重	2.3 273.1	閃緑岩	縦長な扁平礫を素材に、表面の長軸上に凹部を連ねる(四石)。また、下端左角には、銀打による溝部をもつ(銀石)。

## 81区2号住居

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第9号 PL. 9	1	縄文土器 深鉢	口縁部片				平口縁の口縁下が肥厚きみに屈曲して口縁部文様帯を作出し、口縁部文様に2本組(L・R縄)の器糸断面圧痕で文様を描き、円形刺突を配する。	花積下層1式
第9号 PL. 9	2	縄文土器 深鉢	口縁部片				波状口縁となる口縁下が肥厚きみに屈曲し、波状下の器糸断面に器糸断面付をもつ。口縁以下に縄文が施されるが、器糸は不明。	花積下層1式
第9号 PL. 9	3	縄文土器 深鉢	胴部片				4・5と同一個体。胴部にR L縄とL R縄で、縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第9号 PL. 9	4	縄文土器 深鉢	胴部片				3・5と同一個体。胴部にR L縄とL R縄で、縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第9号 PL. 10	5	縄文土器 深鉢	胴部片				3・4と同一個体。胴部にR L縄とL R縄で、縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第9号 PL. 10	6	縄文土器 深鉢	胴部片				胴部にR L縄で、異方向回転による縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第9号 PL. 10	7	縄文土器 深鉢	胴部片				胴部に0段多条のR L縄と0段多条のR L縄で、縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第9号 PL. 10	8	縄文土器 深鉢	胴部片				9と同一個体。胴部にR L縄で、異方向回転による縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第9号 PL. 10	9	縄文土器 深鉢	胴部片				8と同一個体。胴部にR L縄で、異方向回転による縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第9号 PL. 10	10	縄文土器 深鉢	胴部片				胴部に0段多条のR L縄と0段多条のR L縄で、縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第9号 PL. 10	11	縄文土器 深鉢	胴部片				胴部にR L縄とL R縄で、縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第9号 PL. 10	12	縄文土器 深鉢	胴部片				胴部にR L縄とL R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式

採掘 PL.No.	No.	種類 種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第9区 PL.10	13	縄文土器 深鉢	製部片			繊維、細砂	胴部にR.L.編とL.R.編で、傾斜回転による幅広な羽状縄文が施される。	花積下層1式
第10区 PL.10	14	縄文土器 深鉢	製部片			繊維、細砂	15と同一個体。胴部にO段多条のR.L.編とO段多条のL.R.編で、傾斜回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第10区 PL.10	15	縄文土器 深鉢	製部片			繊維、細砂	14と同一個体。胴部にO段多条のR.L.編とO段多条のL.R.編で、傾斜回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第10区 PL.10	16	縄文土器 深鉢	製部片			繊維、細砂	胴部にO段多条のL.R.編で、傾斜回転による縄文が施される。	花積下層1式
第10区 PL.10	17	縄文土器 深鉢	底部片			繊維、粗砂	矢底部を僅かに欠く底部片。底部付近には、L.R.編で縦位回転の縄文が施される。	花積下層1式
第10区 PL.10	18	縄文土器 深鉢	頸～製部片			繊維、粗礫	19・20と同一個体。口縁部文様は2本組(L・R編)の燃糸側面庄疋と2本組の切み隆帯で横手状の主文様を描き、その間に切切文を横位ハ字状に充填する。さらに、口縁部文様帯下縁には、2条の切み隆帯を並らせて文様帯区画し、瘤状付付文を配する。胴部にO段多条のR.L.閉端付縄とO段多条のL.R.閉端付縄で、重畳する幅状な横位羽状縄文が施される。	二ツ木式
第10区 PL.10	19	縄文土器 深鉢	製部片			繊維、粗礫	18・20と同一個体。胴部にO段多条のR.L.閉端付縄とO段多条のL.R.閉端付縄で、重畳する幅状な横位羽状縄文が施される。	二ツ木式
第10区 PL.10	20	縄文土器 深鉢	製部片			繊維、粗礫	18・19と同一個体。胴部にO段多条のR.L.閉端付縄とO段多条のL.R.閉端付縄で、重畳する幅状な横位羽状縄文が施される。	二ツ木式
第10区 PL.10	21	剥片石器 石鏝	完形	長1.7 幅1.4	厚0.3 重0.5	珪質頁岩	小型の凹基無茎。表裏面共に押圧剝離調整が施され、凹基の扱りは浅い。	
第10区 PL.10	22	剥片石器 石鏝	僅欠	長(2.0) 幅(1.3)	厚0.3 重0.6	珪質頁岩	先端と左側部を僅かに欠く凹基無茎。表裏面共に丁寧な押圧剝離調整が施される。凹基の扱りはやや浅い。	
第10区 PL.10	23	剥片石器 石鏝	僅欠	長(1.5) 幅(1.3)	厚0.3 重0.5	珪質頁岩	先端と両側部を僅かに欠く凹基無茎。表裏面共に丁寧な押圧剝離調整が施される。凹基の扱りはやや深い。	
第10区 PL.10	24	剥片石器 石鏝	埋土 先端欠	長(2.0) 幅1.7	厚0.5 重1.7	チャート	先端を欠く凹基無茎。表裏面共に丁寧な押圧剝離調整が施される。凹基の扱りは浅い。	
第10区 PL.10	25	剥片石器 石鏝	埋土 僅欠	長1.7 幅1.5	厚0.4 重1.1	黒曜石	左側部を僅かに欠く、小型の凹基無茎。表裏面共に押圧剝離調整が施され、特に表面は丁寧。凹基の扱りは浅い。	
第10区 PL.10	26	剥片石器 石鏝	完形	長2.7 幅1.1	厚0.6 重1.3	珪質頁岩	有茎。表裏面共に丁寧な押圧剝離調整が施される。	
第10区 PL.10	27	剥片石器 石鏝	埋土 完形	長2.7 幅0.8	厚0.4 重1.1	黒色頁岩	棒状で下部刃部側が細くなる。背縁に細かく浅い押圧剝離調整が施され、裏面中央に主要剝離面を残す。	
第10区 PL.10	28	剥片石器 刃先欠	埋土 完形	長2.3 幅2.1	厚1.2 重4.7	黒曜石	小型で、表面中央から左側縁部にかけて自然面を残し、主な刃部は右側縁にある。押圧剝離調整が施され、刃部は鈍角。裏面は主要剝離面。	
第10区 PL.10	29	剥片石器 刃先欠	完形	長2.7 幅2.7	厚1.1 重8.6	珪質頁岩	小型な方形を呈する。横長剥片を素材とし、剥片形状をそのままに(左側縁縁は節理面)、表裏面の下部部に連続的な剝離面を施す。	
第10区 PL.10	30	剥片石器 刃先欠	完形	長3.9 幅5.7	厚1.8 重21.2	チャート	横長剥片を素材とし、剥片形状をそのままに、表面の下部部に連続的な剝離面を施す。	
第10区 PL.10	31	剥片石器 石鏝	完形	長4.9 幅3.3	厚1.2 重19.4	珪質頁岩	小型で、裏面中央に自然面を大きく残す。剝離面は表面を土に裏面にまで及ぶが、表面周縁は特に丁寧。刃部となる下部は鈍角。	
第10区 PL.10	32	剥片石器 打製石斧	完形	長17.5 幅8.2	厚5.5 重741.3	頁岩	短冊型を呈する大型の打製石斧で、表裏面の中央に自然面を残す。剝離面は表裏面の背縁から繰り返され、刃部となる下部は上弦弧状を呈する。	
第10区 PL.10	33	礫石器 磨石	完形	長6.9 幅3.7	厚2.9 重115.4	細粒輝石安山岩	小型で縦長な礫を素材とし、表面に磨面をもつ。	
第10区 PL.10	34	礫石器 磨石	破片	長(5.7) 幅(4.9)	厚(2.6) 重80.6	細粒輝石安山岩	楕円状を呈する磨石の破片。全体に磨面が施されると思われる。被熱による破損か。	
第10区 PL.10	35	剥片石器 石鏝	埋土 基部欠	長(2.1) 幅(1.5)	厚0.5 重1.3	珪質頁岩	基部を欠く。表裏面共に押圧剝離調整が施され、特に表面は丁寧。裏面中央に主要剝離面を残す。	
第10区 PL.10	36	剥片石器 石鏝未製品		長2.7 幅1.5	厚0.4 重1.5	黒曜石	先端部を僅かに欠く。裏面下部に打面を残す剥片形状をそのままに、上半の両側縁から押圧剝離調整が施されるが、粗は未調整。	

### 81区3号住居

採掘 PL.No.	No.	種類 種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第11区 PL.11	1	縄文土器 深鉢	製部片			繊維多量、細砂	胴部下半の矢底部付近で、条が縦方向となる浅い縄文が施される。原形は不明。	花積下層1式
第11区 PL.11	2	縄文土器 深鉢	製部片			繊維多量、細砂	胴部にO段多条のR.L.編とO段多条のL.R.編で、縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第11区 PL.11	3	縄文土器 深鉢	製部片			繊維、細砂	胴部下半にR.L.編で条が縦方向となる縄文が施される。	花積下層1式

第2章 上原1遺跡

採掘 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第110区 PL.11	4	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維多量、細砂	5と同一個体。胴部上半に0段多条のR L縄で、横位回転による縄文が施される。また、内面には指遺状の凹凸がみられる。	花積下層1式
第110区 PL.11	5	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維多量、細砂	4と同一個体。胴部上半に0段多条のR L縄で、横位回転による縄文が施される。胴部下半には同一個体で、条が縦方向となる縄文が施される。また、内面には指遺状の凹凸がみられる。	花積下層1式
第110区 PL.11	6	礫石器 磨石	完形	長軸 13.5	厚 11.2	4.7 1103.7	粗粒輝石安山岩	円形な扁平礫を素材に、表面に磨面(磨石)と中央に凹部(凹石)をもつ、被熱している。	

81区 4号住居

採掘 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第129区 PL.11	1	縄文土器 深鉢	口縁部片				繊維、細砂	平口縁の口唇部および口縁下に、細い縄の回転絡糸体で斜位・横位・縦位に施す。	花積下層1式
第129区 PL.11	2	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維、細砂	3・4と同一個体。胴部に細い縄の回転絡糸体を縦位に施す。	花積下層1式
第129区 PL.11	3	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維、細砂	2・4と同一個体。胴部に細い縄の回転絡糸体を斜位に施す。	花積下層1式
第129区 PL.11	4	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維、細砂	2・3と同一個体。胴部に細い縄の回転絡糸体を斜位に施す。	花積下層1式
第129区 PL.11	5	縄文土器 深鉢	底部片				繊維、細砂	平底となる底部で、底面に0段多条のL R縄による縄文が施される。	花積下層1式

91区 5号住居

採掘 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第130区 PL.11	1	縄文土器 深鉢	口縁部片				繊維、細砂	やや内反ぎみの平口縁で、口縁下の口唇部文様に2本組(L・R縄)の燃糸無面圧痕で文様を描く。	花積下層1式
第130区 PL.11	2	縄文土器 深鉢	底部片				繊維	尖底となる底部で、底部まで横い2本組縄(L・R縄)による回転絡糸体が発せられる。	花積下層1式
第130区 PL.11	3	縄文土器 深鉢	口縁部片				繊維、細砂	平口縁の口唇部に0段多条のL R縄が発せられ、口縁以下の胴部に0段多条のR L縄と0段多条のL R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第130区 PL.11	4	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維、細砂	胴部に0段多条のR L縄と0段多条のL R縄で、縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第130区 PL.11	5	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維、細砂	胴部にR L縄とL R縄で、縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第130区 PL.11	6	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維多量、細砂	胴部に0段多条のR L縄で、異方向回転による縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第130区 PL.11	7	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維多量	胴部に0段多条のR L縄と0段多条のL R縄で、縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第130区 PL.11	8	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維	尖底部付近となる胴部下端に、R L縄で縦位ぎみな斜縄文が施される。	花積下層1式
第130区 PL.11	9	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維、細砂	胴部に横い2本組縄(R・R縄)による回転絡糸体で、縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第130区 PL.11	10	縄文土器 深鉢	口縁部片				繊維、細砂	平口縁の口縁以下に、R L縄とL R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第130区 PL.11	11	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維、細砂	胴部下半にR L縄で、縦位ぎみな斜縄文が施される。	花積下層1式
第130区 PL.11	12	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維	胴部下半にR L縄で、縦位ぎみな斜縄文が施される。	花積下層1式
第130区 PL.11	13	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維、細砂	胴部に0段多条のR L縄とL R縄で、縦長な菱状構成となる縄文ないし羽状縄文が施される。	花積下層1式
第130区 PL.11	14	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維、細砂少	尖底部付近となる胴部下端に、R L縄とL R縄で、縦長な菱状構成となる縄文ないし羽状縄文が施される。また、内面には指遺状の浅い凹凸がみられる。	花積下層1式
第140区 PL.11	15	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維多量、細砂	胴部に0段多条のR L縄と0段多条のL R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第140区 PL.11	16	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維、細砂	胴部に0段多条のR L縄と0段多条のL R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第140区 PL.11	17	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維、細砂	胴部にR L縄とL R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第140区 PL.11	18	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維、細砂	胴部にR L縄とL R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第140区 PL.11	19	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維、粗砂	胴部にR L縄とL R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第140区 PL.11	20	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維、細砂	胴部にR L縄とL R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第140区 PL.11	21	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維、細砂	胴部にR L縄とL R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第140区 PL.11	22	縄文土器 深鉢	胴部片				繊維、細砂	胴部に0段多条のR L縄で、横位回転による縄文が施される。	花積下層1式



種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第148回 PL-12	23	割片石器 石鏃	完形	長 1.3 幅 1.3 厚 0.1 重 0.2	黒曜石	小型の凹基無茎鏃。薄い小型割片を素材とし、表面の周縁のみに押圧剝離調整が施される。凹基の挟りは深い。	
第148回 PL-12	24	割片石器 石鏃	埋土	長 2.1 幅 (1.4) 厚 0.3 重 0.5	黒曜石	基部を僅かに欠く、小型の平基無茎鏃。主要剝離面を表面とし、両側縁の表裏面に押圧剝離調整が施される。	
第148回 PL-12	25	割片石器 石鏃	焼土(9号) 埋土	長 (1.2) 幅 1.6 厚 0.4 重 0.4	黒曜石	先端を僅かに欠く、小型の平基無茎鏃。表面両面に押圧剝離調整が施される。	
第148回 PL-12	26	割片石器 石鏃	完形	長 1.9 幅 1.5 厚 0.4 重 0.8	黒曜石	凹基無茎鏃。表面両面に丁寧な押圧剝離調整が施される。凹基の挟りは浅い。	
第148回 PL-12	27	割片石器 石鏃	右脚欠	長 2.4 幅 (1.6) 厚 0.5 重 1.3	チャート	右脚端部を欠く凹基無茎鏃。表面両面に丁寧な押圧剝離調整が施される。凹基の挟りはやや浅い。	
第148回 PL-12	28	割片石器 石鏃	完形	長 2.9 幅 1.7 厚 0.4 重 1.9	珪質頁岩	凹基無茎鏃。表面の中央に大きな剝離面を残し、器体の周縁に押圧剝離調整が施される。凹基の挟りはやや浅い。	
第148回 PL-12	29	割片石器 石鏃	僅欠	長 (1.7) 幅 (1.7) 厚 0.3 重 1.0	黒曜石	先端と右脚端部を僅かに欠く、小型の凹基無茎鏃。表面両面に丁寧な押圧剝離調整が施される。凹基の挟りは浅い。	
第148回 PL-12	30	割片石器 石鏃	僅欠	長 1.8 幅 (1.6) 厚 0.5 重 0.7	黒曜石	右脚端部を僅かに欠く、小型の凹基無茎鏃。表面両面に丁寧な押圧剝離調整が施される。凹基の挟りは浅い。	
第148回 PL-12	31	割片石器 石鏃	完形	長 1.6 幅 1.6 厚 0.4 重 0.5	黒曜石	小型の凹基無茎鏃。表面両面に丁寧な押圧剝離調整が施され、裏面中央に主要剝離面を僅かに残す。凹基の挟りは深い。	
第148回 PL-12	32	割片石器 石鏃	完形	長 2.3 幅 1.8 厚 0.3 重 0.9	黒曜石	凹基無茎鏃。表面両面に丁寧な押圧剝離調整が施される。凹基の挟りは逆V字状に深い。	
第148回 PL-12	33	割片石器 石鏃	僅欠	長 2.0 幅 (1.7) 厚 0.4 重 0.7	黒曜石	右脚端部を僅かに欠く凹基無茎鏃。表面両面に丁寧な押圧剝離調整が施される。凹基の挟りは逆V字状に深い。	
第148回 PL-12	34	割片石器 石鏃未製品	ビット5	長 (1.7) 幅 (1.5) 厚 0.3 重 0.6	黒曜石	石鏃の未製品。石鏃の上半となる素材割片の表裏面に押圧剝離調整が施され、先端部が作出される。しかし、下半は剝離調整が及んでいない。	
第148回 PL-12	35	割片石器 石鏃	ビット 埋土 完形	長 3.3 幅 1.0 厚 0.6 重 1.9	珪質変質岩(流紋 岩質凝灰岩)	棒状で下端が部膨らみ。周縁に浅い押圧剝離調整が施され、裏面中央に主要剝離面を残す。	
第148回 PL-12	36	割片石器 石鏃	僅欠	長 (3.6) 幅 1.5 厚 0.5 重 3.0	黒曜石	先端となる下部部を僅かに欠く。表面上部と上端に自然面を残し、下半に両側縁部から丁寧な押圧剝離調整が施される。	
第148回 PL-12	37	割片石器 石鏃	完形	長 2.7 幅 4.8 厚 0.9 重 9.2	黒色頁岩	上端内縁の挟りが強い、横長な石鏃。横長割片を素材とし、主要剝離面を表面とする。押圧剝離はやや粗く、上端部周辺と下端部の表面に及ぶ。	
第148回 PL-12	38	割片石器 石鏃	埋土 上端部	長 (1.6) 幅 (1.3) 厚 0.4 重 1.1	チャート	石鏃の上端部で、刃部となる下半を大きく欠く。上端内両縁の切入部は明確で、器体全体に丁寧な押圧剝離による調整が施されると思われる。成型の可能性あり。	
第148回 PL-12	39	割片石器 短刀	完形	長 2.1 幅 2.0 厚 0.6 重 3.0	流紋岩	小型な方形状を呈する。横長割片を素材とし、割片形状をそのままに、両縁から押圧剝離調整が施される。刃部となる下部はやや鈍い。	
第148回 PL-12	40	割片石器 使用痕跡割片	完形	長 4.7 幅 2.5 厚 1.0 重 8.5	珪質頁岩	縦長割片を素材とし、両側縁に細かな剝離が認められる。	
第148回 PL-12	41	割片石器 打製石斧	完形	長 7.9 幅 4.6 厚 1.6 重 57.4	頁岩	短冊型を呈する。表面中央に主要剝離面、裏面下部に自然面を残す。剝離は表裏両面の周縁から粗く、表面の両側縁は細かな剝離が施される。	
第148回 PL-12	42	割片石器 打製石斧	完形	長 17.5 幅 6.9 厚 3.6 重 529.7	安山岩	短冊型を呈する大型の打製石斧。上端に微分刻時の刃面、左側縁に分別時の剝離面、裏面に敲打痕をもつ自然面を大きく残す。剝離は表面の周縁および裏面側縁から粗く施される。	
第158回 PL-12	43	礫石器 磨石	完形	長 4.3 幅 3.3 厚 3.0 重 46.3	細粒輝石安山岩	小型の内礫を素材に、全体に研磨が施される(磨石)。上下端が敲打痕で潰れる(敲石)。被熱し、ヒビが入る。	
第158回 PL-12	44	礫石器 磨石	完形	長 4.6 幅 3.7 厚 3.0 重 59.9	細粒輝石安山岩	小型の内礫を素材に、全体に研磨が施される。被熱し、ヒビが入る。	
第158回 PL-12	45	礫石器 磨石	右側縁欠	長 10.5 幅 (7.9) 厚 4.4 重 511.7	細粒輝石安山岩	右側縁を欠く。傘大の扁平礫を素材に、全体に研磨が施される。	
第158回 PL-12	46	礫石器 門石	完形	長 13.0 幅 5.9 厚 5.1 重 586.5	花尾閃綠岩	棒状礫を素材に、表裏面の長軸上に門部を連ねる(門石)。また、下部右側縁は、敲打面に打ち潰れる(敲石)。左縁を僅かに欠く。楕円びな大型扁平礫を素材とし、表面に研磨面をもち、その中央がやや凹む(石面)。また、表裏面には、門部を多くもち、多孔石の要素をも併せもつ。	
第158回 PL-12	47	礫石器 石鏃	僅欠	長 36.0 幅 30.7 厚 10.0 重 1400	細粒輝石安山岩		
PL-12	48	割片石器 石鏃	埋土 右脚欠	長 1.8 幅 (1.3) 厚 0.3 重 0.7	黒曜石	右脚部を欠く小型の凹基無茎鏃。表面両面に丁寧な押圧剝離調整が施される。凹基の挟りは浅い。	
PL-12	49	割片石器 石鏃	左脚欠	長 (1.6) 幅 (1.3) 厚 0.3 重 0.5	黒曜石	左脚部を僅かに欠き、基部が円弧状となる小型の無茎鏃。表面両面に丁寧な押圧剝離調整が施される。	
PL-12	50	埋土 先端欠 石鏃	埋土 先端欠	長 (1.2) 幅 (1.2) 厚 0.3 重 0.4	黒曜石	先端と右脚部を欠く小型の凹基無茎鏃。表面両面に丁寧な押圧剝離調整が施される。凹基の挟りは深い。	
PL-12	51	埋土 先端片 石鏃	埋土 先端片	長 (1.2) 幅 (1.3) 厚 0.3 重 0.3	黒曜石	石鏃の先端部。表面両面に丁寧な押圧剝離調整が施される。	

## 第2章 上原1遺跡

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
PL-12	52	割片石器 石礫未製品		長 2.4	厚 1.1	重 4.6	黒曜石	先端を欠く。厚みのある割片を素材に、表面の左側縁と下端から押圧調整を施すが、他は未調整。	
PL-12	53	割片石器 石礫未製品		長 2.3	厚 0.3	重 0.9	黒曜石	割片形状をそのままに、表裏面への押圧調整により先端部が作出されるが、他の調整は行ない。	

## 91区6号住居

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第168区 PL-13	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部下	口 径 (22.0)	口 高 (96.4)		織物多量、細砂	僅かに外反する平口縁で、胴部下半を欠くが、底部が尖底となる尙原型器形。口縁下がやや厚厚して段状となり、口縁以下にL R縄とR L縄の縦位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第168区 PL-13	2	縄文土器 深鉢	口縁部片				織物多量、細砂	政頂部を欠くが、小波状口縁の口縁下は肥厚して段をもち、波頂下に瘤状の貼付をもつ。肥厚帯となる口縁部文様には、波頂下を境に0段多条のR L縄と0段多条のL R縄が施され、以下の胴部にR L縄とL R縄で羽状縄文が施される。	花積下層1式
第168区 PL-13	3	縄文土器 深鉢	口縁部片				織物多量、細砂	外反ぎみの平口縁で、口縁下は肥厚して段をもち、肥厚帯口縁部文様に細い2本組縄(L・L縄)による回転絡糸体を斜位に施す。以下の胴部にはR L縄とR L縄の横位回転による羽状縄文が施される。また、内面には指頭状の浅い凹みが見られる。	花積下層1式
第168区 PL-13	4	縄文土器 深鉢	胴部片				織物多量、細砂	胴部に0段多条のR L縄と0段多条のL R縄で、縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第168区 PL-13	5	縄文土器 深鉢	胴部片				織物、細砂	胴部に0段多条のR L縄と0段多条のL R縄で、縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第168区 PL-13	6	縄文土器 深鉢	胴部片				織物、細砂	胴部に0段多条のR L縄と0段多条のL R縄で、縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第168区 PL-13	7	縄文土器 深鉢	胴部片				織物多量、細砂	1と同一個体の可能性あり。胴部下半にL R縄とR L縄の横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第178区 PL-13	8	割片石器 石礫	完形	長 1.1	厚 0.2	重 0.5	黒曜石	小型の凹基無茎。表裏面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の抉りは浅い。	
第178区 PL-13	9	割片石器 石礫	短欠	長 2.2	厚 0.4	重 0.8	チャート	線身の凹基無茎。表裏面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の抉りは浅い。	
第178区 PL-13	10	割片石器 石礫	完形	長 2.1	厚 0.5	重 0.8	黒曜石	凹基無茎。表裏面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の抉りは深い。	
第178区 PL-13	11	割片石器 石礫	短欠	長 2.0	厚 0.6	重 1.1	黒曜石	左側端部を僅かに欠く凹基無茎。表裏面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の抉りは浅い。	
第178区 PL-13	12	割片石器 石礫	完形	長 4.3	厚 0.9	重 4.7	黒曜石	表面に自然面を残す小型な縦長割片を素材とし、割片形状をそのままに、両縁から押圧調整が施される。刃部となる右側縁は特に丁寧。	
第178区 PL-13	13	割片石器 石礫	下半欠	長 (1.7)	厚 0.8	重 3.1	チャート	上端に打面を残すスクレイパーの上半部。内側縁に押圧調整が施される。	
第178区 PL-13	14	割片石器 石礫	完形	長 6.9	厚 2.2	重 36.2	頁岩	表面に自然面を残す割片を素材とし、刃部となる表面の下端に押圧調整が施される。	
第178区 PL-13	15	礫石器 磨石	破片	長 9.6	厚 4.9	重 264.3	細粒輝石安山岩	扁平礫を素材に、表面に研磨が施され(磨石)、併せて凹部をもつ(凹石)。	
第178区 PL-13	16	礫石器 磨石	完形	長 34.1	厚 9.1	重 10100	細粒輝石安山岩	大型の扁平礫を素材とし、表面に研磨面をもち、その中央は平坦で僅かに凹み(石皿)。また、裏面には、凹部を多くもち、多孔石の要素をも併せもつ。	

## 91区7号住居

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第188区 PL-14	1	縄文土器 深鉢	口縁部片				織物	平口縁の口唇部が隆帯様に突出して広い面となり、口唇直下突出上には斜位の切み状沈線。およびその下の隆帯上には縦位の切み状沈線を施して流らせ、隆帯の上下にはやや太めのL縄より系側面を沿わせる。さらに、以下の口縁部文様に、同様の断面圧痕と斜突列を組み合わせて文様を描く。	花積下層1式
第188区 PL-14	2	縄文土器 深鉢	口縁部片				織物多量	4と同一個体。平口縁の口縁下が肥厚ぎみに屈曲して口縁部文様を作出し、口縁部文様に沈線が3～4本単位で複合縦位状の文様を描く。以下の胴部に0段多条のR L縄と0段多条のL R縄で、縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第188区 PL-14	3	縄文土器 深鉢	口縁部片				織物、細砂	平口縁の口唇部直下とその下に隆帯を巡らせ、隆帯下に側系側面圧痕で口縁部文様が施される。	花積下層1式
第188区 PL-14	4	縄文土器 深鉢	胴部片				織物多量	2と同一個体。胴部に0段多条のR L縄と0段多条のL R縄で、縦長な菱状構成となる縄文が施される。裏面は流滑。	花積下層1式
第188区 PL-14	5	縄文土器 深鉢	胴部片				織物、細砂	胴部に細い2本組縄(R・R縄)による回転絡糸体で、縦位・横位回転による横位羽状縄文が施される。	花積下層1式
第188区 PL-14	6	縄文土器 深鉢	胴部片				織物、細砂	胴部にR L縄で横位回転による縄文が施される。	花積下層1式

採 掘 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm・g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
PL-14	7	割片石器 石礫未製品		長 2.5 幅 (1.5)	厚 0.7 重 2.1	黒曜石	右平を欠く。割片形状をそのままに、表面へ押圧調整により先端部が作出されるが、他の調整は浅い。	
PL-14	8	割片石器 石礫	上半欠	長 (1.6) 幅 1.8	厚 0.4 重 1.2	チャート	上半の先端部を欠く凹基無茎。表面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の抉りは浅い。	
PL-14	9	割片石器 石礫	埋土 上半欠	長 (1.0) 幅 1.3	厚 0.3 重 0.4	黒曜石	上半の先端部を欠く、小型の凹基無茎。表面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の抉りは浅い。	

#### 91区 8号住居

採 掘 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm・g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第1996 PL-14	1	縄文土器 深鉢	口縁部片			繊維多量、粗砂	2と同一個体。平口縁の口唇部が隆起帯に突出して広い面となり、その口唇部に沈線で3~5本単位の縦面ないし複合縦面状の文様を描く。口縁下の口縁部文様に2本組(L・R縄)の燃系側面圧痕により上下の縦面を要状に構成させ、菱中央と同様の燃系側面圧痕で渦巻きを描き配する。また、口縁部文様下端には同様の燃系側面圧痕を添わせて、口縁部文様帯を区画する。以下の胴部には、0段多条のR L縄と0段多条のL R縄で、縦長な要状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第1996 PL-14	2	縄文土器 深鉢	口縁部片			繊維多量、粗砂	1と同一個体。平口縁の口唇部が隆起帯に突出して広い面となり、その口唇部に沈線で3~5本単位の縦面ないし複合縦面状の文様を描く。口縁下の口縁部文様に2本組(L・R縄)の燃系側面圧痕により上下の縦面を要状に構成させ、菱中央と同様の燃系側面圧痕で渦巻きを描き配する。また、口縁部文様帯を区画する。以下の胴部には、0段多条のR L縄と0段多条のL R縄で、縦長な要状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第1996 PL-14	3	縄文土器 深鉢	口縁部片			繊維多量、粗砂	4・5と同一個体。やや外反ぎみの波打口縁で、口縁以下の胴部に0段多条のR L縄と0段多条のL R縄で、縦長な要状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第1996 PL-14	4	縄文土器 深鉢	胴部片			繊維多量、粗砂	3・5と同一個体。胴部に0段多条のR L縄と0段多条のL R縄で、縦長な要状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第1996 PL-14	5	縄文土器 深鉢	胴部片			繊維多量、粗砂	3・4と同一個体。胴部に0段多条のR L縄と0段多条のL R縄で、縦長な要状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第1996 PL-14	6	縄文土器 深鉢	胴部片			繊維多量、粗砂	胴部にR L縄で横位回転による縄文が施される。	花積下層1式
第1996 PL-14	7	縄文土器 深鉢	胴部片			繊維、粗砂	胴部下半に細い2本組(L・R縄)による回転縞条体で、縦長な要状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第1996 PL-14	8	縄文土器 深鉢	胴部片			繊維、粗砂	胴部にR L縄とL R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。また、内面には指頭状の浅い平凸が施される。	花積下層1式
第1996 PL-14	9	縄文土器 深鉢	胴部片			繊維、粗砂	胴部下半の底部付近で、R L縄の縦・横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第1996 PL-14	10	縄文土器 深鉢	胴部片			繊維、粗砂	胴部下半にL R縄で横位回転による縄文が施される。	花積下層1式
第1996 PL-14	11	縄文土器 底部片				繊維、粗砂	尖底となる底部で、尖底部付近にL R縄で条が縦方向となる縄文が施される。	花積下層1式
第2000 PL-14	12	割片石器 石礫	埋土 完形	長 1.3 幅 1.1	厚 0.4 重 0.5	黒曜石	小型の凹基無茎。表面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の抉りは浅く、平基に浅い。	
第2000 PL-14	13	割片石器 石礫	埋土 完形	長 2.0 幅 (1.1)	厚 0.6 重 1.1	珪質頁岩(直紋 岩質凝灰岩)	左側部を僅かに欠く凹基無茎。表面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の抉りは浅い。	
第2000 PL-14	14	割片石器 石礫	一部欠	長 (1.9) 幅 (1.4)	厚 0.4 重 1.1	チャート	先端と両側部を僅かに欠く凹基無茎。表面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の抉りは浅い。	
第2000 PL-14	15	割片石器 石礫	完形	長 2.0 幅 1.3	厚 0.4 重 0.5	玉髄	凹基無茎。表面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の抉りは逆V字状に深い。	
第2000 PL-14	16	割片石器 石礫	完形	長 2.6 幅 1.5	厚 0.5 重 1.0	黒曜石	凹基無茎。表面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の抉りは逆V字状に深い。	
第2000 PL-14	17	割片石器 石礫未製品		長 3.3 幅 1.7	厚 0.9 重 3.1	珪質頁岩	裏面に節理面を現す石礫の未製品。表面に押圧調整が施されるが、沈線は少々粗く、表面の片縁には沈線が及んでいない。下端は浅い凹基状。	
第2000 PL-14	18	割片石器 石礫小	完形	長 4.1 幅 3.8	厚 0.6 重 9.2	黒色頁岩	左側縁付近に打点をもつ主要側面を表面とし、対部となる下部に副側面を表面とする。	
第2000 PL-14	19	割片石器 石礫?	完形	長 6.1 幅 4.1	厚 1.2 重 19.4	黒色頁岩	縦長の石礫形を呈するが、上端の抉入部の沈線は弱い。表面の両側部と下部に押圧調整が施される。	
第2000 PL-14	20	割片石器 石礫小	完形	長 5.9 幅 3.4	厚 1.4 重 19.9	直紋岩	上端の節理面を打点とした割片を素材とし、裏面は主要側面を大きく現す。表面の周縁から副側面を施し、対部となる下部は凹基状。	
第2000 PL-14	21	礫石器 磨石	上半欠	長 (8.8) 幅 7.6	厚 2.9 重 282.3	細粒輝石安山岩	縦長な扁平礫を素材に、表面に研磨面をもつ。被熱している。	
第2000 PL-14	22	礫石器 磨石	一部欠	長 (7.7) 幅 7.3	厚 2.9 重 222.2	細粒輝石安山岩	右側上部を欠く。傘大の扁平礫を素材に、表面に研磨が施される。	
第2000 PL-14	23	礫石器 磨石	セット1 完形	長 5.2 幅 4.5	厚 3.9 重 71.9	細粒輝石安山岩	小型の内縁を素材に、全体に研磨が施される。被熱し、ヒビが入る。	
第2000 PL-14	24	礫石器 磨石	完形	長 5.8 幅 5.5	厚 3.5 重 164.6	細粒輝石安山岩	小型の内縁を素材に、表面を主として全体に研磨が及ぶ。	
第2000 PL-14	25	礫石器 磨石	完形	長 12.0 幅 4.6	厚 3.8 重 336.0	細粒輝石安山岩	縦長な棒状礫を素材に、全体を研磨する。	

第2章 上原1遺跡

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第20図 PL.14	26	礫石 敲石	上半欠	長(8.6) 幅7.4 厚3.5 重331.0	細粒輝石安山岩	縦長な扁平礫を素材に、下端および左側縁に敲打痕による潰れをもつ(敲石)。	
PL.14	27	割片石器 石礫未製品	埋土	長2.0 幅1.2 厚0.5 重1.2	黒曜石	割片形状をそのままに、浅き縦かな押し割離により器体形状を整えるが、全体的に割離が浅い。	
PL.14	28	割片石器 石礫	先端部	長(1.6) 幅(1.1) 厚0.4 重0.4	黒曜石	石礫の先端部。表面共に丁寧な押し割離調整が施される。	
PL.14	29	割片石器 石礫	左半欠	長2.1 幅(1.0) 厚0.3 重0.6	黒曜石	左半欠欠凹基無草。表面共に押し割離調整が施されるが、裏面は粗い。凹基の折りは浅い。	
PL.14	30	割片石器 石礫未製品		長2.3 幅1.7 厚0.7 重2.4	黒曜石	裏面に主要割離面を残し、表裏面に押し割離調整を施した石礫ないしスクレイパー類の欠損品に、欠損部へ再加工を施す加工途中。	

91区14・15号土坑

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第21図 PL.15	1	縄文土器 深鉢	91区14号土坑 口縁部片			織維、細砂	平口縁の口唇部がやや広い面となり、口縁下は肥厚して段をもつ。肥厚帯となる口縁部文様には、R・L縄と0段多条のL・R縄が横位に施される。	花積下層1式
第21図 PL.15	2	割片石器 石礫	91区15号土坑 完形	長1.6 幅1.3 厚0.3 重0.3	黒曜石	小型の凹基無草。表面共に丁寧な押し割離調整が施される。凹基の折りは深い。		

91区1・3号焼土

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第22図 PL.15	1	縄文土器 深鉢	91区1号焼土 割部片			織維、細砂	割部に0段多条のL・R縄で、横位回転による縄文が施される。	花積下層1式
第23図 PL.15	2	縄文土器 深鉢	91区1号焼土 割部片			織維多量、粗砂	割部に0段多条のL・R縄で、縦長な変状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第23図 PL.15	3	割片石器 打製石斧	91区1号焼土 完形	長10.3 幅3.7 厚2.7 重92.9	黒色頁岩	短楕型を呈する。表面の中央付近に自然面を残す。割離は表裏面の周縁から粗く、上下の内端部にやや粗かく施される。		
第23図 PL.15	4	縄文土器 深鉢	91区3号焼土 割部片			織維多量、粗砂	割部下平に0段多条のR・L縄と0段多条のL・R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式

遺構外

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第24図 PL.15	1	縄文土器 深鉢	91区1-3号9'nd 口縁部片			織維	2と同一個体。内反りみの大きな波状口縁で、口縁下に肥厚した段をもち、波頂下の三角状となる部分も含めて口縁部文様帯となる。口縁下の肥厚帯には縦い2本組縄(L・L縄)による懸糸側面圧痕を縦面状に施文し、波頂下の三角部にも同様の懸糸側面圧痕を三角状に施文する。段下の割部には、0段多条のL・R縄で、縦長な変状構成となる縄文が施されると思われる。	花積下層1式
第24図 PL.15	2	縄文土器 深鉢	91区1-3号9'nd 口縁部片			織維	1と同一個体。内反りみの大きな波状口縁で、口縁下に肥厚した段をもち、波頂下の三角状となる部分も含めて口縁部文様帯となる。口縁下の肥厚帯には縦い2本組縄(L・L縄)による懸糸側面圧痕を縦面状に施文し、波頂下の三角部にも同様の懸糸側面圧痕を三角状に施文する。段下の割部には、0段多条のL・R縄で、縦長な変状構成となる縄文が施されると思われる。	花積下層1式
第24図 PL.15	3	縄文土器 深鉢	81区C-25'nd 口縁部片			織維、粗砂	波状口縁の口縁下に2本組(L・R・R・L縄)の懸糸側面圧痕を2列並らせ、以下の割部にR・L縄で横位回転による縄文が施される。また、内面には横位の整形痕が残る。	花積下層1式
第24図 PL.15	4	縄文土器 深鉢	91区1-8号9'nd 口縁部片			織維、細砂	波状口縁で口縁下に肥厚した段をもち、口縁下の肥厚帯には縦い2本組縄(L・L縄)による懸糸側面圧痕を波頂下で向きを変えた斜位に施し、段下にも同様の懸糸側面圧痕による文様を施文する。	花積下層1式
第24図 PL.15	5	縄文土器 深鉢	91区F-3号9'nd 口縁部片			織維、細砂	平口縁で、口唇がシーブを内削ぎ状。口縁下が円状となり、口縁直下に縦い2本組の2本組縄(L・R縄とL・L縄)による懸糸側面圧痕を縦面状に施文し、段下にも同様の懸糸側面圧痕を並らせる。さらに、段下に円形凹変をも並らせる。	花積下層1式
第24図 PL.15	6	縄文土器 深鉢	91区G-2'nd 口縁部片			織維、粗砂	口唇部を欠くが、口縁下に段をもち、口縁直下にL縄の懸糸側面圧痕を斜位に施文し、段下にも同様の懸糸側面圧痕を並らせる。さらに、段下にも懸糸側面圧痕を斜位に施す。	花積下層1式
第24図 PL.15	7	縄文土器 深鉢	91区1-3号9'nd 割部片			織維多量、細砂	口縁下に肥厚した段をもち、口縁下の肥厚帯には縦い懸糸側面圧痕で文様を施文し、段下の割部に0段多条のR・L縄と0段多条のL・R縄で、縦長な変状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第24図 PL.15	8	縄文土器 深鉢	81区E-24'nd 口縁部片			織維、細砂	9と同一個体。波頂部を欠くが、小波状口縁の口縁下は肥厚し、口縁下に0段多条のR・L縄と0段多条のL・R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式

採 掘 PL.No.	No.	種 類 種	出土位置 残存率	計測値(m・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第24回 PL-15	9	縄文土器 深鉢	81区B-24'9"ド 口縁部片		織物、細砂	8と同一個体。波頂部を欠くが、小波状口縁の口縁下は肥厚し、口縁下に0段多条のR L縄と0段多条のL R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第24回 PL-15	10	縄文土器 深鉢	81区G-25'9"ド 口縁部片		織物	波状口縁の口縁下は肥厚して段をもち、波頂下に瘤状の低い段をもつ。肥厚帯となる口縁部文様には、細い2本組縄による回転絡糸体で羽状縄文が施される。以下の胴部にも同様の回転絡糸体で施される。	花積下層1式
第24回 PL-15	11	縄文土器 深鉢	81区B-24'9"ド 口縁部片		織物、細砂	波状口縁の口縁下は肥厚して段をもち、肥厚帯となる口縁部文様に細い2種類の2本組縄による回転絡糸体で、横位の羽状縄文が施される。以下の胴部にも、同様の回転絡糸体を横位に施す。	花積下層1式
第24回 PL-15	12	縄文土器 口縁部片	91区表採 口縁部片		織物	平口縁の口縁下が肥厚ぎみで段をもち、口縁以下にR L縄とL R縄で横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第24回 PL-15	13	縄文土器 口縁部片	81区B-25'9"ド 口縁部片		織物、細砂	平口縁の口縁下が肥厚して段をもち、口縁以下にR L縄とL R縄で横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第24回 PL-15	14	縄文土器 深鉢	91区G-2'9"ド 口縁部片		織物、細砂	平口縁の口縁下に幅狭なやや肥厚した段をもち、口縁以下にR L縄とL R縄で横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第24回 PL-15	15	縄文土器 深鉢	91区E-3'9"ド 口縁部片		織物、細砂	平口縁の口縁下が肥厚して段をもち、口縁以下にR L縄で横位・縦位回転により羽状縄文が施される。	花積下層1式
第24回 PL-15	16	縄文土器 深鉢	91区表採 口縁部片		織物、細砂	外反ぎみの平口縁で、口縁下は肥厚して段をもち、肥厚帯口縁部文様に細い2本組縄(L・L縄)による回転絡糸体を斜位に施す。以下の胴部にはL R縄とR L縄の横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第24回 PL-15	17	縄文土器 深鉢	81区G-24'9"ド 口縁部片		織物、細砂	18と同一個体。平口縁の口縁下は肥厚して段をもち、肥厚帯となる口縁部文様に細い2種類の2本組縄(L・L縄とR・R縄)による回転絡糸体で、横位の羽状縄文が施される。以下の胴部にも、同様の回転絡糸体を横位に施すようである。原体の端部処理がある。	花積下層1式
第24回 PL-15	18	縄文土器 深鉢	81区G-24'9"ド 口縁部片		織物、細砂	17と同一個体。平口縁の口縁下は肥厚して段をもち、肥厚帯となる口縁部文様に細い2種類の2本組縄(L・L縄とR・R縄)による回転絡糸体で、横位の羽状縄文が施される。以下の胴部にも、同様の回転絡糸体を横位に施し、原体の端部処理が明瞭。	花積下層1式
第24回 PL-15	19	縄文土器 深鉢	81区B-24'9"ド 口縁部片		織物、細砂	20・21・40・42と同一個体。小波状口縁の平縁部で、口縁下が肥厚して段をもち、肥厚帯となる口縁部文様に細い2本組縄(L・L縄)による回転絡糸体を横位に施す。以下の胴部に細い2本組縄(R・R縄)による回転絡糸体で、縦長な変状構成に施される。	花積下層1式
第24回 PL-15	20	縄文土器 深鉢	81区B-24'9"ド 口縁部片		織物、細砂	19・21・40・42と同一個体。小波状口縁の平縁部で、口縁下が肥厚して段をもち、肥厚帯となる口縁部文様に細い2本組縄(L・L縄)による回転絡糸体を横位に施す。以下の胴部に細い2本組縄(R・R縄)による回転絡糸体で、縦長な変状構成に施される。	花積下層1式
第24回 PL-15	21	縄文土器 深鉢	81区B-24'9"ド 口縁部片		織物、細砂	19・20・40・42と同一個体。口唇部を欠くが、小波状口縁の口縁下が肥厚して段をもち、肥厚帯となる口縁部文様に細い2本組縄(L・L縄)による回転絡糸体を横位に施す。以下の胴部に細い2種類の2本組縄(L・L縄とR・R縄)による回転絡糸体で、縦長な変状構成に施される。	花積下層1式
第24回 PL-15	22	縄文土器 深鉢	91区G-4'9"ド 口縁部片		織物多量	平口縁の口縁下に肥厚ぎみの段をもち、口縁以下に0段多条のR L縄と0段多条のL R縄で、縦長な変状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第24回 PL-15	23	縄文土器 深鉢	91区I-3'9"ド 口縁部片		織物多量、細砂	波状口縁で口縁以下に0段多条のR L縄で、真方向回転による縦長な変状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第24回 PL-15	24	縄文土器 深鉢	81区F-25'9"ド 口縁部片		織物、細砂	波状口縁の波頂下に短い隆帯を垂下させ、口縁以下にR L縄の縄文が縦位に近い方向に施される(羽状縄文ないし縦長な変状構成の可能性あり)。また、内面には横位の整形痕が顕著。	花積下層1式
第24回 PL-15	25	縄文土器 深鉢	81区B-24'9"ド 口縁部片		織物、細砂	平口縁の口唇部に斜位の切り目をもち、口縁下に細い2種類の2本組縄(L・L縄とR・R縄)による回転絡糸体で、複合面状口縁部文様を施す。	花積下層1式
第24回 PL-15	26	縄文土器 深鉢	81区G-24'9"ド 口縁部片		織物、細砂	平口縁の口縁下が肥厚ぎみで段をもち、口縁以下にR L縄とL R縄で横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第24回 PL-15	27	縄文土器 深鉢	91区G-2'9"ド 口縁部片		織物、細砂	平口縁の口縁以下に0段多条のR L縄とL R縄で横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第24回 PL-15	28	縄文土器 深鉢	81区G-24'9"ド 口縁部片		織物多量、細砂	平口縁の口縁以下に、0段多条のR L縄を横位、0段多条のL R縄を縦位・斜位に施す。	花積下層1式
第24回 PL-15	29	縄文土器 深鉢	81区B-24'9"ド 胴部片		織物多量、粗砂	胴部にR L縄とL R縄で、縦長な変状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第24回 PL-15	30	縄文土器 深鉢	81区F-25'9"ド 底部片		織物、細砂	矢底となる底部で、底部までR L縄とL R縄による縦長な変状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第24回 PL-15	31	縄文土器 深鉢	81区G-24'9"ド 底部片		織物	矢底となる底部で、底部までR L縄とL R縄による縦長な変状構成となる縄文が施される。	花積下層1式

## 第2章 上原1遺跡

採 掘 PL.No.	No.	種 類 種 別	出土位置 残 存 率	計測値(m・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第250 PL.15	32	縄文土器 深鉢	91区F-2ナリド 底部片		繊維、細砂	尖底となる底部で、底部付近にO段多条のR.L縄とO段多条のL.R縄で縦位回転の縄文が施される。内面に灰化物が僅かに残存。	花積下層1式
第250 PL.15	33	縄文土器 深鉢	91区E-2ナリド 製部片		繊維多量	胴部下平にO段多条のR.L縄で、異方向回転による縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第250 PL.16	34	縄文土器 深鉢	81区F-25ナリド 製部片		繊維、細砂	胴部にO段多条のR.L縄で、異方向回転による縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第250 PL.16	35	縄文土器 深鉢	81区E-23ナリド 製部片		繊維多量	胴部にR.L縄で、異方向回転による縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第250 PL.16	36	縄文土器 深鉢	81区E-24ナリド 製部片		繊維多量、細砂	胴部にO段多条のR.L縄で、異方向回転による縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第250 PL.16	37	縄文土器 深鉢	91区表採 製部片		繊維、細砂	胴部にO段多条のR.L縄で、異方向回転による縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第250 PL.16	38	縄文土器 深鉢	81区F-25ナリド 製部片		繊維多量、粗砂	胴部下平にR.L縄で、異方向回転による縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第250 PL.16	39	縄文土器 深鉢	81区E-24ナリド 製部片		繊維	胴部下平にR.L縄で、異方向回転による縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第250 PL.16	40	縄文土器 深鉢	81区E-24ナリド 製部片		繊維、細砂	19-21・42と同一個体。胴部に細い2種類の2本組縄(L・L縄とR・R縄)による回転路条体で、縦長な菱状構成に施される。	花積下層1式
第250 PL.16	41	縄文土器 深鉢	91区I-3ナリド 製部片		繊維、細砂	胴部下平にO段多条のR.L縄で、異方向回転による縦長な菱状構成となる縄文が施される。	花積下層1式
第250 PL.16	42	縄文土器 深鉢	81区E-24ナリド 製部片		繊維、細砂	19-21・40と同一個体。胴部に細い2種類の2本組縄(L・L縄とR・R縄)による回転路条体で、縦長な菱状構成に施される。	花積下層1式
第250 PL.16	43	縄文土器 深鉢	81区F-25ナリド 製部片		繊維多量、細砂	胴部にO段多条のR.L縄とO段多条のL.R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第250 PL.16	44	縄文土器 深鉢	81区E-24ナリド 製部片		繊維多量、細砂	胴部にR.L縄とL.R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第250 PL.16	45	縄文土器 深鉢	81区E-25ナリド 製部片		繊維多量、細砂	胴部にR.L縄とL.R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第250 PL.16	46	縄文土器 深鉢	91区F-2ナリド 製部片		繊維、細砂	胴部にR.L縄とL.R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第250 PL.16	47	縄文土器 深鉢	91区E-3ナリド 製部片		繊維多量、細砂	胴部にR.L縄とL.R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。また、内面には横位の整形痕が残る。	花積下層1式
第250 PL.16	48	縄文土器 深鉢	81区E-1-25ナリド 製部片		繊維、細砂	胴部にR.L縄とL.R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	花積下層1式
第250 PL.16	49	縄文土器 深鉢	81区E-25ナリド 製部片		繊維、細砂	胴部にR.L縄とL.R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。また、内面には指頭状の凹凸がみられる。	花積下層1式
第250 PL.16	50	縄文土器 深鉢	81区F-25、91区 F-1ナリド 製部片		繊維、細砂	胴部にR.L縄とL.R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。また、内面には指頭状の凹凸がみられ、横位の整形痕が顕著。	花積下層1式
第250 PL.16	51	縄文土器 深鉢	81区E-24ナリド 製部片		繊維	胴部にR.L縄とL.R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。原体端部は、結節処理。	花積下層1式
第250 PL.16	52	縄文土器 深鉢	91区E-4ナリド 製部片		繊維、細砂	胴部にR.L縄とL.R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。原体端部は、結節処理。	花積下層1式
第250 PL.16	53	縄文土器 深鉢	81区E-24ナリド 製部片		繊維、細砂	54と同一個体。胴部に細い2種類の2本組縄(L・L縄とR・R縄)による回転路条体で、横位の羽状縄文が施され、原体の端部処理が明瞭。	花積下層1式
第250 PL.16	54	縄文土器 深鉢	81区E-24ナリド 製部片		繊維、細砂	53と同一個体。胴部に細い2種類の2本組縄(L・L縄とR・R縄)による回転路条体で、横位の羽状縄文が施され、原体の端部処理が明瞭。	花積下層1式
第250 PL.16	55	縄文土器 深鉢	81区E-24ナリド 製部片		繊維	56と同一個体。胴部に細い2種類の2本組縄(L・L縄とR・R縄)による回転路条体で、横位の羽状縄文が施される。原体の端部処理が明瞭。	花積下層1式
第250 PL.16	56	縄文土器 深鉢	81区F-25ナリド 製部片		繊維	55と同一個体。胴部に細い2種類の2本組縄(L・L縄とR・R縄)による回転路条体で、横位の羽状縄文が施される。原体の端部処理が明瞭。	花積下層1式
第250 PL.16	57	縄文土器 深鉢	81区F-25ナリド 製部片		繊維多量、細砂	胴部にR.L縄とL.R縄で、縦位回転による縦位羽状縄文が施される。	花積下層1式
第250 PL.16	58	縄文土器 深鉢	81区E-24ナリド 製部片		繊維多量	胴部にO段多条のR.L縄による横位回転の縄文が施される。	花積下層1式
第250 PL.16	59	縄文土器 深鉢	81区E-25ナリド 製部片		繊維多量、細砂	胴部にR.L縄で、横位回転による縄文が施される。	花積下層1式
第250 PL.16	60	縄文土器 深鉢	91区E-3ナリド 製部片		繊維、細砂	胴部にL.R縄の縄文が施される。	花積下層1式
第250 PL.16	61	縄文土器 深鉢	81区F-25ナリド 製部片		繊維多量	胴部にR.L縄による横位回転の縄文が施される。	花積下層1式
第250 PL.16	62	縄文土器 深鉢	81区E-18ナリド 製部片		繊維、細砂	尖底部付近となる胴部下端に、R.L縄で斜位回転による縦走縄文が施される。	花積下層1式
第250 PL.16	63	縄文土器 深鉢	81区E-25ナリド 製部片		繊維、粗砂	尖底部付近となる胴部下端に、R.L縄で斜位回転による縦走縄文が施される。	花積下層1式

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値(m・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第258号 PL.16	64	縄文土器 深鉢	91区I-3ナリナド 製部片			織維、粗砂、小礫 尖底部付近となる側部下端に、R L縄で縦位さまざまな斜 縄文が施される。また、内面には指頭状の浅い凹凸が 残る。	花積下層1式
第268号 PL.65	65	縄文土器 深鉢	81区H-29ナリナド 口縁部片			織維、細砂 小波状口縁の口縁下に細い隆帯を2条並らせ、口縁部 文様に斜位の沈線を施す。	塚田式か
第268号 PL.66	66	縄文土器 深鉢	81区G-25ナリナド 口縁部片			織維 波頂部を欠くが、小波状口縁の波頂下に短い隆帯を垂 下させ、口縁下に低い隆帯を並らせで縦位段状とする。 口縁下にL R縄が施される。また、内面には横位の整 形痕が残る。	塚田式
第268号 PL.66	67	縄文土器 深鉢	81区G-24ナリナド 口縁部片			織維多量、細砂 68・71と同一個体。小波状口縁の波頂下に短い隆帯を 垂下させ、口縁下に隆帯を並らせ、口縁下にO段多 条のR L縄を横位施文する。以下の胴部には、同様のO段 多条のR L縄とO段多条のL R縄で、横位回転による 羽状縄文が施される。原体端部は、結節処理。	塚田式
第268号 PL.68	68	縄文土器 深鉢	81区G-24ナリナド 口縁部片			織維多量、細砂 67・71と同一個体。小波状口縁の波頂下に短い隆帯を 垂下させ、口縁下に隆帯を並らせ、口縁下にO段多 条のL R縄を横位施文する。以下の胴部には、同様のO段 多条のL R縄で、横位に縄文が施される。原体端部は、 結節処理。	塚田式
第268号 PL.69	69	縄文土器 深鉢	81区F-25ナリナド 口縁部片			織維、細砂 小波状口縁の波頂下に短い隆帯を垂下させ、口縁下 には厚りさまざまな縦位段をもち、口縁下にL R縄の縄文が 横位に施される。	塚田式
第268号 PL.16	70	縄文土器 深鉢	81区G-25ナリナド 口縁部片			織維、粗砂 小波状口縁の波頂下に短い隆帯を垂下させ、口縁下に L R縄が横位に施される。また、内面には指頭状の浅い 凹凸が残る。	塚田式
第268号 PL.16	71	縄文土器 深鉢	81区G-24ナリナド 口縁部片			織維多量、細砂 67・68と同一個体。小波状口縁の波頂下に短い隆帯を 垂下させ、口縁下に隆帯を並らせ、口縁下にO段多 条のR L縄を横位施文する。以下の胴部には、同様のO段 多条のR L縄とO段多条のL R縄で、横位回転による 羽状縄文が施される。原体端部は、結節処理。	塚田式
第268号 PL.72	72	縄文土器 深鉢	81区H-29ナリナド 口縁部片			織維、細砂 平口縁の口縁下に幅広くやや厚りした縦位段をもち、 口縁以下にL R縄の縄文が横位に施される。	中道式
第268号 PL.16	73	縄文土器 深鉢	81区G-24ナリナド 口縁部片			織維、細砂 平口縁なしし波状口縁の口縁直下に2本の刻みをもつ 細い隆帯を並らせ、口縁部文様体内に刺切文を横位ハ 字状に充填する。	ニツ木式
第268号 PL.16	74	縄文土器 深鉢	81区G-25ナリナド 口縁部片			織維 口唇部を欠くが、口縁直下に刻みをもつ細い隆帯を並 らせ、口縁部文様体内に刺切文を横位ハ字状に充填す る。	ニツ木式
第268号 PL.16	75	縄文土器 深鉢	81区R・1-25ナリナド 頸部片			織維、細砂 口縁部文様に2本組の刻み隆帯で横手状の主文様を描 き、主文様間に刺切文を横位ハ字状に充填する。	ニツ木式
第268号 PL.76	76	縄文土器 深鉢	81区F-25ナリナド 口縁部片			織維、細砂 平口縁の口唇部に円形竹管刺突を施し、口唇から隆帯 を垂下させ、隆帯上に円形竹管刺突を施す。口縁下 にはL R縄の結節縄文を横位回転で施す。また、内面 には横位の整形痕が残る。	ニツ木式?
第268号 PL.16	77	縄文土器 深鉢	81区G-17ナリナド 口縁部片			織維、細砂 78・80と同一個体。平口縁の口縁下にR L縄とL R 縄で、横位の結束羽状縄文が施される。また、内面 には横位の整形痕が残る。	ニツ木式
第268号 PL.17	78	縄文土器 深鉢	81区F-25ナリナド 口縁部片			織維、細砂 77・79・80と同一個体。平口縁の口縁下にR L縄とL R 縄で、横位の結束羽状縄文が施される。また、内面 には横位の整形痕が残る。	ニツ木式
第268号 PL.17	79	縄文土器 深鉢	81区F-25ナリナド 胴部片			織維、細砂 77・78・80と同一個体。胴部にR L縄とL R縄で、横 位の結束羽状縄文が施される。また、内面は凹凸をもち、 横位の整形痕が残る。	ニツ木式
第268号 PL.17	80	縄文土器 深鉢	81区G-17ナリナド 胴部片			織維、細砂 77・79と同一個体。胴部にR L縄とL R縄で、横位 の結束羽状縄文が施される。また、内面は凹凸をもち、 横位の整形痕が残る。	ニツ木式
第268号 PL.17	81	縄文土器 深鉢	91区G-2ナリナド 胴部片			織維、粗砂 82と同一個体。口縁部文様に帯条断面状で横手状等 の主文様を描き、口縁部文様帯下端に2本の刻み隆帯 を並らせで文様帯内側し、帯の隆帯間に帯条断面状 を並らせる。以下の胴部には、O段多条のR L縄とO 段多条のL R縄で、横位回転による羽状縄文が施され る。	ニツ木式
第268号 PL.17	82	縄文土器 深鉢	91区G-3ナリナド 胴部片			織維、粗砂 81と同一個体。胴部にO段多条のR L縄とO段多条の L R縄で、横位回転による羽状縄文が施される。	ニツ木式
第268号 PL.17	83	縄文土器 深鉢	81区F-25ナリナド 胴部片			織維 胴部にR L縄とL R縄によるやや幅狭な結束羽状縄文 が施される。原体の両端は、結節処理。また、内面 には横位の整形痕が残る。	ニツ木式?
第268号 PL.17	84	縄文土器 深鉢	91区表探 胴部片			織維、細砂多量 胴部にR L縄とL R縄で、横位の結束羽状縄文が施さ れる。	ニツ木式
第268号 PL.17	85	縄文土器 深鉢	91区表探 胴部片			織維、細砂多量 胴部にR L縄とL R縄で、横位の結束羽状縄文が施さ れる。また、内面には横位の整形痕が残る。	ニツ木式

## 第2章 上原1遺跡

採掘 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(m・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第269区 PL-17	86	縄文土器 深鉢	81区F-25 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 口縁部片		織線、細砂	波状口縁の口唇部に半載竹管による爪形刺突をもち、口縁下は肥厚さみで、頸部が段状に屈曲し、屈曲部に半載竹管による爪形刺突が認められる。また、内面には横位の整形痕が顕著。なお、胴部の器厚は4mmとかなり薄い。	布目式か
第269区 PL-17	87	縄文土器 深鉢	81区F-25、91区 F-1 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 頸~胴部片		織線少、細砂多	頸部下が段状に屈曲し、屈曲部に爪形刺突をもち、頸部から胴部には、原形幅の縦・R L繩の縄文が施される。	布目式か
第279区 PL-17	88	縄文土器 深鉢	81区G-24 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 口縁部片		織線、粗砂	89~92と同一個体。波状口縁の口縁直下に刻みを施し、口縁部文様部に刻みをもつ半載竹管による平行沈線で垂線状(半円状)の文様を描き、文様間に凹形刺突を充填させる。さらに、口縁部文様の下部を刻みをもつ半載竹管による平行沈線を2条添らせて文様帯区画し、以下の胴部にL R繩の結節縄文を横位に施す。	岡山1式
第279区 PL-17	89	縄文土器 深鉢	81区G-24 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 口縁部片		織線、粗砂	88・90~92と同一個体。口縁部文様の文様間に凹形刺突を充填させ、口縁部文様の下部を刻みをもつ半載竹管による平行沈線を2条添らせて文様帯区画する。	岡山1式
第279区 PL-17	90	縄文土器 深鉢	81区G-25 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 胴部片		織線、粗砂	88・89・91・92と同一個体。口縁部文様の下部を刻みをもつ半載竹管による平行沈線を添らせて文様帯区画し、以下の胴部にL R繩の結節縄文を横位に施す。	岡山1式
第279区 PL-17	91	縄文土器 深鉢	81区F-25 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 胴部片		織線、粗砂	88~90と同一個体。大きく湾曲する胴部に、L R繩の結節縄文を横位に施す。	岡山1式
第279区 PL-17	92	縄文土器 深鉢	81区G-24・25 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 胴部片		織線、粗砂	88~91と同一個体。胴部下平に、L R繩の結節縄文を横位に施す。	岡山1式
第279区 PL-17	93	縄文土器 深鉢	81区F-6-25 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 胴部片		織線、細砂	胴部に0段多条のR L閉端環付縄と0段多条のL R閉端環付縄で、幅広い横位羽状縄文が施される。	岡山1式
第279区 PL-17	94	縄文土器 深鉢	81区G-24 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 胴部片		織線、細砂	胴部に0段多条のR L閉端環付縄と0段多条のL R閉端環付縄で、やや幅広い横位羽状縄文が施される。	岡山1式
第279区 PL-17	95	縄文土器 深鉢	81区G-25 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 胴部片		織線、細砂	胴部に0段多条のR L閉端環付縄と0段多条のL R閉端環付縄で、やや幅広い横位羽状縄文が施される。	岡山1式
第279区 PL-17	96	縄文土器 深鉢	81区G-24 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 胴部片		織線、細砂	胴部に0段多条のR L閉端環付縄と0段多条のL R閉端環付縄で、やや幅広い横位羽状縄文が施される。	岡山1式
第279区 PL-17	97	縄文土器 深鉢	81区G-24 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 胴部片		織線、細砂	胴部に0段多条のL R繩で、横位の幅広い縄文が施される。	岡山1式
第279区 PL-17	98	縄文土器 深鉢	81区F-25 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 胴部片		織線多量、細砂	胴部下平に軟軸絡糸体?を縦位に回転施す。また、内面には斜位の整形痕が顕著。	不明
第279区 PL-17	99	縄文土器 深鉢	81区H-24 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 底部片		織線多量、小礫	平底となる底部で、胴部下腹にR L繩を横位に施し、底面に剛代直状の痕跡を残す。	不明
第279区 PL-17	100	縄文土器 深鉢	91区G-3 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 胴部片		細砂	波状の口縁が朝顔状に深く深く、地にL Rの縄文を施し、波直下に細い半載竹管による平行沈線を垂下させて輪線とし、菱状の文様を描く。菱中央には、米字状の文様を加える。	諸磯a式
第279区 PL-17	101	縄文土器 深鉢	91区V-11 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 頸部片		細砂	頸部に結節沈線で渦巻き状の文様を施す。	諸磯c式
第279区 PL-17	102	縄文土器 深鉢	91区表採 胴部片		粗砂	胴部に半載竹管による断面D字状の沈線を同心円状に描き、その隙間に弧状の印刻を施す。	諸磯c式
第279区 PL-17	103	縄文土器 深鉢	91区I-4 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 胴部片		細砂	胴部文様には結節沈線を横位に施す。地文にL Rの縄文を施す。	十三宮様式
第279区 PL-17	104	縄文土器 深鉢	81区G-24 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 頸部片		粗砂	朝顔状となる頸部に、半載竹管による渦巻きをもつ沈線で文様を描き、その下端を沈線を添らせて文様帯区画する。	前期未葉か
第279区 PL-17	105	縄文土器 深鉢	91区F-1 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 胴部片		織線	大きく屈曲する胴部にR L繩と0段多条のL R繩で、横位回転による羽状縄文が施される。	前期前葉か
第279区 PL-17	106	縄文土器 深鉢	81区G-23・24 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 胴部片		織線少、細砂多	胴部にL R繩とR L繩で、横位回転によるやや幅狭な羽状縄文が施される。	前期前葉か
第279区 PL-17	107	縄文土器 深鉢	91区F-1 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 胴部片		細砂	胴部に細い隆帯で渦巻き状の文様を施す。	中期中葉か
第279区 PL-17	108	縄文土器 深鉢	81区F-25 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 胴部片		粗砂	爪状の連続刺突を横位に施す。	中期中葉か
第279区 PL-17	109	縄文土器 深鉢	91区E-2 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 胴部片		粗砂	胴部に沈線が通る。	阿玉台式か
第279区 PL-17	110	縄文土器 深鉢	81区F-25 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 胴部片		粗砂	胴部に連続部をもつ2本の隆帯を垂下させ、縦位の絨毛状沈線を施す。	橋倉式
第279区 PL-17	111	縄文土器 深鉢	91区表採 胴部片		粗砂	胴部に隆帯を垂下させ、縦位の絨毛状沈線を施す。	橋倉式
第279区 PL-17	112	縄文土器 深鉢	91区表採 口縁部片		粗砂、小礫	半口縁の口縁下に沈線と隆帯で楕円等の文様を区画し、区内に条線を縦位に施す。	加曾利E式
第279区 PL-17	113	縄文土器 深鉢	81区H-25 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 胴部片		粗砂	胴部に沈線で無文を垂下させ、その間にR L繩を縦位に充填する。	加曾利E式
第279区 PL-17	114	縄文土器 深鉢	91区V-13 <sup>9</sup> 9 <sup>+</sup> 9 <sup>+</sup> 胴部片		粗砂	胴部に蛇行隆帯を垂下させ、その間に細い斜行沈線を施す。	中期後半



採 掘 PL.No.	No.	種 類 種 別	出 上 位 置 残 存 率	計測値(m・g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第2786 PL.17	115	縄文土器 深鉢	91区F・G・2ヶ9 ナド 製部片			粗砂	胴部に2条の隆帯で曲線的な文様を描き、文様内に縄文を施す。	加賀利E式
第2789 PL.17	116	縄文土器 深鉢	81区G-25ヶ9ナド 製部片			粗砂	湾曲する胴部に沈線で渦巻状の文様を描き、文様間にL R縄の縄文を充填する。	加賀利E式
第2790 PL.17	117	縄文土器 深鉢	91区F・G・2ヶ9 ナド 口縁部片			粗砂	朝顔状に開く平口縁の口唇部に沈線が走り、口縁下が無紋となる。	称名寺式
第2796 PL.17	118	弥生土器 費か	91区V-11ヶ9ナド 口縁部片			粗砂	平口縁の頸部下に3条の沈線が走る。	弥生中期
第2798 PL.17	119	弥生土器 小型費か	91区X-12ヶ9ナド 製部片			粗砂	頸部から胴部の屈曲部にかけて、沈線で変形上字文等の文様を描く。表面には、赤色塗彩が施される。	弥生中期
第2798 PL.17	120	弥生土器 費か	91区W-11ヶ9ナド 製部片			粗砂	胴部に斜位ないし縦位の条線を施す。	弥生中期
第2798 PL.17	121	弥生土器 費か	91区E・F・1・ 2ヶ9ナド 製部片			粗砂	胴部に浅い条痕が斜位に施される。	弥生中期か
第2798 PL.17	122	弥生土器 費か	91区X-12ヶ9ナド 製部片			粗砂	胴部下半に斜位の条線を浅く施す。	弥生中期
第2798 PL.17	123	弥生土器 費か	81区F-25ヶ9ナド 底部片			粗砂	平底の底面に朝代直をもつ。	弥生中期か
第2895 PL.18	124	割片石器 石碗	81区F-25ヶ9ナド 完形	長1.6 幅1.2	厚0.4 重0.6	玉髓	小型の凹基無茎碗。表裏面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の扱りはやや浅い。	
第2895 PL.18	125	割片石器 石碗	91区G-3ヶ9ナド 完形	長1.8 幅1.3	厚0.4 重0.6	黒曜石	小型の凹基無茎碗。表裏面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の扱りは浅い。	
第2895 PL.18	126	割片石器 石碗	81区E-24ヶ9ナド 一部欠	長(1.2) 幅(1.2)	厚0.2 重0.2	玉髓	先端と左脚端部を僅かに欠く、小型の凹基無茎碗。表裏面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の扱りは逆V字状に深い。	
第2895 PL.18	127	割片石器 石碗	91区G-4ヶ9ナド 僅欠	長(1.7) 幅(1.2)	厚0.4 重0.5	黒曜石	左脚端部を僅かに欠く、小型の凹基無茎碗。表裏面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の扱りは深い。	
第2895 PL.18	128	割片石器 石碗	81区H-25ヶ9ナド 僅欠	長(1.6) 幅1.6	厚0.3 重0.5	黒曜石	先端部を僅かに欠く、小型の凹基無茎碗。表裏面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の扱りは深い。	
第2895 PL.18	129	割片石器 石碗	81区E-24ヶ9ナド 完形	長1.9 幅0.3	厚0.4 重0.6	チャート	小型の凹基無茎碗。表裏面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の扱りは浅い。	
第2895 PL.18	130	割片石器 石碗	91区F-2ヶ9ナド 完形	長2.0 幅1.3	厚0.4 重0.7	玉髓	凹基無茎碗。表裏面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の扱りは深い。	
第2895 PL.18	131	割片石器 石碗	91区表採 僅欠	長(1.9) 幅(1.5)	厚0.3 重0.8	黒色頁岩	左脚端部を僅かに欠く、小型の凹基無茎碗。表裏面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の扱りは浅い。	
第2895 PL.18	132	割片石器 石碗	91区J-5ヶ9ナド 僅欠	長(2.1) 幅(1.5)	厚0.4 重1.1	玉髓	右脚端部を僅かに欠く凹基無茎碗。表裏面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の扱りは浅く、平基に近い。	
第2895 PL.18	133	割片石器 石碗	91区表採 完形	長2.5 幅1.6	厚0.4 重1.4	頁岩	凹基無茎碗。表裏面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の扱りは浅く、平基に近い。	
第2895 PL.18	134	割片石器 石碗	91区表採 完形	長2.3 幅1.8	厚0.5 重1.3	玉髓	凹基無茎碗。表裏面共に丁寧な押圧調整が施されるが、右無縁は未調整。凹基の扱りは浅く、平基に近い。	
第2895 PL.18	135	割片石器 石碗	81区G-24ヶ9ナド 完形	長2.6 幅1.4	厚0.2 重0.9	珪質変質岩(流紋 岩質凝灰岩)	凹基無茎碗。表裏の中央に大きな凹面を残し、器体の周縁に丁寧な調整が施される。凹基の扱りは浅い。	
第2895 PL.18	136	割片石器 石碗	81区E-3ヶ9ナド 僅欠	長(2.0) 幅(1.7)	厚0.4 重0.8	黒曜石	右脚端部を僅かに欠く凹基無茎碗。表裏面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の扱りは深い。	
第2895 PL.18	137	割片石器 石碗	91区G-3ヶ9ナド 僅欠	長2.3 幅2.1	厚0.4 重1.0	黒曜石	右脚端部を僅かに欠く凹基無茎碗。表裏面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の扱りは逆V字状に深い。	
第2895 PL.18	138	割片石器 石碗	91区E-4ヶ9ナド 僅欠	長2.6 幅(1.7)	厚0.5 重1.6	頁岩	左脚端部を僅かに欠く凹基無茎碗。表裏面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の扱りは浅い。	
第2895 PL.18	139	割片石器 石碗	91区E-4ヶ9ナド 右脚欠	長(2.5) 幅(1.4)	厚0.5 重1.6	玉髓	右脚部を欠く凹基無茎碗。表裏面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の扱りは深い。	
第2895 PL.18	140	割片石器 石碗	91区G-2ヶ9ナド 基部欠	長(3.1) 幅1.8	厚0.4 重1.4	黒曜石	基部の左側を欠く、やや大型の凹基無茎碗。表裏面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の扱りは浅い。	
第2895 PL.18	141	割片石器 石碗	91区G-3ヶ9ナド 僅欠	長2.6 幅(1.7)	厚1.0 重3.1	黒曜石	左脚端部を僅かに欠く凹基無茎碗。表裏面共に丁寧な押圧調整が施される。凹基の扱りはやや浅い。	
第2895 PL.18	142	割片石器 石碗	81区H-25ヶ9ナド 僅欠	長3.0 幅2.7	厚0.8 重7.2	珪質変質岩(流紋 岩質凝灰岩)	先端部を僅かに欠く凹基無茎碗。表裏面共に丁寧な押圧調整が施されるが、内面に節理面を残す。凹基の扱りはやや浅い。厚みがあること、調整が浅いことから、未製品の可能性もある。	
第2895 PL.18	143	割片石器 石碗	81区H-24ヶ9ナド 下半欠	長(1.8) 幅(1.3)	厚0.3 重0.7		下半の基部を欠く、表裏面共に丁寧な押圧調整が施される。	
第2895 PL.18	144	割片石器 石碗	81区G-25ヶ9ナド 上半欠	長(2.7) 幅2.7	厚0.8 重5.8	黒色頁岩	大型の平基無茎碗。表裏面共に丁寧な調整が施され、特に表面が丁寧。表面には主要調整面が大きく残る。	
第2895 PL.18	145	割片石器 石碗	91区G-3ヶ9ナド 僅欠	長1.9 幅(1.4)	厚0.4 重0.8	黒曜石	右脚端部を僅かに欠く、基部が凹基状となる小型の無茎碗。表裏面共に丁寧な調整が施される。	
第2895 PL.18	146	割片石器 石碗	81区E-24ヶ9ナド 僅欠	長3.0 幅1.0	厚0.5 重1.5	チャート	上下端を僅かに欠き、棒状で下端となる先端部が細くなる。周縁に浅い調整が施され、先端部ほど丁寧。	

第2章 上原1遺跡

採掘 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値(m・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
2909PL-18	147	割片石 石	91区F-379d 完形	長2.7 幅1.0 厚0.7 重1.8	玉髄	棒状で下端となる先端部が細くなる。周縁に浅い押圧調整が施される。	
2909PL-18	148	割片石 石	91区G-479d 完形	長(3.2) 幅1.1 厚1.9	黒曜石	下端を僅かに欠き、棒状で下端となる先端部が細くなる。周縁に浅い押圧調整が施される。	
2909PL-18	149	割片石 石	91区I-479d 完形	長3.3 幅1.2 厚0.6 重2.2	黒色頁岩	棒状で下端となる先端部が細くなる。周縁に浅い押圧調整が施される。	
2909PL-150	150	割片石 石	81区H-2479d 残欠	長(3.3) 幅1.3 厚0.6 重1.9	珉質変質岩(流紋 岩質凝灰岩)	上端を僅かに欠き、やや幅広い棒状で下端となる先端部が細くなる。周縁に浅い押圧調整が施され、先端部は丁寧に削られる。	
2909PL-151	151	割片石 石	81区G-2579d 完形	長2.5 幅1.4 厚0.6 重1.7	チャート	上半が幅広く、下半の先端部が細くなる。周縁に浅い押圧調整が施され、先端部は丁寧に削られる。	
2909PL-152	152	割片石 石	81区F-2579d 完形	長3.4 幅1.6 厚1.2 重3.4	玉髄	左側縁上部に節理面を残す。棒状で下端の先端部が細くなる。周縁に浅い押圧調整が施され、下部は丁寧に削られる。	
2909PL-153	153	割片石 石	91区H-179d 完形	長4.4 幅2.2 厚0.8 重6.7	黒色頁岩	逆二等辺三角形様で、下端の先端部が細くなる。周縁に浅い押圧調整が施され、表面および下部は丁寧に削られる。裏面中央に主要節理面を残す。	
2909PL-154	154	割片石 石	81区H-2479d 完形	長4.0 幅3.3 厚1.6 重15.2	玉髄	上端および両側縁に節理面を残す。棒状で下部の先端部が細くなる。下部の表面に先端部作りのための押圧調整が施される。	
2909PL-155	155	割片石 石	81区H-2479d 先端欠	長(2.7) 幅1.9 厚0.7 重4.2	チャート	下半の先端部を欠く。上半の裏面中央には主要節理面を残し、表裏面の周縁から押圧調整が施される。	
2909PL-156	156	割片石 石	81区H-2579d 先端欠	長(1.9) 幅(2.5) 厚0.7 重3.1	玉髄	上端と下半の先端部を欠く。上半の表面中央には節理面を残し、表裏面の周縁から押圧調整が施される。	
2909PL-157	157	割片石 石	81区H-2479d 完形	長3.4 幅4.7 厚0.7 重7.8	黒色頁岩	横長な石。上端内側縁の挿入部は節理。表裏面の周縁から押圧調整が施されるが、裏面中央に主要節理面を大きく残す。特に表裏面は丁寧に削られる。	
2909PL-158	158	割片石 石	81区H-2579d 完形	長3.2 幅4.0 厚0.8 重6.5	玉髄	横長な石。上端内側縁の挿入部は節理。表裏面の周縁から押圧調整が施されるが、表面に節理面を僅かに、裏面中央に主要節理面を大きく残す。	
2909PL-159	159	割片石 石	81区H-2579d 完形	長2.7 幅4.8 厚0.8 重5.0	チャート	横長な石。上端内側縁の挿入部は節理。表裏面の周縁から浅い押圧調整がかなり丁寧に施される。	
2909PL-160	160	割片石 石	81区H-2479d 完形	長3.1 幅2.3 厚0.8 重5.4	珉質頁岩	表面に僅かに節理面を残す。表裏面の周縁から押圧調整が施される。対部は右側縁でやや鈍角。	
2909PL-161	161	割片石 石	81区G-2479d 完形	長3.8 幅2.9 厚1.2 重11.7	チャート	表面に大きく節理面を残す。表裏面の周縁から深く丁寧な押圧調整が施される。対部は左側縁で鋭角。	
2909PL-162	162	割片石 石	91区表掘 完形	長4.9 幅4.4 厚1.1 重24.3	頁岩	表面中央に僅かに節理面、裏面中央に主要節理面を残す。表裏面の周縁から浅い押圧調整が施され、特に対部となる右側縁は丁寧に削られる。	
3009PL-163	163	割片石 石	91区F-379d 完形	長3.3 幅7.6 厚1.6 重38.7	珉質頁岩	上端に打面を残す横長割片を素材とし、表裏面の下端および両側縁に押圧調整が施され、特に下部が丁寧に削られる。対部となる下部は鋭角。	
3009PL-164	164	割片石 石	91区G-479d 完形	長4.0 幅7.9 厚1.4 重37.6	黒色頁岩	横長割片を素材とし、表裏面の上下端に押圧調整が施されるが、裏面に主要節理面を大きく残す。対部となる下部は丁寧に削られる。対部となる下部は鋭角。	
3009PL-165	165	割片石 石	91区H-379d 右平欠	長(3.7) 幅(4.6) 厚1.0 重11.1	頁岩	右側縁を欠く。表面の下端に押圧調整が施され、裏面は主要節理面。対部となる下部は鋭角。	
3009PL-166	166	割片石 石	81区G-2479d 完形	長3.7 幅5.4 厚1.3 重23.4	珉質頁岩	上端を打面とした横長割片を素材とし、対部となる下部に押圧調整を集中させる。対部は鈍角気味。	
3009PL-167	167	割片石 石	81区F-2579d 完形	長(2.9) 幅4.3 厚1.0 重11.7	黒色頁岩	小型な方形を呈する。横長割片を縦位に用い、上部は押圧調整前に欠損。表裏面の周縁および下部に押圧調整が施される。対部となる下部は鋭角。	
3009PL-168	168	割片石 石	91区F-379d 完形	長2.9 幅3.0 厚1.1 重8.9	玉髄	小型な方形を呈する。表面の周縁および裏面の下端に押圧調整が施され、表面下部は丁寧に削られる。対部は下部で鋭角。	
3009PL-169	169	割片石 石	91区G-479d 右側欠	長3.8 幅(3.2) 厚1.2 重11.5	流紋岩	右側縁を欠く。表裏面の周縁から押圧調整が施されるが、裏面に大きく主要節理面を残す。対部となる左側縁は丁寧に削られる。対部は鋭角。	
3009PL-170	170	割片石 石	91区E-379d 完形	長5.7 幅1.7 厚1.0 重7.8	黒色頁岩	横長割片を縦位に用い、表面の内側縁および左側縁の裏面に押圧調整が施される。対部となる左側縁は鋭角。	
3009PL-171	171	割片石 石	91区G-279d 完形	長2.8 幅4.2 厚1.1 重10.0	頁岩	素材割片の表面周縁から押圧調整が施され、対部となる下部は丁寧に削られる。対部は鋭角。	
3009PL-172	172	割片石 石	81区G-2479d 完形	長2.2 幅3.1 厚0.7 重5.6	流紋岩	小型な方形を呈する。裏面に大きく節理面を残す。表裏面の周縁から押圧調整が施される。対部は右側縁で鋭角。	
3009PL-173	173	割片石 石	81区H-2579d 完形	長2.6 幅3.2 厚1.6 重11.4	珉質頁岩	小型な方形を呈する。表面の右側に節理面を残す。表面の右側縁および裏面の周縁から押圧調整が施される。対部は右側縁で鋭角。	
3009PL-174	174	割片石 二次加工割片	81区F-2579d 完形	長2.9 幅2.6 厚0.9 重4.2	チャート	小型な縦長割片を素材とし、右側縁に集中して細かな押圧調整が施される。	
3009PL-175	175	割片石 二次加工割片	81区H-2579d 完形	長2.4 幅2.5 厚0.9 重3.1	黒曜石	打面を残す小型割片を素材とし、主要節理面を表面として、下部に細かな押圧調整が施される。	

採掘 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第3008 PL.19	176	割片石器 石匙	81区B-23'9'nd 完形	長 5.6 幅 3.0 厚 1.3 重 24.8	黒色頁岩	小型で、裏面に主要剥離面を大きく残す。剥離は表面を主に裏面にまで及ぶが、表面両縁は特に丁寧。対部となる下端は鋭角気味。	
第3008 PL.19	177	割片石器 石匙	81区C-24'9'nd 完形	長 6.4 幅 3.6 厚 2.0 重 43.6	黒色頁岩	やや小型で、裏面に主要剥離面を大きく残す。剥離は表面を主に裏面にまで及ぶが、表面両縁は特に丁寧。対部となる下端は鋭角。	
第3008 PL.19	178	割片石器 石匙	91区F-2'9'nd 完形	長 6.8 幅 3.6 厚 1.5 重 31.2	玉髄	小型で、表面に自然面、裏面に主要剥離面を大きく残す。剥離は裏面を主に表面にまで及ぶが、裏面下端は特に丁寧。対部となる下端は鋭角気味。	
第3008 PL.19	179	割片石器 打製石斧	91区G-4'9'nd 完形	長 12.6 幅 5.0 厚 3.1 重 276.7	頁岩	断面が四角形の棒状物を素材に、その上下端に剥離調整が施される。対部となる下端には表面から剥離が加えられ、その端部には緩かな剥離を施す。	
第3008 PL.20	180	割片石器 打製石斧	91区G-1'9'nd 完形	長 9.1 幅 5.3 厚 2.0 重 97.0	頁岩	短冊型を呈する。上端に自然面を僅かに残す。剥離は表裏両面の内側縁から粗く、対部となる下端は緩かく施される。	
第3008 PL.20	181	割片石器 打製石斧	91区G-1'9'nd 下端欠	長 (12.0) 幅 (7.0) 厚 2.3 重 145.9	安山岩	下端を欠くが分調型を呈する。内側縁中央が敲打により潰れる。	
第3008 PL.20	182	礫石器 磨製石斧	81区E-24'9'nd 破片	長 (3.5) 幅 (2.5) 厚 (2.0) 重 (13.3)	緑色片岩	磨製石斧の上端付近の破片で、丁寧な研磨が施されている。	
第3101 PL.20	183	礫石器 磨石類	81区B-24'9'nd 完形	長 4.5 幅 3.9 厚 2.9 重 64.5	細粒輝石安山岩	小型礫を素材に、全体に研磨が施され、内側縁の上下端付近に最終的な研磨面をもち、六角形状を呈する。	
第3101 PL.20	184	礫石器 磨石類	91区E-4'9'nd 完形	長 5.8 幅 3.2 厚 2.6 重 75.6	細粒輝石安山岩	小型礫を素材に、全体に研磨が施され、内側縁の上下端付近に最終的な研磨面をもち、六角形状を呈する。	
第3101 PL.20	185	礫石器 磨石類	81区B-25'9'nd 完形	長 5.6 幅 2.4 厚 2.0 重 42.8	細粒輝石安山岩	小型礫を素材に、表面に研磨面をもつ。	
第3101 PL.20	186	礫石器 磨石類	81区C-24'9'nd 完形	長 4.0 幅 4.1 厚 3.5 重 84.8	細粒輝石安山岩	小型の円錐を素材に、全体に研磨が施され、表面が凸状、側縁が平坦となり、裏面は全体凹状となる。	
第3101 PL.20	187	礫石器 磨石類	91区E-4'9'nd 完形	長 4.2 幅 4.1 厚 2.9 重 74.9	細粒輝石安山岩	小型の円錐を素材に、全体に研磨が施される。	
第3101 PL.20	188	礫石器 磨石類	91区E-3'9'nd 完形	長 5.3 幅 4.9 厚 4.2 重 153.6	細粒輝石安山岩	小型の円錐を素材に、全体に研磨が施され、球状に近い。	
第3101 PL.20	189	礫石器 磨石類	81区C-25'9'nd 完形	長 4.8 幅 4.2 厚 2.4 重 72.0	細粒輝石安山岩	小型の円錐を素材に、全体に研磨が施され、やや扁平となる。	
第3101 PL.20	190	礫石器 磨石類	91区表採 完形	長 9.7 幅 8.3 厚 5.6 重 642.3	細粒輝石安山岩	拳大の円錐を素材に、全面に研磨が見える。	
第3101 PL.20	191	礫石器 磨石類	91区G-3'9'nd 完形	長 10.3 幅 9.1 厚 5.7 重 826.3	細粒輝石安山岩	扁平礫を素材に、全体に研磨を施す。表面の剥離は、被熱している。	
第3101 PL.20	192	礫石器 磨石類	91区表採 完形	長 11.6 幅 7.5 厚 4.9 重 681.9	細粒輝石安山岩	やや縦長の扁平礫を素材に、表・裏面に研磨が施され(磨石)、表面に凹部をもつ(凹石)。被熱している。	
第3101 PL.20	193	礫石器 磨石類	81区C-25'9'nd 完形	長 6.8 幅 4.5 厚 3.5 重 156.8	細粒輝石安山岩	拳大の礫を素材に、表・裏・側面の3面に研磨面をもつ。	
第3101 PL.20	194	礫石器 磨石類	91区E-3'9'nd 完形	長 9.4 幅 8.7 厚 3.7 重 483.8	細粒輝石安山岩	拳大の扁平礫を素材に、表裏面に平坦な研磨面をもつ。	
第3101 PL.20	195	礫石器 磨石類	91区E-4'9'nd 完形	長 11.2 幅 5.0 厚 3.2 重 348.8	細粒輝石安山岩	縦長の扁平礫を素材に、表面に研磨面をもつ(磨石)。また、下端左角には、敲打による剥離をもつ(敲石)。	
第3101 PL.20	196	礫石器 磨石類	91区E-3'9'nd 上半欠	長 7.9 幅 8.2 厚 5.4 重 460.3	細粒輝石安山岩	扁平礫を素材に、全体に研磨を施す。表面の剥離は、被熱している。	
第3101 PL.20	197	礫石器 磨石類	91区E-3'9'nd 完形	長 8.5 幅 4.1 厚 3.7 重 182.4	細粒輝石安山岩	縦長の扁平礫を素材に、内側面と裏面に研磨面をもつ(磨石)、剥離面をもつが、敲石は不明。	
第3101 PL.20	198	礫石器 磨石類	81区B-24'9'nd 完形	長 9.5 幅 4.6 厚 3.0 重 201.4	細粒輝石安山岩	縦長の礫を素材に、表・側面に研磨が施される。	
第3201 PL.20	199	礫石器 磨石類	81区E-24'9'nd 一部欠	長 11.8 幅 7.2 厚 4.3 重 489.8	細粒輝石安山岩	扁平礫を素材に、全面に研磨が及ぶが、表・裏・内側面は研磨面が平坦となる(磨石)。また、表裏面に凹部をもつ(凹石)。	
第3201 PL.20	200	礫石器 磨石類	91区表採 完形	長 11.5 幅 6.9 厚 4.3 重 531.8	細粒輝石安山岩	やや縦長の扁平礫を素材に、表面に研磨(磨石)と凹部を連ねる(凹石)。また、下端は、敲打により潰れる(敲石)。被熱している。	
第3201 PL.20	201	礫石器 磨石類	81区C-25'9'nd 完形	長 11.5 幅 6.4 厚 3.8 重 362.4	細粒輝石安山岩	縦長の礫を素材に、表面に研磨が施され(磨石)、表面中央に凹部をもつ(凹石)。	
第3201 PL.20	202	礫石器 磨石類	81区B-25'9'nd 完形	長 8.2 幅 4.8 厚 2.1 重 102.8	細粒輝石安山岩	拳大の扁平礫を素材に、表面に研磨面(磨石)と凹部をもつ(凹石)。	
第3201 PL.20	203	礫石器 磨石類	91区E-3'9'nd 一部欠	長 (9.6) 幅 (8.7) 厚 4.5 重 446.8	細粒輝石安山岩	扁平礫を素材に、表面に研磨面(磨石)と凹部をもつ(凹石)。被熱している。	
第3201 PL.20	204	礫石器 磨石類	81区C-25'9'nd 完形	長 7.0 幅 5.4 厚 2.3 重 125.3	細粒輝石安山岩	拳大の扁平礫を素材に、表面に研磨が施され(磨石)、表面に凹部に凹部をもつ(凹石)。	
第3201 PL.20	205	礫石器 凹石	91区F-3'9'nd ほぼ完形	長 12.6 幅 11.3 厚 5.2 重 1056.1	花園閃緑岩	扁平な円錐を素材に、表面に凹部を連ねる。被熱している。	
第3201 PL.20	206	礫石器 凹石	81区F-25'9'nd 完形	長 10.8 幅 5.1 厚 3.0 重 211.6	細粒輝石安山岩	縦長の扁平礫を素材に、表面の長軸上に凹部を連ねる。	
第3201 PL.20	207	礫石器 磨石類	91区E-3'9'nd 完形	長 11.1 幅 6.2 厚 5.1 重 424.3	細粒輝石安山岩	縦長の礫を素材に、下端は敲打により剥離する。	
第3201 PL.20	208	石製品 玉類	81区C-25'9'nd 埋土 完形	径 2.0 厚 0.5 重 3.3	珉質頁岩	研磨により外形は円形を呈し、その中央に両面穿孔による孔をもつ。孔径0.3cm。	

## 第2章 上原1遺跡

採 掘 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
PL-21	209	割片石器 石鏃	81区G-24? 9?d 横欠	長 2.1 幅 (1.3)	厚 0.4 重 0.8	黒曜石	左側端部を僅かに欠く凹基無芽線。表面面に丁寧な押圧調整が施される。凹基の挟りはやや浅い。
PL-21	210	割片石器 石鏃	81区I-23? 9?d 横欠	長 (1.8) 幅 1.5	厚 0.3 重 0.8	流紋岩	先端部を僅かに欠く凹基無芽線。表面面に丁寧な押圧調整が施される。凹基の挟りは浅い。
PL-21	211	割片石器 石鏃	91区表採 完形	長 2.1 幅 1.5	厚 0.5 重 1.0	黒曜石	凹基無芽線。表面面に丁寧な押圧調整が施される。凹基の挟りは深い。
PL-21	212	割片石器 石鏃	91区J-3? 9?d 横欠	長 1.8 幅 1.5	厚 1.5 重 0.5	黒曜石	先端部を僅かに欠く凹基無芽線。表面面に凹縁のみに押圧調整が施される。凹基の挟りは逆V字状に深い。
PL-21	213	割片石器 石鏃	91区G-1? 9?d 右平欠	長 2.4 幅 (1.6)	厚 0.4 重 1.0	黒曜石	右側端部を欠く凹基無芽線。表面面に丁寧な押圧調整が施される。凹基の挟りは深い。
PL-21	214	割片石器 石鏃	91区G-3? 9?d 左脚欠	長 2.2 幅 (1.5)	厚 0.4 重 0.8	黒曜石	左側端部を欠く凹基無芽線。表面に丁寧な押圧調整を施すが、裏面は基部と左側縁のみ調整。凹基の挟りは浅い。
PL-21	215	割片石器 石鏃	91区G-4? 9?d 左脚欠	長 2.2 幅 (1.5)	厚 0.3 重 0.7	黒曜石	左側端部を欠く凹基無芽線。表面面に丁寧な押圧調整が施される。凹基の挟りは浅い。
PL-21	216	割片石器 石鏃	81区H-25? 9?d 先端欠	長 (1.9) 幅 (1.4)	厚 0.5 重 1.4	黒曜石	先端と両側端部を欠く凹基無芽線。表面面に丁寧な押圧調整が施される。
PL-21	217	割片石器 石鏃	81区G-25? 9?d 左半欠	長 (2.1) 幅 (1.0)	厚 0.5 重 0.9	玉髄	左半を欠く凹基無芽線。表面面に押圧調整が施される。凹基の挟りは深い。
PL-21	218	割片石器 石鏃	91区G-4? 9?d 右半欠	長 (1.5) 幅 (0.7)	厚 (0.4) 重 0.3	黒曜石	先端から右側端にかけてを欠く凹基無芽線。表面を主に押圧調整が施される。
PL-21	219	割片石器 石鏃	81区H-25? 9?d 上半欠	長 (1.7) 幅 1.7	厚 1.0 重 1.0	珪質変質岩(流紋 岩質凝灰岩)	上半の先端部を欠く凹基無芽線。表面面に丁寧な押圧調整が施される。凹基の挟りは浅い。
PL-21	220	割片石器 石鏃	91区G-4? 9?d 先端欠	長 (1.7) 幅 1.9	厚 0.4 重 1.2	玉髄	先端部を欠く凹基無芽線。表面面に丁寧な押圧調整が施される。凹基の挟りは深い。
PL-21	221	割片石器 石鏃	91区G-4? 9?d 横欠	長 2.1 幅 (1.6)	厚 0.4 重 1.2	黒曜石	右側端部を僅かに欠く凹基無芽線。表面面に丁寧な押圧調整が施される。凹基の挟りは浅い。
PL-21	222	割片石器 石鏃	91区表採 先端欠	長 (1.5) 幅 1.3	厚 0.5 重 1.0	黒曜石	先端部を欠く小型の凹基無芽線。表面面に押圧調整が施される。凹基の挟りは浅い。
PL-21	223	割片石器 石鏃	81区G-24? 9?d 上半欠	長 (1.2) 幅 1.8	厚 0.4 重 0.8	黒曜石	上半の先端部を欠く凹基無芽線。表面面に丁寧な押圧調整が施される。凹基の挟りは浅い。
PL-21	224	割片石器 石鏃	81区H-24? 9?d 上半欠	長 (1.2) 幅 1.5	厚 0.3 重 0.6	黒曜石	上半の先端部を欠く凹基無芽線。表面面に押圧調整が施され、特に表面が丁寧。裏面には主要調整面が大きく残る。凹基の挟りは浅い。
PL-21	225	割片石器 石鏃	81区G-24? 9?d 上半欠	長 (1.0) 幅 (1.5)	厚 0.4 重 0.7	黒曜石	上半の先端部を欠く凹基無芽線。表面面に丁寧な押圧調整が施される。凹基の挟りは浅い。
PL-21	226	割片石器 石鏃	91区F-3? 9?d 先端欠	長 (1.6) 幅 1.9	厚 0.4 重 1.2	黒曜石	先端部を欠く凹基無芽線。表面面に丁寧な押圧調整が施される。凹基の挟りは浅く、平基に近い。
PL-21	227	割片石器 石鏃	91区G-4? 9?d 先端欠	長 (1.4) 幅 1.7	厚 0.3 重 0.7	黒曜石	先端部を欠く、基部が凹弧状となる無芽線。表面面に丁寧な押圧調整が施される。
PL-21	228	割片石器 石鏃	91区G-3? 9?d 先端欠	長 (1.9) 幅 1.9	厚 0.6 重 2.1	黒曜石	先端部を欠く平基無芽線。表面面に丁寧な押圧調整が施される。基部は平らとなる。
PL-21	229	割片石器 石鏃	91区I-3? 9?d 右脚欠	長 1.8 幅 (1.7)	厚 0.3 重 0.7	チャート	右側端部を欠く凹基無芽線。表面面に丁寧な押圧調整が施される。脚部は長く、凹基の挟りは逆V字状。
PL-21	230	割片石器 石鏃	81区G-25? 9?d 右半欠	長 3.0 幅 (1.4)	厚 0.9 重 2.5	珪質変質岩(流紋 岩質凝灰岩)	右半を欠く平基無芽線。表面面に押圧調整が施される。基部は平らとなる。
PL-21	231	割片石器 石鏃	91区G-4? 9?d 横欠	長 (2.2) 幅 (1.5)	厚 0.5 重 1.9	玉髄	先端と両側端部を僅かに欠く凹基無芽線。表面面に丁寧な押圧調整が施される。凹基の挟りは深い?。
PL-21	232	割片石器 石鏃	81区G-25? 9?d 完形	長 2.1 幅 1.3	厚 0.4 重 0.8	珪質変質岩(流紋 岩質凝灰岩)	凹基無芽線。表面面に丁寧な押圧調整が施される。凹基の挟りはかなり浅く、平基無芽線に近い。
PL-21	233	割片石器 石鏃	91区G-4? 9?d 先端欠	長 (1.8) 幅 1.8	厚 0.5 重 1.6	黒曜石	先端部を欠く平基無芽線。表面面に押圧調整を施すが、全体的に調整が甘く、未製品の可能性あり。
PL-21	234	割片石器 石鏃	81区H-25? 9?d 基部左平	長 (1.8) 幅 (1.5)	厚 (0.8) 重 1.3	珪質頁岩	平基無芽線の左脚部。表面面に押圧調整が施される。
PL-21	235	割片石器 石鏃	81区H-25? 9?d 完形	長 1.9 幅 1.2	厚 0.4 重 0.8	珪質頁岩	基部が凹弧状となる小型の無芽線。表面面の凹縁のみに押圧調整が施される。
PL-21	236	割片石器 石鏃	81区H-25? 9?d 完形	長 2.5 幅 1.3	厚 0.4 重 1.0	玉髄	基部が凹弧状となる無芽線。表面面に押圧調整が施すが、表面が丁寧。裏面に主要調整面を残す。
PL-21	237	割片石器 石鏃	91区I-3? 9?d 先端部	長 (1.3) 幅 (1.0)	厚 (0.3) 重 0.3	黒曜石	石鏃の先端部。表面面に丁寧な押圧調整が施される。
PL-21	238	割片石器 石鏃	91区F-3? 9?d 下半欠	長 (1.6) 幅 (1.4)	厚 (0.4) 重 0.6	黒曜石	下半を欠く石鏃の先端部。表面面に丁寧な押圧調整が施される。
PL-21	239	割片石器 石鏃	81区G-24? 9?d 下半欠	長 (1.6) 幅 (1.5)	厚 0.5 重 1.2	黒曜石	下半の基部部を欠く。表面面に丁寧な押圧調整が施される。調整面による欠損。
PL-21	240	割片石器 石鏃	91区F-3? 9?d 基部欠	長 (2.5) 幅 (2.0)	厚 (0.7) 重 2.4	珪質変質岩(流紋 岩質凝灰岩)	基部を欠く石鏃。表面面に丁寧な押圧調整が施される。
PL-21	241	割片石器 石鏃	91区H-1? 9?d 基部欠	長 (2.3) 幅 (1.3)	厚 0.4 重 1.3	黒色頁岩	基部を欠く石鏃。表面面に押圧調整が施される。
PL-22	242	割片石器 石鏃未製品	91区表採	長 2.1 幅 1.8	厚 0.8 重 2.0	黒曜石	石鏃の未製品。裏面を主に押圧調整を施すが粗く、表面の厚みを残す。
PL-22	243	割片石器 石鏃未製品	91区G-4? 9?d	長 1.8 幅 1.9	厚 0.6 重 1.7	黒曜石	石鏃の未製品。表面面に押圧調整を施して基部と右側縁を作出するが、他は未調整。基部は凹基の可能性あり。

種別 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
PL-22	244	剥片石 石磨未製品	81区G-23'ナド	長 2.9 幅 1.2 厚 0.7	黒曜石	素材となる剥片の周縁へ、粗く押圧剥離を加える。	
PL-22	245	剥片石 石磨未製品	91区G-3'ナド	長 2.3 幅 1.9 厚 2.8	黒曜石	石磨の未製品。表裏面に押圧剥離を施して先端部から内側縁上半を作出するが、他は未調整。	
PL-22	246	剥片石 石磨未製品	91区R-4'ナド	長 2.6 幅 1.7 厚 0.6	黒曜石	石磨の未製品。表裏面に押圧剥離を施して先端部と右側縁を作出するが、他は未調整。	
PL-22	247	剥片石 石磨未製品	91区表採	長 (1.9) 幅 1.8 厚 1.8	黒曜石	上半を欠く石磨の未製品。表裏面共に押圧剥離を施すが、左側縁と基部の調整が甘い。	
PL-22	248	剥片石 石磨未製品	91区G-3'ナド	長 2.0 幅 1.6 厚 1.7	黒曜石	石磨の未製品。表裏面に押圧剥離を施すが、左側裏面と右側部は未調整。基部は凹基の可能性あり。	
PL-22	249	剥片石 石磨未製品	81区R-4'ナド	長 2.5 幅 2.0 厚 0.3	チャート	素材剥片の表裏面周縁から丁寧な押圧剥離を施して器体を整えるが、基部への調整が及んでいない。	
PL-22	250	剥片石 石磨未製品	91区G-3'ナド	長 (2.4) 幅 2.0 厚 3.9	黒曜石	先端部を欠く石磨の未製品。表裏面共に押圧剥離を施すが粗く、厚みを残す。	
PL-22	251	剥片石 石磨未製品	91区G-3'ナド	長 3.5 幅 2.5 厚 0.6	流紋岩	石磨の未製品。表面の先端と左側縁に押圧剥離を施すが、他は未調整。	
PL-22	252	剥片石 石磨未製品	91区表採	長 (3.3) 幅 3.0 厚 11.8	チャート	先端部を欠く石磨の未製品。表裏面共に押圧剥離を施すが粗く、厚みを残す。基部は平基の可能性あり。	

#### 91区1号住居

種別 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
PL-22	1	土師器 甕	口縁部片			粗砂粒・粗砂粒/ 酸化橙/褐色	頸部は直立気味で、2条の横ナデ調整。内面は横位ヘラナデ。

#### 91区2号住居

種別 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
PL-22	1	灰輪陶器 皿	1/4			細砂粒/還元橙/灰色	ロクロ整形。高台は貼付。底部は回転ヘラナデ。
PL-22	2	須臾器 椀	1/5			細砂粒・粗砂粒/ 還元橙/灰色	ロクロ整形。高台は貼付。
PL-22	3	須臾器 壺	頸〜肩部			細砂粒・小礫/還 元橙/灰色	4と同一個体。ロクロ整形か。頸部はやや外反気味に立ち上がり、頸部から肩部にかけて横ナデ。内面は横位ナデ。
PL-22	4	須臾器 壺	肩〜底部			細砂粒・小礫/還 元橙/灰色	3と同一個体。ロクロ整形か。肩部に把手をもち、肩部から脚部下半まで横ナデ。内面は横位ナデ。高台は貼付。底部は回転ヘラナデ。
PL-22	5	須臾器 羽釜	口縁部片			粗砂粒/酸化橙/灰 褐色	ロクロ整形か。口縁部から肩部は横ナデ。内面は横位ナデ。
PL-22	6	須臾器 羽釜	脚部片			粗砂粒/酸化橙/褐 灰色	ロクロ整形か。口縁部から肩部は横ナデ。体部は縦位のへら削り。内面は横位ナデ。
PL-22	7	土師器 甕	口縁部片			粗砂粒・粗砂粒/ 酸化橙/白褐色	頸部は外反気味に直立。口縁部は横ナデ。体部は横位へら削り。内面は横位ヘラナデ。
PL-22	8	須臾器 小型甕	口縁部片			粗砂粒/酸化橙/褐 灰色	ロクロ整形。口縁部は短く外反し、口縁部から肩部にかけて横ナデ調整。
PL-22	9	鉄製品 鉛砲	先端部	長 (8.1) 幅 1.3 厚 0.4 重 15.9			鉛砲の先端部で、基部を欠く。先端は最大幅1.3cmを測り、先端ほど薄くなり、尖る。基部側は欠削部で幅0.7cm、厚さ0.4cmを測る。錆化が激しい。

#### 91区3号住居

種別 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
PL-23	1	須臾器 羽釜	口縁〜体部2/3			粗砂粒/酸化橙/褐 灰色	ロクロ整形か。口縁部は内反気味で、口縁部から肩部は横ナデ。体部は縦位のへら削り。内面は横位ナデ。
PL-23	2	土師器 小型甕	ほぼ完形			粗砂粒・粗砂粒/ 酸化橙/褐色	ロクロ整形。口縁部は短く外反し、口縁部から体部上半にかけて横ナデ調整。体部下半は縦位ヘラナデ。
PL-23	3	石磨器 臼石	完形	長 15.5 幅 7.9 厚 5.0 重 819.5		粗粒輝石安山岩	凹石を転用したもので、上端が割れし、表面には点状に鉄滓が付着する。

#### 91区4号住居

種別 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
PL-23	1	土師器 甕	口縁〜体部1/3			粗砂粒・粗砂粒/ 酸化橙/褐色	頸部は直立気味で、2条の横ナデ調整。ナデは肩部にまで及ぶ。体部は縦位ヘラ削り。内面は横位ヘラナデ。
PL-23	2	石磨器 磨石	完形	長 17.2 幅 8.2 厚 4.9 重 1066.3		斑礫岩	上端および表面に割離痕をもち、下端に筋打による潰れ痕をもち、全体は研磨されている。

#### 91区7号土坑

種別 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
PL-23	1	須臾器 椀	91区7号土坑 底部片			粗砂粒/還元橙/灰 色	ロクロ整形。回転削り。高台は貼付。底部は回転糸切り。

## 第3章 上原Ⅲ遺跡

### 第1節 調査に至る経緯と経過

#### 第1項 調査に至る経緯

調査は町道建設に伴う事業として、実施された。当初の調査予定面積は1,389㎡であったが、県文化財保護課によって行われた試掘調査によって約半分に減じ、さらに、一部用地取得の関係から、最終的な調査面積は317㎡となった。

調査面積が狭く、遺跡地の北側および南側は、土地改良事業に伴い町教委により平成23年度に調査が行われ、平安～縄文時代の住居、土坑等が多数検出されている。調査を行う時点では、調査地以外は、圃場整備事業が終了しており、特に南側については、2m以上の段差があり、調査方法に苦慮した。

#### 第2項 調査の経過

発掘調査は、平成25年6月17日から7月22日にかけて実施した。発掘調査の手順とし、事前に調査対象区域を委託者側立ち会いの下で範囲および土物等の確認を行った。

調査区は幅約11m、長さ28mの範囲で、調査区への進入路が西側に限定されていたため、調査は東側から順次行うこととした。また、狭い範囲であったにもかかわらず、排土も調査区内において処理せざるを得ない状況を確認した。

### 第2節 調査の方法

#### 第1項 調査区とグリッドの設定

上原Ⅲ遺跡の発掘調査にあたっては、ハッ場地区において、これまで行ってきた設定方法を踏襲、調査区全体を覆う形でグリッド設定を行った。測量方眼設定にあたっては、日本測地系2000第Ⅸ系を使用し、1km方眼の大グリッド「地区」を設定しさらにこの中を100m方眼の中グリッド「区」に分けた。この区が調査区を表す名称として使用されている。

中グリッド「区」の中をさらに4m方眼で細分したものを最小グリッドとして使用している。このグリッドの呼

称は、中グリッドの南東隅を起点とし、北方向に1・2・3・・・と数字を付し25まで、西方向へはA・B・C・・・とYまで付した。こうして設定した最小グリッドの呼称は中グリッド「区」、小グリッドの南東交点(例えばA-1)を付け○区A-1と呼ぶこととした。今回の調査区は狭小であったために、37地区(大グリッド)内の6区(中グリッド)の中に収まり、小グリッドは、東西G～M、南北17～20の範囲となる。住居、土坑等の遺構番号については、1から付番した。

#### 第2項 発掘調査の方法

調査にあたっては、委託者である国交省の担当と調査範囲、調査期間等の事前打ち合わせを行い、調査範囲の確定後、伐採、表土の掘削を開始した。

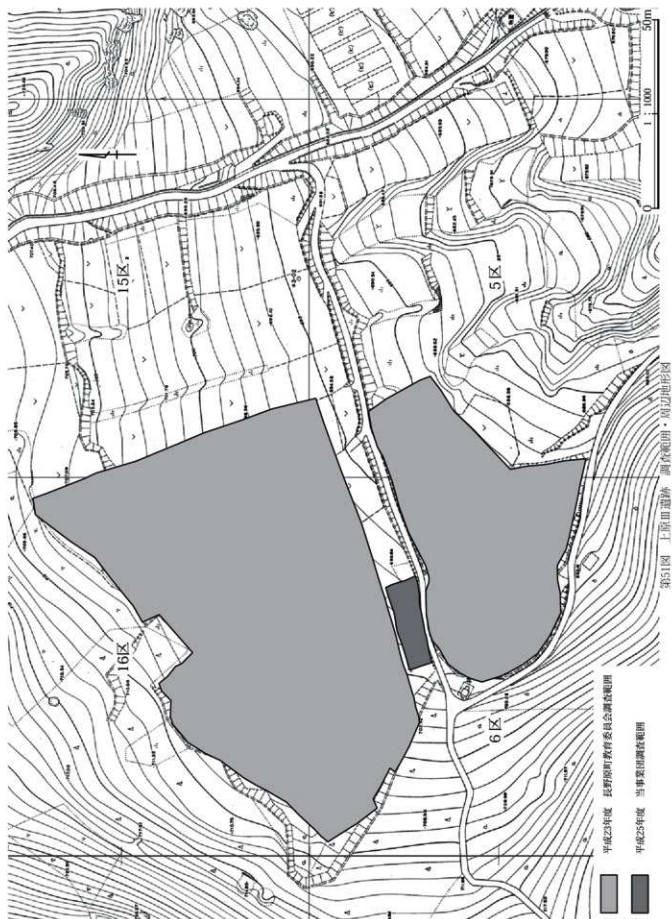
調査区は南北側が狭く、調査区の両側は圃場整備の工事完了直後であり、法面、進入道路の盤が固まっていないこともあり、慎重な作業が要求された。また、調査区は狭く、排土の搬出ができなかったことから、調査区内での移動処理を行わざるを得なかった。

調査区を分割し、表土の除去を行い、遺構確認面を確定した。試掘データから遺構確認面を確定し、掘り下げたが、場所により黒色土が厚く、2ないし3面以上の調査が必要な場合も考えられたため、表土除去時には注意を払った。

遺構確認作業後、各遺構の掘削に入り、新しい時代の遺構から調査を開始。また黒色土の堆積が厚く遺構の検出が難しい場所については、グリッド方眼を設定し、掘り下げを行った。

	6月	7月
準備	■	
表土掘削	■	■
遺構確認	■	■
1号住居	■	
1号掘立柱建物		■
土坑(1～10号)	■	■
溝(1・2号)	■	■
ピット		■
実測・写真	■	■
埋め戻し		■
その他		

表4 発掘調査工程表



### 第3節 遺跡の立地と基本土層

#### 第1項 遺跡の立地

吾妻川の左岸上位段丘の丘陵部に形成された、扇状地形の上流西部分に遺跡は位置する。

標高は696～700mである。周辺は扇状地状の地形の南斜面地で、本遺跡の南側に位置する林花畑遺跡、林中原Ⅰ・Ⅱ遺跡、上原Ⅳ遺跡などでは、縄文時代を中心とした遺構密度の濃い集落遺跡が確認されており、本遺跡は上記の遺跡が位置する段丘面の、さらに上位に位置している。

#### 第2項 基本土層

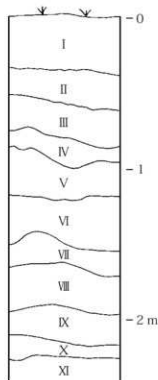
- I. 表土
- II. 黒褐色土
- III. 暗褐色土 ローム小塊混入。
- IV. 暗褐色土 IIIと似るが礫の混入少なく、やや細粒。
- V. 暗褐色土 ローム(二次堆積か)白色粒含む。
- VI. 暗黄褐色土 Vに似るが色調は暗い。
- VII. 暗黒褐色土
- VIII. 暗褐色土 角礫、(白色)凝灰岩礫含む。
- IX. 暗褐色土 小礫若干混入。
- X. 黒褐色土
- XI. 暗黄褐色土 大型礫混入、締まり有り。

調査区内は傾斜が見られ、Iの表土およびIIの黒褐色土については場所により厚さが異なる。また、III層以下に関しても場所により確認されない層も見られる。

遺構は大きく、III層の下面に於いて確認されるものと、IV層下層において確認可能となる遺構に大別され、遺物もこの層において出土している。

但し、確認面による違いが必ずしも時代差であるという確証は無く、調査区内においてもそれぞれの層厚にばらつきが見られるようである。

柱状図は調査区北面側のもので、あまり傾斜が見られないが、東壁では各層が南側に大きく傾斜を持って堆積している。



第52図 上原Ⅲ遺跡 基本土層





## 第4節 検出された遺構と遺物

## 第1項 概要

遺跡地は、北側に山を背負い、南に傾斜を持った扇状地形で、調査区は上位西側に位置する。今回の調査区は平成23年度に圃場整備事業に伴う発掘調査として、町教委より、広範囲に調査が行われ、平安時代の集落が確認されている範囲内にあたる。

調査の結果、平安時代の住居1軒、掘立柱建物と思われる一部が1棟、土坑10基、溝2条、ピットが検出された。

出土遺物はあまり多くはなかったが、住居内において、椀、羽釜、鉄製品が、土坑からも数点の平安時代、弥生・縄文土器が出土している。その他、遺構外において土器数点が出土した。

調査区は遺跡地の西寄りに在り、遺構の密度もやや希薄になっている場所で、特に北西寄りの部分では、土坑等もほとんど見られない。

## 第2項 遺構と遺物

## 1. 竪穴住居

## 1号住居 (第54図、PL.26・28)

今回の調査で唯一確認された住居である。調査区の南東隅に検出した。傾斜を持つ調査区内の最も下がった位置において、住居の一部を確認した。

**位置**：調査区の南東隅に検出した、方形を呈すと思われる住居の北西部分のおよそ4分の1を検出した。

**グリッド**：6区G・H-18・19に位置する。

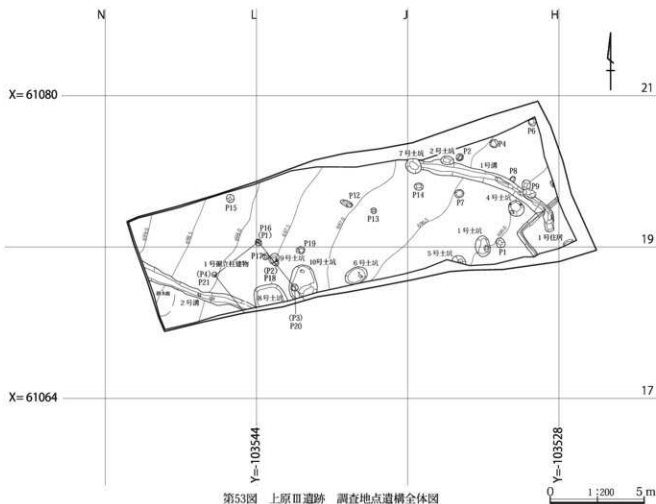
**形状**：調査では、住居の北西隅のみを検出したが、町教委調査例から想定すれば、全体形状は方形を呈し、東壁中央南寄りにカマドをもつタイプと想定される。

壁下には幅約15cmの壁溝が廻る。北壁の中央部には、北西方向から流れ下る、自然流路と思われる1号溝が、壁と床面の一部を壊した状態で検出されている。

**規模**：確認長は、南北2.42m、東西2.82m、壁高0.66m。

**床面積**：検出された面積は4.86㎡である。

**埋没土**：暗黒褐色土で、軽石、小礫混じりの土を主とし、



上層には水流で洗われた小礫混じりの砂質土が見られる。南側部分は、住居覆土近くにまで礫を含む層が落ち込んでいた。

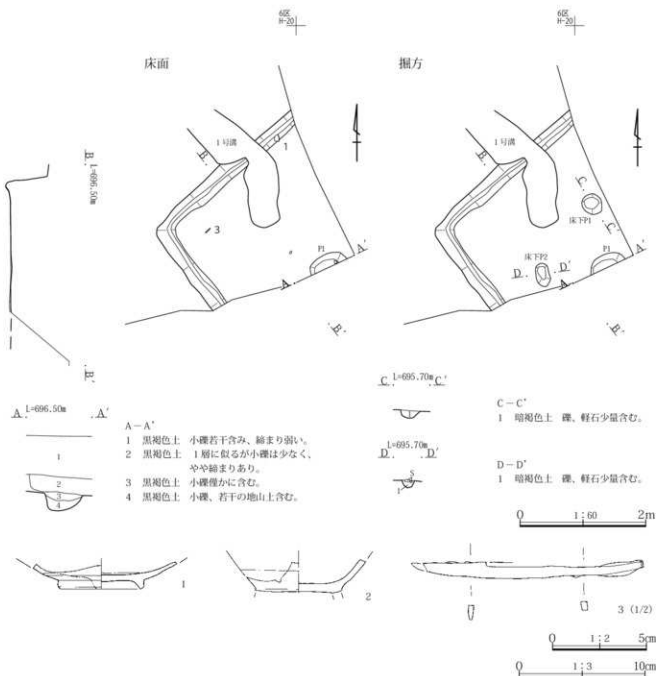
**床面・壁**：北側の壁下には、1号溝に挟まれたV字状の落ち込みが見られたが、その他の床面はほぼ平らで、比較的踏みしめられていた。壁はほぼ垂直に立ち上がり、確認された部分では、幅15cm、深さ約10cmの周溝が廻っていた。明瞭な貼り床は確認されなかった。

**その他**：掘り方調査で、2基のピットを検出、柱穴とは

考えられず、性格は不明である。

**遺物**：出土遺物は少なかった。北壁下に灰釉陶器碗、さらに床面近くに鉄製品(刀子)1点が床面より、およそ10cm浮いた状態で出土している他、覆土中からも数点の土器片が出土している。

**時期**：出土した灰釉碗・須恵器碗・羽釜類から、10世前半の住居と考えられる。町教委が調査を行った一連の住居群の一つにあたるものと考えられる。



第54図 1号住居 平・断面図、出土遺物

表5 1号住居 遺物観察表

種 別 PL.No.	No.	種 類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第54回 PL.28	1	灰軸陶器 皿	底部片	底 6.8	細砂粒/還元焼/灰色	ロウロ整形。高台は貼付、底部は回転ヘラナデ。	
第54回 PL.28	2	須恵器 椀	底部片		細砂粒・粗砂粒/ 還元焼/灰色	ロウロ整形。高台は貼付。	
第54回 PL.28	3	鉄製品 刀子	一部欠	長 (11.7) 厚 0.5 幅 0.9 重 12.4		先端と対部の一部を欠く。錆化が激しく、内部は空洞化。	

## 2. 掘立柱建物

## 1号掘立柱建物(第55図)

調査時には確定できなかったが、調査区の南西部に掘り込まれたピットの並びから、掘立柱建物を想定した。

検出されたピットは4本で、東側列に3、西側は北西隅の1本である。

**位置：**調査区の南西よりに確認した。

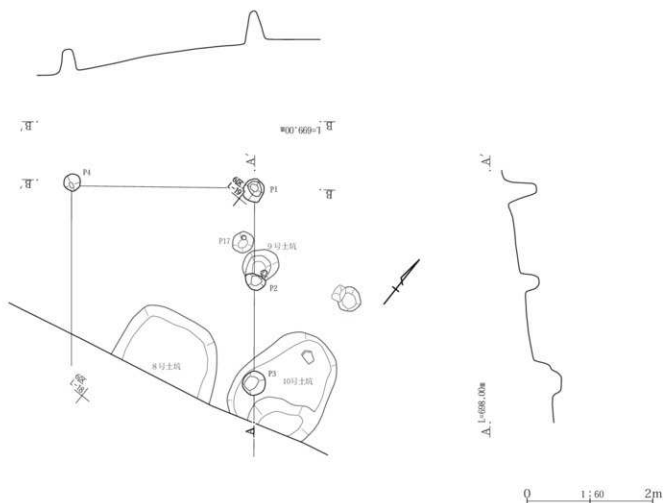
**規模：**1間×2(3)間と思われる。東西柱間1.9m、東側南北1.5、1.6mを計測。さらに南に延びているものと思われる。

**主軸：**N-39°-E

**その他：**確認面は南にやや傾斜を持つ、P1とP4は深さ約50cmと比較的深い掘り込みを持つ。P2・3は確認された深さは、それぞれ約20cm、10cmと比較的浅いが、掘り込み面はさらに上方であった可能性がある。

**出土遺物：**建物内に位置するP17、および重複する9号土坑中より、須恵器の椀と甕の底部片が出土しているが、本址に帰属するかは不明である。

**時期：**平安時代か。



第55図 1号掘立柱建物 平・断面図

### 3. 土坑

総数10基を確認した、大きさや深さはまちまちで、時期も縄文～近世のものまでが混在すると考えられる。

ここでは、出土遺物、埋め土などから時期を特定できた土坑について記述する。

遺物が見られたのは、6号土坑および9号土坑で、それぞれ縄文時代後期の鉢の底部片、平安時代の甕の底部片が出土している。6号土坑は楕円形で覗込みは浅い、礫を伴っていた。9号土坑は1号掘立柱建物のP2と重複している。

土坑全体の分布をみると、南東部分にやや集中している様子が伺え、等高線に沿うように並ぶ傾向が指摘できる。

#### 1号土坑 (第56図、PL.26)

位置：調査区の南東側に位置し、東側にはP1が位置する。

グリッド：6区H・I-18・19

形状：楕円形

規模：長軸1.10m、短軸0.80m、深さ0.22m

長軸方向：N-0°

その他：傾斜に対して、主軸を直交方向に持つ。

埋土は、黒褐色土で礫と地山のロームを備かに含む。全体に軟質で、黒味がある。時期の特定は難しいが、古代以降の土坑と考えられる。

#### 2号土坑 (第56図、PL.26)

位置：調査区の北東側に位置し、1号溝と重複。

グリッド：6区I-20

形状：ほぼ東西方向に長軸をもつ、楕円形を呈する。

規模：長軸0.68m、短軸0.42m、深さ48cm

長軸方向：N-80°-W

埋土は、小礫、ローム粒含み、軟質である。底面はやや丸みを有す。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、古代以降の土坑と考えられる。

#### 3号土坑 欠番。

#### 4号土坑 (第56図、PL.26)

位置：調査区の南東側に位置し、東側に隣接して1号溝が走る。

グリッド：6区H-19

形状：上面は円形であるが、底面やや隅丸を呈す。

規模：長軸0.8m、深さ0.37m

長軸方向：-

埋土は、大型礫を混入する暗褐色土で、締まりを持った土塊を含む。底面は、平坦となる。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、古代以降の土坑と考えられる。

#### 5号土坑 (第56図、PL.27)

位置：調査区の南東側に掛かり、北側半分を検出。

グリッド：6区I-18

形状：円形か、掘り込みは比較的深い。

規模：長軸(0.36m)、短軸0.76m、深さ0.74m

長軸方向：N-16°-E

埋土は、小礫、ローム粒を含み、やや軟質である。掘り込みは深く、底部は狭くなっている。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、古代以降と考えられる。

#### 6号土坑 (第56図、PL.27・28)

位置：調査区の南西壁側に位置する。

グリッド：6区J-18

形状：楕円形を呈し、掘り込みは浅い。

規模：長軸1.20m、短軸0.80m、深さ0.28m

長軸方向：N-56°-E

埋土は、大型の地山角礫を混入、若干のローム粒、ロームブロックを含みやや軟質。覆土上部に縄文土器の底部片が検出されているが、覆土の状況などから、古代以降の土坑と考えられる。

#### 7号土坑 (第57図、PL.27)

位置：調査区の北東壁に接して検出された。1号溝と重複する位置にあるが、切り合いは不明瞭である。

グリッド：6区I-20

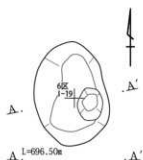
形状：楕円形で浅い掘り込みである。

規模：長軸0.84m、短軸0.76m、深さ0.23m

長軸方向：N-45°-W

埋土は、若干の小礫、ローム粒含み、軟質である。掘り込みは浅く、鍋底状を呈す。時期の特定は難しいが、古代以降の土坑と考えられる。

1号土坑



1号土坑

- 1 暗黒褐色土 締りやや弱く、白色・黄色軽石粒を僅かに含む。
- 2 暗黒褐色土 白色・黄色軽石粒を多く、炭化粒を僅かに含む。
- 3 暗黒褐色土 1層に比べ、締りさらに弱い。

2号土坑

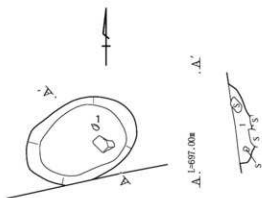


2号土坑

- 1 暗黒褐色土 締りやや弱く、白色・黄色軽石粒を僅かに含む。
- 2 暗黒褐色土 地山暗褐色ロームブロックを含む。
- 3 暗黒褐色土 1層に比べ締り弱く、軽石粒少ない。

6号土坑

695  
1-19



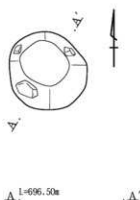
6号土坑

- 1 黒色土 小礫を多く含む。



0 1:3 10cm

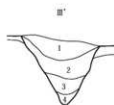
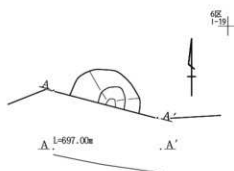
4号土坑



4号土坑

- 1 暗黒褐色土 締りやや弱く、白色・黄色軽石粒を僅かに含む。
- 2 暗黒褐色土 締り強い、白色・黄色軽石をやや多く、礫を含む。

5号土坑



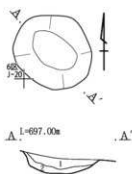
5号土坑

- Ⅲ 暗褐色土 基本土層田と似るが、礫の混入少ない。
- 1 黒色土 小礫、ローム粒を含む。
- 2 黒色土 小礫を多く含む。
- 3 黒色土 小礫、ローム粒を多く含む。
- 4 黒色土 若干の小礫を含み、締りあり。

0 1:40 1m

第56図 1・2・4～6号土坑 平・断面図、出土遺物

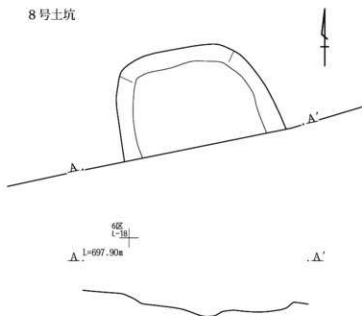
7号土坑



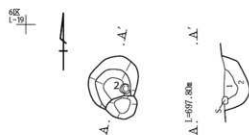
7号土坑

- 1 黒褐色土 細粒で締まり弱い。
- 2 黒褐色土 小礫含み締まり、粘性あり。

8号土坑

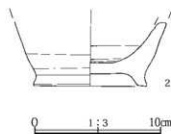


9号土坑

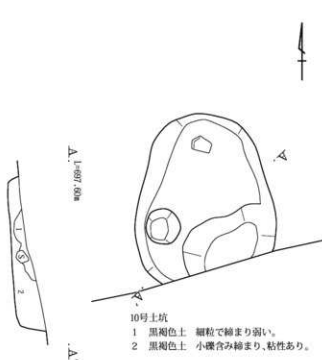


9号土坑

- 1 黒褐色土 細粒で締まり弱く、やや黒味あり。
- 2 黒褐色土 小礫含み、粘性あり。

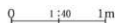


10号土坑



10号土坑

- 1 黒褐色土 細粒で締まり弱い。
- 2 黒褐色土 小礫含み締まり、粘性あり。



第57図 7～10号土坑 平・断面図、出土遺物

## 8号土坑 (第57図、PL.27)

**位置:** 調査区の南西壁に半分掛かった状態で確認された。東側に隣接して10号土坑が位置する。

**グリッド:** 6区K-18

**形状:** 南側が未調査であるが、隅丸の長方形か。

**規模:** 長軸(1.04)m、短軸1.74m、深さ0.24m

**長軸方向:** N-33°-W

埋土は、黒味を有す黒褐色土で、小礫を含む。掘り込みは浅く、底はほぼ平坦である。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、古代以降の土坑と考えられる。

## 9号土坑 (第57図、PL.27・28)

**位置:** 調査区の南西寄りに位置、P18と重複する。

**グリッド:** 6区K-18

**形状:** 楕円形で底は丸みを呈す。

**規模:** 長軸(0.60)m、短軸0.50m、深さ0.30m

**長軸方向:** N-0°

埋土は、地山角礫を含み、軟質、上層に須恵器の壺の底部片が出土している。重複するP18は1号掘立柱建物の柱穴と認定されており、関連があると思われる。平安時代か。

## 10号土坑 (第57図、PL.27)

**位置:** 調査区の南西壁に一部が掛かる。西側に8号土坑が近接する。

**グリッド:** 6区K-18

**形状:** 楕円形で南側が僅かに広がる。

**規模:** 長軸(1.90)m、短軸1.50m、深さ0.42m

**長軸方向:** N-0°

埋土は小礫、ローム粒を含み軟質、掘り込みはあまり深くなく、底面は平坦であるが、壁際は部分的に落ち込んでいる。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、古代以降の土坑と考えられる。

表6 6・9号土坑 遺物観察表

採図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第56図 PL.28	1	弥生土器 壺か	6号土坑 底部片	底 (8.0)		細砂	底面に網代痕をもつ。
第57図 PL.28	2	須恵器 壺か	9号土坑 底部片	底 (9.0)		細砂粒/還元焼/灰色	口クロ整形。高台は貼付。

## 4. 溝

## 1号溝 (第58図、PL.27)

**位置:** 調査区の北東寄りから南東隅に向かって走り、1号住居の一部を壊す。

**グリッド:** 6区H・1-19・20

**形状:** 調査区の北壁から南東隅に向かい、やや右に曲がる。

**規模:** 検出長は約8m、北壁付近では幅約60cm、深さは10cmであるが、1号住居の壁部分では幅70cm、深さは50cmで断面はV字状を呈す。長軸(1.90)m、短軸1.50m、深さ0.42m

底はかなり凹凸があり、下層部分には水流で洗われた砂礫が多く見られた。この溝の上流および下流部分は町教委調査区内においても、断続的に検出されており、形状や覆土の状況から自然流路と判断される。平安時代の住居を壊していることから、平安時代後期以降か

ら近世にかけての所産と考える。

## 2号溝 (第58図、PL.27)

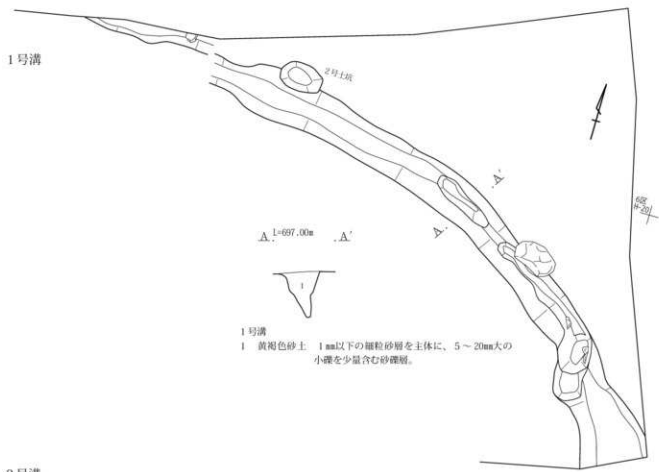
**位置:** 調査区の南西部に検出。

**グリッド:** 6区L・M-18

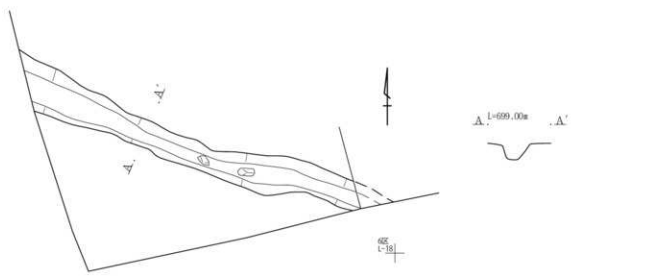
**形状:** 調査区の西壁から出て、南壁に向かって走る。

**規模:** 検出長は6m、幅は40~70cmで、深さは約20cmである。

1号溝とほぼ並行して走るが、極めて部分的にしか確認できなかった。自然の流路と考えられるが、水の流れた痕跡ははっきりせず、時期も不明である。



2号溝



第58図 1・2号溝 平・断面図



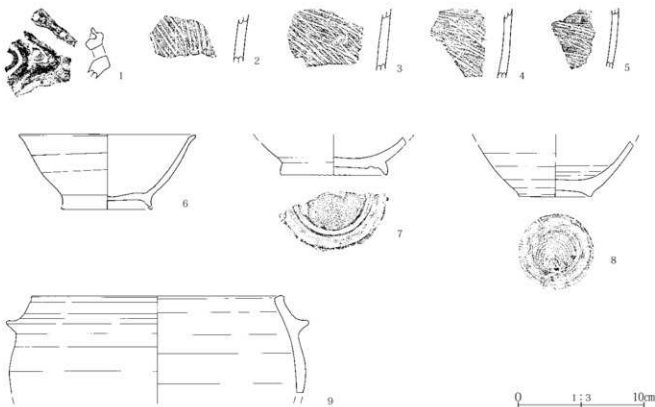
## 5. 遺構外出土遺物

遺構外より出土した遺物は総点数10点程である。これらは、遺構確認時に検出されており、調査区中央から南東部に集中して検出されている。

平安時代の遺物は、羽釜片、須恵器椀類の比較的大きな破片が出土、いずれも10世紀代に比定されるものであ

る。その他、縄文時代後期、弥生時代中期の土器片が検出されている。これらは、いずれも小破片で、弥生土器は同一個体片の可能性が高い。

縄文・弥生時代の遺構に関しては今回の調査では確認されていない。



第59図 遺構外出土遺物

表7 遺構外 遺物観察表

発掘 No.	種 類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第59回 PL.28	1 縄文土器 深鉢	J-199'サド 口縁部片			細砂	頸部が朝顔状に開き、口縁が僅かに直立する平口縁に、円形孔と刺突をもつ突起を有する。	縄文時代後期
第59回 PL.28	2 弥生土器 甕か	J-199'サド 胴部片			細砂	胴部に斜位の条痕を施す。	弥生時代中期
第59回 PL.28	3 弥生土器 甕か	I-199'サド 胴部片			粗砂	胴部に斜位の条痕を施す。	弥生時代中期
第59回 PL.28	4 弥生土器 甕か	I-199'サド 胴部片			細砂	胴部に斜位の条痕を施す。	弥生時代中期
第59回 PL.28	5 弥生土器 甕か	H-199'サド 胴部片			細砂	胴部に斜位の条痕を施す。	弥生時代中期
第59回 PL.28	6 須恵器 椀	P-179'サド 1/4	口 (14.0)	高 (5.6)	細砂粒・粗砂粒/ 還元焼/灰白色	器面の剥落が著しい。ロク口整形、高台は貼付。	
第59回 PL.28	7 須恵器 椀	J-199'サド 体~底部片	底 (8.5)		細砂粒/還元焼/灰 色	ロク口整形。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
第59回 PL.28	8 須恵器 椀	K-189'サド 体~底部	底 5.8		細砂粒/還元焼/暗 灰色	ロク口整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
第59回 PL.28	9 須恵器 羽釜	J-199'サド 口縁部片	口 (20.0)		粗砂粒・小礫/還 元焼/灰色	ロク口整形。口縁~胴部下まで横ナデ。内面横ナデ。	

第3章 上原III遺跡

表8 遺構一覧表

1号住居

遺構名	位置 (グリッド)	平面形状	規模(m)			長軸方位	傾	カマド		重複関係 (古→新)	時期/備考
			長軸	短軸	深さ			床面積	位置/方位		
1号住居	6区G・H-18-19	—	—	(2.42)	0.66	4.86	—	—	—	—	1号溝が入り込んでいる
ビット1	6区G-19	—	—	—	0.28	—	—	—	—	—	
床下ビット1	6区G-19	楕円形	0.34	0.30	0.13	—	N-21°	-W	—	—	
床下ビット2	6区H-18-19	楕円形	0.37	0.20	0.13	—	N-18°	-W	—	—	

1号掘立柱建物跡

遺構名	位置 (グリッド)	平面形状	規模(m)				桁行方位	重複関係 (古→新)	時期	備考
			桁行	梁行	床面積	柱間距離				
1号掘立	6区I・L-18-19	—	2間	1間	9.03	桁行 1.5～1.6 梁行 2.9	N-38°	-W	—	—

溝

遺構名	位置 (グリッド)	規模(m)				走向方向	重複遺構/交差溝	所属時期/備考
		長さ	上面幅	底面幅	深さ			
1号溝	6区G-18-19, H-19, I-19-20	9.36	0.80	0.34	エレベから0.74, ①0.13, ②0.15, ③0.29, ④0.51, ⑤0.56, ⑥0.90, ⑦0.14	北西→南東	2号土坑	
2号溝	6区L・M-18	5.86	0.76	0.40	①0.34, ②0.25, ③0.27, ④0.29	西→東		

土坑

遺構名	位置 (グリッド)	平面形状	規模(m)			長軸方位	重複関係	時期/備考
			長軸(径)	短軸	深さ			
1号土坑	6区H・I-18-19	楕円形	1.10	0.80	0.22	N-0°		
2号土坑	6区I-20	楕円形	0.68	0.42	0.48	N-80°	-W	1号溝
3号土坑	欠番							
4号土坑	6区H-19	円形	0.8	—	0.37	—		
5号土坑	6区I-18	—	(0.36)	0.75	0.74	N-16°	-E	
6号土坑	6区I-18	楕円形	1.20	0.80	0.28	N-56°	-E	
7号土坑	6区I-19-20	楕円形	0.84	0.76	0.23	N-45°	-W	
8号土坑	6区K・L-18	—	(1.04)	1.74	0.24	N-33°	-W	
9号土坑	6区K-18	ほぼ楕円形	(0.60)	0.50	0.30	N-0°		18号ビット
10号土坑	6区K-18	ほぼ楕円形	(1.90)	1.50	0.42	N-0°		20号ビット

ビット

遺構名	位置 (グリッド)	平面形状	規模(m)			長軸方位	重複関係	時期/備考
			長軸(径)	短軸	深さ			
1号ビット	6区H-19	楕円形	0.54	0.42	0.28	N-27°	-W	
2号ビット	6区I-20	円形	0.38	—	0.36	—		
3号ビット	欠番							
4号ビット	6区H-20	円形	0.44	—	0.25	—		
5号ビット	欠番							
6号ビット	6区H-20	円形	0.40	—	0.23	—		
7号ビット	6区I-19	楕円形	0.48	0.44	0.25	N-40°	-W	
8号ビット	6区H-19	楕円形	0.36	0.28	0.42	N-24°	-E	
9号ビット	6区H-19	楕円形	0.52	0.46	0.28	N-12°	-E	
10号ビット	欠番							
11号ビット	欠番							
12号ビット	6区I-19	楕円形	0.66	0.30	0.20	N-61°	-W	
13号ビット	6区I-19	円形	0.30	—	0.12	—		
14号ビット	6区I-19	楕円形	0.48	0.36	0.15	N-84°	-E	
15号ビット	6区L-19	円形	0.42	—	0.47	—		
16号ビット	6区K・L-19	楕円形	0.36	0.32	0.52	N-40°	-W	1号掘立柱建物(P1)
17号ビット	6区K-18	円形	0.34	—	0.26	—		
18号ビット	6区K-18	不整形	0.32	0.30	0.24	N-64°	-W	9号土坑 1号掘立柱建物(P2)
19号ビット	6区K-18	円形	0.40	—	0.20	—		
20号ビット	6区K-18	円形	0.36	—	0.15	—	10号土坑	1号掘立柱建物(P3)
21号ビット	6区L-18	円形	0.28	—	0.44	—		1号掘立柱建物(P4)

## 第5節 調査の成果(総括)

本遺跡は、ハッ場ダム建設工事に関連する町道建設を原因として発掘調査が行われた。

発掘調査は周辺の調査で取り残された形の調査区となり、残土置き場の問題など調査工程上、東と西側の2つの調査区を打って返して行われた。調査面積は317㎡である。遺構は、平安時代の竪穴住居1軒、掘立柱建物1棟、土坑10基、ビット17基、溝2条である。

調査区の南東隅に置いて、検出された平安時代の住居は、出土遺物は少なかったが、全体の約4分の1を調査、灰軸陶器、須恵器の椀および鉄製品(刀子)1点が出土している。周辺の調査により確認されている例からすると、東壁側にカマドをもつ住居であろうと推定される。

時期は、灰軸陶器の年代観から10世紀前半と考えられる。

検出した2条の溝は調査区を斜めに横切る形で走る、町教委で調査が行われた両側において、この溝の続きと考えられるものが、確認されている。これを含めると1号溝は全長約80mの長さとなる。谷筋に沿うように走っており、形状や堆積物の様子などから、大雨等により、かなり短期間に形成されたものと判断される。下層より天目茶碗片が出土しており、中世あるいは近世にまで下る可能性がある。

掘立柱建物は棟方向を南東に持つ建物が想定されるが、かなりの傾斜地にあることや、検出された柱穴の数が少ないことから、不確定な部分もある。

今回の調査範囲は上原Ⅲ遺跡の中では極めて、狭い範囲であり、遺跡の性格を考えるには、町教委の調査結果と併せて考えていきたい。

平成23年度に、今回調査を行った上原Ⅲ遺跡の周囲において、土地改良事業に伴う発掘調査が町教委により実施されている。

調査成果は平成26年度に刊行<sup>(註)</sup>されており、確認された遺構の内容は以下のようである。

弥生時代の土坑1基。平安時代の鍛冶工房1軒、竪穴住居13軒、竪穴状遺構1基、焼土遺構6カ所、陥し穴29基、土坑11基。近世の流路5条、土坑墓1基、時期不明土坑116基、ビット154基である。

遺物は各遺構に伴うものの他、遺構外出土の土器、石器が検出されている。

遺跡は南東に向かって傾斜する地形で、住居の分布を見ても、最も高い位置につくられたものと、低い位置に作られた住居との比高差は約15mを示す。

遺構は調査区の西側に集中して見られ、住居および土坑等も集中している。

今回の調査で検出された住居は、そうした住居群の一つと位置付けられる。

町教委で調査した住居の時期は、いずれも10世紀前半頃と考えられており、今回調査された住居も、出土した灰軸碗の時期から同時期と判断される。

鍛冶遺構と考えられる、SI-12は多量の羽口、鉄滓と伴に砂鉄も確認されており、比較的規模の大きな鍛冶関連の生産活動を行っていたことが想定される。

長野原地区内では、平安時代の集落が近年の調査でしだいに明らかになってきており、その数も増えている。特に比較的山間地域でその数は目立っているように思える。これらの集落の生業や生産活動について、資料の増加からしだいに解明が行われてきており、今後より詳細な検討が加えられることにより、明らかになるものとする。

(注)長野原町埋蔵文化財調査報告第30集「林地区遺跡群」  
長野原町教育委員会 2015



第60図 上原Ⅲ遺跡 遺構分布全体図(合成図)

## 第4章 林宮原遺跡

### 第1節 調査に至る経緯と経過

#### 第1項 調査に至る経緯

林宮原遺跡は、ハツ場ダム建設工事に係わる町道建設に伴う発掘調査である。林宮原遺跡が立地する長野原町林地区は埋蔵文化財包蔵地が濃密に分布しており、発掘調査が各遺跡で行われている。林宮原遺跡も、当事業団調査は本調査が最初となったが、既に町教委で数度の調査が行われ、平安時代集落が検出された他、長野原町では極めて珍しい古墳時代(5世紀末~6世紀初頭)の住居を調査している。このような遺跡の内容を踏まえ、遺跡を東西に横断する町道建設計画に伴い、平成22・23年、林宮原遺跡の試掘調査が群馬県教育委員会によって行われた。

試掘調査の結果、林宮原遺跡西端にあたる地区で、複数の土坑や柱穴が確認され、平成24年4月より当事業団による発掘調査が着手された。

#### 第2項 調査の経過

当初、林宮原遺跡の調査範囲は西側斜面を中心とした420㎡であった。そのため、調査期間は短く5月には、県道建設に伴う町道跡発掘調査に調査班は移動した。しかしながら、本遺跡東側には樹木の繁茂が著しく、県教委による試掘調査が及ばなかった用地があり、ここを5月に県教委が試掘調査を行った。その結果、本遺跡の当初調査で得られた掘立柱建物と同様の柱穴が確認されたため、調査班は町道跡の調査を中断し、再度6月より、林宮原遺跡東側の発掘調査を着手した。

東側の調査区は430㎡であり、調査を進めた結果、西側調査区で得られた掘立柱建物と軸をほぼ同じにした掘立柱建物群が調査された。

以上のような調査経緯のため、結果的に調査は、東側と西側に2分割した行程となり、当初調査区は西側で、後に東側の調査区を調査した。

西側調査区中央でピットが群在して検出され、東西に長軸を持つ掘立柱建物群として捉えられた。その他に土坑数基の調査を行った。東側調査区でもピット群の調査

となったが、西側調査区に比してやや密度は低く、東側にかけて、掘立柱建物群を見ることができた。

### 第2節 調査の方法

#### 第1項 発掘調査の方法

ハツ場ダム関連の発掘調査における統一した調査方法は第1章で触れているため省略し、ここでは林宮原遺跡の調査方法を述べる。

林宮原遺跡の発掘調査は、人力による表土掘削による意向確認面の把握と大型重機(バックホー)による表土除去を平行し、西側調査区より着手した。東側調査区着手の際にも同様で、遺構確認面を把握しながら重機による表土除去を行った。

表土・黒褐色土の堆積は北側と東西に厚く1m近くの層厚を見るが、調査区中央から南側にかけては約20cm前後の厚さであった。遺構確認面は、表土下の黒褐色土の堆積状況を観察しつつ、下位に堆積するローム漸移層で遺構平面形の把握を行った。

表土除去後、作業員による遺構確認、個別遺構の調査は、ジョレン・移植ごてなどの道具を使用した。

調査で得られた各遺構名は中グリッドにこだわらず通番とした。遺構は埋没土層の記録化のため半載調査あるいはベルトを設定して、写真・土層図の記録をとった。平面図・断面図の縮尺は1/20とし、測量は業者委託し、デジタル測量を施している。

本遺跡の主な遺構は掘立柱建物であることから、柱穴配置と建物確定が重要な作業となった。配置の目安として直線状に並ぶピットを優先し、そのピット列と平行するピット列を把握し建物を検出した。併せてピット土層の観察と記録も果たし、柱痕のあるピットを柱穴の目安とした。

なお、前章に述べたように、西側調査区終了後、半月後に東側調査区の調査着手に至るのであるが、西側調査区は、安全対策のため各遺構は既に埋め戻しており、両調査区を併せた全景写真撮影は果たせなかった。

## 第3節 遺跡の立地と基本土層

## 第1項 遺跡の立地

林宮原遺跡は、長野原町大字林に所在し、吾妻川左岸に位置する。吾妻川が形成した河岸段丘面のうち最上位段丘面にあたり、周辺は緩やかな南側への緩傾斜地形が広がる。南側端部の上位段丘面との境は、段丘崖で画され、上位段丘面と最上位段丘面との境界は明確に分別される。しかしながら、林地区の最上位段丘面上位は王城山(1,232m)南斜面裾部と一体化しており、前章で扱った上原Ⅲ遺跡周辺は扇状地形の扇尖端及び扇端部に近い地形に位置するように、最上位段丘面は山地斜面地形上の延長にある緩斜面地形を保つ段丘面である。

この段丘面の西端から中央にかけて位置する林宮原遺跡ではあるが、調査区の北側には、王城山神社があり山地斜面が迫る。南側の段丘崖までは約1kmの距離で、幅狭の緩斜面地形に位置する。また、林地区の最上位段丘面には幾筋かの小河川が南流するが、林宮原遺跡の西側を画す室沢や東接する林中原1遺跡との境には押し沢がある。また、埋没谷も存在しており、調査区の西端にも狭小な低地地形を確認した。さらに東側にかけても傾斜

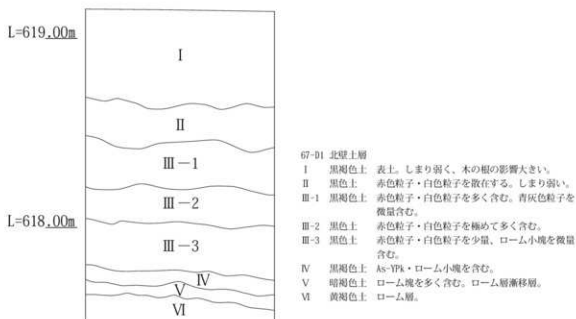
しており、おそらく埋没谷が存在するものと思われる。これら小河川、埋没谷に画された台地伏地形は、洪積台地であり本遺跡調査でもローム層が確認されている。

## 第2項 基本土層

本遺跡の基本土層は高標高部分と低地部分など3箇所を観察した。ここでは、東側調査区北側壁の黒色土・黒褐色土の層厚が良好な地点を選んで掲載する。

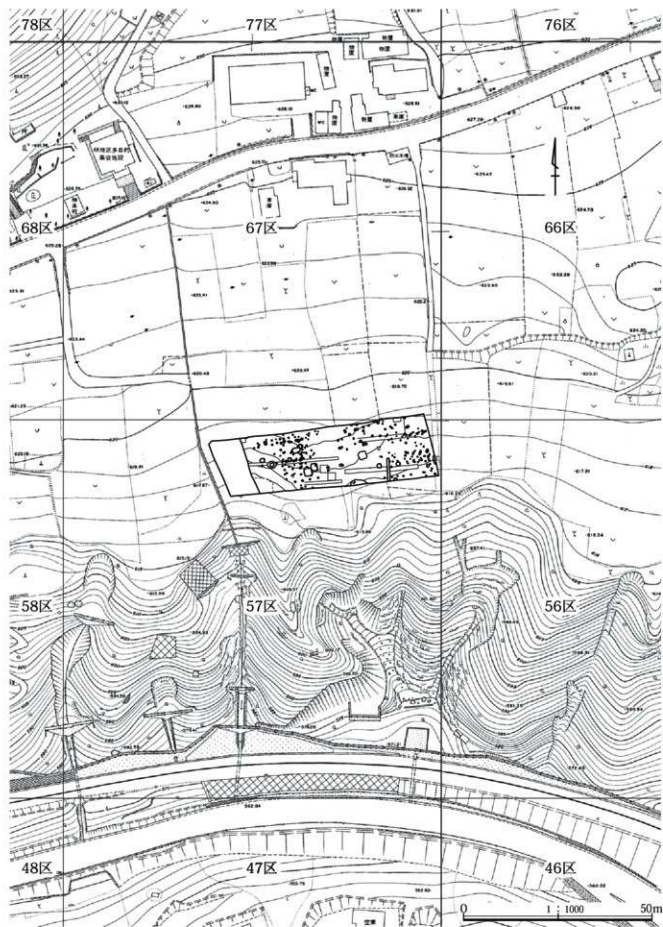
I・II層は表土および軟質な黒褐色土で木根の影響も多く、近世～現代層にあたろう。III層は古代～中世の遺構・遺物が検出される層位と考えている。このうちIII-2層に青灰色粒子を見たが、浅間柏川テフラ(As-kk)の可能性もある。As-kkは当地域の平安時代住居上層に堆積する例が見られ、町教委が調査した林宮原遺跡ⅤのS102でも良好な堆積が認められている。III-3層は調査区全域を覆うが、遺構確認としては不安定要素があり、重機掘削はIII-3層中で止め、その後は人力でIV層上面まで掘り下げる調査行程をとった。

このように、林宮原遺跡の層位は黒色土や黒褐色土の堆積が厚く観察される箇所があり、遺構確認には慎重な観察が必要とされよう。



第61図 林宮原遺跡 基本土層

1:20

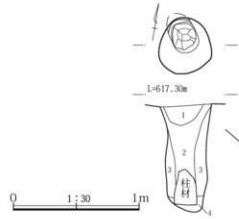


第62図 林宮原遺跡 調査範囲・周辺地形図



第63図 林宮原遺跡 調査地点遺構全体図



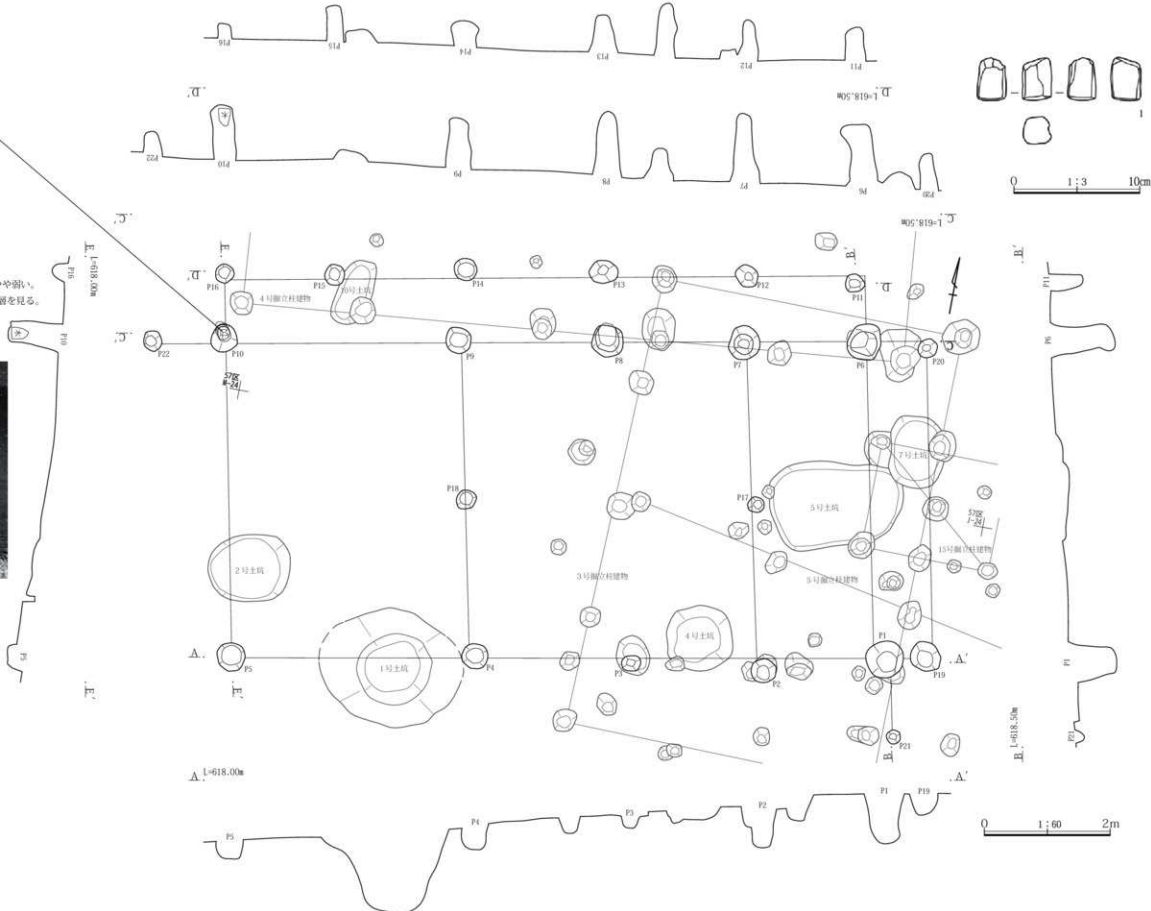


1号孤立柱建物 P10

- 1 黒褐色土 やや砂質。赤色粒子を微量含む。柱痕。
- 2 黒褐色土 やや砂質。赤色粒子を多く含む。柱痕。
- 3 暗褐色土 赤色粒子・ローム小塊を多く含む。しまりやや弱い。
- 4 浅黄褐色土 均質な粘土。柱材との間には僅かな砂の層を見る。



P10柱材



第64図 1号孤立柱建物 平・断面図、出土遺物

## 第4節 検出された遺構と遺物

### 第1項 概要

林宮原遺跡は掘立柱建物調査した遺跡である。13棟の建物群を検出し、調査区の東西に分かれて、2群からなる分布状況を示す。ここでは、西群と東群と分けて述べていきたい。

西群の掘立柱建物群は、1～5号掘立柱建物と15号掘立柱建物の6棟をまとめた。一方東群とした建物群は9棟を数える。6～9号、11号、13号、14号掘立柱建物7棟が相当する。なお、整理作業において、柱穴配置を検討し10号、12号掘立柱建物を欠番とし、新たに14号と15号掘立柱建物を加えている。

両群の建物群とも、台地頂部には設けず、やや緩やかな斜面地形に占地する傾向がある。重複することからある程度の時間幅が想定できるが、柱穴内の数少ない出土遺物から、中近世を比定しておく。なお、発掘調査では掘立柱建物を構成する柱穴も全てピットとして、通番の中に入れて記録した。本書では調査で使ったピット番号ではなく、掘立柱建物に属するP1・P2・・・と命名して報告する。各柱穴の規模は表9の遺構一覧表を参照していただきたい。

土坑は14基を報告する。陥穴状土坑あるいは墓壇もあるが密度は希薄で散漫な分布を示す。時期は掘立柱建物と同様に中近世、一部は近代に比定されよう。

### 第2項 遺構と遺物

#### 1. 掘立柱建物

13棟の掘立柱建物を報告する。前述のようにローム台地の西斜面と東斜面にそれぞれ重複状態で検出されている。仮に西群と東群とするが、両群とも顕著な敷地造成面の跡や区画溝を見出せなかった。これは、遺構確認面をI層であるローム漸移層に下げたため、造成面を明瞭に把握できなかったため、造成面・区画溝の有無は判断を控えたい。ただ、両地点とも南側にはロームが露出する箇所が見られ、建物設営に伴う削平があった可能性も示唆する。また石垣等の施設も確認できなかった。存在するとすれば、北側の未調査区に予想されるが、石垣を付帯しない例も念頭におきたい。

#### 1号掘立柱建物(第64図・PL.31・34)

西斜面で検出された。調査区内で最大規模を示す建物である。

**位置**：57区J～K-22～24 西側斜面を占める様相検出された。西端は低地部に面し、東端は台地頂部にかかる。その比高差は2m近くあり、斜面地形を跨ぐ設営と捉えられる。

**重複**：3～5・15号掘立柱建物、1・2・4・5・7号土坑が重なる。掘立柱建物柱穴との重複はP1が3号掘立柱建物P4と切り合うが、土層軸が通っておらず不明である。また、4号掘立柱建物南東隅の柱穴とP6・P20が重なるが、重複範囲が狭小で明瞭な新旧ではない。土層の観察では、4号掘立柱建物を切る新旧関係を得ている。

**規模**：5間×2間(10.0×6.3m) 横長の長方形を呈す東西棟で北側に底を確認できた。

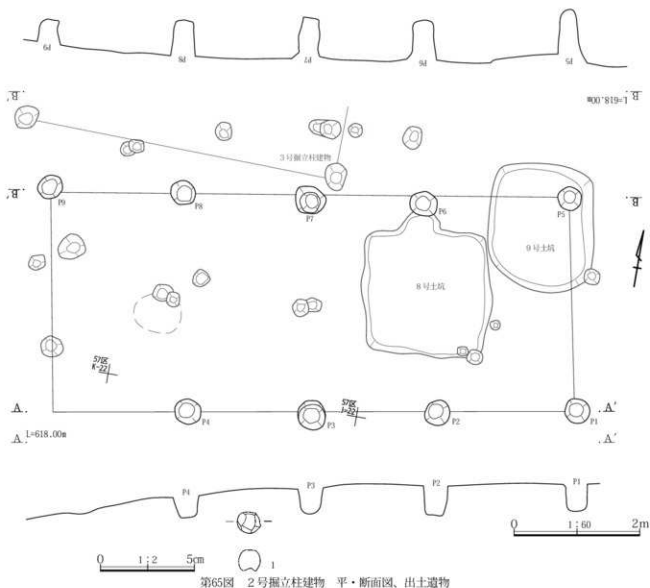
**主軸方位**：N-80°-E 南接する2号掘立柱建物とほぼ平行する。

**施設**：北側にP11～16が長軸上に並び、庇・軒に関わる柱穴と見た。東側にP19・20が短軸上に平行するが、張り出し部であろうか。またP21が南側に、P22が西側に突出するが、これも庇・張り出し等の施設の存在が予想される。

**柱穴**：P1～P22が相当する。このうちP1～P10・P17・P18が身舎と思われる。北辺と南辺の柱穴配置も統一的で整った印象を得る。北辺のP6～P10は平面形・深さ伴に統一性が窺えるが、南辺のP1～P5のうちP3～P5は極めて浅い。これは確認面の高さ起因しており、おそらく生活面を上層に想定すれば、北辺との規格は近くなる。なお、P10底面からは柱材が残存した状態で出土している。柱材は下端が平坦で上端は朽ちたためか突る。樹皮はなく、若干の整形痕跡がある。柱材の下部～下部には粘土が埋められており、おそらく礎石と同様の効果を意図した例と考えられた。他の柱穴には柱材は遺存しておらず、P10周辺の湧水による残存と見る事ができよう。柱材は残っていないが、柱痕は残存度の良好な北辺柱穴を中心に観察された。柱間距離は、桁行が1.9～2.4m、梁行は1.1～2.7mである。

**遺物**：柱穴からの出土として、P17より小型の砥石が出土している。

**時期**：時期を特定する遺物の出土を見ないため、中近世



第65図 2号掘立柱建物 平・断面図、出土遺物

の所産としたい。

#### 2号掘立柱建物(第65図・PL.31・34)

**位置:** 57区 I ~ K-21 ~ 23 1号掘立柱建物の南に近接する。

**重複:** 8号土坑、9号土坑が重なる。P5とP6と切り合い8号土坑がP6を切る土層観察を得ている。

**規模:** 4間×1間(8.3×3.4m) 横長の長方形を呈す東西棟である。

**施設:** 炉及び庇などの施設は見ない。

**主軸方位:** N-81° - E 1号掘立柱建物とほぼ軸を同じにする。

**柱穴:** 9基の柱穴からなる。南西隅に相当する柱穴は検出できなかった。急傾斜地形が始まる箇所で、逸失した

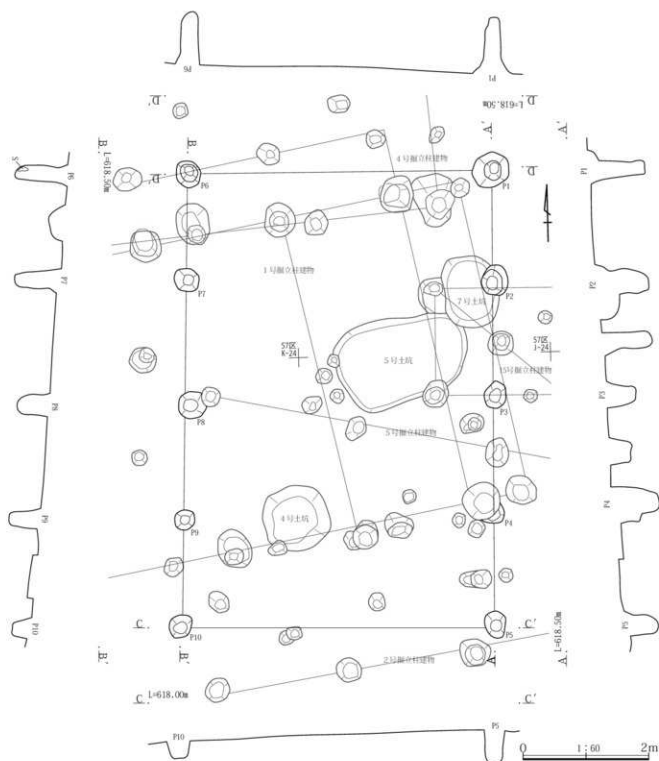
ものと考えた。その他の柱穴は北辺、南辺ともにほぼ等間隔に配された整然とした配置を示す。柱間距離は桁行が1.8~2.3m、梁行は3.4mを測る。柱痕はP1・P2・P4・P8・P9に見られた。その他の柱穴も土層軸の設定がずれたため観察できなかったもので、おそらく柱痕は存在していたと思われる。

**遺物:** P6より鉄砲玉の出土をみている。

**時期:** 1号掘立柱建物と軸を同じにし、相互に重複もしていないことから、同時期と捉えられるだろう。中近世とした。

#### 3号掘立柱建物(第66図・PL.31)

**位置:** 57区 J・K-22 ~ 24 西群の東側で検出した。西側と南側への傾斜が始まる変換点に位置する。



第66図 3号掘立柱建物 平・断面図

**重複**：1・4・5・15号掘立柱建物、4・5・7号土坑が重なる。1号掘立柱建物P1がP4を、7号土坑がP2を切る重複関係を示す。

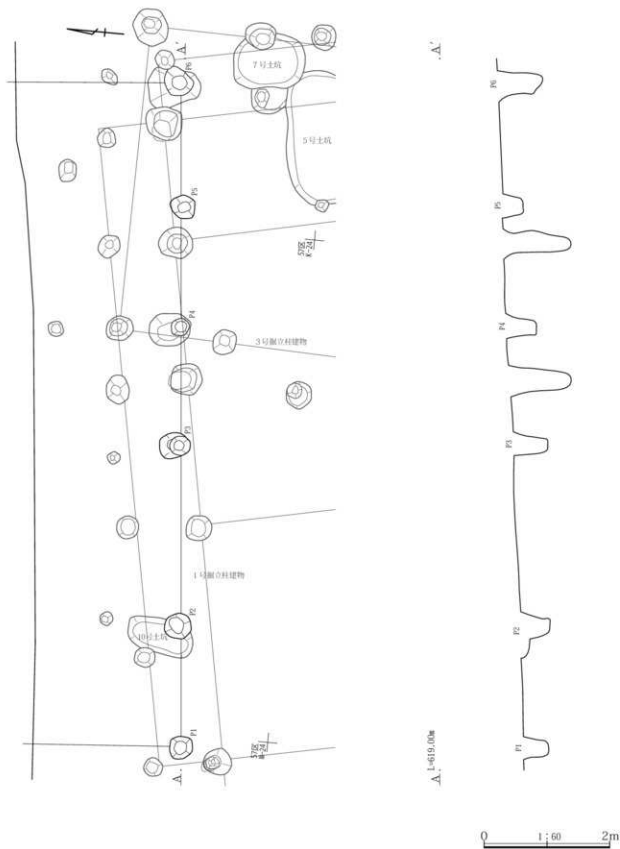
**規模**：4間×1間(7.3×5.0m) 縦長の南北棟である。

**施設**：か及び庇などの施設は無い。

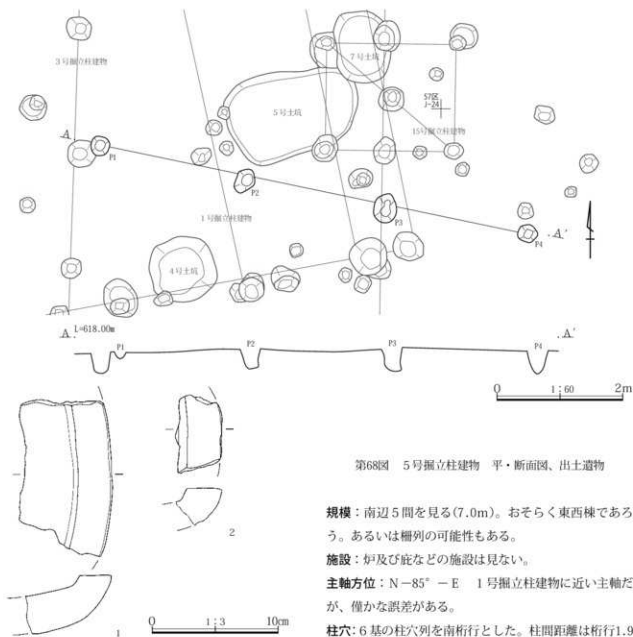
**主軸方位**：N-2°-E 西群では、他の掘立柱建物と

は異にし、主軸を北に向ける。東群では14号掘立柱建物に近い。

**柱穴**：10基の柱穴からなる。いずれも、しっかりした掘り込みで深さを有す。P5・P10はやや浅いが、南側への傾斜のためである。柱間距離は、桁行1.8～1.9m、梁行5.0mを測る。柱穴配置も良好で西辺と東辺の柱穴配



第67图 4号孤立柱建物 平·断面图



第68図 5号掘立柱建物 平・断面図、出土遺物

置も等間隔で整っている。柱痕はP1・3・5～7で確認できた。

**遺物：**遺物は出土していない。P6下位に自然石の出土を見るが、補強石ではなく混入と判断した。

**時期：**1号掘立柱建物に切られる重複関係があるが、詳細な時期は不明である。中近世としたい。

#### 4号掘立柱建物(第67図・PL.31)

**位置：**57区J～M-24 西群の北側にあたる。調査区北側に大半を延ばし、南辺の柱穴6基のみを見る。

**重複：**1・3号掘立柱建物、10号土坑と重複する。1号掘立柱建物P6とP20が本建物P6を切る新旧関係である。

**規模：**南辺5間を見る(7.0m)。おそらく東西棟であろう。あるいは櫛列の可能性もある。

**施設：**炉及び庇などの施設は見ない。

**主軸方位：**N-85°-E 1号掘立柱建物に近い主軸だが、僅かな誤差がある。

**柱穴：**6基の柱穴列を南桁行とした。柱間距離は桁行1.9～2.8mを測る。柱痕は見られなかった。柱穴配置はやや不規則で統一性に欠ける。

**遺物：**出土していない。

**時期：**中近世と捉えたい。

#### 5号掘立柱建物(第68図・PL.34)

**位置：**57区I～K-23 西群の建物が重なる箇所ので他の建物とは軸を異にして検出された。

**重複：**1・3号掘立柱建物。3号掘立柱建物P8が本建物P1を切る重複関係を示す。

**規模：**3間(7.0m) あるいは櫛列の可能性もある。

**主軸方位：**N-78°-W

**柱穴：**4基の柱穴列からなる。桁行2.3～2.4mを測り

等間隔の配列である。柱痕はP4に確認された。等間隔に並ぶやや浅い柱穴に注意し、対応する柱穴の検出を試みた。柱穴列の抽出に止まった。

**遺物**：P2より同一個体の石白片2点の出土を見る。

**時期**：中近世と考えた。

#### 6号掘立柱建物(第69図・PL.31)

**位置**：57区A～D-23～25 東群の中核部で調査された。周辺は南東への緩やかな傾斜地形を呈す。

**重複**：7・8・14号掘立柱建物が重なる。7号掘立柱建物P5と本建物P5が重複するが、残念ながら新旧は不明である。

**規模**：4間×1間(8.2×5.1m) 横長の長方形を呈する東西棟である。

**施設**：炉及び庇などの施設は無い。

**主軸方位**：N-75°-E 重複する7号掘立柱建物と同様の方位である。両者の近縁性が窺えよう。

**柱穴**：10基の柱穴からなる。柱痕が観察された例はなかったが、いずれも径30cm前後の小型の円形を平面形とし、深さも50cmを超える例が多くしっかりした掘り込みである。柱間距離は、桁行2.0～2.2m、梁行5.1mを測り整った配置を示す。

**遺物**：出土遺物は見られなかった。

**時期**：中近世と考える。

#### 7号掘立柱建物(第70図・PL.31)

**位置**：57区A～D-23～25 東群の中核部で6号掘立柱建物とともに調査された。周辺は南東への緩やかな傾斜地形を呈す。

**重複**：6・8・14号掘立柱建物。6号掘立柱建物との新旧は不明である。

**規模**：4間×1間(9.0×5.2m) 横長の長方形を呈する東西棟である。

**主軸方位**：N-81°-E 重複する6号掘立柱建物とはほぼ同じ主軸を向くが、若干本建物が北に傾く。

**柱穴**：10基の柱穴からなる。北辺と南辺の柱穴配置は整っている。柱間距離は、桁行1.9～2.9m、梁行5.2mを測る。特に西側のP1～P2間とP7～P8までの距離が長く等間隔ではない。柱穴規模は、径40cm前後の円形の平面形で、深さの良好なP9～P12は60cmを超えるしっかりし

た例である。なお、P8・P9は試掘トレンチにより上半を逸失している。

P4～P6及びP9～P12は、重複状態で2基のビットが確認されている。建物主軸に沿う配列のため、おそらく同一建物内で建て替えが行われたものと考えられる。

**遺物**：出土遺物は見られなかった。

**時期**：中近世と考える。

#### 8号掘立柱建物(第71図・PL.31)

発掘調査では、3基の柱穴(P5～P7)の配列を8号掘立柱建物としていたが、整理段階で、南側に平行する4基の配列を見せる柱穴列(10号掘立柱建物)を併せて8号掘立柱建物とした。その際、梁間柱穴にP8(P145)を充てた。

**位置**：57区A～C-23～25 東群の東端にあたり、おそらく調査区域外に建物東端が延長すると捉えた。

**重複**：6・7・9・14号掘立柱建物。6号掘立柱建物P5と重複するが新旧関係は不明である。

**規模**：3間×2間(5.3×5.1m) 調査区域外に東辺を設けた場合、長方形を平面形とした東西棟である。

**主軸方位**：N-81°-E 重複する7号掘立柱建物と同様の方位である。何らかの関連性を窺わせよう。

**柱穴**：8基の柱穴からなる。北辺に3基、南辺に4基の配列が見られ、整然と対応していない。柱間距離も桁行1.6～1.9m、梁行2.4～2.7mを測り、ややばらつきが観察される。

**遺物**：出土していない。

**時期**：中近世とした。

#### 9号掘立柱建物(第71図)

**位置**：57区A～C-24・25 東群の北端で検出した。

**重複**：7号掘立柱建物が重なるが柱穴の重複はなく新旧は不明である。

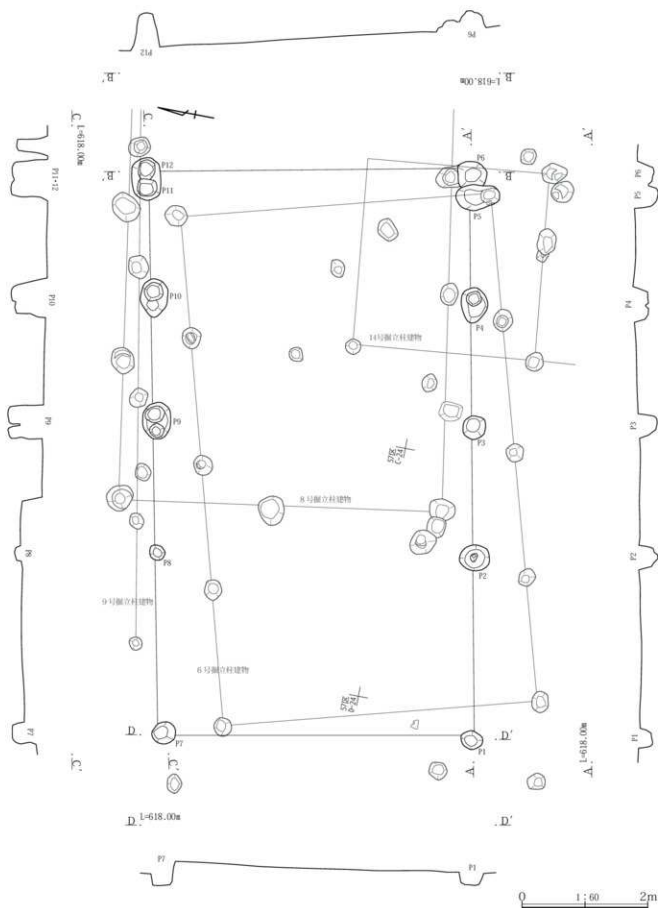
**規模**：4間(7.9m) 対応する桁を抽出し得なかった。あるいは柵列の可能性もある。

**主軸方位**：N-80°-E 7号掘立柱建物とはほぼ同軸方位で、重複関係を見ることから、時間差を持った近縁性が窺われよう。

**柱穴**：5基の柱穴からなる。桁行1.9～2.1mを測る。柱穴規模は径約30～40cmで円形の平面形を呈し、深

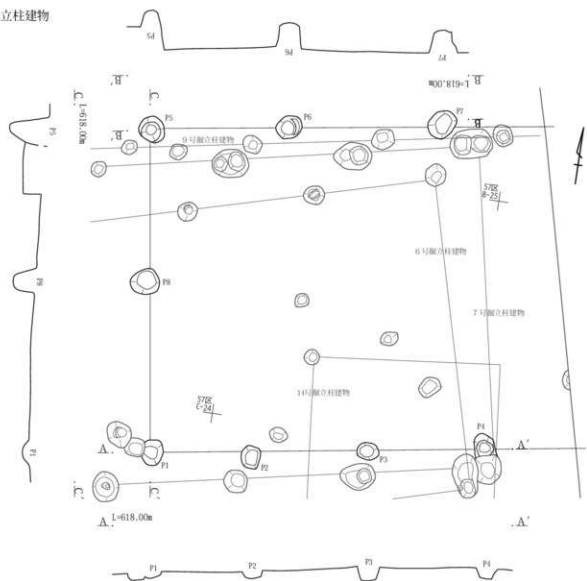




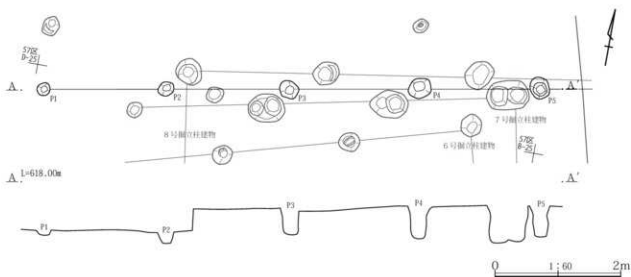


第70图 7号独立柱建物 平·断面图

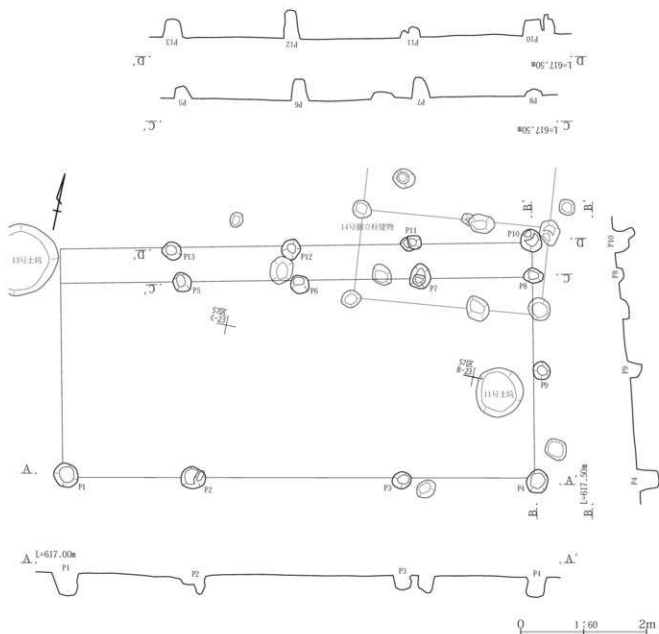
8号掘立柱建物



9号掘立柱建物



第71図 8・9号掘立柱建物 平・断面図



第72図 11号掘立柱建物 平・断面図

さも40～50cm程の良好な掘り込みを示す。西側の2基は試掘トレンチのため上半部を遮る。

遺物：出土していない。

時期：中近世とした。

#### 11号掘立柱建物(第72図・PL.31)

発掘調査では、11・12号掘立柱建物として2棟の建物を想定したが、整理段階で北辺の柱穴列を庇と考え、1棟の建物と捉えた。

位置：57区A～C-22・23 東群の南で検出された。南

側への傾斜がやや強くなる地点である。

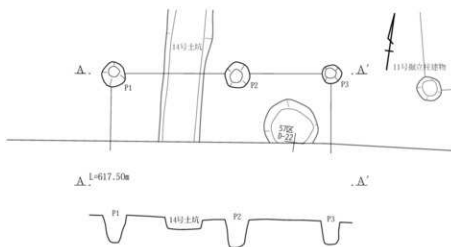
重複：14号掘立柱建物・11号土坑。柱穴相互の重複は無く、新旧は不明である。

規模：3間×3間(7.5×3.9m) 横長の東西棟である。

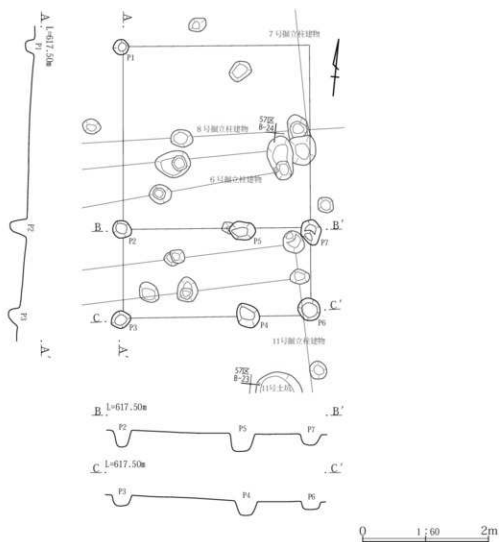
主軸方位：N-80° - E 東群の建物群とほぼ同軸を向く。

柱穴：12基の柱穴を充てた。径30～40cm程度の小型の円形を平面形とし、深さも20～40cmとやや浅い。南側での検出が起因している。P1～P9を身舎と捉え、P10を北辺の庇と考えた。庇柱穴配列と身舎北辺の柱穴配列はほぼ

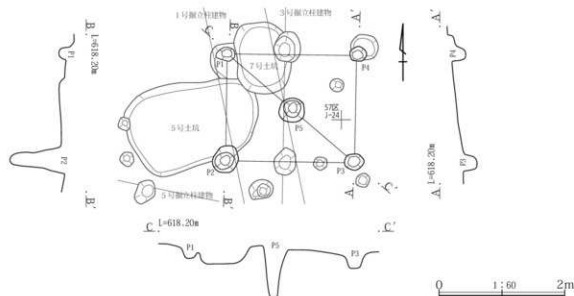
## 13号掘立柱建物



## 14号掘立柱建物



第73図 13・14号掘立柱建物 平・断面図



第74図 15号掘立柱建物 平・断面図

対応するが、南辺の柱穴に整合性を見ない。南辺P1に相応する北辺の柱穴が見られず、北辺P6に対する南辺柱穴を欠く。このように柱穴配置にやや規則性が見られないが、東群にあって庇を設ける建物として位置付けておきたい。

**遺物：**出土遺物は無い。

**時期：**中近世と考えた。

#### 13号掘立柱建物(第73図・PL.32)

**位置：**57区C・D-22 東群とは南西に距離を置き、調査区南東で調査された。

**重複：**14号土坑と重なるが新日は不明である。

**規模：**2間(3.5m) 南側を調査区域外へ延長すると思われる。小型の建物と考える。

**主軸方位：**N-82°-E 北辺のみの検出のため、判断としないが、東西棟か。

**柱穴：**3基の柱穴を充てた。桁行1.5~2.0mを測り、径30~40cm程の円形の平面形を呈す。深さは30~40cmで比較的しっかりした掘り込みである。

**遺物：**出土していない。

**時期：**中近世としたが、東群と距離を置くことから、東群掘立柱建物との時期差も考えられる。土層の観察からは、近世~近代の可能性もある。

#### 14号掘立柱建物(第73図)

整理段階で抽出した建物である。

**位置：**57区A・B-23・24 東群の東端に位置する。

**重複：**6~8・11号掘立柱建物。重複する柱穴は無く新旧は不明である。

**規模：**2間×2間(4.3×3.0m) 南北棟か。

**主軸方位：**N-5°-E

**柱穴：**P2~P6は対応する小ピットである。北に距離を置いてP1を充てた。径30cm前後の円形の平面形で、深さは20~30cmとやや浅い。

**遺物：**出土遺物は無い。

**時期：**中近世か。

#### 15号掘立柱建物(第74図)

整理段階で抽出した建物である。

**位置：**57区I・J-23・24 西群の東端に位置する。

**重複：**1・3号掘立柱建物、5・7号土坑が重複するが新旧は不明である。

**規模：**1間×1間(2.1×1.7m) 小型の建物とした。

**主軸方位：**N-1°-E ほぼ北を向き、3号掘立柱建物と近い主軸を持つ。

**柱穴：**総柱で5基の柱穴からなる。桁行2.1m、梁行1.7mを測る。

**遺物：**出土遺物は無い。

**時期：**中近世か。

## 2. 土坑

14基の土坑を調査した。3号土坑と6号土坑は欠番である。発掘調査時において平面形を確認したが、現代遺物(ビニール片など)を出土したため発掘段階で欠番とした。

## 1号土坑(第75図・PL.32)

**位置**：57区K・L-22・23 調査区西側の南西斜面に位置する。

**重複**：1号掘立柱建物。新旧は不明である。

**規模・形状**：平面形は約2.3×1.9mを測り、不整楕円形を呈す。深さは約1.3mと深い。

**長軸方位**：N-90°-E

**遺物**：出土遺物は無かった。

**時期**：中近世か。

**所見**：試掘調査で確認された土坑である。調査深度が深く、下面においては湧水が著しかった。陥伏土坑あるいは井戸状遺構と思われるが、当地域の陥伏土坑の多くは単独で設けられず、ここでは、井戸状遺構としての性格を想定したい。

## 2号土坑(第75図・PL.32)

**位置**：57区L-23 調査区西側の南西斜面に位置する。

**重複**：1号掘立柱建物。新旧は不明である。

**規模・形状**：径約1.3×1.1mの不整円形を呈す。浅く、皿状の断面形を示す。0.24mを測る。

**長軸方位**：N-73°-E

**遺物**：出土していない。

**時期**：土層の特徴から、近世～近代か。

## 4号土坑(第75図・PL.32)

墓塚である。埋土上層～中層より大型の角礫が集中し、下位に1個体分の人骨が出土している。頭位を北東に置き、大腿骨を南西に置く。遺存度はやや不良である。おそらく屈葬に埋葬されたのであろう。

**位置**：57区J・K-23 西側斜面のほぼ中央に位置する。南西への傾斜がやや強くなる地点である。

**重複**：1・3号掘立柱建物。新旧は不明である。

**規模・形状**：径約1.0mの不整円形を平面形とし、深さは0.40mを測る。

**頭位方位**：N-26°-E

**遺物**：出土していない。

**時期**：中近世か。

## 5号土坑(第76図・PL.32)

**位置**：57区J-23・24 西斜面上位の傾斜変換点で検出された。土坑・ピットが群在する箇所である。

**重複**：1・3・15号掘立柱建物、7号土坑・17号ピット。7号土坑とは新旧関係は不明である。土層観察では17号ピットを切る新旧を得た。

**規模・形状**：不整楕円形を呈す。平面規模は約2.1×1.4m、深さは0.16mと浅い皿状の形態を示す。

**長軸方位**：N-76°-E

**遺物**：出土遺物は無い。

**時期**：近世か。

## 7号土坑(第76図・PL.32)

**位置**：57区J-24 5号土坑同様、西斜面上位の傾斜変換点で調査された。

**重複**：1・3・5号掘立柱建物、5号土坑。3号掘立柱建物P2と重複し、本土坑がP2を切る土層観察を得ている。

**規模・形状**：平面規模は1.1×0.9mの不整楕円形を呈す。深さは0.40mを測り、しっかりした掘り込みを見せる。

**長軸方位**：N-7°-W

**遺物**：出土していない。

**時期**：近世か。

## 8号土坑(第76図・PL.33・34)

墓塚であろうか。平面形、底面の様相から竪穴状の小型住居の可能性もあるが、底面に柱穴はなく、焼土・炭化物の出土も見られない。鉄釘が出土したことから、墓塚の可能性を考えたい。

**位置**：57区I・J-22 西斜面南側で検出された。周辺は南側への傾斜変換点である。

**重複**：2号掘立柱建物。近接遺構として9号土坑が北東に接する。2号掘立柱建物P6が本土坑北側の突出部と重複する。本土坑が新しい土層観察である。

**規模・形状**：北側壁に突出部を見るが、重複ではなく本土坑の一部と判断した。軸長2.0mの不整正方形を呈す。深さは約0.30mで箱状のしっかりした断面形を示す。坑

底面は、硬化面を見ないが平坦面を維持する。

**長軸方位**：N-8°-W

**遺物**：埋土中より鉄釘を出土している。

**時期**：中近世か。

#### 9号土坑(第76図・PL.33・34)

8号土坑と同様に墓塚の可能性がある。人骨の出土は見ないが、墓塚とした4号土坑と同様に礫を集中する特徴を有し、カワラケの出土が見られた要素を注意したい。**位置**：57区I-22・23 8号土坑北東に接して調査された。土坑相互の新旧は不明である。

**重複**：2号掘立柱建物P5が土坑底面を重複する。本土坑に伴う角礫がP5を覆うため、本土坑を新しく捉えた。

**規模・形状**：平面形は不整形を呈し、約2.0×1.6mを測る。深さは約0.20mでやや浅い皿状の断面形を示す。

**長軸方位**：N-7°-W 8号土坑と同方向を向く。

**遺物**：埋土下位～底面にかけて、カワラケの出土を見た。

**時期**：カワラケから中世と捉えた。

#### 10号土坑(第77図)

**位置**：57区L-24 西斜面北側に位置する。

**重複**：1号掘立柱建物P15・4号掘立柱建物P2が重複する。新旧は不明である。

**規模・形状**：不整形円形を呈す。平面規模は約1.0×0.5m、深さは約0.26mを測る。

**長軸方位**：N-12°-E

**遺物**：石器細片1点の出土を見たが図化に至っていない。

**時期**：不明。

#### 11号土坑(第77図・PL.33)

**位置**：57区A-22・23 調査区東端で検出された。緩やかな南東斜面にある。

**重複**：単独の検出だが、周辺は掘立柱建物が群在する。

**規模・形状**：径約80cmの不整形円形を呈す。深さは約30cmを測る。断面形は箱形である。

**遺物**：出土していない。

**時期**：不明である。埋土の様相は掘立柱建物柱穴埋土に近い。

#### 12号土坑(第77図・PL.33)

**位置**：57区C-25 東斜面北東側に位置する。

**重複**：重複状態の2基の土坑を本土坑とした。

**規模・形状**：不整形を呈し、平面形は約1.0×0.8m、深さは約0.20mを測る。断面形は不連続な皿状である。

**遺物**：出土していない。

**時期**：不明。埋土の様相は近世～近代か。

#### 13号土坑(第77図・PL.33)

**位置**：57区C-22・23 東斜面南西部に位置する。南への傾斜変換点にあたる。

**重複**：ない。掘立柱建物東群の南西部で近接する。

**規模・形状**：径約1.1m前後の円形を呈する。深さは0.30m以上で箱形の断面形を示す。

**遺物**：出土していない。

**時期**：不明。近世～近代か。

#### 14号土坑(第77図・PL.33)

**位置**：57区D-21～23 東斜面南側に位置する。南側を調査区域外へ延ばす。

**重複**：13号掘立柱建物。新旧は不明である。

**規模・形状**：縦長長方形を呈す。軸長残存部で6.0mを超え、短軸長は0.7mを測る。深さは0.28mで箱形の断面形を示す。

**長軸方位**：N-2°-W 傾斜に沿う南北の走行を示す。

**遺物**：出土していない。

**時期**：近世～近代か。いわゆるイモ穴に近い形状である。

#### 15号土坑(第78図・PL.33)

**位置**：57区D・E-22・23 東斜面南側で単独で検出された。南東への斜面地形にある。

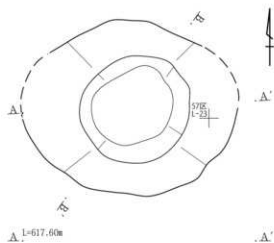
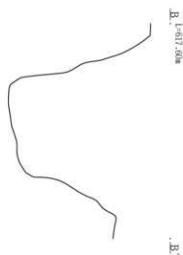
**重複**：重複遺構は無い。距離を置いて14号土坑が東に近接する。

**規模・形状**：径約1.1mの円形を平面形とし、深さは約0.30mを測る。しっかりした箱形の断面形を示す。

**遺物**：出土していない。

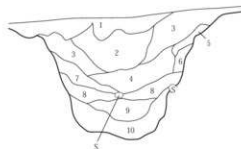
**時期**：不明。近世～近代か。

1号土坑

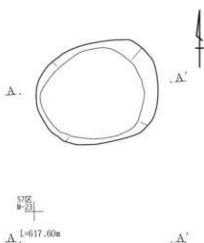


1号土坑

- 1 黒褐色土 暗褐色土ブロック・ローム粒を含む。
- 2 黒褐色土 大粒のAs-YPkを少量含む。
- 3 黒褐色土 As-YPkを含まない。
- 4 黒褐色土 やや明るく、大粒のAs-YPkを微量含む。
- 5 鈍い褐色土 褐色土ブロックが主体。
- 6 黄褐色土 ロームブロックが主体。
- 7 暗褐色土 やや暗く、白色粒を少量含む。
- 8 暗褐色土 やや明るく、小粒のAs-YPkを含む。
- 9 暗褐色土 暗く、小粒のAs-YPkを少量含む。
- 10 黄褐色土 ロームブロック・As-YPk・小礫を含む。



2号土坑



2号土坑

- 1 黒褐色土 赤色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 赤色粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。

4号土坑

- 1 黒褐色土 軟質で、灰色味を帯びる。
- 2 黒褐色土 ローム小ブロックを少量含む。
- 3 黒褐色土 ローム小ブロックを多く含む。

4号土坑

1 面目



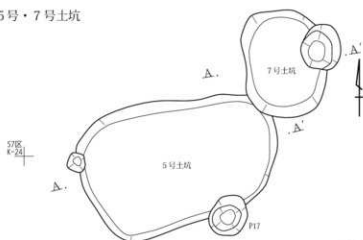
2 面目



第75図 1・2・4号土坑 平・断面図

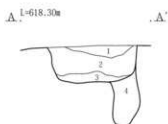


5号・7号土坑



5号土坑

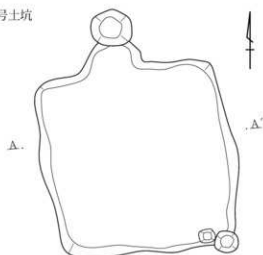
- 1 黒褐色土 赤色粒子・ロームブロックを僅かに含む。
- 2 黒褐色土 赤色粒子を多く、ロームブロックを僅かに含む。
- 3 黒褐色土 攪乱。



7号土坑

- 1 暗褐色土 赤色粒子・ロームブロックを僅かに含む。
- 2 暗褐色土 赤色粒子を多く、ロームブロックを僅かに含む。
- 3 暗褐色土 赤色粒子・ロームブロックを多く含む。
- 4 暗褐色土 赤色粒子を多く含む。

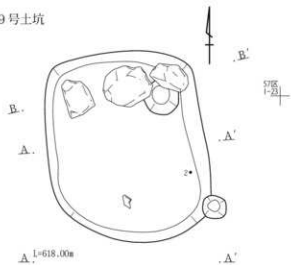
8号土坑



8号土坑

- 1 黒褐色土 やや明るく、ローム小ブロックを少量含む。
- 2 黄褐色土 ローム大ブロックが主体。

9号土坑



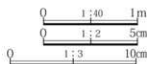
9号土坑

- 1 黒褐色土 ローム小ブロックを少量含む。



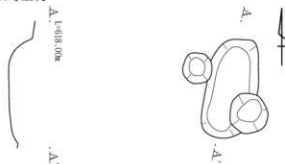
9号土坑

- 1 黒褐色土 ローム小ブロックを少量含む。

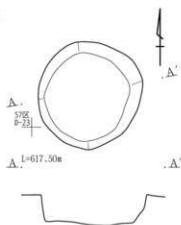


第76図 5・7～9号土坑 平・断面図、出土遺物

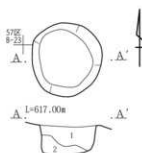
10号土坑



13号土坑



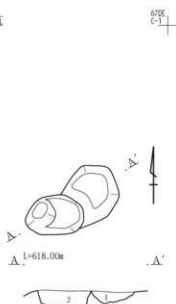
11号土坑



11号土坑

- 1 暗褐色土 暗く、締まり弱い。
- 2 暗褐色土 やや明るく、褐色粒を少量含む。

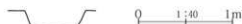
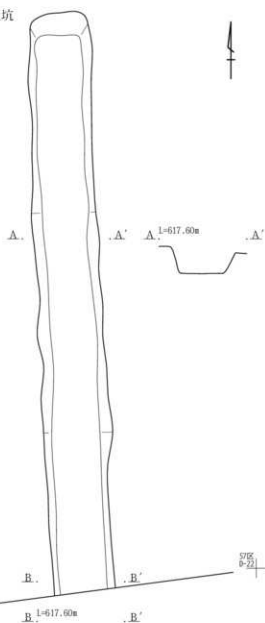
12号土坑



12号土坑

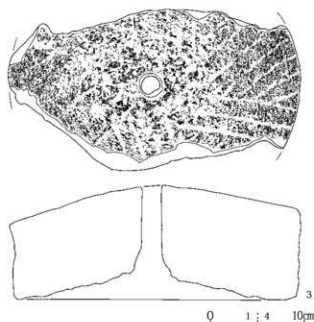
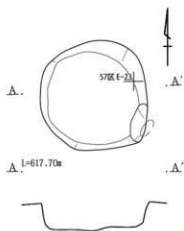
- 1 黒褐色土 赤色粒子・黒色地山ブロックを少量含む。
- 2 黒褐色土 黒色地山ブロックを僅かに含む。

14号土坑

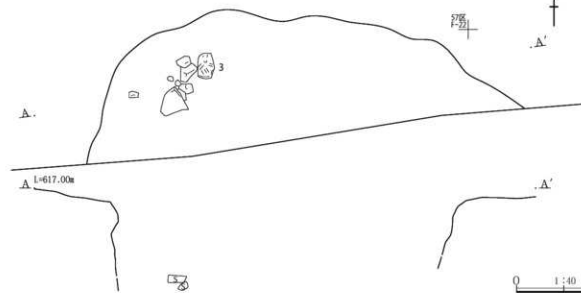


第77図 10～14号土坑 平・断面図

15号土坑



16号土坑



第78図 15・16号土坑 平・断面図、出土遺物

16号土坑(第78図・PL.33・34)

南側の大半を調査区域外へ延長する。1 m以上の掘り下げを行ったが、調査区壁の崩落が懸念されたため、安全対策上、土坑下位の調査は断念している。

位置：57区 E～G-21・22

重複：単独の検出である。

規模・形状：一部の調査に止まったため全容は把握できない。4 m以上の平面形で1 m以上の深度を見た。

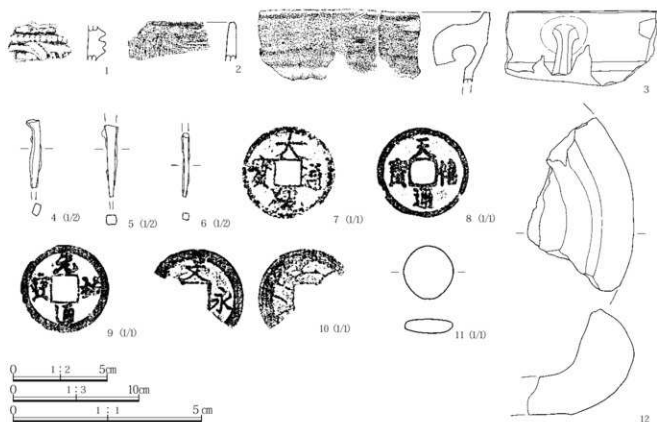
遺物：下白破片を図示したが、他に在地土器内耳銅体部小破片が出土している。

時期：中近世か。

3. ビット

林宮原遺跡では多数のビットを調査した。そのうち東西方向に並ぶビットを抽出し、掘立柱建物を検出したが、掘立柱建物柱穴以外にも多くのビットが残る。本章ではそれらのビットを全て掲載せず、遺構一覧表にまとめた。参照していただきたい。

ビットからの出土遺物は非常に少ない。図示し得た例では71号ビットからは内耳銅口縁部破片(第79図3)、86



第79図 遺構外出土遺物

号ピットからは銭貨「大観通寶」（第79図7）が出土している。また図示し得なかったピット出土遺物の大半が内耳銅破片である。このことから、本遺跡で検出されたピット、掘立柱建物柱穴の多くは中世に比定されたと考えられよう。

#### 4. 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物も図示に耐えられる遺物は少ない。縄文土器破片2点(第79図1・2)、釘3点(第79図4～6)、銭貨3点(第79図8～10)、碁石1点(第79図11)、石鉢1点(第79図12)を掲載した。縄文土器以外は、帰属する時期を中近世に求められよう。これは掘立柱建物に比定した時期であり、掘立柱建物を中心とした生活痕跡の一部が遺構外遺物に反映したと見られる。

### 第5節 調査の成果(総括)

林宮原遺跡は、13棟の掘立柱建物(以下建物)を調査した。その他に土坑・墓塚、ピットなどを見るが、調査の主体となる遺構は建物群である。ここでは、建物に注目し、その傾向を再度把握しておきたい。

立地：調査区の西側と東側に分かれて検出している。東側を東群と称し、1～5号、15号建物を充てた。一方の西群は6～9号、11号、13号、14号建物からなる。両群とも南側への緩斜面地形に立地し、台地頂部を中心として東西に分かれる配置である。両群間の距離は20mを超えることから居住者相互の関連性は弱いと考えられる。東西棟を主とすることから、南側斜面地形への影響を考慮した上での立地と思われる。

平坦面などの造成面の痕跡は見出せなかった。大規模な造成は行われていないと判断できる。また、囲苑施設としての溝状遺構や石垣などは見られなかった。

主軸：南北棟である3号、14号建物を除き、ほぼ東西棟と捉えられる。桁行方位はN-75°～82°-Eの範

囲に取まる。西群では、1号建物と2号建物の軸方位が近く、同時併存していた可能性がある。1号建物は庇付きであり、身屋ともいふべき性格が想起されよう。同様な例は東群にも見られ、7号建物と11号建物が相当しよう。11号建物に庇状の柱穴配置を見る。なお、7号建物と重なる6号建物は、桁行軸に差が見られるが7号建物と同規模の建物であり、6号→7号建物の建て替えが想定される。また8号、9号建物も7号建物と同軸方位を示し、6号建物と同様に、建て替え等の近縁性が捉えられよう。

重複：2号建物を除き、建物相互の重複が認められる。なお、柱穴同士の重複関係が捉えられたのは西群の建物を主としており、東群の柱穴は黒色土を埋土としていたため、確定的な新旧関係が把握できなかった。

西群建物の柱穴重複関係からは、4号建物(旧)→1号建物(新)、3号建物→1号建物、4号建物→3号建物、5号建物→3号建物という新旧が観察されている。このうち5号建物は、柱穴列のみの検出のため除外すると、4号建物→3号建物→1号建物という変遷が読み取れよう。4号建物と1号建物は桁行5間10mを測る身屋ともいふべき東西棟であり、4号建物→1号建物という移動の間に、南北棟の3号建物が営まれる変遷である。これは、東群の建物群でも同様と思われ、6～9号建物のような東西棟に南北棟である14号建物が配される時間的な推移が捉えられる。前述のように、東群建物は柱穴土層が良好ではないため、詳細な変遷は求められないが、西群の建物変遷の様相から、東西棟→南北棟→東西棟という変化も念頭におきたい。

時期：1号建物柱穴より砥石、2号建物P6より鉄砲玉、5号建物P2より石白片の出土を見る程度で、出土遺物量が少なく、明確な時期が特定できない。調査当初より、中近世という時間幅を持った時期を充てていたが、周辺地点にも類例が無く、比較検討の材料を持たない。その中で、9号土坑より出土したカワラケ片に注意を払いたい。

9号土坑は軸長2m程の不整形を示す土坑で北壁際にやや浮いた状態で大型角礫が集中する。2号建物P5が大型礫下で検出されたことから、おそらく9号土坑が2号建物P5を切る重複関係と判断できよう。9号土坑より出土したカワラケ片は小片のため、詳細な時期判断は控

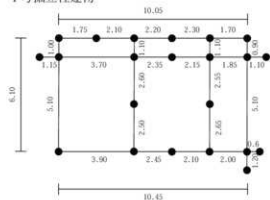
えるが、一応、中世として位置付けられよう。また、図化されなかった土器片にも在土器内耳礫が伴出しており、このことから、9号土坑の帰属時期は中世と判断できる。9号土坑に切られる2号建物の時期であるが、古代に求めるには建物や柱穴規模が相応ではなく、また周辺に古代の遺構・遺物は出土しておらず、そのため、2号建物の時期も9号土坑と同様に中世に求めておきたい。さらに、1号建物と2号建物は主軸方位も近似し、重複もしていない。このことから両者の同時併存は前にも述べた通りである。西群内の建物において1号建物をもっとも新しい時間的位置に置くことも前に述べた。故に重複する3号、4号建物も中世に時期を求めても良いだろう。おそらく数十年単位の短時間内における移動・建て替えが行われたと判断できる。同時に立地、桁行方位が西群と類似する東群とした建物群も同様の時期を想定したい。なお、本報告書本文中では、建物の時期を中近世としているが、これは9号土坑出土カワラケが周辺からの流入で、土坑の時期が下る可能性も含んでおり、時間幅を広く設けて報告している。

隣接遺跡の建物遺構：東接する林中原1遺跡が、中近世の掘立柱建物を多数調査している。37棟の建物から構成されており、中近世屋敷として位置付けられている。ただし、林中原1遺跡は林域と外縁の諸施設を含んでおり、屋敷の性格としては、本遺跡の建物群と差が予想される。

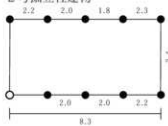
林宮原遺跡は、当事業団にとっての調査は初例となったが、町教委では数度にわたり調査を行っている。9世紀後半～10世紀前半代の集落を主としており、中世建物は検出されていない。当事業団が調査した地点とも距離を置き、おそらく中世に比定され得る遺構は、本遺跡を中心とした地点に点在するのであろう。微高地周辺の散漫な分布も予想される。

今回の調査では、柱穴を主とした小規模な調査ではあったが、中世掘立柱建物群を位置付けることができた。今後、周辺調査において中世建物群がさらに充実することを期待したい。

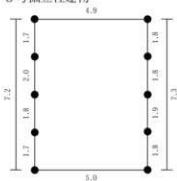
1号掘立柱建物



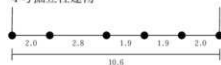
2号掘立柱建物



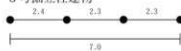
3号掘立柱建物



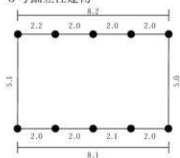
4号掘立柱建物



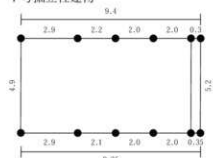
5号掘立柱建物



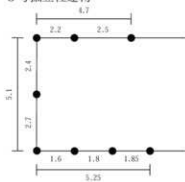
6号掘立柱建物



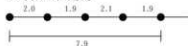
7号掘立柱建物



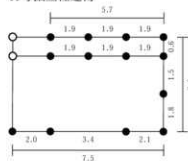
8号掘立柱建物



9号掘立柱建物



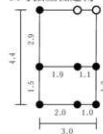
11号掘立柱建物



13号掘立柱建物



14号掘立柱建物



15号掘立柱建物



第80図 林宮原遺跡 掘立柱建物柱間計測図

第4章 林宮原遺跡

表9 遺構一覧表

掘立柱建物

遺構名	位置 (グリッド)	平面形状	規模(m)				桁行方位	重複関係 (古→新)	時期	備考
			桁行	梁行	床面積	柱間距離				
1号掘立	57IK・K-23・24, L-22~24, M-24	長方形	5間 10.0	3間 6.3	61.99	桁行 1.9~2.4 梁行 1.1~2.7	N-80°-E	3・4・5・15 号掘立柱建物	縁つき	
2号掘立	57IK-22・23, J-K-21・22	長方形	4間 8.3	1間 3.4		28.64				桁行 1.8~2.3 梁行 3.4
3号掘立	57IK・K-22~24	長方形	4間 7.3	1間 5.0	35.69		桁行 1.8~1.9 梁行 5.0	N-2°-E	1・4・5・15 号掘立柱建物	
4号掘立	57IK~M-24	—	5間 10.6	—		—	桁行 1.9~2.8 梁行 —			
5号掘立	57IK1~K-23	—	3間 7.0	—	—		桁行 2.3~2.4 梁行 —	N-78°-W	1・3号掘立柱 建物	
6号掘立	57IKa-23・24, B- 23~25, C-D-23・24	長方形	4間 8.2	1間 5.1		40.35	桁行 2.0~2.2 梁行 5.1			
7号掘立	57IKa-23・24, B・C -23・25, D-23・24	長方形	4間 9.0	1間 5.2	44.92		桁行 1.9~2.9 梁行 5.2	N-78°-E	6・8・14号掘 立柱建物	
8号掘立	57IKa~C-23~25	長方形	3間 3.3	2間 5.1		38.56	桁行 1.6~1.9 梁行 2.4~2.7			
9号掘立	57IKa・B-25, C-24・25	—	4間 7.9	—	—		桁行 1.9~2.1 梁行 —	N-80°-E	8号掘立柱建物	
10号掘立	欠番									
11号掘立	57IKa~C-22・23	長方形	3間 7.5	3間 3.9	27.62	桁行 — 梁行 0.6~1.8	N-80°-E		縁つき	
12号掘立	欠番									
13号掘立	57IKC・D-22	—	2間 3.5	—	—	桁行 1.5~2.0 梁行 —	N-82°-E			
14号掘立	57IKa・B-23・24	—	2間 4.3	2間 3.0		12.98				桁行 1.5~2.9 梁行 1.0~2.0
15号掘立	57IK1・J-23・24	—	1間 2.1	1間 1.7	3.52		桁行 2.1 梁行 1.7	N-1°-E	1・3号掘立柱 建物	

土坑

遺構名	位置 (グリッド)	平面形状	規模(m)			長軸方位	重複関係	時期/備考
			長軸(径)	短軸	深さ			
1号土坑	57IKa・L-22・23	楕円形	2.30	1.88	1.32	N-90°-W		
2号土坑	57IK1-23	楕円形	1.30	1.08	0.24	N-73°-E		
3号土坑	欠番							
4号土坑	57IK1・K-23	円形	1.04	—	0.40	—		
5号土坑	57IK1-23・24	楕円形	2.12	1.38	0.16	N-76°-E	17号ピット	
6号土坑	欠番							
7号土坑	57IK1-24	楕円形	1.14	0.86	0.40	N-7°-W	18号ピット	
8号土坑	57IK1・J-22	楕円形	2.0	2.00	0.32	N-8°-W		
9号土坑	57IK1-22・23	楕円形	2.01	1.60	0.18	N-7°-W	92号ピット	
10号土坑	57IK1-24	長楕円	1.08	0.54	0.26	N-12°-E	4・5号ピット	
11号土坑	57IKa-22・23	円形	0.78	—	0.32	—		
12号土坑	57IKC-25	不整形	1.04	0.58	0.22	N-59°-E		
13号土坑	57IKC-22・23	円形	1.10	—	0.34	—		
14号土坑	57IKD-21~23	長方形	(6.10)	0.70	0.28	N-2°-W		
15号土坑	57IKD・E-22・23	円形	1.12	—	0.32	—		
16号土坑	57IKa-21, F-21・22, G-21	—	—	—	—	—		

ビット

道橋名	位置 (グリッド)	平面形状	規模(m)		長軸方位	重複関係	時期/備考
			長軸(沿)	短軸			
1号ビット	57IKM-24	円形	0.28	—	0.26	—	1面、1号孤立柱建物P16
2号ビット	57IKM-24	方形	0.36	—	0.44	—	4号孤立柱建物P1
3号ビット	57IKM-24	不整形円形	0.43	—	0.70	—	1号孤立柱建物P10
4号ビット	57IKL-24	円形	0.30	—	0.58	—	1号孤立柱建物P15
5号ビット	57IKL-24	円形	0.40	—	0.48	—	10号上坑 4号孤立柱建物P2
6号ビット	57IKL-24	円形	0.40	—	0.78	—	1号孤立柱建物P9
7号ビット	57IKL-24	円形	0.36	—	0.44	—	1号孤立柱建物P14
8号ビット	57IKM-24	楕円形	0.50	0.40	0.58	N-26°-W	4号孤立柱建物P3
9号ビット	57IKM-24	不整形円形	0.50	—	1.02	—	1号孤立柱建物P8
10号ビット	57IKM-24	楕円形	0.40	0.36	0.74	N-83°-E	3号孤立柱建物P7
11号ビット	57IKM-23・24	円形	0.42	—	0.25	—	—
12号ビット	57IKM-23	円形	0.42	—	0.50	—	3号孤立柱建物P8
13号ビット	57IKM-23	円形	0.30	—	0.5	—	3号孤立柱建物P9
14号ビット	57IKM-24	不整形円形	0.52	—	0.60	—	1号孤立柱建物P7
15号ビット	57IKJ-24	円形	0.30	—	0.60	—	1号孤立柱建物P20
16号ビット	57IKJ-24	楕円形	0.58	0.52	1.04	N-8°-E	P99 1号孤立柱建物P16
17号ビット	57IKJ-23	楕円形	0.46	0.38	0.84	N-32°-E	15号孤立柱建物P2
18号ビット	57IKJ-24	楕円形	0.48	0.42	0.85	N-11°-E	7号上坑 3号孤立柱建物P2
19号ビット	57IKJ-23	楕円形	0.46	0.34	0.35	N-10°-E	5号孤立柱建物P3
20号ビット	57IKJ-23	楕円形	0.50	0.44	0.35	N-66°-W	1号孤立柱建物P19
21号ビット	57IKJ-23	楕円形	0.54	0.30	0.35	N-30°-E	5号孤立柱建物P2
22号ビット	57IKJ-23	楕円形	0.32	0.26	0.26	N-81°-E	—
23号ビット	57IKM-23	円形	0.26	—	0.1	—	—
24号ビット	57IKJ-24	楕円形	0.60	0.52	0.86	N-55°-E	3号孤立柱建物P1
25号ビット	57IKJ-24	円形	0.40	—	0.34	—	4号孤立柱建物P5
26号ビット	57IKM-24	楕円形	0.38	0.30	0.67	N-51°-W	1号孤立柱建物P12
27号ビット	57IKI・I-24	円形	0.20	—	0.39	—	—
28号ビット	57IKI-24	不整形円形	0.42	—	0.25	—	—
29号ビット	57IKI-23・24	楕円形	0.34	0.26	0.16	N-79°-W	—
30号ビット	57IKM-23	円形	0.28	—	0.34	—	5号孤立柱建物P1
31号ビット	57IKM-24	不整形円形	0.28	—	0.51	—	4号孤立柱建物P4
32号ビット	57IKM-24	円形	0.18	—	0.33	—	—
33号ビット	57IKM-24	楕円形	0.45	0.36	0.63	N-90°-W	1号孤立柱建物P13
34号ビット	57IKM-24・25	円形	0.24	—	0.25	—	—
35号ビット	57IKJ-23・24	円形	0.40	—	0.80	—	15号孤立柱建物P5
36号ビット	57IKJ-23	楕円形	0.44	0.34	0.48	N-6°-E	3号孤立柱建物P3
37号ビット	57IKJ-23	円形	0.22	—	0.30	—	—
38号ビット	57IKJ-23	楕円形	0.30	0.26	0.19	N-90°-E	15号孤立柱建物P3
39号ビット	57IKJ-24	楕円形	0.26	0.22	0.38	N-63°-W	—
40号ビット	57IKI-24	方形	0.20	—	0.40	—	—
41号ビット	57IKI-24・25	楕円形	0.34	0.28	0.19	N-4°-E	—
42号ビット	57IKI-25	円形	0.28	—	0.51	—	—
43号ビット	57IKI-25	不整形円形	0.24	—	0.43	—	—
44号ビット	57IKM-24	楕円形	0.66	0.50	0.28	N-5°-W	—
45号ビット	57IKJ-24・25	楕円形	0.34	0.28	0.37	N-90°-W	—
46号ビット	57IKJ-24	不整形円形	0.30	—	0.52	—	1号孤立柱建物P11
47号ビット	57IKJ-24	楕円形	0.26	0.20	0.28	N-18°-E	—
48号ビット	57IKL-24	円形	0.20	—	0.42	—	—
49号ビット	57IKM・L-23	円形	0.30	—	0.55	—	1号孤立柱建物P18
50号ビット	57IKM-23	円形	0.40	—	0.44	—	1号孤立柱建物P4
51号ビット	57IKM-23	不整形円形	0.30	—	0.27	—	—
52号ビット	57IKM-23	楕円形	0.30	0.24	0.25	N-79°-E	1号孤立柱建物P3
53号ビット	57IKJ-23	円形	0.38	—	0.65	—	1面、1号孤立柱建物P2
54号ビット	57IKM-22	円形	0.34	—	0.29	—	3号孤立柱建物P10
55号ビット	57IKJ-22	円形	0.38	—	0.44	—	2号孤立柱建物P1
56号ビット	57IKJ-22	円形	0.38	—	0.50	—	2号孤立柱建物P2
57号ビット	57IKJ-21・22	円形	0.46	—	0.44	—	2号孤立柱建物P3
58号ビット	57IKJ-21	円形	0.40	—	0.38	—	2号孤立柱建物P4
59号ビット	57IKM-22	円形	0.38	—	0.39	—	2号孤立柱建物P9
60号ビット	57IKJ-22	円形	0.38	—	0.60	—	2号孤立柱建物P8
61号ビット	57IKJ-22	楕円形	0.42	0.32	0.55	N-0°	3号孤立柱建物P5
62号ビット	57IKJ-23	方形	0.26	—	0.37	—	—
63号ビット	57IKJ-23	円形	0.58	—	0.78	—	P98 1号孤立柱建物P17
64号ビット	57IKJ-23	円形	0.30	—	0.37	—	5号孤立柱建物P4
65号ビット	57IKJ-23	不整形円形	0.26	—	0.25	—	—
66号ビット	57IKJ-25	方形	0.18	—	0.40	—	—
67号ビット	57IKJ-25	円形	0.20	—	0.46	—	—



第4章 林宮原遺跡

遺構名	位置 (グリッド)	平面形状	規模(m)			長軸方位	重複関係	時期/備考
			長軸(併)	短軸	深さ			
68号ピット	57IK-22	円形	0.34	—	0.08	—		
69号ピット	57IK-22	不整形円形	0.26	—	0.23	—		
70号ピット	57IK-22	楕円形	0.44	0.36	0.16	N-52°-E		
71号ピット	57IK-22	楕円形	0.44	0.30	0.20	N-64°-W		1面
72号ピット	57IK-22	円形	0.28	—	0.11	—		
73号ピット	57IK-22	楕円形	0.38	0.12	0.25	N-62°-E		1面
74号ピット	57IK-22・23	楕円形	0.38	0.28	0.10	N-88°-W		
75号ピット	57IK-22・23	円形	0.27	—	0.16	—		
76号ピット	57IK-22	楕円形	0.46	0.28	0.20	N-67°-E		1面
77号ピット	57IK-21	不整形円形	0.22	—	0.28	—		
78号ピット	57IK-21	円形	0.52	—	0.20	—		
79号ピット	57IK-1・J-21	不整形円形	0.28	—	0.29	—		
80号ピット	57IK-21	楕円形	0.30	0.26	0.54	N-84°-E		
81号ピット	57IK-22	円形	0.40	—	0.65	—	8号土坑	2号独立柱建物P6
82号ピット	57IK-22	不整形円形	0.48	—	0.64	—		2号独立柱建物P7
83号ピット	57IK-25	楕円形	0.26	—	0.25	—		
84号ピット	57IK-1・J-23	楕円形	0.36	0.28	0.45	N-0°		
85号ピット	57IK-23	不整形円形	0.40	—	0.39	—		
86号ピット	57IK-23	楕円形	0.38	0.30	0.38	N-77°-E		
87号ピット	57IK-23	不整形円形	0.22	—	0.14	—		
88号ピット	57IK-22	不整形円形	0.16	—	0.23	—		
89号ピット	57IK-23	不整形円形	0.18	—	0.16	—		
90号ピット	57IK-23	円形	0.30	—	0.17	—		
91号ピット	57IK-23	不整形円形	0.21	—	0.21	—		
92号ピット	57IK-22・23	円形	0.38	—	0.70	—	9号土坑	2号独立柱建物P5
93号ピット	57IK-24	不整形円形	0.30	—	0.41	—		1号独立柱建物P22
94号ピット	57IK-22・23	円形	0.44	—	0.30	—		1号独立柱建物P5
95号ピット	57IK-23	不整形円形	0.22	—	0.13	—		1号独立柱建物P21
96号ピット	57IK-24	楕円形	0.42	0.38	0.84	N-5°-W		3号独立柱建物P6
97号ピット	57IK-23	円形	0.26	—	0.28	—		1号独立柱建物P17
98号ピット	57IK-23	—	(0.34)	(0.16)	0.32	—	P63	断面図無、平面レベルより計測、3号独立柱建物内
99号ピット	57IK-24	不整形	0.82	0.66	0.71	N-0°	P15・16	断面図無、平面レベルより計測、4号独立柱建物内
100号ピット	57IK-22	円形	0.40	—	0.24	—		1面
101号ピット	57IK-22	円形	0.30	—	0.23	—		1面
102号ピット	57IK-23	不整形円形	0.22	—	0.25	—		
103号ピット	57IK-23	円形	0.20	—	0.17	—		
104号ピット	57IK-23	不整形円形	0.45	—	0.34	—		1面
105号ピット	57IK-23	楕円形	0.30	0.24	0.21	N-62°-E		
106号ピット	57IK-23	楕円形	0.38	0.32	0.33	N-0°		11号独立柱建物P7
107号ピット	57IK-B-23	不整形円形	0.36	—	0.23	—		14号独立柱建物P4
108号ピット	57IK-22	不整形円形	0.32	—	0.30	—		
109号ピット	57IK-22	楕円形	0.38	0.34	0.31	N-0°		11号独立柱建物P4
110号ピット	57IK-22	楕円形	0.56	0.42	0.33	N-54°-W		
111号ピット	57IK-22	円形	0.30	—	0.22	—		11号独立柱建物P3
112号ピット	57IK-24	円形	0.36	—	0.39	—		7号独立柱建物P7
113号ピット	57IK-24	円形	0.24	—	0.11	—		7号独立柱建物P8
114号ピット	57IK-24・25	楕円形	0.56	0.46	0.55	N-78°-E		1面、7号独立柱建物P9
115号ピット	57IK-25	楕円形	0.60	0.40	0.58	N-78°-E		1面、7号独立柱建物P10
116号ピット	57IK-25	円形	0.65	—	0.57	—		1面、7号独立柱建物P11・12
117号ピット	57IK-24	円形	0.20	—	0.09	—		9号独立柱建物P1
118号ピット	57IK-24・25	不整形円形	0.23	—	0.14	—		9号独立柱建物P2
119号ピット	57IK-24・25	不整形円形	0.27	—	0.23	—		
120号ピット	57IK-23	不整形円形	0.26	—	0.21	—		
121号ピット	57IK-23	楕円形	0.36	0.28	0.22	N-0°		7号独立柱建物P1
122号ピット	57IK-23	不整形円形	0.24	—	0.14	—		
123号ピット	57IK-22	楕円形	0.44	0.30	0.24	N-14°-E		
124号ピット	57IK-23	不整形円形	0.26	—	0.14	—		
125号ピット	57IK-24	円形	0.28	—	0.47	—		6号独立柱建物P6
126号ピット	57IK-23	不整形	0.78	0.36	0.43	N-60°-W		2面、8号独立柱建物P1
127号ピット	57IK-23	円形	0.28	—	0.44	—		6号独立柱建物P3
128号ピット	57IK-23	楕円形	0.48	0.40	0.23	N-17°-W		7号独立柱建物P2
129号ピット	57IK-23	不整形円形	0.28	—	0.41	—		6号独立柱建物P2
130号ピット	57IK-23	不整形円形	0.30	—	0.29	—		11号独立柱建物P13
131号ピット	57IK-23	不整形円形	0.30	—	0.21	—		11号独立柱建物P5
132号ピット	57IK-25	円形	0.40	—	0.42	—		8号独立柱建物P6

遺構名	位置 (グリッド)		平面形状	規模(m)			長軸方位	重複関係	時期/備考
	位置	位置		長軸(併)	短軸	深さ			
133号ピット	57J8-25		楕円形	0.38	0.30	0.53	N-61°-E		9号掘立柱建物P4
134号ピット	57J8-23		不整形	0.22	—	0.13	—		
135号ピット	57J8-23		円形	0.28	—	0.28	—		14号掘立柱建物P2
136号ピット	57J8-23		円形	0.40	—	0.63	—		8号掘立柱建物P5
137号ピット	57J8-23		円形	0.32	—	0.49	—		6号掘立柱建物P4
138号ピット	57J8-24		円形	0.30	—	0.50	—		6号掘立柱建物P6
139号ピット	57J8-24		円形	0.32	—	0.62	—		6号掘立柱建物P9
140号ピット	57J8-25		不整形	0.34	—	0.60	—		6号掘立柱建物P10
141号ピット	57J8-C-25		不整形	0.30	—	0.42	—		9号掘立柱建物P3
142号ピット	57J8-25		楕円形	0.26	0.20	0.13	N-30°-E		
143号ピット	57J8-25		楕円形	0.46	0.38	0.36	N-28°-E		8号掘立柱建物P7
144号ピット	57J8-A-25		楕円形	0.36	0.30	0.50	N-33°-W		9号掘立柱建物P5
145号ピット	57J8-24		不整形	0.42	—	0.35	—		8号掘立柱建物P8
146号ピット	57J8-24		楕円形	0.32	0.26	0.59	N-87°-E		6号掘立柱建物P7
147号ピット	57J8-24		楕円形	0.26	0.22	0.25	N-84°-E		
148号ピット	57J8-23		楕円形	0.36	0.26	0.20	N-90°-W		8号掘立柱建物P3
149号ピット	57J8-23		楕円形	0.40	0.28	0.28	N-85°-E		14号掘立柱建物P5
150号ピット	57J8-23		円形	0.34	—	0.25	—		1面、11号掘立柱建物P10
151号ピット	57J8-23		楕円形	0.56	0.40	0.24	N-80°-E		7号掘立柱建物P4
152号ピット	57J8-23		楕円形	0.42	0.36	0.30	N-13°-E	P153	
153号ピット	57J8-23		不整形	0.28	—	0.47	—	P152	11号掘立柱建物P2
154号ピット	57J8-C-25		楕円形	0.32	0.24	0.19	N-19°-E		
155号ピット	57J8-23		楕円形	0.34	0.26	0.20	N-73°-E		6号掘立柱建物P1
156号ピット	57J8-23		円形	0.38	—	0.30	—		7号掘立柱建物P3
157号ピット	57J8-A-23		楕円形	0.70	0.40	0.32	N-22°-W		1面、6・7号掘立柱建物P5
158号ピット	57J8-A-23・24		不整形楕円形	0.46	0.36	0.26	N-22°-W		1面、7号掘立柱建物P6、8号掘立柱建物P4
159号ピット	57J8-23		楕円形	0.34	0.30	0.14	N-0°		8号掘立柱建物P2
160号ピット	57J8-24		—	(0.30)	(0.10)	0.39	—		
161号ピット	57J8-23		円形	0.30	—	0.20	—		11号掘立柱建物P9
162号ピット	57J8-23		円形	0.36	—	0.12	—		14号掘立柱建物P6
163号ピット	57J8-23		不整形	0.30	—	0.33	—		11号掘立柱建物P6
164号ピット	57J8-23		不整形	0.26	—	0.22	—		
165号ピット	57J8-22		円形	0.40	—	0.45	—		13号掘立柱建物P2
166号ピット	57J8-C-22		円形	0.36	—	0.26	—		11号掘立柱建物P2
167号ピット	57J8-22		円形	0.40	—	0.35	—		11号掘立柱建物P1
168号ピット	57J8-22		円形	0.38	—	0.42	—		13号掘立柱建物P1
169号ピット	57J8-23		方形	0.20	—	0.17	—		断面四角、平面レベルより計測、11号掘立柱建物P11
170号ピット	57J8-23		楕円形	0.30	0.24	0.11	N-0°		断面四角、平面レベルより計測、11号掘立柱建物P8
171号ピット	57J8-22		楕円形	0.32	0.26	0.18	N-37°-E		
172号ピット	57J8-22		円形	0.30	—	0.38	—		13号掘立柱建物P3

表10 遺物観察表

## 1号掘立柱建物

種目 PL No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第68回 PL_34	1	石製品 砥石か	97号ピット(P17) 完形	長3.4 幅2.3	厚2.2 重26.4	流紋岩	砥石の再加工作品と思われる。上下面を含む全面に研磨が及ぶ。	

## 2号掘立柱建物

種目 PL No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第65回 PL_34	1	金属製品 鉄砲玉	81号ピット(P6) 完形	長1.2 幅1.2	厚1.2 重9.4		鉛製と思われる。	

## 5号掘立柱建物

種目 PL No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第68回 PL_34	1	石製品 石臼	21号ピット(P2) 受け面部分	長(12.5) 幅(7.2)	厚4.6 重358.7	粗粒輝石安山岩	2と同一個体。受け面部分が、下部に高台が付くと思われる。	下白
第68回 PL_34	2	石製品 石臼	21号ピット(P2) 受け面部分	長(6.2) 幅(3.6)	厚(2.9) 重55.9	粗粒輝石安山岩	1と同一個体。受け面部分が、下部に高台が付くと思われる。	下白

第4章 林宮原遺跡

8・9・16号土坑

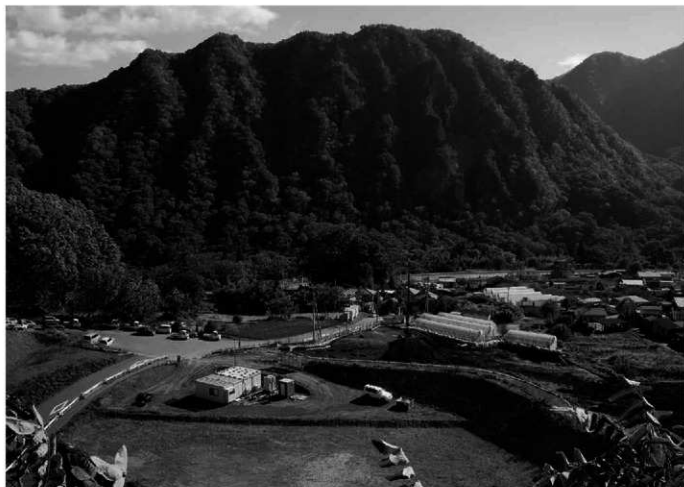
種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)・(g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第76回 PL.34	1	鉄製品 釘	8号土坑 完形	長 0.5	厚 0.5		短い角釘で、頭部は屈曲して平らとなり、下端が曲がっている。	
第76回 PL.34	2	在地下器 カワラケ	9号土坑 口縁部片	口 幅 7.6	高 底 5.0	粗砂粒/酸化焼/褐色	ロクロ整形。底面に回転糸切り痕あり。	
第78回 PL.34	3	石製品 石臼	16号土坑 1/3	径 高 30.9 12.2	重 7100.0	粗粒輝石安山岩	使い込まれ、すり合わせ部は摩耗している。臼の上面に刻まれた溝は痕跡程度。芯棒孔は狭く、径2cm。	下白

遺構外

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置	計測値(cm)・(g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第79回 PL.34	1	縄文土器 深鉢	A-239'サドⅡ割 製部片			粗砂	製部に間に刺突列をもつ2本の隆帯を回らせて文様帯区画し、区画内に隆帯と沈線で曲線的な文様を描く。	縄文時代中期
第79回 PL.34	2	縄文土器 深鉢	132号ビ'ト 口縁部片			粗砂	直立する平口縁で、口縁下に狭い無文帯をもち、以下の製部に旋位・横位に細い条線で文様を描く。	縄文時代後期
第79回 PL.34	3	在地下器 内耳皿	71号ビ'ト 口縁部片			粗砂粒/酸化焼/褐色	口縁部がやや膨れる平口縁で、口縁は平ら。外内面は横ナデで、内面口縁下に耳部をもつ。	
第79回 PL.34	4	鉄製品 釘	K-229'サドⅡ割 下半欠	長 幅 3.7 0.7	厚 重 0.7 2.6		下半を欠く角釘で、頭部は屈曲して平らとなる。	
第79回 PL.34	5	鉄製品 釘	J-229'サドⅢ割 上半欠	長 幅 (3.8) 0.8	厚 重 0.6 2.3		上半を欠く角釘。	
第79回 PL.34	6	鉄製品 釘	K-229'サド' 上半欠	長 幅 (3.4) 0.4	厚 重 0.4 1.4		上半を欠く角釘。	
第79回 PL.34	7	金属製品 鉄貨	86号ビ'ト 完形	径 孔 2.5 0.6	厚 重 0.1 2.6		「大観通寶」(1107)、北宋。	
第79回 PL.34	8	金属製品 鉄貨	1-259'サド' 完形	径 孔 2.4 0.6	厚 重 0.1 2.6		「天祐通寶」(1018)、北宋。	
第79回 PL.34	9	金属製品 鉄貨	表採 完形	径 孔 2.4 0.7	厚 重 0.1 2.9		「元祐通寶」(1093)、北宋。	
第79回 PL.34	10	金属製品 鉄貨	表採 半欠	径 孔 (2.6) (0.6)	厚 重 0.1 1.3		「文久永寶」(文久年間)、背面に波あり。	
第79回 PL.34	11	石製品 礫石	J-229'サドⅡ割 完形	長 幅 2.0 2.0	厚 重 0.6 2.7	珪質変質岩	白礫石で、表面がやや荒れている。	
第79回 PL.34	12	石製品 石鉢	2号試験坑1/3 1/6	長 幅 (13.6) (8.4)	高 重 8.2 695.9	粗粒輝石安山岩	平口縁で、体部外面が膨らむように湾曲する。	

# 写真図版





1 遠景(北から)



2 91区西 第1面 全景(北から)



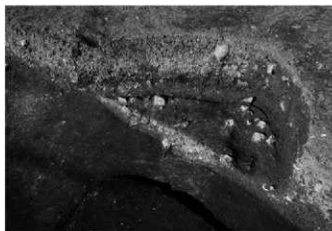
1 91区東・81区 第1面 全景(北から)



2 91区東・81区 第2面 全景(北から)



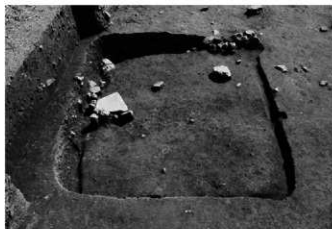
1 第1面 91区1号住居 全景(西から)



2 第1面 91区1号住居 掘り方(南から)



3 第1面 91区2号住居 遺物出土状況(西から)



4 第1面 91区2号住居 全景(西から)



5 第1面 91区2号住居 掘り方(西から)



6 第1面 91区2号住居 1号カマド(北西から)



7 第1面 91区2号住居 1号カマド(北西から)



8 第1面 91区2号住居 2号カマド(南から)





1 第1面 91区3号住居 全景(西から)



2 第1面 91区3号住居 振り方(西から)



3 第1面 91区3号住居 カマド(西から)



4 第1面 91区2・4号住居 重複状況(南から)



5 第1面 91区4号住居 全景(南から)



6 第1面 91区4号住居 カマド(南から)



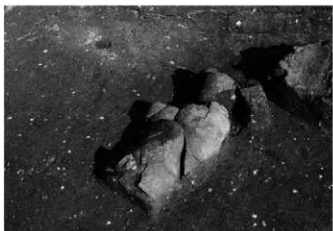
7 第2面 91区5号住居 全景(南から)



8 第2面 91区5号住居 全景(南西から)



1 第2面 91区6号住居 全景(南から)



2 第2面 91区6号住居 遺物出土状況(南西から)



3 第2面 91区7号住居 全景(西から)



4 第2面 91区8号住居 遺物出土状況(南から)



5 第2面 81区1号住居 床面(南から)



6 第2面 81区1号住居 遺物出土状況(西から)



7 第2面 81区2号住居 遺物出土状況(南から)



8 第2面 81区2号住居 床面全景(西から)



1 第2面 81区2・3号住居 床面全景(南西から)



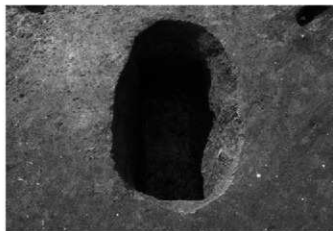
2 第2面 81区4号住居 床面全景(東から)



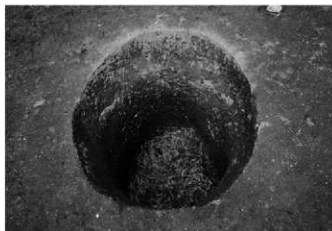
3 第1面 91区1号土坑 全景(東から)



4 第1面 91区2号土坑 全景(南から)



5 第1面 91区3号土坑 全景(東から)



6 第1面 91区5号土坑 全景(南から)



7 第1面 91区6号土坑 全景(南から)



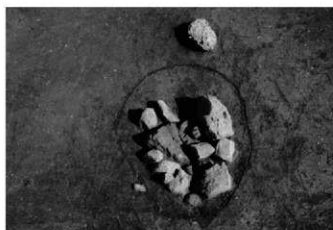
8 第1面 91区7号土坑 全景(南から)



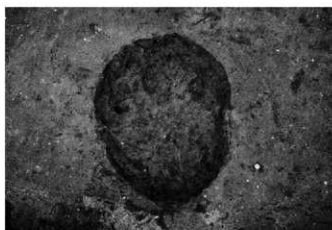
1 第1面 91区8号土坑 全景(南から)



2 第1面 91区9号土坑 全景(南から)



3 第1面 91区10号土坑 上面(南から)



4 第1面 91区10号土坑 全景(南から)



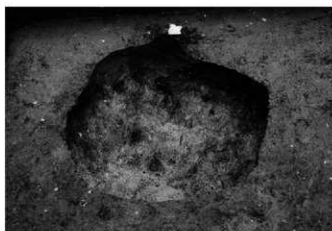
5 第1面 91区11号土坑 全景(南東から)



6 第1面 91区12号土坑 全景(東から)



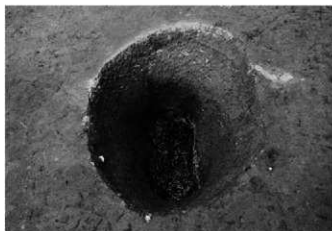
7 第2面 91区13号土坑 全景(東から)



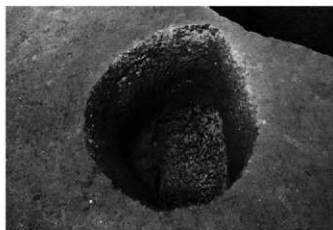
8 第2面 91区15号土坑 全景(南から)



1 第1面 81区1号土坑 全景(南から)



2 第1面 81区2号土坑 全景(南から)



3 第1面 81区3号土坑 全景(南から)



4 第1面 81区4号土坑 全景(南から)



5 第1面 81区5号土坑 土層断面(西から)



6 第1面 81区5号土坑 全景(南から)



7 第2面 81区H-23グリッド遺物出土状況(西から)



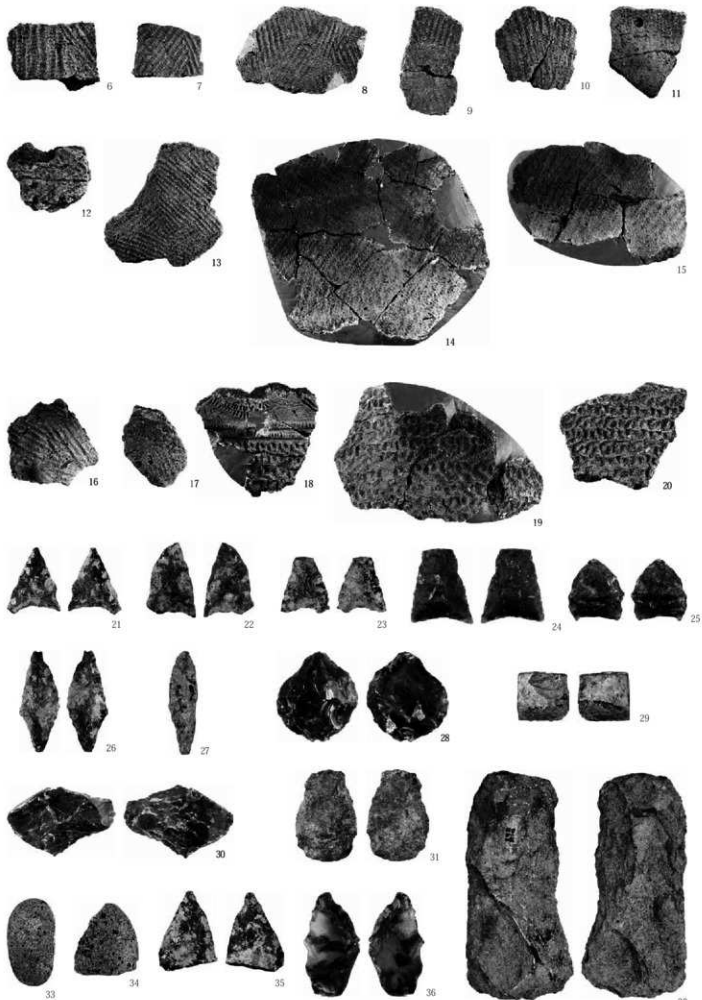
8 第2面 81区H-24グリッド遺物出土状況(南から)

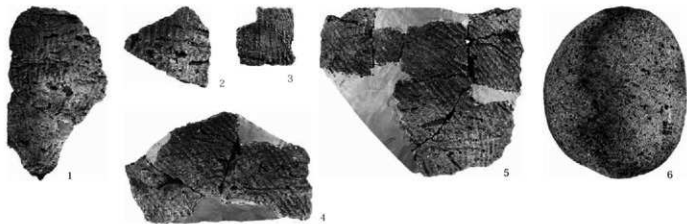


81区1号住居出土遺物



81区2号住居出土遺物(1)

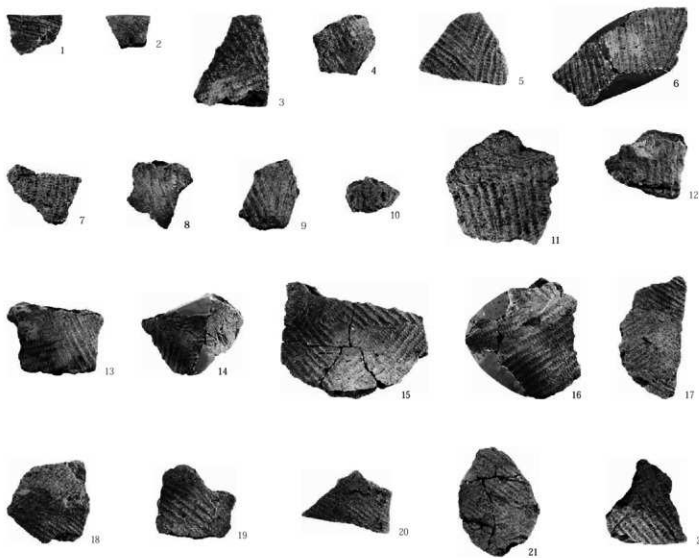




81区3号住居出土遺物

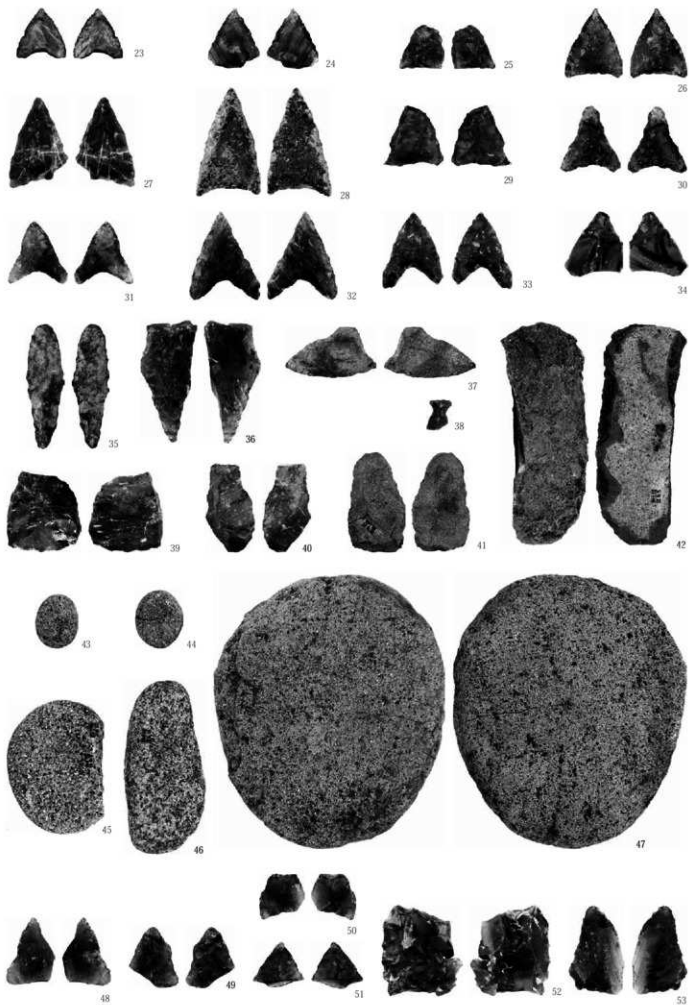


81区4号住居出土遺物



91区5号住居出土遺物(1)



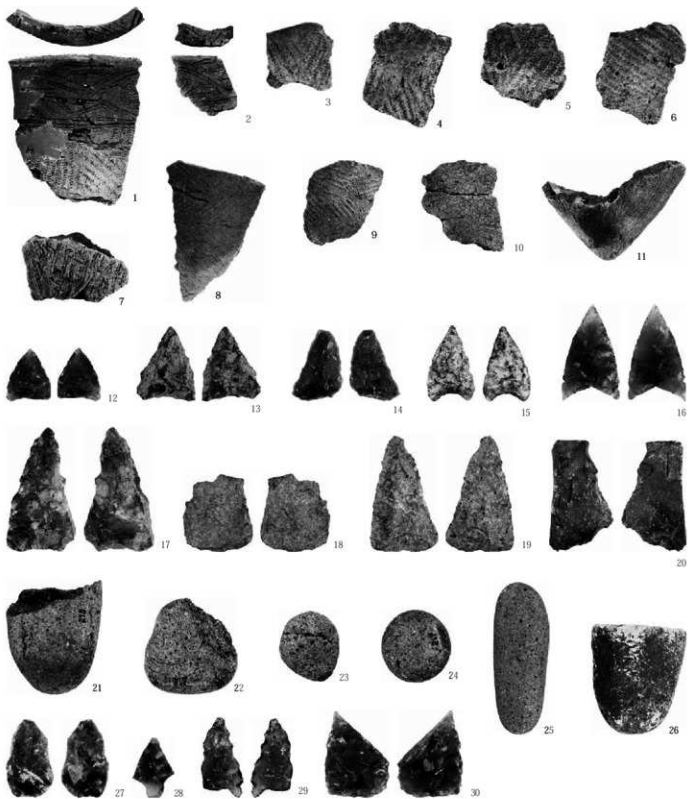




91区6号住居出土遺物



91区7号住居出土遺物



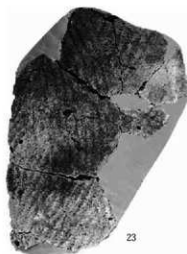
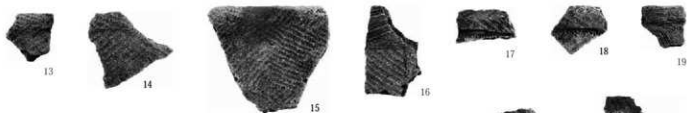
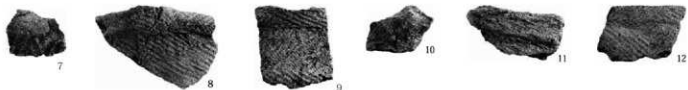
91区8号住居出土遺物



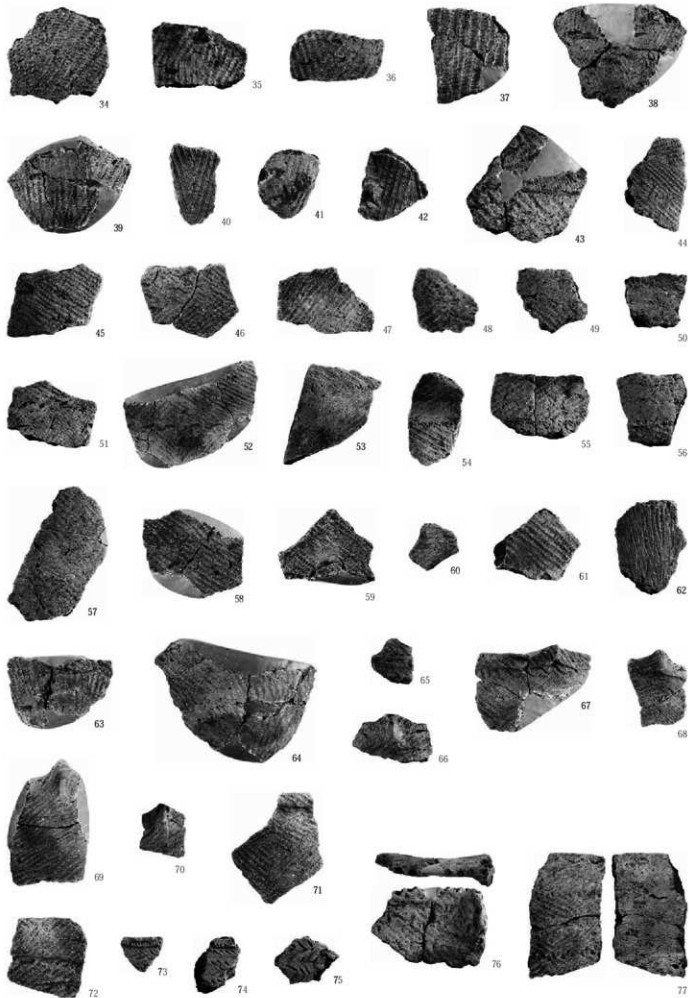
91区14・15号土坑出土遺物

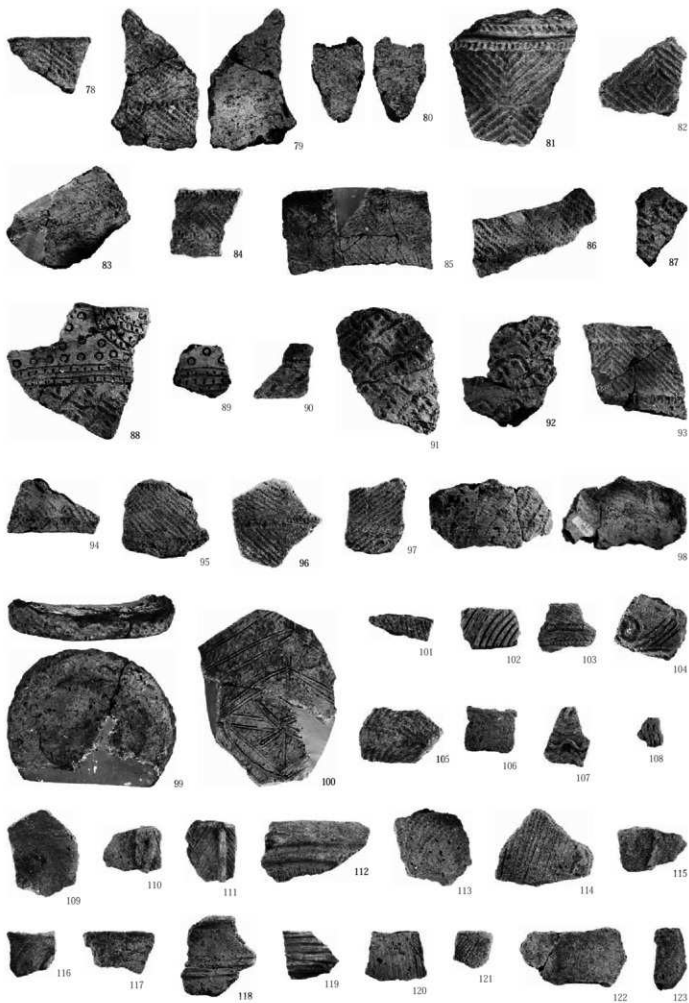


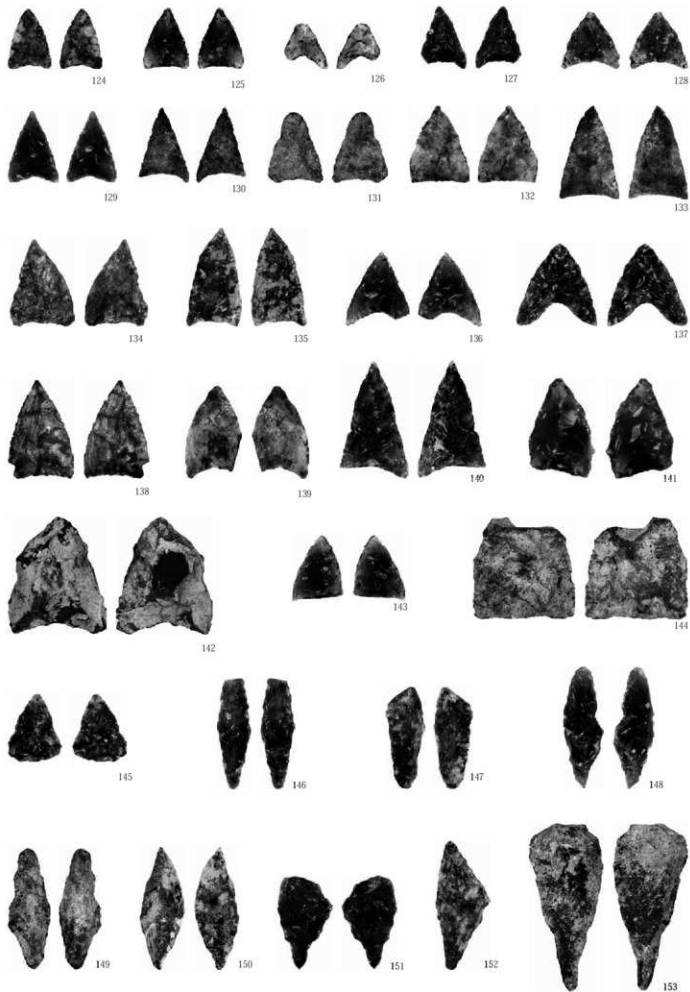
91区1・3号焼土出土遺物

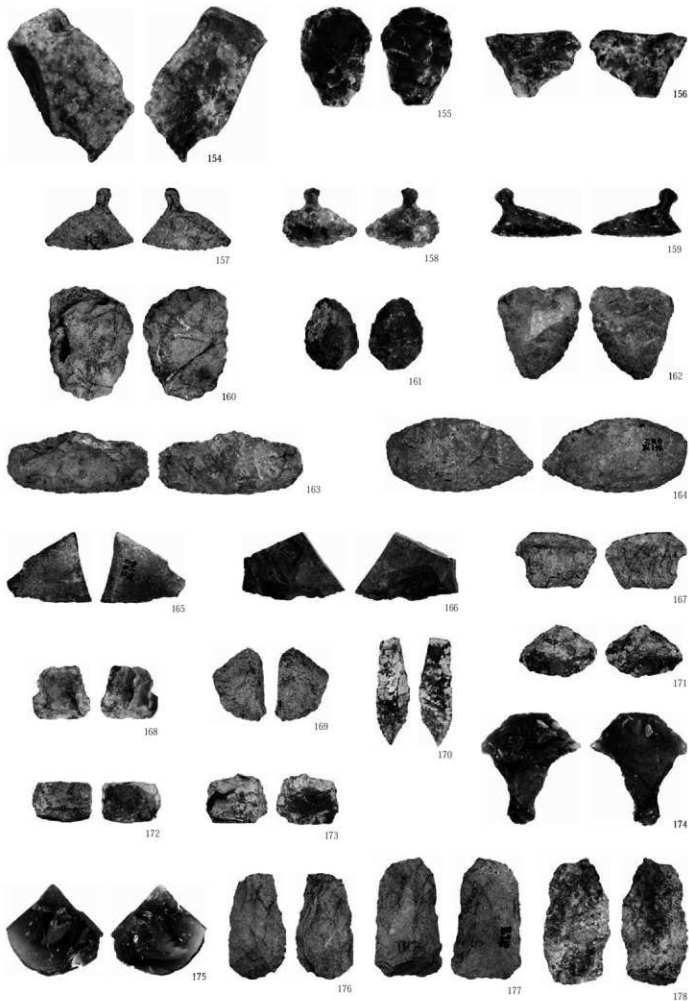


遺構外出土遺物(1)







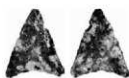








209



210



211



212



213



214



215



216



217



218



219



220



221



222



223



224



225



226



227



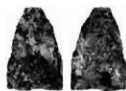
228



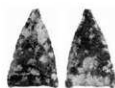
229



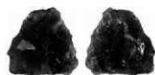
230



231



232



233



234



235



236



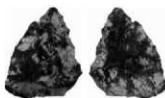
237



238



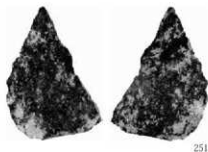
239



240



241



遺構外出土遺物(8)



91区1号住居出土遺物



91区2号住居出土遺物



91区3号住居出土遺物



91区4号住居出土遺物



91区7号土坑出土遺物



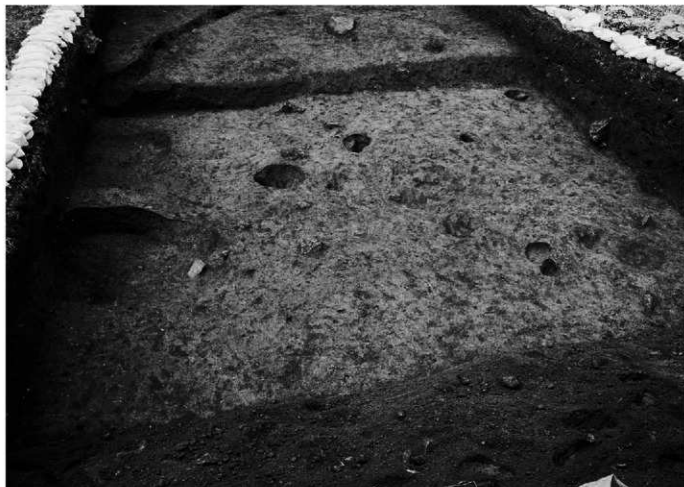
1 調査区 近景(西から)



2 東区 全景(西から)



1 中区 全景(東から)



2 西区 全景(東から)



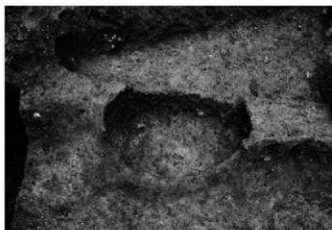
1 1号住居 全景(西から)



2 1号住居 掘り方(西から)



3 1号土坑 全景(南から)



4 2号土坑 全景(南から)



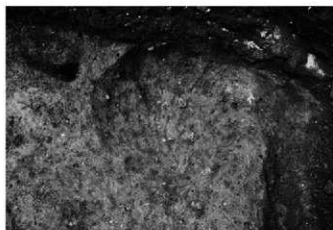
5 4号土坑 全景(南から)



1 5号土坑 全景(北から)



2 6号土坑 全景(南から)



3 7号土坑 全景(南から)



4 8号土坑 全景(北から)



5 9号土坑 全景(東から)



6 10号土坑 全景(北から)



7 1号溝 全景(北西から)



8 2号溝 全景(南東から)





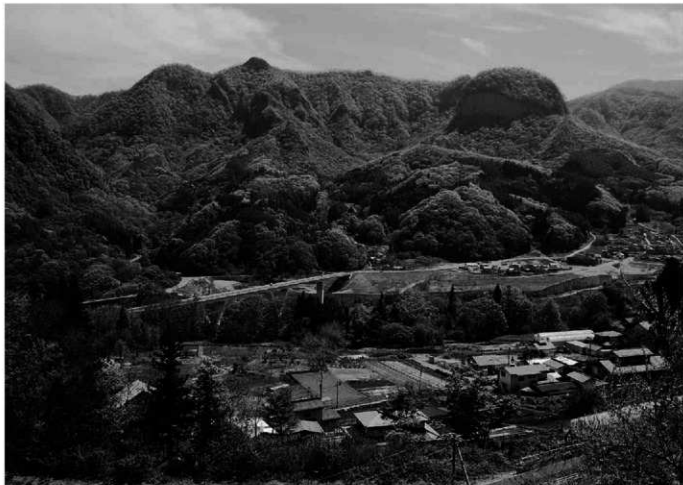
1号住居出土遺物



6・9号土坑出土遺物



道構外出土遺物



1 遠景(北東から)



2 近景(北東から)



1 西側 全景(西から)



2 東側 全景(東から)



1 1号掘立柱建物 全景(東から)



2 2号掘立柱建物 全景(東から)



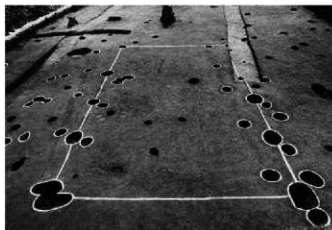
3 3号掘立柱建物 全景(南から)



4 4号掘立柱建物 全景(南から)



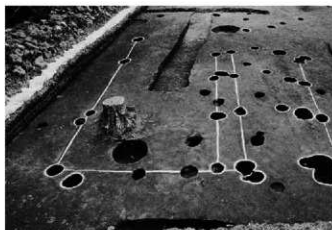
5 6号掘立柱建物 全景(東から)



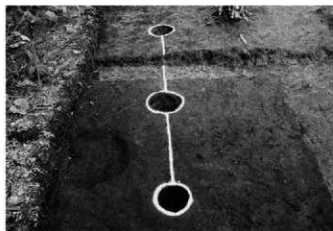
6 7号掘立柱建物 全景(東から)



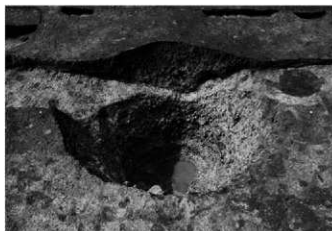
7 8号掘立柱建物 全景(東から)



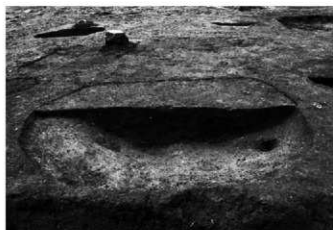
8 11号掘立柱建物 全景(東から)



1 13号掘立柱建物 全景(東から)



2 1号土坑 全景(南から)



3 2号土坑 土層断面(南から)



4 4号土坑 上面石組状況(南から)



5 4号土坑 人骨出土状況(南から)



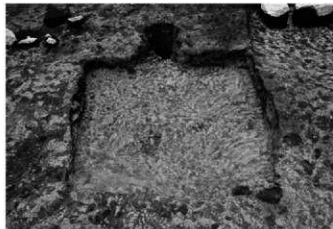
6 4号土坑 底面(南から)



7 5号土坑 全景(南から)



8 7号土坑 全景(南から)



1 8号土坑 全景(南から)



2 9号土坑 全景(南から)



3 11号土坑 全景(南から)



4 12号土坑 全景(南から)



5 13号土坑 全景(南から)



6 14号土坑 全景(南から)



7 15号土坑 全景(南から)



8 16号土坑 全景(北から)



1号掘立柱建物出土遺物



2号掘立柱建物出土遺物



5号掘立柱建物出土遺物



8・9・16号土坑出土遺物



遺構外出土遺物

# 報告書抄録

書名ふりがな	うえはらいちいせき・うえはらざんいせき・はやしみやほらいせき
書名	上原1遺跡・上原田遺跡・林宮原遺跡
副書名	ハッ場ダム建設事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	46
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	604
編著者名	谷藤保彦/山口逸弘/小野和之
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20151002
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	うえはらいちいせき
遺跡名	上原1遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのほらまちおおあざはやしあざうえはら
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字林字上原
市町村コード	10424
遺跡番号	0041
北緯(世界測地系)	363249
東経(世界測地系)	1384042
調査期間	20121009-20121130
調査面積	1,392㎡
調査原因	ダム建設(町道)
種別	集落
主な時代	縄文/平安
遺跡概要	縄文-住居8+土坑3+竈13/平安-住居4+土坑17/その他-遺構外-縄文土器+石器
特記事項	縄文時代前期初頭の住居跡、および平安時代の住居跡、土坑。
要約	南に広がる傾斜地に展開する縄文時代前期初頭(花積下層1式期)の集落跡。西側隣接地は、長野原町教育委員会により調査が行われ、同期の竈穴住居9軒が検出されている。検出例の少ない、同期の集落として注目される遺跡である。その他平安時代の住居4軒を検出。
遺跡名ふりがな	うえはらざんいせき
遺跡名	上原田遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのほらまちおおあざはやしあざうえはら
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字林字上原
市町村コード	10424
遺跡番号	0043
北緯(世界測地系)	363252
東経(世界測地系)	1384024
調査期間	20130617-20130722
調査面積	317㎡
調査原因	ダム建設(町道)
種別	集落
主な時代	平安/近世
遺跡概要	平安-住居1+土坑10+自然流路2/その他-遺構外-縄文土器+石器+平安時代土器+近世-陶磁器
特記事項	平安時代の住居跡、土坑。自然流路。
要約	南に広がる傾斜地に、畿治遺構を伴う平安時代の集落が展開する遺跡。両側は町教委の調査で平安時代の集落が検出されている。今回の調査はこの集落中央部の狭隘な部分の調査であり、平安時代の住居1軒と、掘立柱建物、土坑を確認。
遺跡名ふりがな	はやしみやほらいせき
遺跡名	林宮原遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのほらまちおおあざはやしあざみやほら
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字林字宮原
市町村コード	10424
遺跡番号	0048
北緯(世界測地系)	363237
東経(世界測地系)	1384025
調査期間	20120401-20120517、20120531-20120612
調査面積	850㎡
調査原因	ダム建設(町道)
種別	集落
主な時代	中世/近世
遺跡概要	中近世-掘立柱建物15+土坑16/その他-遺構外-縄文土器+中近世-石製品+金属器+陶磁器+土器
特記事項	中近世の掘立柱建物群、墓塚・土坑。
要約	吾妻川河川原を南に臨む緩傾斜地形に立地する。13棟の中近世の掘立柱建物群を主な遺構とする。東西2群の建物群で構成され、主要な建物は東西棟を中核に重覆もく建て替えもみられた。1号掘立柱建物柱穴1基は柱材を残す。



公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第604集

上原Ⅰ遺跡・上原Ⅲ遺跡・林宮原遺跡

ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第46集

---

平成27(2015)年9月24日 印刷

平成27(2015)年10月2日 発行

編集・発行/公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県澁川市北碓町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷/ジャーナル印刷株式会社

---



